

平成26年度（第21回）
那覇市民意識調査報告書



2015年（平成27年）3月



ひと つなぐ まち
那 覇 市

はじめに

はいたい！ ぐすーよー ちゅーうがなびら。



那覇市では、市民の皆様のご日常生活に関する意識と
市政運営に対する評価を把握・分析して今後の市政運営に反映させる
ため、隔年で市民意識調査を実施しています。

今回の調査でも、多くの市民の皆様のご理解とご協力により、有
意義な調査結果を取りまとめることができました。心より感謝申し
上げます。

私は、目指す市政運営を「ひと つなぐ まち」という言葉で表
現しております。この調査結果を踏まえ、「ひと」「知恵」「情報」な
ど、多くの力をつむぎあわせ、市民の皆様と心をひとつにして、協
働によるまちづくりを進めてまいり所存です。

調査にご協力いただいた市民の皆様には、重ねて御礼申し上げま
すとともに、本市の進める協働の取り組みへの積極的なご参加をお
願い申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

いっぺー にふえーでーびる。

2015年(平成27年) 3月

那覇市長 城間 幹子

～ 目 次 ～

I. 調査の設計と実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	3
4. 調査業務スケジュール	3
5. 調査票の送付状況	4
6. 回収状況	4
7. 報告書の読み方	5
8. 調査票	5
II. 調査結果の概要	19
III. 基本調査結果	29
IV. 日常生活等に関する意識調査結果	33
V. 総合計画の指標調査結果	123
VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果 ...	173
資 料 編 (別提供)	
・ 自由意見	1
・ 調査結果データ	53

I. 調査の設計と実施概要

I. 調査の設計と実施概要

1. 調査の目的

この調査は、日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後の市政運営に反映させるための参考資料とするものである。

また、「第4次那覇市総合計画」の進捗管理のため、施策ごとに設定された指標についても、本市民意識調査で行うと決定しているものについて、引き続き調査を実施した。

2. 調査項目

調査項目は、クロス集計による分析のための基本調査項目も含め、これまで通り、以下の4項目で構成した。

なお、設問の詳細と内容については、各部局へ照会を実施して、内容を確定させた。(質問総数は、分岐質問5問を含め、合計62問)

(1) 基本項目

- 1) 性別
- 2) 年代
- 3) 居住地区
- 4) 那覇市における居住年数
- 5) 住居形態

(2) 日常生活等に関する意識調査について

- 1) 住み心地について
- 2) 地域の自治会や地域における課題について
- 3) 市政への市民参加について
- 4) 議会への市民参加について
- 5) 平和行政・男女共同参画について
- 6) 都市計画について
- 7) 協働によるまちづくりについて
- 8) 市街地活性化について
- 9) 青少年の健全育成について
- 10) 子育て支援について
- 11) 福祉について
- 12) 中核市について
- 13) 文化・芸術について
- 14) 消防行政について
- 15) 上下水道について

(3) 第4次那覇市総合計画の指標調査について

- 1) まちづくり活動に参加している市民の割合
- 2) 市政運営に対する満足度
- 3) 平和の発信・国際交流についての市政への満足度

- 4) 男女の地位が平等だと感じる人の割合
- 5) 市からの情報提供についての満足度
- 6) 行政サービスに満足している人の割合
- 7) 電子行政サービスを利用したことがある人の割合
- 8) 自分の適性体重に見合った食事量を理解している成人の割合
- 9) かかりつけ医を決めている人の割合
- 10) バリアフリーに配慮されていると感じる人の割合
- 11) 障がい者がともに暮らせる環境づくりの満足度
- 12) 「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている人の割合
- 13) 子育て施策に関する満足度
- 14) 生涯学習施策に関する満足度
- 15) 地球環境保護のための実践項目数
- 16) 交通手段に占める自家用車の割合
- 17) 身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度
- 18) 自然と調和したまちづくりだと感じている人の割合
- 19) 地域に合ったまちづくりがなされていると感じる人の割合

(4) 市の政策に対する満足度・重要度調査について

- 1) 協働によるまちづくり
- 2) 幸せ感のあるまちの創出
- 3) 平和交流・男女共同参画
- 4) 市民に開かれた効率的な行政
- 5) 健康づくりと地域医療の充実
- 6) ユニバーサルデザインのまちづくり
- 7) とともに生きる心を育てる
- 8) 地域の支えあい
- 9) 自立を支援するサービスの提供
- 10) 地球環境への配慮
- 11) 資源循環型社会
- 12) 自然環境の保全・再生・創造
- 13) 衛生的な環境の確保
- 14) 生涯学習の推進と地域の教育力の向上
- 15) 子育て支援と就学前教育・保育
- 16) 子どもの視点に立った環境づくり
- 17) 文化の継承と発展
- 18) 産業の振興
- 19) まちの活性化
- 20) 就労支援・相談体制
- 21) 都市防災と防犯
- 22) 市街地の整備
- 23) 交通体系の整備
- 24) 上下水道の整備
- 25) 自然と調和したまちなみ

3. 調査設計

(1) 調査対象	那覇市に居住する満 20 歳以上の男女 5,000 人
(2) 調査地域	那覇市全域
(3) 標本数	<u>1,500 人（回収率 30%）を目標とする</u>
(4) 抽出方法	年齢等間隔抽出法（住民基本台帳による等間隔抽出）による
(5) 調査方法	配布・回収共に郵送法による
(6) 調査期間	2014 年 11 月 15 日～11 月 30 日（16 日間）
(7) 調査実施機関	<u>株式会社アーバントラフィックエンジニアリング</u> （一般競争入札により決定）
(8) 予算／経費	302 万 4,000 円／300 万 2,400 円

4. 調査業務スケジュール

平成 26 年度調査の実施スケジュールは概ね下記の通りとなった。

4 月 11 日	（市民課へ）個人情報目的外利用許可申請
4 月 14 日	（市民課より）個人情報目的外利用決定通知書受理
6 月 20 日	（情報政策課へ）調査対象者抽出依頼
7 月 1 日	市民意識調査の調査項目について各部局へ照会
7 月 11 日	（情報政策課より）調査対象者抽出データ受領
9 月 16 日	市民意識調査要求仕様書の決定
9 月 19 日	市民意識調査業務委託の制限付き一般競争入札と業務委託契約内容の決定
10 月 1 日	制限付き一般競争入札についての公告
10 月 1 日	調査概要と調査項目の決定
10 月 7 日	入札参加資格の確認申請書提出締切
10 月 9 日	入札参加資格認定通知書送付
10 月 14 日	市民意識調査業務委託に係る入札説明会
10 月 20 日	制限付き一般競争入札実施・委託業者決定
10 月 24 日	市民意識調査業務委託契約締結／調査業務用封筒引渡業者より工程表を受領
10 月 28 日	市民意識調査にかかる個人情報の取扱いを定める覚書締結 調査対象者データの提供
10 月 29 日～11 月 7 日	往復封筒宛名作成（業者）
11 月 4 日	アンケート用紙の印刷見本受領
11 月 5～17 日	アンケート用紙・依頼文印刷（業者）
11 月 7～10 日	配布準備実施（業者）
11 月 10～11 日	配達業者へ引き渡し（発送）
11 月 15～30 日	市民意識調査実施期間
11 月 30 日	アンケート回答提出期限
1 月 9 日	アンケート用紙回収・データ取りまとめの締切
1 月 30 日	アンケート回答データの集計完了・報告（業者）
1 月 30 日	報告書印刷原稿の校正開始
3 月 11 日	報告書取りまとめデータ等成果品受領

5. 調査票の送付状況

住民基本台帳より年齢等間隔抽出法にて抽出を行った 5,000 人に調査票を送付して回答を依頼した。送付者の性別、年代別、居住地区別の内訳は、概ね本市の人口構成に比例させて、以下の通りとなった。

		送付実数	送付比率
合 計		5,000 人	100 %
性別	男 性	2,383 人	47.7%
	女 性	2,617 人	52.3%
年代別	20 代	721 人	14.4%
	30 代	868 人	17.4%
	40 代	930 人	18.6%
	50 代	793 人	15.9%
	60 代	760 人	15.2%
	70 代以上	928 人	18.5%
居住地区別	本 庁	1,525 人	30.5%
	真 和 志	1,720 人	34.4%
	小 祿	869 人	17.4%
	首 里	886 人	17.7%

6. 回収状況

(1) 回収実数と回収率

調査票の送付・回収は郵送法にて行った。総数で 1,422 の回収があった。有効回収実数、回収率、そして性別、年代別、居住地区別の回収実数、回収率は、以下の通りとなった。

目標とした標本数 1,500 人（回収率 30%）は達成できなかったが、標本数としては十分信頼できるものとなっている。

		回収実数	送付実数	回収率 (%)
合 計		1,422 人	5,000 人	28.4%
性別	男 性	635 人	2,383 人	26.6%
	女 性	786 人	2,617 人	30.0%
	性別無回答	1 人	-	-
年代別	20 代	125 人	721 人	17.3%
	30 代	217 人	868 人	25.0%
	40 代	250 人	930 人	26.9%
	50 代	236 人	793 人	29.8%
	60 代	280 人	760 人	36.8%
	70 代以上	313 人	928 人	33.7%
	年代無回答	1 人	-	-
居住地区別	本 庁	475 人	1,525 人	31.1%
	真 和 志	371 人	1,720 人	21.5%
	小 祿	262 人	869 人	30.1%
	首 里	304 人	886 人	34.3%
	居住地区無回答	10 人	-	-

- (2) 集計方法
コンピュータによる単純集計・クロス集計

7. 報告書の読み方

- (1) 結果は百分率で表示した。少数第2位を四捨五入したため、合計が100%と一致しない場合がある。
- (2) 回答者を限定する質問では、限定質問該当者数を分母として用いた。
- (3) 経年変化に係る分析は、前回調査（「平成24年度市民意識調査」）等のデータを用いている。
- (4) 回答比率の小さいものは、グラフ表示などで読み取りづらい場合があり、数値表示を省略している場合がある。（詳細は、自由意見と共に別提供の資料編を参照していただきたい。）
- (5) 「わからない」及び「無回答」の解析は、特に必要がない限り行わない。
- (6) 指標調査は、「第4次那覇市総合計画」に掲げられた「めざそう値」の達成状況を中心に分析を行った。
- (7) 各質問の単純集計グラフの種類においては、特に意図がある場合を除き、選択肢を1つ回答の場合は円グラフによるパーセント表示を採用し、選択肢を複数回答の場合は横棒グラフによる個数表示を採用した。
- (8) 円グラフ等の表示においては、特に意図がある場合を除き、選択肢のトップから順に濃い色から薄い色へ変化するように表示の統一を行った。
- (9) 不適切な回答（選択肢にすべて○をつける、相反する選択肢に○をつける等）については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意思の表明が読み取れるもの（訂正、取り消し等）は、できる限り反映させて処理した。
- (10) VI市の政策に対する満足度・重要度調査結果において、「重要度」は前回調査（「平成24年度市民意識調査」）のデータを用いている。（今回調査では「満足度」のみを調査したため）

8. 調査票

次項に当該調査に使用した調査票を掲載する

平成26年度 那覇市民意識調査

ハイサイ、グスーヨー チューウガナビラ。

日頃より、市政にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

那覇市では、市民の皆さまのご意見をお聴きし、那覇市のまちづくりに反映させるため、2年ごとに「市民意識調査」を実施しております。

本年度は、平成26年6月30日現在の那覇市の住民基本台帳に登録されている満20歳以上の市民の皆さまから、5,000人の方を無作為に抽出させていただきアンケートをお願いすることになりました。

ご回答いただいた結果は「このようなご意見の方は全体の何パーセント」という形でコンピューターにより統計的に処理を行いますので、皆さまのご意見を個人が特定されるような形で発表することはありません。ご迷惑をおかけすることはありませんので安心してご回答ください。

つきましては、お忙しいところ誠に恐れ入りますが、この調査の趣旨をご理解いただき、アンケート記入にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

イッペーニフェーデービル。

平成26年11月

那覇市長職務代理者 那覇市副市長 久高 將光

記入上の注意

1. このアンケート調査票は、協力をお願いしたご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。
（ただし、事情により、ご本人の記入が難しい場合は、ご家族の方がご記入ください。）
2. 回答は、黒・青のボールペンまたは鉛筆でお願いいたします。
3. 回答は、あなた自身の考えに近い項目の番号を○印で囲んでください。質問文に「1つ」「すべて」など指定がある場合は、その指定に従ってお答えください。
4. 「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが、その内容を（ ）の中に具体的に記入してください。
5. ご記入いただいた調査票は、同封の小さい封筒（あて名 那覇市企画財務部企画調整課宛）に入れ、切手を貼らずに**11月30日（日）まで**にポストにご投函くださいますようお願いいたします。
6. アンケート調査票・返信用封筒には、住所・氏名を記入していただく必要はありません。
7. 調査結果については、平成27年4月頃にホームページ上で公表し、報告書（冊子）を市立図書館へ配布する予定です。

◇調査に関するお問い合わせ先 那覇市企画財務部企画調整課 担当 仲間

TEL : 862-9937 fax : 862-4263

e-mail : m-gyousei001@neo.city.naha.okinawa.jp

◇調査委託実施機関

株式会社アーバントラフィックエンジニアリング

TEL : 943-8952 fax : 868-8002

那覇市民意識調査【アンケート調査票】

【1. 基本項目】

質問 1. あなたの性別は？

1. 男性 2. 女性

質問 2. あなたの年代は？

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代
5. 60代 6. 70代以上

質問 3. あなたがお住まいの地区は？

1. 本庁 2. 真和志 3. 小禄 4. 首里

質問 4. あなた是那覇市にお住まいになって何年になりますか？

1. 1年未満 2. 1～2年 3. 3～5年
4. 6～10年 5. 11～20年 6. 21年以上

質問 5. あなたのお住まいの住居形態は？次の中から1つお選びください。

1. 一戸建て(持ち家・借家) 2. 分譲マンション 3. 賃貸(アパート・マンション)
4. 公営住宅(市営・県営など) 5. 社宅・公官舎・寮
6. その他(具体的に：)

【日常生活等に関する意識調査について】

(1) 住み心地について

質問 6. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。

1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

質問 7. 那覇市の住み心地について、あなたはどのように思いますか。

1. 非常に住みよい 2. まあ住みよい 3. 普通だと思う
4. 少し住みづらい 5. 非常に住みづらい

(2) 地域の自治会や地域における課題について

質問 8. あなたのご家庭は、自治会・通り会などに加入していますか。

1. 加入している 2. 加入していない(今後加入したい)
3. 加入していない(今後も加入しない) 4. わからない

質問 8-1. 自治会・通り会などに「加入していない」と答えた方は、次の中から理由を1つお選びください。

1. 加入の仕方がわからない
2. 自治会がない
3. 勧誘がない
4. 時間的にゆとりがない
5. 永住する気がない
6. わずらわしい
7. 関心がない
8. 必要性を感じない
9. その他（具体的に： _____)

質問 9. あなたがお住まいの地域（小学校区）で、特に大きいと思われる課題について1つお選びください。

1. 地域の美化・清掃
2. 自治会、PTA、その他団体などの連携
3. 防犯活動
4. 防災活動
5. 非行対策
6. 一人暮らしのお年寄りへの支援
7. 子育てに対する支援
8. 交通安全
9. 住民同士の交流
10. その他（ _____)

（3）市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

1. 非常に関心がある
2. まあ関心がある
3. あまり関心がない
4. まったく関心がない
5. どちらともいえない

質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

1. 参加の機会を増やす
2. わかりやすい広報活動
3. 楽しく参加できる工夫
4. 参加の呼びかけを増やす
5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる
6. 自治会活動の活性化
7. NPOなどの活動の活性化
8. その他（ _____)

質問 12. あなたは、那覇市の情報を何から得ていますか。主なものを次の中から2つまでお選びください。

1. 新聞やテレビ・ラジオ
2. インターネット（那覇市のホームページ）
3. インターネット（那覇市のホームページ以外）
4. フェイスブック等のソーシャルメディア（那覇市のページ）
5. フェイスブック等のソーシャルメディア（那覇市以外のページ）
6. 広報紙「広報なは市民の友」
7. ラジオ広報「那覇市民の時間」
8. 那覇市メールマガジン
9. 市民便利帳（タウンページ含む）
10. その他（市の配布するチラシやパンフレット等）

(4) 議会への市民参加について

質問 13. あなたは、議会の情報をどこから得ていますか。次の中から2つまでお選びください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 新聞やテレビ・ラジオ | 2. 広報紙「市議会だより」 |
| 3. 議会の傍聴 | 4. ケーブルテレビ（OCN）（議会中継） |
| 5. 議会のホームページ（議会中継等） | 6. 議会主催の議会報告会 |
| 7. その他（ | ） |

質問 14. あなたは議会に何を求めますか。次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|------------------|-------------------|------------|
| 1. 行政の監視機能 | 2. 政策や条例の提案 | 3. 議会情報の公開 |
| 4. 地域問題や市民相談への対応 | 5. 議会報告会や意見交換会の開催 | |
| 6. 議員定数や報酬などの見直し | 7. その他（ | ） |

質問 15. 那覇市議会では、市民と意見交換する議会報告会を開催しています。議会報告会のことを知っていますか。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

質問 15-1. 議会報告会で取り上げてほしいテーマをお選びください。（複数回答可）

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 子育て支援・教育問題 | 2. 健康長寿対策 |
| 3. 医療や福祉問題 | 4. 環境問題 |
| 5. お住まいの地域の課題 | 6. 産業・観光振興、経済活性化 |
| 7. 雇用・失業問題 | 8. 中心市街地の活性化 |
| 9. 交通政策・都市計画 | 10. 防災・防犯など安全なまちづくり |
| 11. 協働のまちづくり | 12. 文化・芸能・スポーツ振興 |
| 13. その他（ | ） |

(5) 平和行政・男女共同参画について

質問 16. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを1つお選びください。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 米軍基地問題 | 2. 不発弾などの戦後処理問題 |
| 3. 戦争体験・記憶の継承 | 4. 長崎・広島など他都市との平和交流事業 |
| 5. 他国との平和交流 | 6. その他（ |

質問 17. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどう思いますか。

- | | | |
|---------------|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. わからない |
| 4. どちらかといえば反対 | 5. 反対 | |

質問 18. 国際理解・国際交流を推進するため、今後力を入れてほしい講座やイベントを、次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|--------------------|---------|------------|---------|
| 1. 異文化体験（各国の伝統文化等） | 2. 語学講座 | 3. 外国人との交流 | 4. 料理講座 |
| 5. その他（ | | | ） |

(6) 都市計画について

質問 19. 那覇市を景観的に美しいまちとするために、どのような取り組みが必要だと思えますか。次の中から1つお選びください。

1. 建物の色をそろえる
2. 緑を増やす
3. 建物の高さをそろえる
4. 看板の大きさを規制する
5. 電線を地中化する
6. その他 ()

質問 20. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から2つまでお選びください。

1. 歩きやすい歩道を整備する
2. 自転車を利用しやすくする
3. バスを利用しやすくする
4. モノレールを利用しやすくする
5. タクシーを利用しやすくする
6. オートバイを利用しやすくする
7. 道路を整備する
8. 路面電車等の新しい交通手段を導入する
9. 駐車場を整備する
10. その他 ()

(7) 協働によるまちづくりについて

質問 21. 協働によるまちづくりを推進するため、学校を「地域コミュニティの拠点」とすることについて、あなたはどのように思えますか。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. わからない
4. どちらかといえば反対
5. 反対

質問 21-1. 「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。

どのような施設が学校にあったら良いと思えますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 地域連携施設
2. 乳幼児のための保育・教育施設（認定こども園）
3. 放課後児童クラブ（学童）
4. 児童館
5. 高齢者支援に関する事業（ふれあいデイサービス、介護予防教室、高齢者相談等）
6. 青少年育成施設

質問 22. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方に「協働大使」の委嘱を行っています。

「協働大使」にどのような役割を期待しますか？次の中から1つお選びください。

1. 協働大使としての活動の継続
2. 那覇市及び協働団体との連携強化
3. 協働大使の周知と広報活動の強化
4. 協働大使について知らないので分からない

質問 23. 那覇市は「いい暮らしより楽しい暮らしを」を提唱していますが、現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。次の中から1つだけ点数をお選びください。



(8) 市街地活性化について

質問 24. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をお選びください。

- | | | | | |
|---------|---|----------|----------|-----------|
| 【国際通り】 | } | 1. ほぼ毎日 | 2. 週3~4回 | 3. 週1~2回 |
| | | 4. 月1~2回 | 5. 年1~2回 | 6. 全く行かない |
| 【マチグラー】 | } | 1. ほぼ毎日 | 2. 週3~4回 | 3. 週1~2回 |
| | | 4. 月1~2回 | 5. 年1~2回 | 6. 全く行かない |

※マチグラー：「市場」を意味する方言。ここでは、昔ながらの市場・商店街。

[例]第一牧志公設市場、平和通り商店街、沖映通り商店街、栄町市場商店街など。

質問 25. 国際通りやマチグラー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするには、どのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモールを続ける
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する
7. 新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する
8. 託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する
9. ファッション専門店やお洒落なカフェ等を誘致する
10. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
11. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
12. その他（ ）

(9) 青少年の健全育成について

質問 26. 青少年に対する健全育成施策として、取り組んで欲しいものを次の中から3つまでお選びください。

1. 青少年が社会で力強く生きる力をつけるための講座
2. 思春期・青年期の子を持つ親を対象とした講演会や講座
3. 青少年向け相談室の開設
4. 青年会、青年団体の育成
5. 関連NPO等、青少年健全育成団体の活動に対する支援
6. 青少年の見聞を広めるための県外・国外派遣事業

(10) 子育て支援について

質問 27. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

1. 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 公立幼稚園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
8. 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）
9. その他（ ）

質問 28. 那覇市では、地域の子育て支援の充実のため、保護者の就労に関わらず、就学前の子どもに教育・保育を一体的に行う取り組み（「認定こども園」の普及）を検討していますが、あなたはどのように思いますか。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. わからない
4. どちらかといえば反対
5. 反対

(11) 福祉について

質問 29. 高齢者になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりに必要なものは何だと思えますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 地域での支え合いづくり
2. 地域での介護予防の充実（介護予防教室、健康教室、栄養指導等）
3. 介護予防リーダー及びボランティアの養成
4. 身近な「地域包括支援センター」の充実（総合相談・権利擁護・見守り等）
5. 「地域ふれあいデイサービス」の拡充（生きがいづくり、健康づくり支援）
6. 認知症予防と理解への取り組み
7. 介護サービスの充実（通所介護・特別養護老人ホーム・認定デイ等）
8. 在宅医療の充実
9. その他（ ）

質問 30. 介護サービスと介護保険料について、次の中から1つお選びください。

1. 介護サービスも介護保険料も現状維持がよい
2. 介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい
3. 介護サービスが低下してもよいので介護保険料を下げるべき

(12) 中核市について

質問 31. 那覇市は平成 25 年 4 月から中核市へ移行しました。様々な業務分野でより市民に身近なサービスの提供に取り組んでいます。那覇市が中核市に移行したことにより行政サービスが向上したと思うサービス内容があれば、あてはまるものをすべてお選びください。

その他、ご意見があれば、()の中にご記入ください。

1. 身体障害者手帳の発行等において申請から交付までの期間が短縮された
2. 保育所等施設の指導を市が行うことにより利用者として相談がしやすくなった
3. 風しんの予防接種助成事業等において市の対応が早くなった
4. 保健所等で申請を行う際に住民票などの添付資料を省略することで便利になった
5. 看板の設置の許可が必要なこと等で景観に対する意識が変わった
6. 給食施設の指導等で食中毒に対する意識が高まった
7. 犬猫の引取りや譲渡を市が行うことによって動物愛護に対する関心が高まった
8. その他 ()

質問 32. 那覇市は中核市に移行しましたが、行政サービスの課題として、あてはまるものをすべてお選びください。

1. 市と県の窓口両方に足を運ばなければならなくなったため不便
2. 市と県や他の機関との役割分担が不明確である
3. 待ち時間が長い
4. 市の職員の説明不足
5. 市の広報活動が不十分である
6. その他 ()

(13) 文化・芸術について

質問 33. あなたはどんな文化・芸術に興味がありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. クラシック音楽
2. オペラ・ミュージカル
3. ポップス・ロック
4. 演劇
5. バレエ・ダンス
6. 琉球舞踊・琉球芸能
7. 日本舞踊
8. その他 ()
9. 文化・芸術に興味がない

(14) 消防行政について

質問 34. 那覇市は平成 25 年 3 月から那覇市内ほぼ全てのコンビニエンスストアに A E D を設置する、「那覇市コンビニ A E D ステーション設置事業」を開始しましたがご存知ですか。

1. 知っている
2. 知らない

質問 35. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. 受けたことがある | 2. 受けたことはないが、受けてみたい |
| 3. 受けたくない | 4. どちらともいえない（受けたことがない） |

(15) 上下水道について

質問 36. 市上下水道局発行の広報誌「なはの水」をご存知ですか。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

質問 36-1. 「知っている」と答えた方にお聞きします。それはどちらで入手、またはご覧になりましたか？あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 「なは市民の友」の折り込み | 2. 本市関係機関の窓口 |
| 3. 小学校からの配布 | 4. 公民館・図書館等 |

【総合計画の指標調査】

ここでは、第4次那覇市総合計画で設定された指標について調査します。以下の質問では、あなたの気持ちに最も近いものを1つお選びください。（質問 51 については複数回答）

質問 37. あなたは、行政、自治会及び P T A 等が行うまちづくり活動に参加したことがありますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. よく参加している | 2. 参加したことがある |
| 3. 参加したことがない | 4. わからない |

質問 38. 市民の声を行政に反映するしくみづくりについて、あなたはどのように思いますか。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 39. 平和の発信や国際交流（姉妹友好都市との交流など）の推進について、あなたはどのように思いますか。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 40. 社会全体でみた男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 男性の方が非常に優遇されている | 2. どちらかという、男性の方が優遇されている |
| 3. 平等である | 4. どちらかという、女性の方が優遇されている |
| 5. 女性の方が非常に優遇されている | 6. わからない |

質問 41. あなたは、市の広報活動（広報紙「広報なは市民の友」、ラジオ広報、那覇市ホームページ等）について、どのように思いますか。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 42. あなたは、市の行政サービス全般について、満足していますか。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 43. あなたは、市が提供する電子行政サービス（メールマガジンや電子相談システム、公共施設の予約システム、図書館の貸出予約システム、自動交付機、粗大ごみインターネット受付サービス等）を利用したことがありますか。

1. よく利用している 2. 利用したことがある 3. 利用したことがない

質問 44. あなたは、自分の標準体重（適正体重）に見合った食事の量を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

質問 45. あなたは、かかりつけ医を決めていますか。

1. 決めている（市内・市外） 2. 近いうちに決める 3. 決めていない 4. わからない

質問 46. 市内の道路や公園、建物のバリアフリー化（高齢者や障がい者も使いやすくすること）について、配慮されていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

質問 47. 那覇市は、障がい者が地域でともに暮らせる環境整備（相談体制の整備、障がい者の介護、心のバリアフリーなど）がすすんでいると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

質問 48. あなたは、行政や民間相談機関、地域の人などが「困ったときには助けてくれる（相談できる）」と感じていますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

質問 48-1. 「どちらかといえば思えない」または「思えない」と答えた方にお聞きします。
どのようなことに関して、そう思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 妊娠・出産・子育てに関して 2. 病気・看護・介護に関して
3. 経済的なことに関して 4. その他（ ）

質問 49. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、公立幼稚園での預かり保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて、満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

質問 50. 本市は、市民の学習意欲に応える生涯学習の機会づくりや地域活動の支援・促進を図っていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

質問 51. 地球環境保護のため、あなたが実践していることを次の中からお選びください。

この質問では、あてはまるものをすべてお選びください。

1. 電気の節約
2. 水の節約
3. マイバグの使用
4. ごみの減量
5. 紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別
6. 生ごみの堆肥化
7. エコドライブの実践
8. 公共交通の利用
9. ノーマイカーデーの実践
10. 地産地消の実践
11. 環境にやさしい商品の選択
12. ベランダ・屋上・壁面等緑化の実践
13. 太陽光発電の利用
14. 太陽熱温水器の利用
15. ハイブリッド車・低公害車等の利用
16. 省エネ家電・製品の利用
17. エコ住宅の新築・エコ住宅への改築
18. その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他）

質問 52. あなたが、ふだん使っている主な交通手段を次の中から1つお選びください。

1. バス
2. タクシー
3. 自家用車
4. オートバイ
5. 自転車
6. 徒歩
7. モノレール

質問 53. 市内の身近な道路の整備について、あなたは満足していますか。

1. 満足
2. まあ満足
3. やや不満
4. 不満
5. わからない

質問 54. 本市は、自然と調和したまちづくりが進んでいると思いますか。

1. 思う
2. どちらかといえば思う
3. どちらかといえば思えない
4. 思えない
5. わからない

質問 55. 本市では、赤瓦や石垣、樹木などをいかした、地域に合った個性豊かな景観づくりが行われていると思いますか。

1. 思う
2. どちらかといえば思う
3. どちらかといえば思えない
4. 思えない
5. わからない

【市の政策に対する満足度調査】

問 56. 那覇市では、第4次総合計画に基づき、様々な政策を展開しています。本市の取り組んでいるそれぞれの政策に対する満足の度合いについてお答えください。

No.1～No.25 のそれぞれの項目について、最も当てはまると思われるものを1つずつ選んで、右側の空欄のうち一ヶ所に○をご記入ください。実感や印象、経験でお答えください。

No.	質問項目	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない
例	本市の第4次総合計画		○			
1	協働によるまちづくり(自治会等の活動への支援、行政への市民参加促進等)					
2	幸せ感のあるまちの創出(人権意識の普及、相談体制の整備等)					
3	平和交流・男女共同参画(平和学習、国際交流の推進等)					
4	市民に開かれた効率的な行政(職員の削減、財政健全化の取り組み等)					
5	健康づくりと地域医療の充実					
6	ユニバーサルデザイン(※)のまちづくり					
7	ともに生きる心を育てる(助け合いの心を育む取り組み等)					
8	地域の支えあい(相談窓口、子育て支援策等)					
9	自立を支援するサービスの提供(障がい者の自立、就労支援策等)					
10	地球環境への配慮(省エネ等のエコライフの推進)					
11	資源循環型社会(ごみ減量、リサイクル推進)					
12	自然環境の保全・再生・創造(屋上・壁面緑化の推進等)					
13	衛生的な環境の確保(し尿処理、害虫駆除等)					
14	生涯学習の推進と地域の教育力の向上(図書館・スポーツ施設等の整備)					
15	子育て支援と就学前教育・保育(保育所入所待機児童の解消、学童保育の充実等)					
16	子どもの視点に立った環境づくり(学力向上、学習環境の整備等)					
17	文化の継承と発展(文化財保護、文化芸術活動支援等)					
18	産業の振興(観光振興、中小企業支援等)					
19	まちの活性化(中心商店街の振興等)					
20	就労支援・相談体制(雇用の促進等)					
21	都市防災と防犯					
22	市街地の整備(市街地再開発事業等)					
23	交通体系の整備(市内の道路や公共交通の体系的な整備)					
24	上下水道の整備					
25	自然と調和したまちなみ(公園・緑地整備等)					

※ ユニバーサルデザイン・・・年齢、性別、国籍等に関わりなくすべての人が利用しやすく安全で快適なものを
目指す考え方

質問 57. その他、那覇市の市政に関するご意見やご提言があれば、下記へご記入をお願いします。

以上です。

お忙しい中、調査にご協力いただきありがとうございました。
記入もれや記入間違いがないか再度ご確認の上、同封の返信用封筒（切手不要）
に入れて 11月30日（日） までに郵便ポストにご投函をお願いします。

Ⅱ. 調査結果の概要

II. 調査結果の概要

1. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約

平成26年度実施の日常生活等に関する意識調査結果の概要は、下記の通りである。

(1) 住み心地について

約8割の市民が那覇市に対して「自分のまち」として愛着を感じている。

那覇市を「非常に住みよい」と感じている市民の割合は、これまでの調査で最も高くなっており、市内の住環境に対する市民の評価が大幅に改善されていることがうかがえる。



- 居住地区別では、首里地区の愛着度が最も高く、小祿地区が最も低い（住み心地では、真和志地区が最も低くなっている）。
- 「愛着を感じない」市民は4.0%である。
- 住み心地が「普通以上」と感じている市民は91.7%である。
- 「非常に住みよい」と感じている市民は21.3%で過去調査の中で最も高い。

(2) 地域の自治会や地域における課題について

約35%の市民が自治会等へ「加入している」と回答しているが、回答者の居住年数の偏りを考慮すると、今後の調査により正確なデータを得る必要があると思われる。

自治会の加入率を向上させるためには、市民に自治会等の存在を認識してもらうことや、活動内容を理解してもらうこと、新規加入者を受け入れる体制の整備が必要である。

地域（小学校区）の課題としては「地域の美化・清掃」「交通安全」と回答した市民が多い。また、本庁地区、真和志地区、小祿地区では「地域の美化・清掃」、首里地区では「交通安全」が最も高い。居住地区によって課題が異なることから、それぞれに適した対策が求められている。

- 自治会、通り会等に参加している市民は、特に首里地区で高い割合を示している。
- 自治会等へ加入したいと考えている市民の未加入理由は、「時間的にゆとりがない」「自治会がない」「勧誘がない」「加入の仕方がわからない」が、それぞれ約2割である。
- 加入しないと考えている市民の未加入理由は、「時間的にゆとりがない」が22.7%、「関心がない」が15.5%、「必要性を感じない」が14.5%である。
- 地域（小学校区）の課題としては「地域の美化・清掃」が15.0%、「交通安全」が12.9%である。



(3) 市政への市民参加について

市政へ関心がある市民は約 7 割となっており、市政に対する関心は前回調査より上昇している。

市民が市の情報を得るツールとしては、「新聞やテレビ・ラジオ」と「広報なは市民の友」の割合が非常に高い。

また、現在はわずかだが SNS 等から情報を得る割合も増える可能性があることから、今後は属性に適した広報の方策を取り入れていくことが有効である。



- 市政へ関心のある市民は 68.1%、関心がない市民は 20.7%である。
- 市民の市政参加を促すために「わかりやすい広報活動」「楽しく参加できる工夫」が望まれている。
- 40 代以下の年代で、インターネットを活用した市政参加を望んでいる割合が 1 割強存在している。
- 市の情報を新聞等のマスメディアで得ている市民が 39.6%、「広報なは市民の友」で得ている市民が 35.5%である。

(4) 議会への市民参加について

市民が議会の情報を得るツールとしては、「新聞やテレビ・ラジオ」と「広報紙 市議会だより」が全体の 9 割以上を占める。

市民が議会へ求めていることは、「地域問題や市民相談への対応」「議員定数や報酬などの見直し」が多い。また、概ね年代に比例して「議員定数や報酬などの見直し」「行政の監視機能」「議会情報の公開」を求める割合が高くなっている。



- 議会の情報を「新聞やテレビ・ラジオ」で得ている市民が 48.1%、「広報紙市議会だより」で得ている市民が 43.8%である。
- 議会報告会を「知っている」市民が 13.4%、「知らない」市民が 83.1%である。
- 市民が議会報告会で取り上げてほしいテーマとしては「医療や福祉問題」が 18.0%、「子育て支援・教育問題」が 16.4%である。取り上げてほしいテーマを年代別にみると、20 代～40 代では「子育て支援・教育問題」の割合が最も高くなっており、50 代以上では「医療や福祉問題」の割合が最も高い。

(5) 平和行政・男女共同参画について

市民は平和行政について「米軍基地問題」を最も重点的に取り組むべきとしている。すべての年代で「米軍基地問題」と回答している割合が最も高いが、20代～50代では「戦争体験・記憶の継承」と回答している割合も高くなっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対する回答では、「反対」が「賛成」を大幅に上回る結果となった。

市では、当該質問に反対意識を持つ市民を増やしていく事を目標として掲げており、市民意識の高まりとともに市の政策が浸透しているものと考えられる。

- 平和行政について最も市民が望む取り組みは、「米軍基地問題」の47.5%である。概ね年代が高くなるにつれ「米軍基地問題」をあげる市民の割合が高くなっている。
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対しては、「賛成」が33.1%、「反対」が47.3%である。性別で見ると、男性は女性より「賛成」の割合が高い。年代別で見ると、70代以上の年代でのみ「賛成」している市民の割合が「反対」を上回っている。
- 国際理解・国際交流を推進するために市民が望んでいるのは「異文化体験」が34.2%、「語学講座」が25.4%、「外国人との交流」が23.9%である。



(6) 都市計画について

那覇市を景観的に美しいまちとするための取り組みとして、「電線を地中化する」と「緑を増やす」で全体の8割以上を占めている。年代別で見ると、20代では「電線を地中化する」と「緑を増やす」が共に多く、30代では「緑を増やす」が多い。40代以上では「電線を地中化する」が最も多くなっている。

快適に移動できるまちづくりのために最も望まれているのは「歩きやすい歩道を整備する」ことである。

- 那覇市を景観的に美しいまちとするために市民が望む取り組みは「電線を地中化する」が45.4%、「緑を増やす」が36.2%である。
- 概ね年代が高くなるほど「電線を地中化する」と回答した市民の割合が高くなっている。
- 快適に移動できるまちづくりのためには「歩きやすい歩道を整備する」が31.7%、「バスを利用しやすくする」が13.3%、「路面電車等の新しい交通手段を導入する」が13.1%である。



(7) 協働によるまちづくりについて

学校を「地域コミュニティの拠点」とすることに「賛成」の市民はすべての年代で約 7 割となっており、特に 40 代以上で「賛成」の割合が高い。

学校にあったら良いと考える施設は、「放課後児童クラブ」が最も多い。また、20 代、30 代では約 2 割の市民が「乳幼児のための保育・教育施設」を望んでいる。

協働大使について「知らない」市民が 6 割以上である。協働大使の存在、目的、役割を周知することが重要である。

市民の平均幸せ度は、10 点満点中 6.39 点である。性別や年代によって平均幸せ度にバラつきが見られた。

- 学校を「地域コミュニティの拠点」とすることに「賛成」の市民は 69.9%、反対の市民は 3.9%である。
- 市民が学校にあったら良いと考える施設は、「放課後児童クラブ」が 22.2%、「高齢者支援に関する事業」が 20.7%である。若い年代では「乳幼児のための保育・教育施設」を望んでおり、年代が上がるのに比例して「高齢者支援に関する事業」を望む割合が高くなっている。
- 市民の平均幸せ度は 6.39 点であり、前回調査 6.05 点より 0.34 ポイント向上している。



(8) 市街地活性化について

市民が国際通り、マチグラー等の中心市街地商店街へ行く頻度は、「年 1~2 回」が最も多い。「全く行かない」と「年 1~2 回」を合わせると、国際通りで 5 割以上、マチグラーで 6 割以上となっており、中心市街地商店街へ殆ど行かない市民の割合が増加傾向にある。



中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として、「トイレや休憩施設の充実」を望む声が最も多い。また、「月 1~2 回~全く行かない」市民は「再開発と駐車場の整備」や「利用者への共通サービス」の充実を求める割合が、頻繁に行く市民より高くなっている。

- 国際通りに「全く行かない」が 15.7%、「年 1~2 回」が 37.0%である。マチグラーに「全く行かない」が 25.3%、「年 1~2 回」が 40.2%である。
- 中心市街地商店街へ「週 1~2 回」以上行く市民の主な交通手段としては、国際通りにおいては徒歩、マチグラーにおいては自転車が最も多い。
- 中心市街地商店街を魅力あるものにするための方策として「トイレや休憩施設の充実」「再開発と駐車場の整備」「日かげ等の環境整備」の順で要望が高くなっている。

(9) 青少年の健全育成について

性別や年代に関わらず、青少年の健全育成の取り組みとして講座開催の要望が多い。

- 青少年の健全育成施策として取り組んで欲しいのは「青少年が社会で力強く生きる力をつけるための講座」が20.1%、「思春期・青年期の子を持つ親を対象とした講演会や講座」が18.6%、「青少年向けの相談室の開設」が18.1%である。



(10) 子育て支援について



小学校就学前の支援に対する要望については、「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」が最も多く、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」となっている。

30代、40代では「乳幼児医療費助成制度の拡充」を望む割合が高い。

「認定こども園」については、市民の約8割が賛成という結果となった。

- 子育て支援について要望の高い施策は「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」が26.1%、「経済的負担の軽減」が19.4%である。
- 60代以上では「地域子育て支援拠点の拡充」を望む割合が高い。

(11) 福祉について

高齢者になっても安心して暮らせるまちづくりには「介護サービスの充実」が必要だと考える市民の割合が最も高い。

70代以上の年代では「介護予防の充実」の割合が最も高くなっており、他の年代よりも予防意識が高いことがうかがえる。

介護サービスと介護保険料のバランスについては、「現状維持がよい」と考える市民が約6割である。



- 高齢者になっても安心して暮らせるまちづくりに必要なものは「介護サービスの充実」が18.1%、「地域での支え合いづくり」が14.9%、「地域ふれあいデイサービスの拡充」が14.0%である。
- 介護サービスと介護保険料のバランスについては、「介護サービスも介護保険も現状維持がよい」と考える市民が59.3%、「介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい」が17.8%である。
- 20代～60代では、「介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい」の割合が「介護サービスが低下してもよいので介護保険料を下げべき」よりも高くなっている。
- 70代以上でのみ「介護サービスが低下してもよいので介護保険料を下げるべき」と考える市民の割合が「介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい」より高くなっている。

(12) 中核市について

那覇市が中核市に移行したことにより向上したサービス内容は「犬猫の引取りや譲渡を市が行うことによって動物愛護に対する関心が高まった」や「保健所等で申請を行う際に住民票などの添付資料を省略することで便利になった」などと市民は感じている。



- 中核市への移行で向上したと思うサービス内容は、「犬猫の引取りや譲渡を市が行うことによって動物愛護に対する関心が高まった」が 11.3%、「保健所等での申請を行う際に住民票など添付資料を省略することで便利になった」が 11.0% である。
- 行政サービスの課題と市民がとらえているのは「市と県や他の機関との役割分担が不明確である」が 22.4%、「市の広報活動が不十分」が 18.8% である。

(14) 文化・芸術について

市民が最も興味を持っている文化・芸術は「琉球舞踊・琉球芸能」であり、伝統芸能、伝統文化定着の強さを示す結果となった。

20代～40代では「ポップス・ロック」の割合が最も高く、50代以上では「琉球舞踊・琉球芸能」が最も高い。年代に比例して「琉球舞踊・琉球芸能」の割合が高くなっていく傾向がある。

- 「琉球舞踊・琉球芸能」に興味を持っている市民は 22.7% 「ポップス・ロック」に興味を持っている市民は 16.6% である。



(15) 消防行政について

那覇市内のコンビニエンスストアに AED を設置していることを知っている市民は 4割以上である。30代、60代では「知っている」市民の割合が約 5割である。

応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習は、3割以上の市民が受講経験がある。また、約 4割の市民が受講を希望している。

若い年代ほど受講経験がある割合は高く、20代～50代では「受けたことがある」「受けてみたい」を合わせると 8割を超えており、応急手当講習に対する必要性と関心の高さを示す結果となった。

- 「那覇市コンビニ AED ステーション設置事業」を知っている市民は 44.5% である。
- 応急手当法の講習を「受けたことがある」市民は 34.2%、「受けてみたい」市民は 40.4% である。
- 若い年代ほど応急手当法の受講経験がある市民の割合が高くなっており、20代では約 6割が受講の経験がある。



(15) 上下水道について

那覇市上下水道局の広報誌「なはの水」を「知っている」市民が2割以上、「知らない」市民が7割以上となっている。

広報紙「なは市民の友」の折り込みによって「なはの水」を認識した市民が、約7割にのぼる。

- 広報誌「なはの水」を知っている市民は24.1%、知らない市民は74.2%。
- 「なはの水」を知ったきっかけは「なは市民の友」の折り込みが68.1%、「本市関係機関の窓口」が18.3%、「公民館・図書館等」が9.2%である。
- 30代、40代では「小学校からの配布」が他の年代より高い。



2. 第4次総合計画の指標調査の概要・要約

平成26年度実施の第4次総合計画指標調査結果の概要は、下記の通りである。

第4次総合計画で掲げた指標のうち、今回の市民意識調査で確認した20の指標については、「わからない」「無回答」を含めて達成状況を判断するのか、除いて判断するのかが未確定のため、2つの場合に分けて確認を行った。

結果として、

- 総数の比率で、2012年の「めざそう値」を達成したのは、
指標番号 15「市からの情報提供についての満足度」
18「電子行政サービスを利用したことがある人の割合」
22「自分の適正体重に見合った食事量を理解している成人の割合」
24「かかりつけ医を決めている人の割合」
28「バリアフリーに配慮されていると感じる人の割合」
の5つの指標

- 「わからない」「無回答」を除いた場合で、2012年の「めざそう値」を達成したのは、
上記に加えて、
指標番号 2「まちづくり活動に参加している市民の割合」
7「平和の発信・国際交流についての市政への満足度」
16「行政サービスに満足している人の割合」
29「障がい者が共に暮らせる環境づくりの満足度」
31「困ったときに助けてくれるまちであると感じている人の割合」
52「生涯学習施策に関する市民満足度」
104「身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度」
の7つの指標となった。

3. 第4次総合計画の各政策に対する満足度・重要度調査の概要・要約

平成 26 年度実施の第4次総合計画各政策に対する満足度・重要度調査結果の概要は、下記の通りである。

各政策の重要度調査については、前回調査結果を使用するものとしたため、重要度については前回データを提示する。

第4次総合計画で掲げた25の政策に対する市民の満足度・重要度は、概ね重要度が高い領域で、満足度も平均値の周辺に集中して分布するという結果となった。

満足度の合計点数平均 = 2, 073 点

満足度の有意回答者数平均 = 856人

満足度の一人当たり平均評価点 = 2.42 点

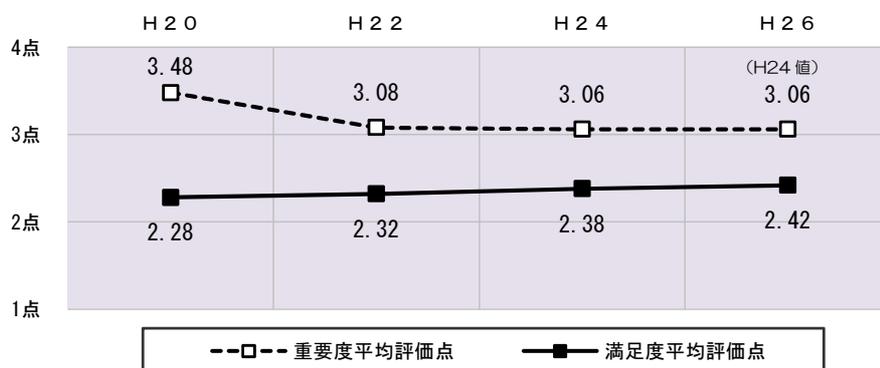
重要度の合計点数平均 = 2, 981 点

重要度の有意回答者数平均 = 975人

重要度の一人当たり平均評価点 = 3.06 点

※H24 値

●満足度・重要度一人当たり平均評価点の経年変化グラフ（平成 20 年度～平成 26 年度）



満足度の一人当たり平均評価点は年々上昇している。那覇市の政策については、概ね評価されていると捉えることができる。

今回調査では、政策 25 項目のうち 17 項目で前回調査より満足度が高くなっていることから、満足度を高めるための取り組みが一定程度評価されていることがうかがえる。

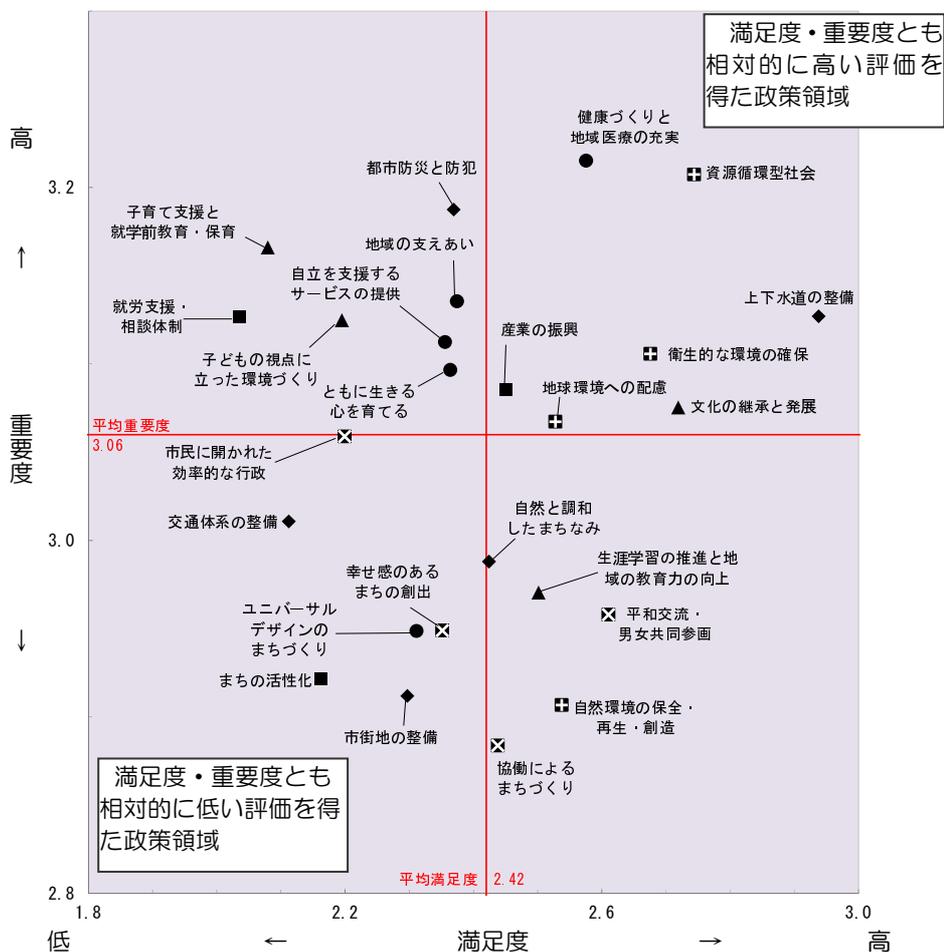
満足度・重要度とも相対的に高い評価を得た政策は、以下の7つの政策である。

- 上下水道の整備
- 資源循環型社会
- 健康づくりと地域医療の充実
- 文化の継承と発展
- 衛生的な環境の確保
- 地球環境への配慮
- 産業の振興

満足度・重要度とも相対的に低い評価を得た政策は、以下の5つの政策である。

- まちの活性化
- 交通体系の整備
- 市街地の整備
- ユニバーサルデザインのまちづくり
- 幸せ感のあるまちの創出

●平均満足度・平均重要度を中心とした25の個々の政策分布図



Ⅲ. 基本調査結果

Ⅲ. 基本調査結果

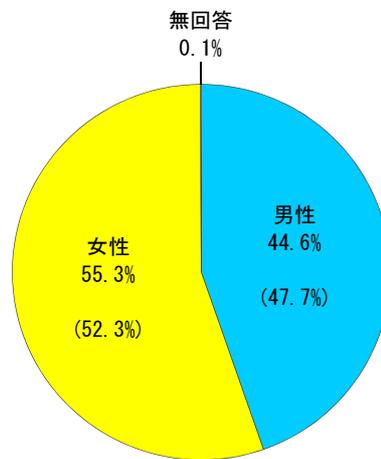
質問1. あなたの性別は？（1つ選択）

1. 男性 2. 女性

選択項目	回答数	(%)
男性	635	(44.6%)
女性	786	(55.3%)
無回答	1	(0.1%)
合計	1,422	(100%)

性別の回答数については、「男性」635人（44.6%）、「女性」786人（55.3%）、「無回答」が1人（0.1%）となっている。

男女比については、男性よりも女性が多いという那覇市の現状に近い標本数が確保されたので、サンプルとして適正なものになったと判断される。



() は送付率

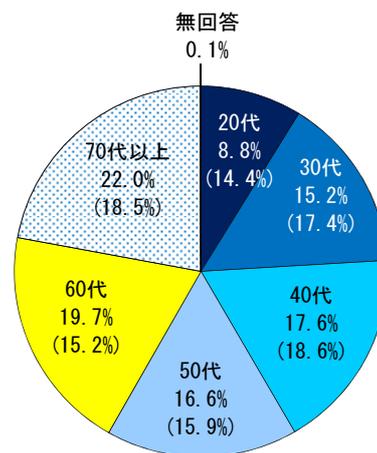
質問2. あなたの年代は？（1つ選択）

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代
5. 60代 6. 70代以上

選択項目	回答数	(%)
20代	125	(8.8%)
30代	217	(15.2%)
40代	250	(17.6%)
50代	236	(16.6%)
60代	280	(19.7%)
70代以上	313	(22.0%)
無回答	1	(0.1%)
合計	1,422	(100%)

年代別に回収率をみると、「60代」と「70代以上」が高く、「20代」が低くなっている。

送付率と比較すると、「20代」の割合が低いものの概ね各年代ごとの那覇市の現状に近い標本数が確保されたと判断される。



() は送付率

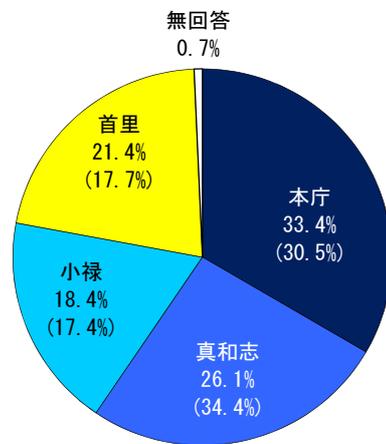
Ⅲ. 基本調査結果

質問3. あなたがお住まいの地区は？（1つ選択）

1. 本庁 2. 真和志 3. 小禄 4. 首里



那覇市地区図

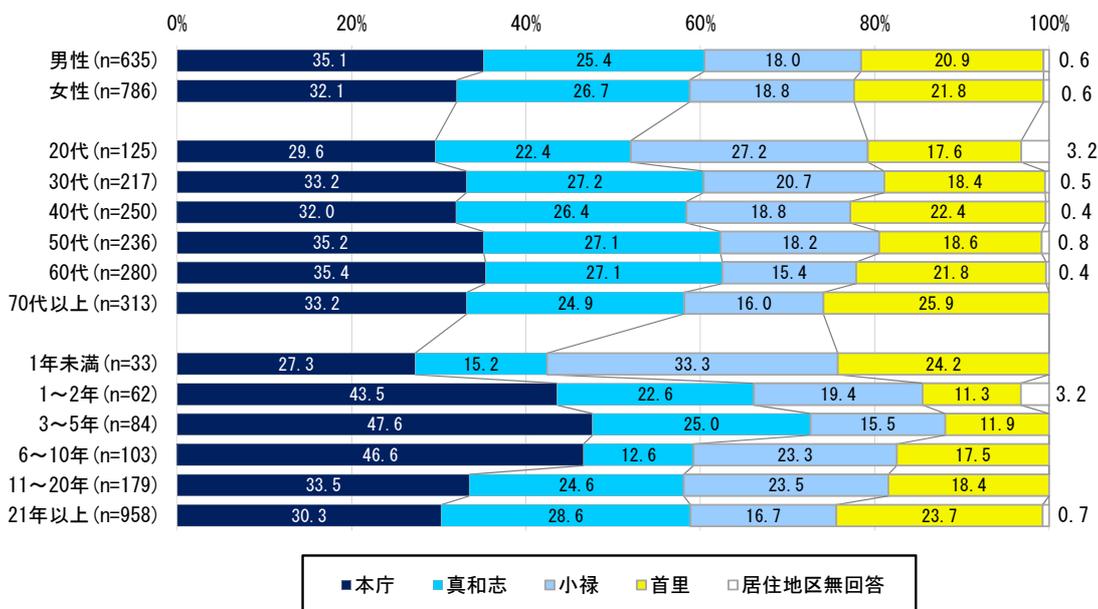


() は送付率

選択項目	回答数	(%)
本庁	475	(33.4%)
真和志	371	(26.1%)
小禄	262	(18.4%)
首里	304	(21.4%)
無回答	10	(0.7%)
合計	1,422	(100%)

居住地区別では、送付率に対する回収率が「真和志地区」で低くなっているが、ほぼ那覇市の現状に近い標本比率が確保されたと判断される。

また、「無回答」の中には自分の住んでいる地区が曖昧で回答出来なかった市民も含まれると推測され、上記結果を更に、属性（性別、年代、居住年数）別に集計を行った。

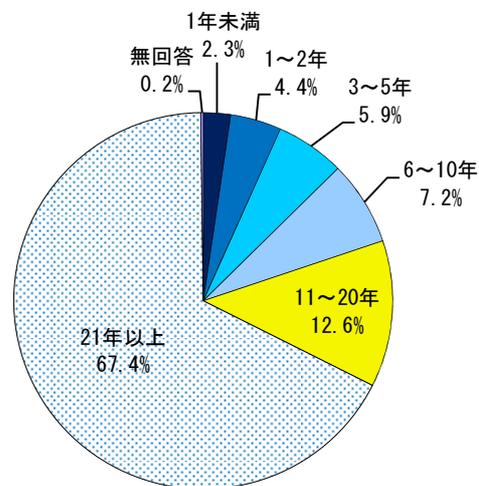


属性別で見ると、年代では「20代」、居住年数では「1~2年」が居住地区について「無回答」の割合が高くなっており、若い世代では自分の住んでいる地区に対する認識が若干低い傾向にあることがわかる。

質問4. あなたは那覇市にお住まいになって何年になりますか？（1つ選択）

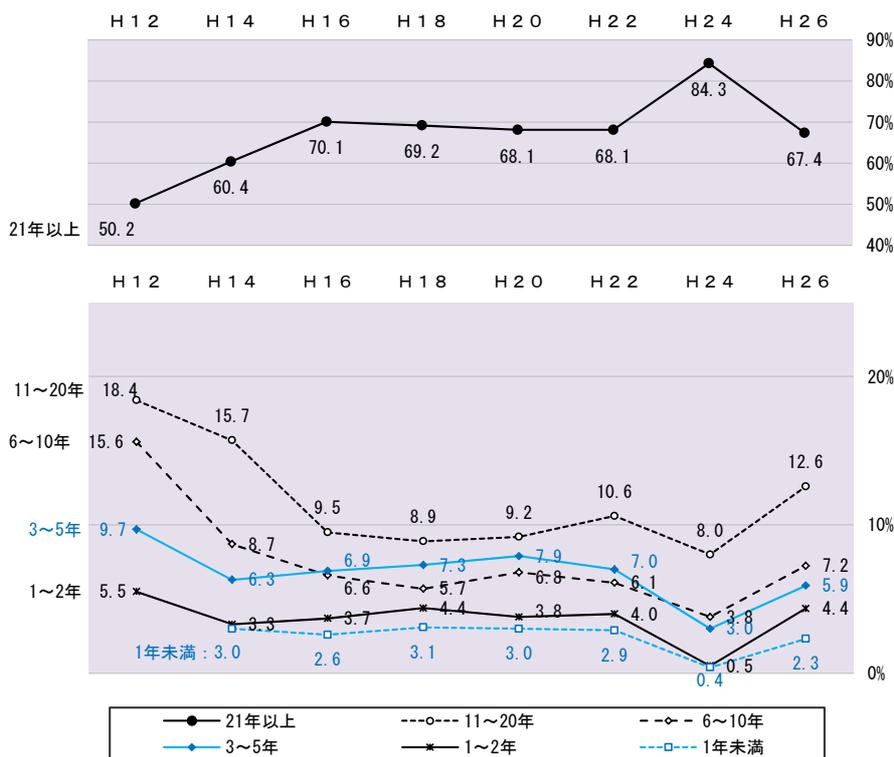
1. 1年未満 2. 1～2年 3. 3～5年
4. 6～10年 5. 11～20年 6. 21年以上

選択項目	回答数	(%)
1年未満	33	(2.3%)
1～2年	62	(4.4%)
3～5年	84	(5.9%)
6～10年	103	(7.2%)
11～20年	179	(12.6%)
21年以上	958	(67.4%)
無回答	3	(0.2%)
合計	1,422	(100%)



居住年数について最も多い回答は「21年以上」の67.4%、次いで「11～20年」の12.6%、「6～10年」の7.2%となっており、居住年数に比例して回答数の割合が高いという結果となった。

上記結果を更に、経年変化グラフにて集計を行った。



経年変化でみると、「21年以上」はH24では16.2ポイントの増加となっているが、今回調査では16.9ポイント減少となっている。前回調査が旧盆と重なったため、回答者が偏ってしまったのではないかと分析があったが、今回の結果はそれを裏付けるものと考えられる。

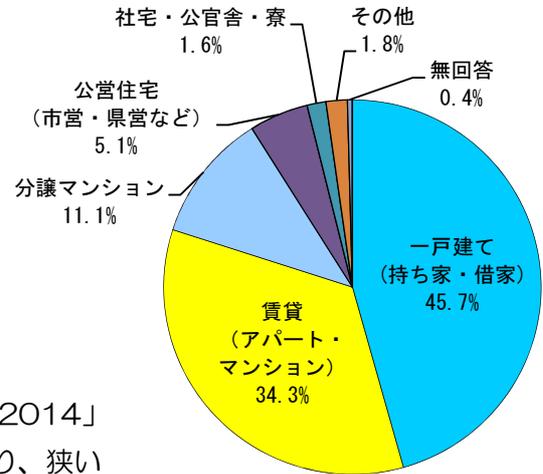
20年以下の居住年数では増加傾向にあることが確認できる。総体として、短期から中長期へ居住年数が伸びる傾向にあると思われる。

Ⅲ. 基本調査結果

質問5. あなたのお住まいの住居形態は？次の中から1つお選びください。(1つ選択)

1. 一戸建て(持ち家・借家) 2. 分譲マンション 3. 賃貸(アパート・マンション)
 4. 公営住宅(市営・県営など) 5. 社宅・公官舎・寮
 6. その他(具体的に:)

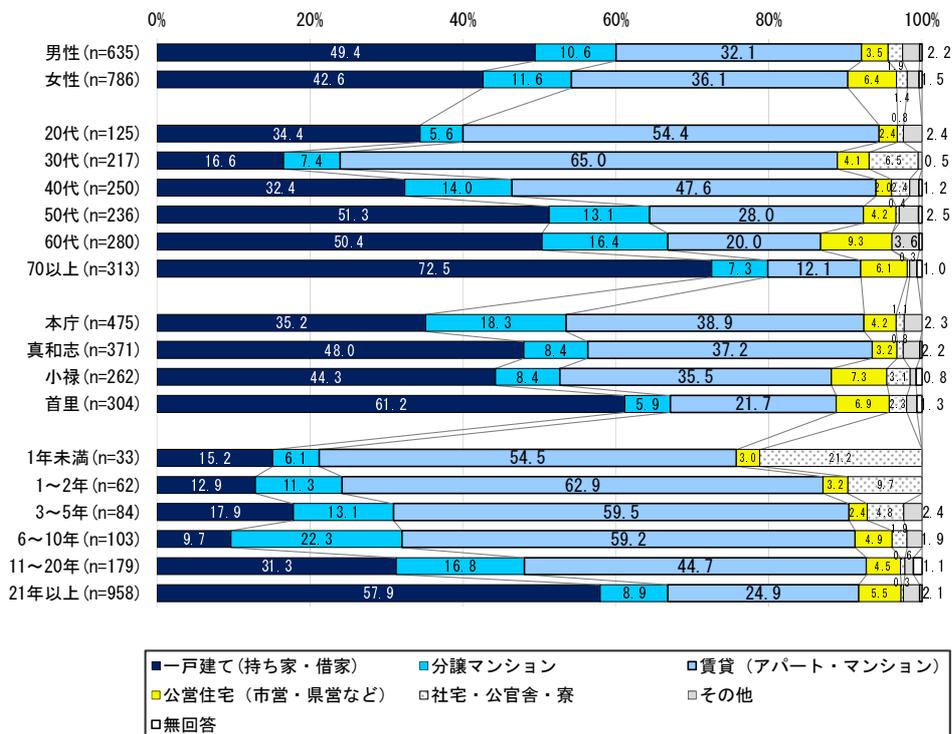
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	一戸建て(持ち家・借家)	649	(45.7%)
2位	賃貸(アパート・マンション)	488	(34.3%)
3位	分譲マンション	158	(11.1%)
4位	公営住宅(市営・県営など)	72	(5.1%)
5位	社宅・公官舎・寮	23	(1.6%)
-	その他	26	(1.8%)
-	無回答	6	(0.4%)
	合計	1,422	(100%)



住居形態では一戸建てに住んでいる市民が45.7%、賃貸に住んでいる市民が34.3%となっている。

総務省統計局の「社会生活統計指標-都道府県の指標-2014」では、沖縄県全体での一戸建て住宅比率は44.3%であり、狭い市域の中でもかなり高い比率を維持しているものと推測される。

上記結果を更に、属性(性別、年代、居住地区、居住年数)別に集計を行った。



年代別で見ると20~40代では「賃貸」が最も多く、50代以上で「一戸建て」が最も多くなっている。

居住年数で見ると1年未満~20年までは「賃貸」、21年以上では「一戸建て」の割合が一番高くなっている。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

報告書の見方について

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

日常生活等に関する意識調査結果

(1) 住み心地について

① 質問 6. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。
1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

② 那覇市に愛着を感じている市民は76.8%、愛着を感じない市民は4.0%。

③

選択項目	回答数	(%)
愛着を感じる	1,092	(76.8%)
愛着を感じない	57	(4.0%)
どちらともいえない	262	(18.4%)
無回答	11	(0.8%)
合計	1,422	(100%)

無回答 0.8%
愛着を感じる 76.8%
愛着を感じない 4.0%
どちらともいえない 18.4%

那覇市に「愛着を感じる」と回答した市民の割合は、76.8%で、前回の市民が那覇市に愛着を感じている、「愛着を感じない」と回答した市民は4.0%、「どちらともいえない」と回答した市民は18.4%となっている。

④ 経年変化グラフ(平成11年度～平成26年度)

1124と比較すると、「愛着を感じる」と回答した割合は0.9ポイント減少し、「愛着を感じない」と回答した割合は0.8ポイント増加しており、市民の那覇市に対する愛着がわずかに低下していることがうかがえる。
今後は「どちらともいえない」と回答した市民の愛着をいかに上げていくかがポイントとなり、それにより、今回増加に転じた「愛着を感じない」市民の割合の改善も期待できるものと考ええる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ(回答者属性無回答除く)

⑤

回答者属性	選択項目	愛着を感じる	愛着を感じない	どちらともいえない	無回答
性別	男性 (n=635)	476	34	123	2
	女性 (n=786)	616	23	139	8
年代	20代 (n=125)	81	12	30	2
	30代 (n=217)	155	11	50	1
	40代 (n=250)	190	18	51	1
	50代 (n=236)	178	6	50	2
	60代 (n=280)	221	6	51	2
	70代以上 (n=313)	277	4	30	2
	本庁 (n=475)	362	26	83	4
居住地	真和志 (n=371)	283	11	74	3
	小樽 (n=262)	190	8	63	1
	那覇 (n=304)	252	12	38	2
	1年未満 (n=33)	10	7	16	0
居住年数	1～2年 (n=62)	33	11	18	0
	3～5年 (n=84)	42	8	34	0
	6～10年 (n=103)	64	6	32	1
	11～20年 (n=179)	128	12	38	1
	21年以上 (n=958)	815	13	123	7

⑥

年代別では、すべての年代で「愛着を感じる」割合が最も高く、年代が高くなるほど「愛着を感じる」割合が高くなっている。「愛着を感じる」割合は居住年数21年以上で最も高く、居住年数が長いほど「那覇市への愛着」が高くなる傾向がある。

- ① 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載
- ② ①の質問に関し、③～⑥の表・グラフから分析した総括を掲載
- ③ ①の質問に関する、回答数の集計及び集計グラフを掲載
- ④ 調査開始～H26までの、①と同種質問の経年変化グラフを掲載
- ⑤ ①の質問に関する回答を、属性(性別、年代、居住地区、居住年数)別に集計し掲載
- ⑥ ⑤において集計した結果を棒グラフにて掲載

※今回の「経年変化グラフ」及び「属性別集計表・グラフ」では、過去調査同様、無回答を含めた百分率で算出しているが、グラフの見やすさや、わかりやすさを考慮し、特に解析の必要が無い限り「無回答」「その他」等についてはグラフの表示を、比率の小さい選択項目については%表示を省略している。

日常生活等に関する意識調査結果

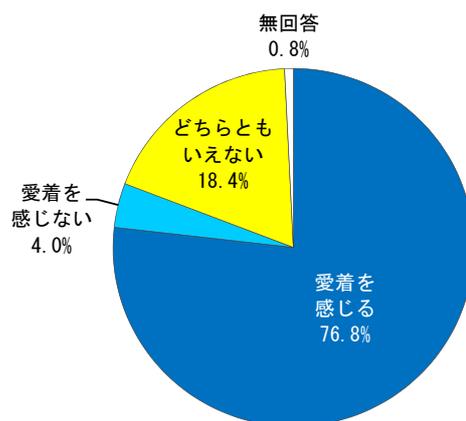
(1) 住み心地について

質問 6. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。

1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

那覇市に愛着を感じている市民は 76.8%、愛着を感じない市民は 4.0%。

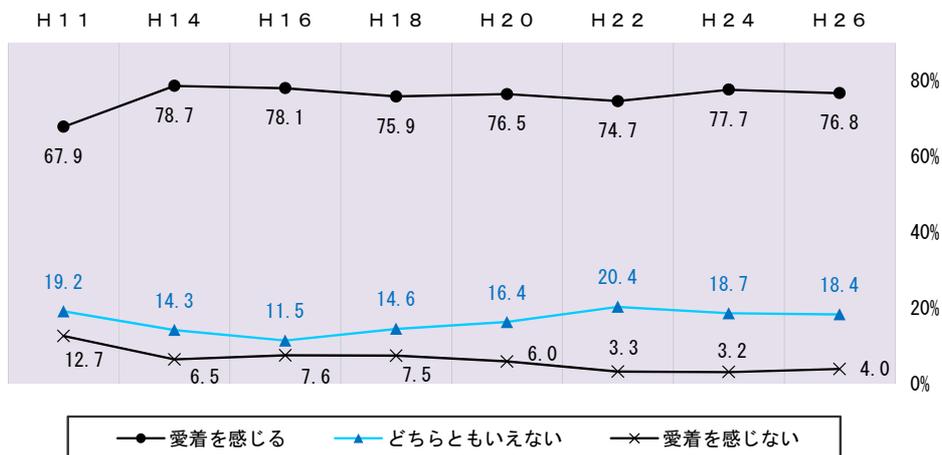
選択項目	回答数	(%)
愛着を感じる	1,092	(76.8%)
愛着を感じない	57	(4.0%)
どちらともいえない	262	(18.4%)
無回答	11	(0.8%)
合計	1,422	(100%)



那覇市に「愛着を感じる」と回答した市民の割合は、76.8%で 8 割近い市民が那覇市に愛着を感じている。

「愛着を感じない」と回答した市民は 4.0%、「どちらともいえない」と回答した市民は 18.4%となっている。

経年変化グラフ（平成 11 年度～平成 26 年度）

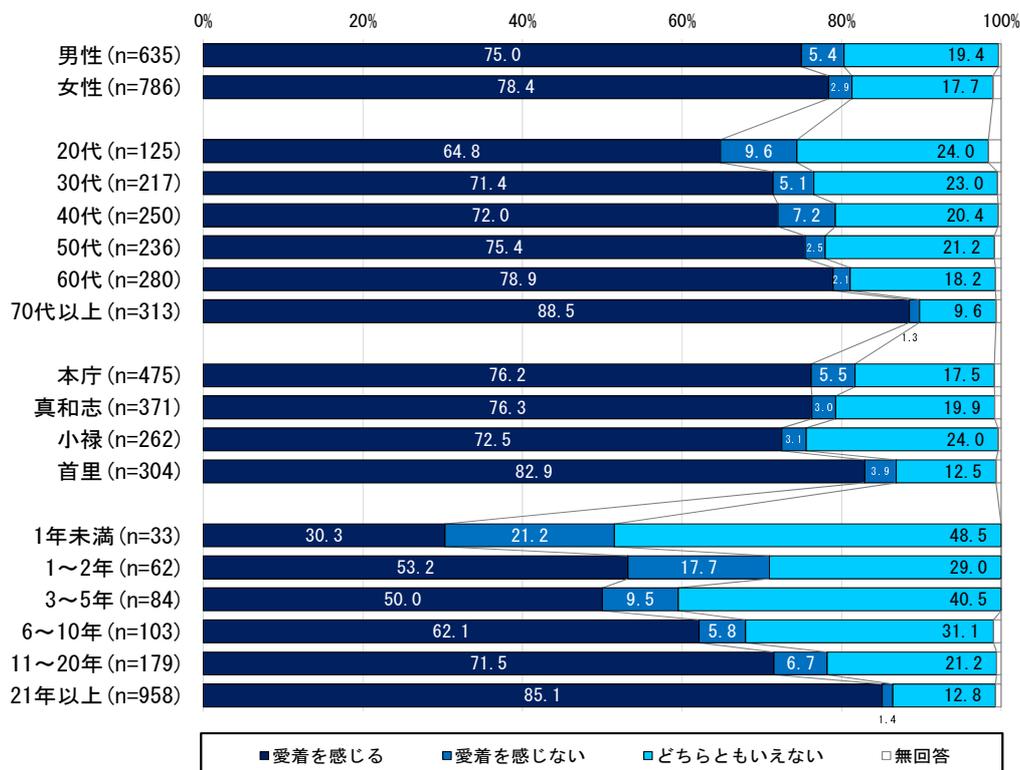


H24 と比較すると、「愛着を感じる」と回答した割合は 0.9 ポイント減少し、「愛着を感じない」と回答した割合は 0.8 ポイント増加しており、市民の那覇市に対する愛着がわずかに低下していることがうかがえる。

今後は「どちらともいえない」と回答した市民の愛着をいかに上げていくかがポイントとなり、それにより、今回増加に転じた「愛着を感じない」市民の割合の改善も期待できるものとする。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目		愛着を感じるを	愛着を感じない	なとど いもち いらえ	無回答
回答者属性 (n=合計)					
男性	(n= 635)	476	34	123	2
女性	(n= 786)	616	23	139	8
20代	(n= 125)	81	12	30	2
30代	(n= 217)	155	11	50	1
40代	(n= 250)	180	18	51	1
50代	(n= 236)	178	6	50	2
60代	(n= 280)	221	6	51	2
70代以上	(n= 313)	277	4	30	2
本庁	(n= 475)	362	26	83	4
真和志	(n= 371)	283	11	74	3
小祿	(n= 262)	190	8	63	1
首里	(n= 304)	252	12	38	2
1年未満	(n= 33)	10	7	16	0
1～2年	(n= 62)	33	11	18	0
3～5年	(n= 84)	42	8	34	0
6～10年	(n= 103)	64	6	32	1
11～20年	(n= 179)	128	12	38	1
21年以上	(n= 958)	815	13	123	7



年代別では、すべての年代で「愛着を感じる」割合が最も高く、年代が高くなるほどその割合が高くなっている。

「愛着を感じる」割合は居住年数 21 年以上で最も高く、居住年数が高いほど「那覇市への愛着」は高くなる傾向である。

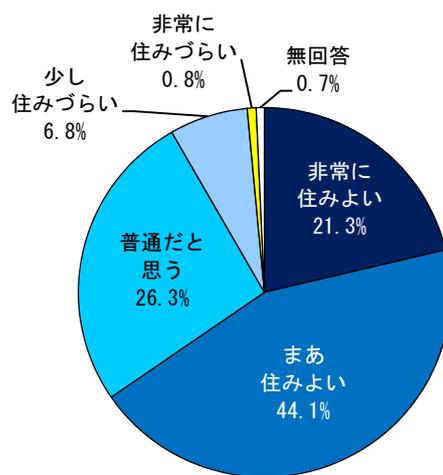
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 7. 那覇市の住み心地について、あなたはごどう思いますか。

1. 非常に住みよい 2. まあ住みよい 3. 普通だと思う
4. 少し住みづらい 5. 非常に住みづらい

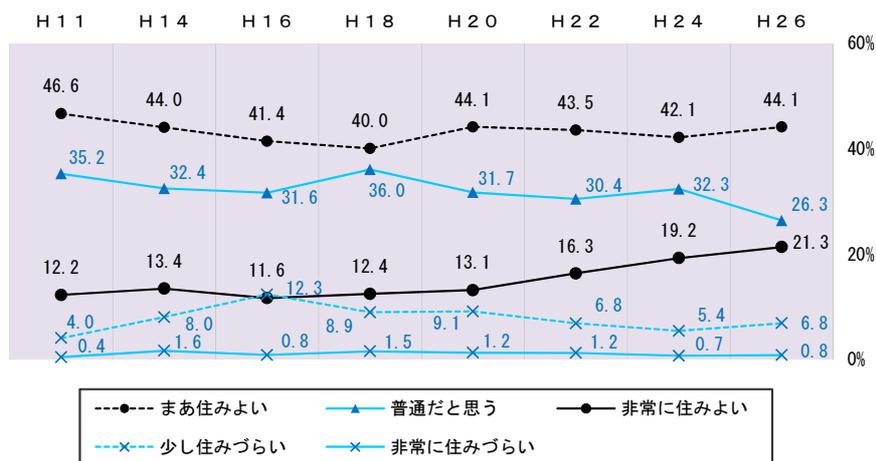
那覇市の住み心地が「住みよい（非常に住みよい、まあ住みよい）」と感じている市民は 65.4%。

選択項目	回答数	(%)
非常に住みよい	303	(21.3%)
まあ住みよい	627	(44.1%)
普通だと思う	374	(26.3%)
少し住みづらい	97	(6.8%)
非常に住みづらい	11	(0.8%)
無回答	10	(0.7%)
合計	1,422	(100%)



那覇市の住み心地について最も回答数が多かったのは「まあ住みよい」の 44.1%で、次いで「普通だと思う」が 26.3%、「非常に住みよい」が 21.3%と続く。「少し住みづらい」と「非常に住みづらい」を合わせると 7.6%となっている。

経年変化グラフ（平成 11 年度～平成 26 年度）

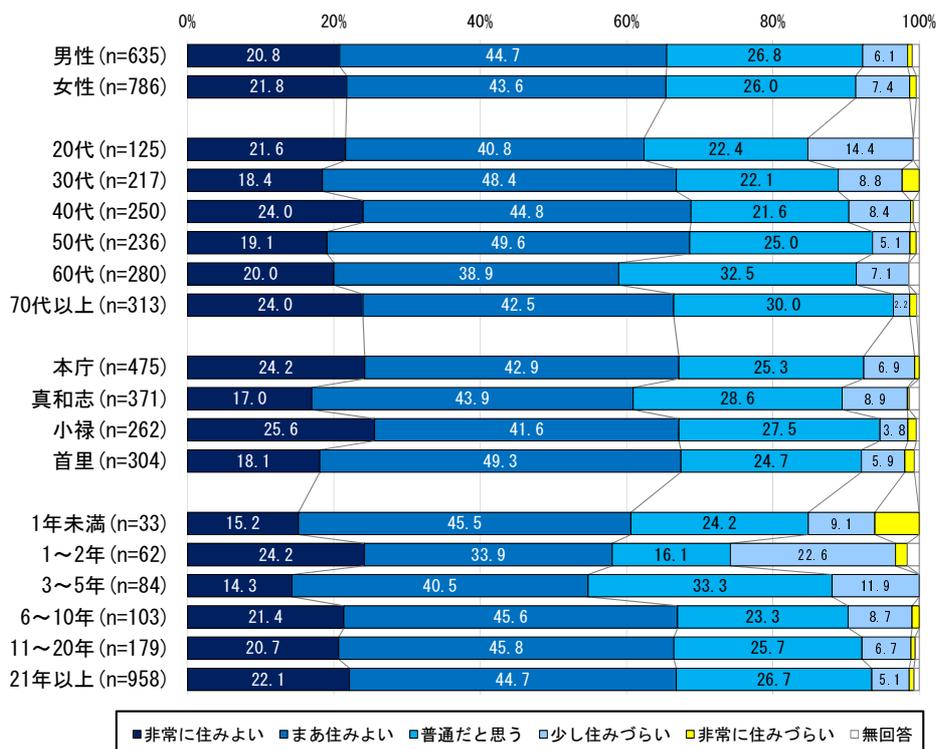


「非常に住みよい」と回答した市民の割合は H18 以降、増加している。「まあ住みよい」も前回調査より 2.0 ポイント増加しており、65.4%が「非常に住みよい」「まあ住みよい」と感じていることがわかる。

今回調査では、「普通だと思う」が 6.0 ポイント減少し、その他の割合が増加している。市民が住み心地について積極的に評価していることがうかがえる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)	住 非 常 に よ い	住 ま み あ よ い	思 普 う 通 だ と	づ 住 少 ら み し い	づ 住 非 ら み 常 に い	無 回 答
男性 (n= 635)	132	284	170	39	4	6
女性 (n= 786)	171	343	204	58	7	3
20代 (n= 125)	27	51	28	18	0	1
30代 (n= 217)	40	105	48	19	5	0
40代 (n= 250)	60	112	54	21	1	2
50代 (n= 236)	45	117	59	12	2	1
60代 (n= 280)	56	109	91	20	0	4
70代以上 (n= 313)	75	133	94	7	3	1
本庁 (n= 475)	115	204	120	33	3	0
真和志 (n= 371)	63	163	106	33	1	5
小禄 (n= 262)	67	109	72	10	3	1
首里 (n= 304)	55	150	75	18	4	2
1年未満 (n= 33)	5	15	8	3	2	0
1～2年 (n= 62)	15	21	10	14	1	1
3～5年 (n= 84)	12	34	28	10	0	0
6～10年 (n= 103)	22	47	24	9	1	0
11～20年 (n= 179)	37	82	46	12	1	1
21年以上 (n= 958)	212	428	256	49	6	7



前回調査では、他の地区と比較して小禄地区の「住みよい」評価が低かったが、今回は真和志地区の評価が低下している。

居住年数が1年未満、1～2年は「少し住みづらい」「非常に住みづらい」と感じている割合が高くなっている。特に、住み始めた頃より1～2年たった頃に割合が増える傾向が確認できる。

居住年数が6年以上では約7割が「非常に住みよい」「まあ住みよい」と回答しており、「少し住みづらい」は居住年数が長くなるのに比例して減っている。居住年数の長さ住み心地の良さは密接に関係していると考えられる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

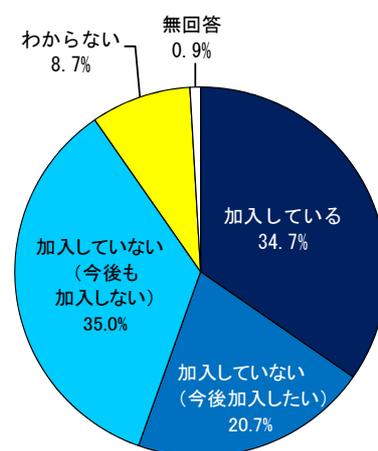
(2) 地域の自治会や地域における課題について

質問 8. あなたのご家庭は、自治会・通り会などに加入していますか。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 加入している | 2. 加入していない (今後加入したい) |
| 3. 加入していない (今後も加入しない) | 4. わからない |

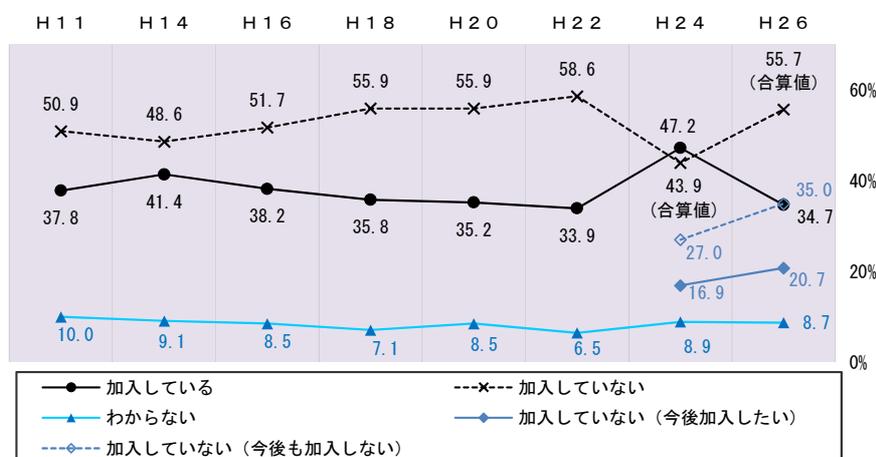
自治会、通り会等に参加している市民は 34.7%、参加していない市民は 55.7%。

選択項目	回答数	(%)
加入している	493	(34.7%)
加入していない (今後加入したい)	295	(20.7%)
加入していない (今後も加入しない)	497	(35.0%)
わからない	124	(8.7%)
無回答	13	(0.9%)
合計	1,422	(100%)



自治会、通り会に「加入している」市民は 34.7%、「加入していない (今後加入したい)・(今後も加入しない)」市民の割合は 55.7%となっている。

経年変化グラフ (平成 11 年度～平成 26 年度)



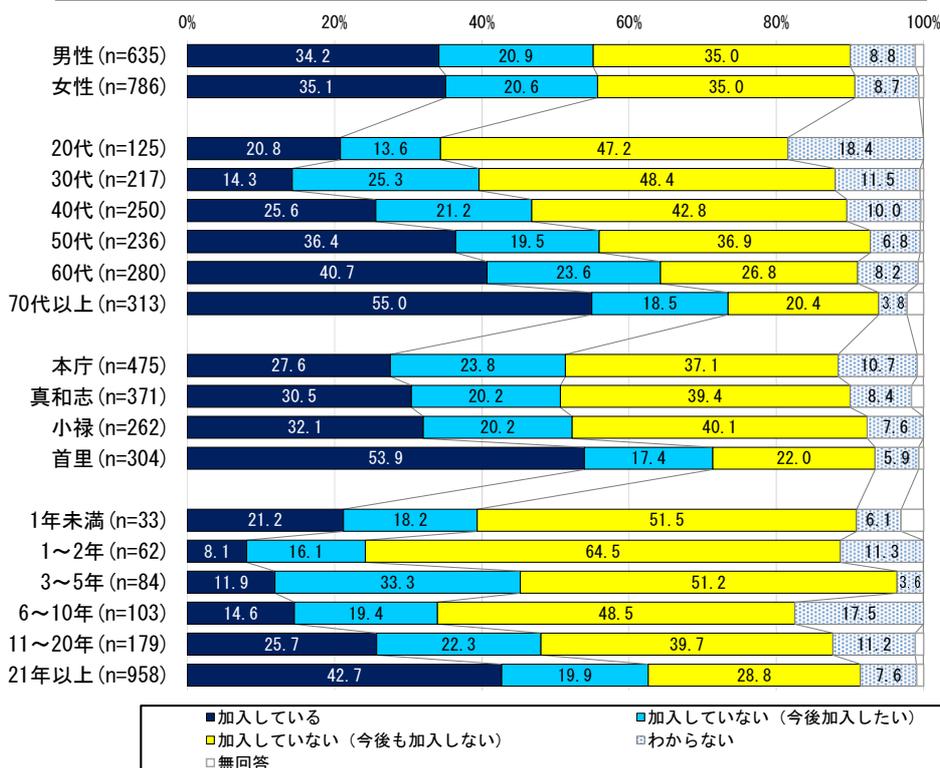
H22 以前は「加入していない」選択肢は 1 つだったため、今回調査における「加入していない (今後加入したい)」「加入していない (今後も加入しない)」と回答した割合の合算値を「加入していない」に置き換えて比較を行った。

経年変化グラフからみると、「加入していない」市民の割合は 55.7%となっており、「加入している」の 34.7%を逆転する結果となった。

自治会の加入率は H26.4 月現在 20.4%である。今回の調査での加入割合が高くなったのは、アンケート回答者のうち、居住年数の長い市民の割合が高くなったためと考えられる。約 6 割の市民が自治会に加入していないが、「今後加入したい」と回答した市民が 2 割もいることから、加入者数を増加させるために、自治会等が積極的に加入に向けた取り組みを進める必要がある。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	加入している	加入していない (今後加入したい)	加入していない (今後加入しない)	わからない	無回答
男性 (n= 635)		217	133	222	56	7
女性 (n= 786)		276	162	275	68	5
20代 (n= 125)		26	17	59	23	0
30代 (n= 217)		31	55	105	25	1
40代 (n= 250)		64	53	107	25	1
50代 (n= 236)		86	46	87	16	1
60代 (n= 280)		114	66	75	23	2
70代以上 (n= 313)		172	58	64	12	7
本庁 (n= 475)		131	113	176	51	4
真和志 (n= 371)		113	75	146	31	6
小祿 (n= 262)		84	53	105	20	0
首里 (n= 304)		164	53	67	18	2
1年未満 (n= 33)		7	6	17	2	1
1～2年 (n= 62)		5	10	40	7	0
3～5年 (n= 84)		10	28	43	3	0
6～10年 (n= 103)		15	20	50	18	0
11～20年 (n= 179)		46	40	71	20	2
21年以上 (n= 958)		409	191	276	73	9



年代別で見ると「加入している」市民の割合は、30代を除くと年代に比例して割合が高くなっており、居住地区では首里地区が53.9%と最も高くなっている。

「加入していない（今後も加入しない）」と回答した市民を居住年数別で見ると、居住年数が短い市民の割合が高くなっている。

自治会等の加入者数を増加させるには、全年代、全地域で約2割にのぼる加入希望者を加入に結びつける必要がある。

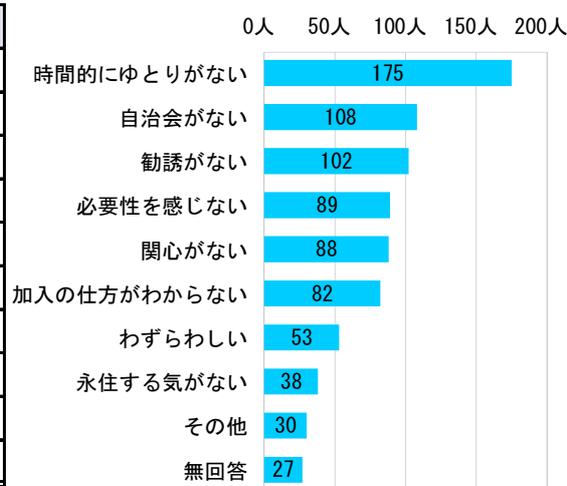
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 8-1. 自治会・通り会などに「加入していない」と答えた方は、次の中から理由を1つお選びください。

- | | | |
|---------------------|-------------|-----------|
| 1. 加入の仕方がわからない | 2. 自治会がない | 3. 勧誘がない |
| 4. 時間的にゆとりがない | 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない | 8. 必要性を感じない | |
| 9. その他（具体的に： _____） | | |

個人の意味で加入していない市民は 55.9%、地域の事情「勧誘がない」「自治会がない」で加入していない市民は 26.5%。

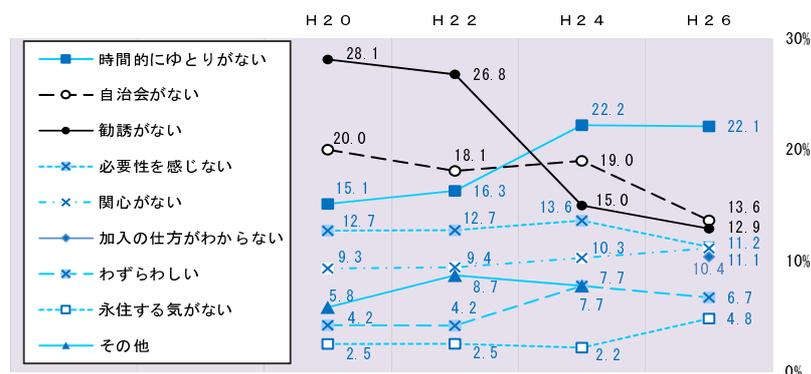
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	時間的にゆとりがない	175	(22.1%)
2位	自治会がない	108	(13.6%)
3位	勧誘がない	102	(12.9%)
4位	必要性を感じない	89	(11.2%)
5位	関心がない	88	(11.1%)
6位	加入の仕方がわからない	82	(10.4%)
7位	わずらわしい	53	(6.7%)
8位	永住する気がない	38	(4.8%)
-	その他	30	(3.8%)
-	無回答	27	(3.4%)
合 計		792	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

自治会・通り会に加入していない理由の回答で最も割合が高かったのは、「時間的にゆとりがない」の22.1%、続いて「自治会がない」の13.6%、「勧誘がない」の12.9%となっている。

経年変化グラフ（平成20年度～平成26年度）

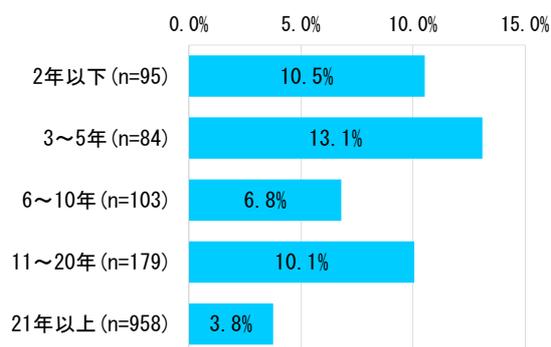


前回調査から「自治会がない」が5.4ポイント減少し、「勧誘がない」は2.1ポイント減少している。最も割合の高い「時間的にゆとりがない」は前回からわずかに減少しているが、「関心がない」「永住する気がない」等個人の意味で加入しない割合が増加している。

「加入の仕方がわからない」ため加入していない市民も10%余りにのぼるため、市民に対する啓発も加入率を向上させるポイントと思われる。

居住年数別の「加入の仕方がわからない」割合

居住年数	居住年数 回答数	「加入の仕方が わからない」回答数 (%)
2年以下	95	10 (10.5%)
3～5年	84	11 (13.1%)
6～10年	103	7 (6.8%)
11～20年	179	18 (10.1%)
21年以上	958	36 (3.8%)
合計	1,419	82 -



「加入の仕方がわからない」について回答者の居住年数に着目し、居住年数回答数のうち、「加入の仕方がわからない」市民の割合を算出して比較を行った。「1年未満」は回答数が少ないため、「1～2年」と合算して「2年以下」とした。

居住年数が2年以下、3～5年、11～20年で約1割が「加入の仕方がわからない」と回答しており、概ね居住年数が短いほど、割合が高くなる傾向にある。

自治会等の加入率を向上させるためには、地域住民への加入方法の周知についての工夫（掲示板を使うなど）や勧誘を積極的に行っていくことが必要と思われる。

選択肢「その他」の主な内容

- ・自治会の活動内容や活動の有無が不明（6人）
- ・借家/マンション管理組合に入っていないため（6人）
- ・以前は加入していた/自治会が休止している（5人）
- ・子供がいない/独身/両親が入っていないため（4人）
- ・引っ越して間もない/転勤族のため（3人）
- ・難しい/メリットがわからない（3人）
- ・老人ホームで暮らしているため（2人）
- ・他人の迷惑をかえりみない人が多い（2人）
- ・加入するタイミングを逃した
- ・兄弟宅が加入

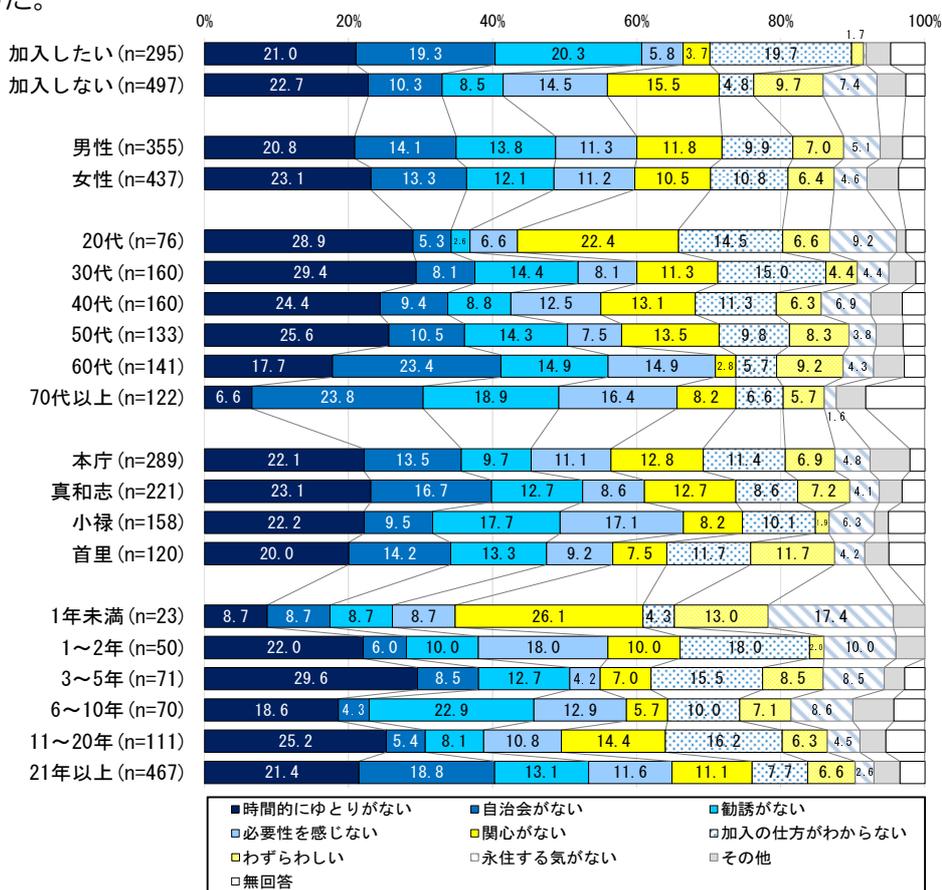
女性-30代-本庁地区・他
女性-40代-本庁地区・他
男性-40代-本庁地区・他
女性-20代-真和志地・他
男性-30代-本庁地区・他
男性-30代-首里地区・他
女性-70代-本庁地区・他
男性-30代-小祿地区・他
女性-50代-本庁地区
女性-70代-本庁地区

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	-	-
		ゆ時 と間 りが に ない	自 治 会 が ない	勧 誘 が ない	感 必 じ 要 性 を ない	関 心 が ない	わ か ら な い 仕 方 が	わ ず ら わ しい	な い 永 住 す る 気 が	そ の 他	無 回 答
加入したい (n= 295)		62	57	60	17	11	58	5	1	10	14
加入しない (n= 497)		113	51	42	72	77	24	48	37	20	13
男性 (n= 355)		74	50	49	40	42	35	25	18	11	11
女性 (n= 437)		101	58	53	49	46	47	28	20	19	16
20代 (n= 76)		22	4	2	5	17	11	5	7	1	2
30代 (n= 160)		47	13	23	13	18	24	7	7	6	2
40代 (n= 160)		39	15	14	20	21	18	10	11	7	5
50代 (n= 133)		34	14	19	10	18	13	11	5	5	4
60代 (n= 141)		25	33	21	21	4	8	13	6	6	4
70代以上 (n= 122)		8	29	23	20	10	8	7	2	5	10
本庁 (n= 289)		64	39	28	32	37	33	20	14	16	6
真和志 (n= 221)		51	37	28	19	28	19	16	9	7	7
小祿 (n= 158)		35	15	28	27	13	16	3	10	3	8
首里 (n= 120)		24	17	16	11	9	14	14	5	4	6
1年未満 (n= 23)		2	2	2	2	6	1	3	4	1	0
1～2年 (n= 50)		11	3	5	9	5	9	1	5	2	0
3～5年 (n= 71)		21	6	9	3	5	11	6	6	2	2
6～10年 (n= 70)		13	3	16	9	4	7	5	6	4	3
11～20年 (n= 111)		28	6	9	12	16	18	7	5	4	6
21年以上 (n= 467)		100	88	61	54	52	36	31	12	17	16

ここでは質問 8. で「今後加入したい」「今後も加入しない」と回答した市民を属性に加えて分析を行った。

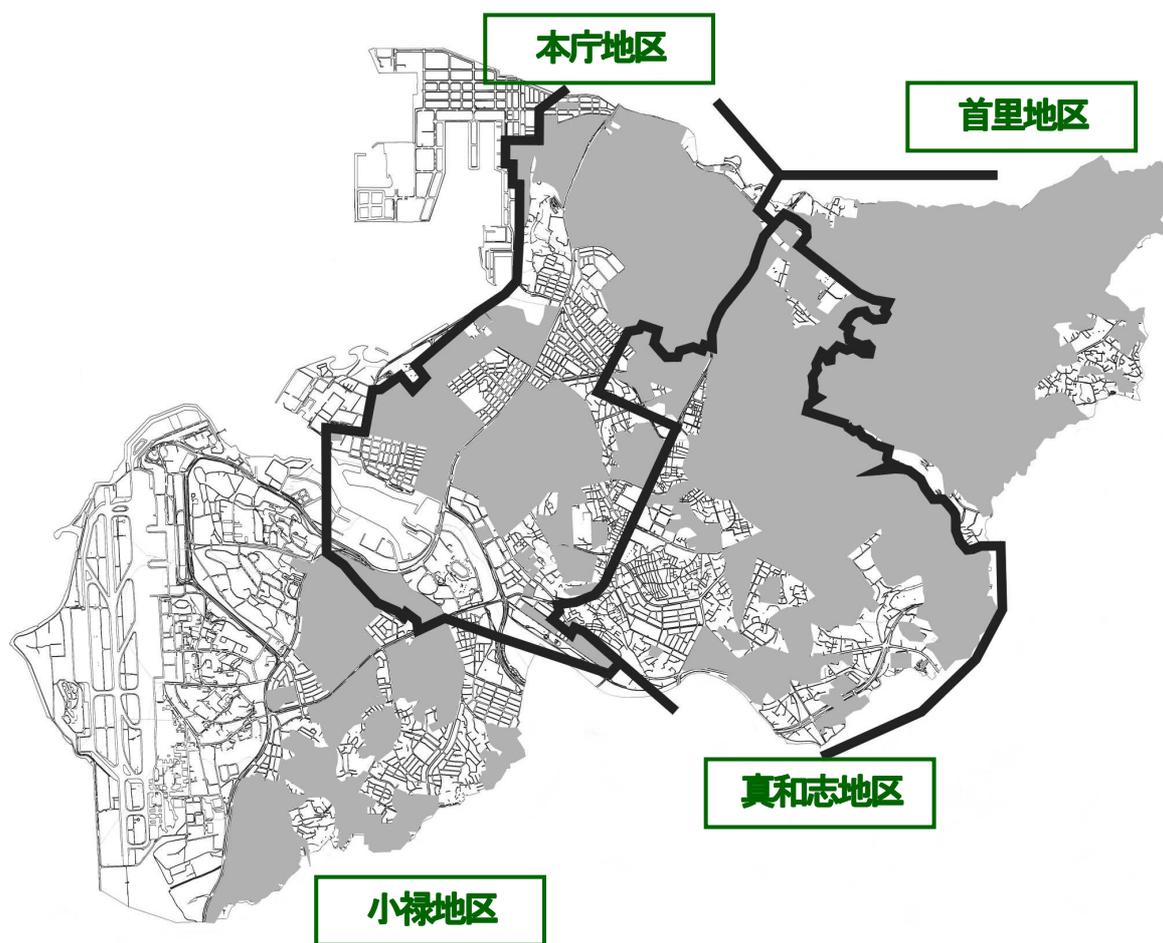


「今後加入したい」、「今後も加入しない」共に「時間的にゆとりがない」と回答している割合が最も高い。「今後加入したい」と考えている市民では、次いで「勧誘がない」「加入の仕方がわからない」と回答している割合が高くなっている。「今後も加入しない」では、「時間的にゆとりがない」に続いて「関心がない」「必要性を感じない」と回答している割合が高くなっている。

年代別にみると、20代～50代で「時間的にゆとりがない」と回答している割合が高く、60代、70代以上では「自治会がない」「勧誘がない」と回答している割合が他の回答より高くなっている。

居住地区別では、小禄地区で「必要性を感じない」「関心がない」と回答している市民の割合が他地区より多くなっている。

自治会の加入率を向上させるためには、自治会・通り会の有無を地域住民に向けて発信する必要があると考えられる。



那覇市の地域別による自治会等設置エリア図

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 9. あなたがお住まいの地域（小学校区）で、特に大きいと思われる課題について1つお選びください。

1. 地域の美化・清掃
2. 自治会、PTA、その他団体などの連携
3. 防犯活動
4. 防災活動
5. 非行対策
6. 一人暮らしのお年寄りへの支援
7. 子育てに対する支援
8. 交通安全
9. 住民同士の交流
10. その他（)

市民が住まいの地域（小学校区）における課題で最も大きいと思うものは「地域の美化・清掃」の15.0%。

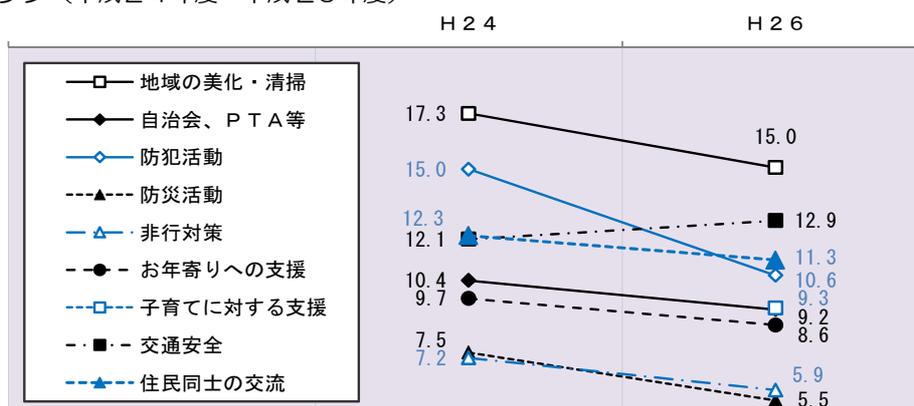
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	地域の美化・清掃	214	(15.0%)
2位	交通安全	183	(12.9%)
3位	住民同士の交流	160	(11.3%)
4位	防犯活動	151	(10.6%)
5位	子育てに対する支援	132	(9.3%)
6位	自治会、PTA、その他団体などの連携	131	(9.2%)
7位	お年寄りへの支援	122	(8.6%)
8位	非行対策	84	(5.9%)
9位	防災活動	78	(5.5%)
-	その他	76	(5.3%)
-	無回答	91	(6.4%)
合 計		1,422	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民が地域の小学校区における課題だと回答した割合が最も高いのが「地域の美化・清掃」の15.0%、続いて「交通安全」の12.9%となっている。

経年変化グラフ（平成24年度～平成26年度）

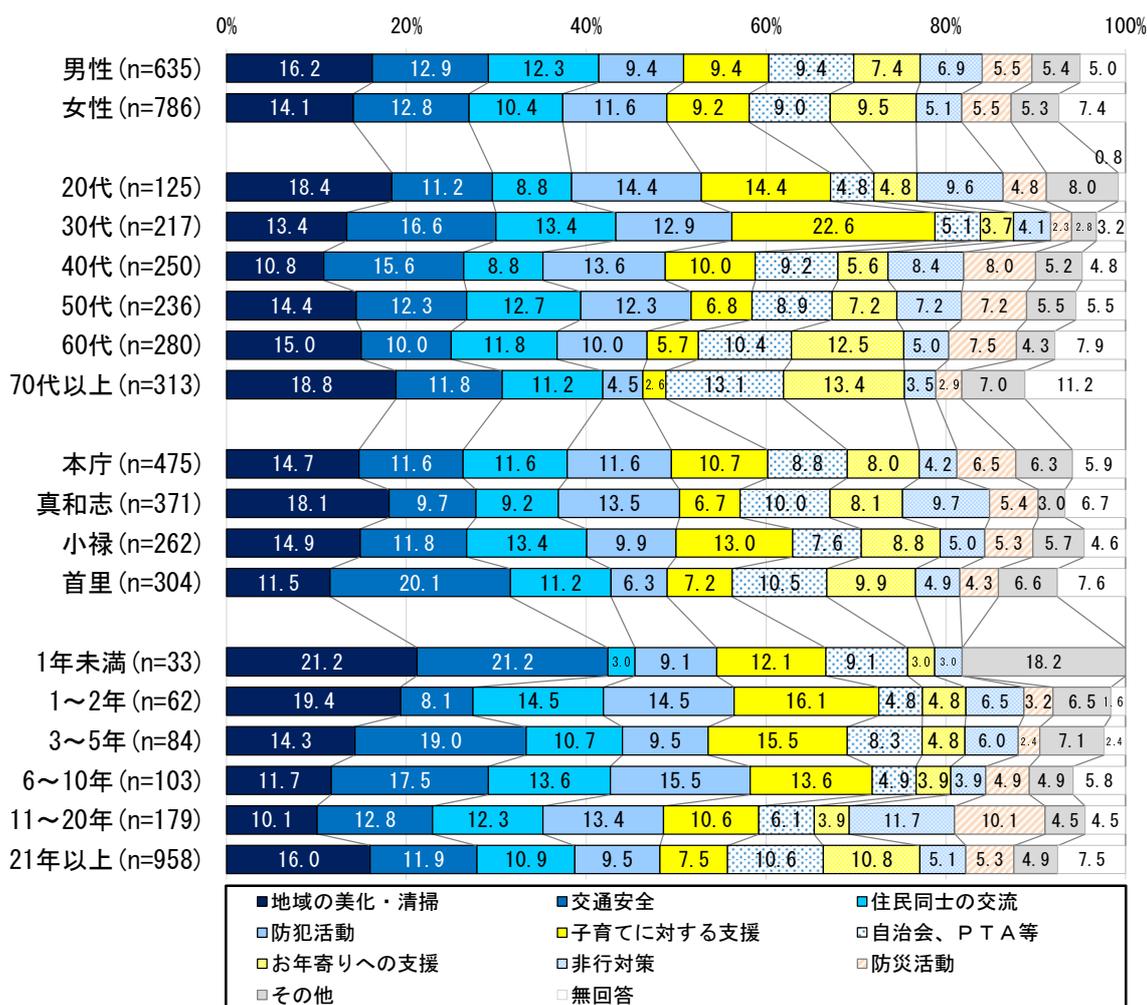


今回調査から「子育てに対する支援」の項目を追加したため、相対的にほとんどの項目で割合が減少している。その中で「交通安全」だけが増加しており、課題が大きいことがわかる。

今回新規で追加した子育て支援が高い割合を示した事もあり、時代のニーズに合った課題に随時対応していくことが求められている。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	-	-
	清 地域 掃 域 の 美 化 ・	交 通 安 全	交 住 流 民 同 士 の	防 犯 活 動	対 子 育 て に 支 援	6位 運 携 自 治 会、P T A、 そ の 他 団 体 な ど の	へ お 年 寄 り	非 行 対 策	防 災 活 動	- そ の 他	- 無 回 答
男性 (n= 635)	103	82	78	60	60	60	47	44	35	34	32
女性 (n= 786)	111	101	82	91	72	71	75	40	43	42	58
20代 (n= 125)	23	14	11	18	18	6	6	12	6	10	1
30代 (n= 217)	29	36	29	28	49	11	8	9	5	6	7
40代 (n= 250)	27	39	22	34	25	23	14	21	20	13	12
50代 (n= 236)	34	29	30	29	16	21	17	17	17	13	13
60代 (n= 280)	42	28	33	28	16	29	35	14	21	12	22
70代以上 (n= 313)	59	37	35	14	8	41	42	11	9	22	35
本庁 (n= 475)	70	55	55	55	51	42	38	20	31	30	28
真和志 (n= 371)	67	36	34	50	25	37	30	36	20	11	25
小禄 (n= 262)	39	31	35	26	34	20	23	13	14	15	12
首里 (n= 304)	35	61	34	19	22	32	30	15	13	20	23
1年未満 (n= 33)	7	7	1	3	4	3	1	1	0	6	0
1～2年 (n= 62)	12	5	9	9	10	3	3	4	2	4	1
3～5年 (n= 84)	12	16	9	8	13	7	4	5	2	6	2
6～10年 (n= 103)	12	18	14	16	14	5	4	4	5	5	6
11～20年 (n= 179)	18	23	22	24	19	11	7	21	18	8	8
21年以上 (n= 958)	153	114	104	91	72	102	103	49	51	47	72



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

年代別でみると、20代と50代以上の市民は「地域の美化・清掃」と回答した割合が高くなっており、30代の年代は「子育てに対する支援」、40代は「交通安全」と回答した割合が高くなっている。

本庁地区、真和志地区、小祿地区では「地域の美化・清掃」が、首里地区では「交通安全」が他地区より課題があると認識しており、各地区の実情にあった対策が求められる。

選択肢「その他」の主な内容

- ・特に課題は見当たらない/わからない(24人) 男性-50代-本庁地区・他
- ・街灯が少なく暗い(4人) 女性-60代-小祿地区・他
- ・子供がいないためわからない(3人) 女性-60代-本庁地区・他
- ・野良犬/猫の保護や管理(3人) 男性-60代-首里地区・他
- ・路上駐車や交通渋滞(3人) 女性-70代-首里地区・他
- ・歩道の整備(4人) 男性-50代-小祿地区・他
- ・路上生活者への対策(2人) 女性-50代-本庁地区・他
- ・バイクの騒音 男性-30代-本庁地区
- ・すべて満足 男性-40代-本庁地区
- ・居酒屋などの飲食店が多く、店外退出時に酔って大声で談笑 男性-50代-本庁地区
- ・異常に高い物価対策 男性-70代-本庁地区
- ・バス停 女性-20代-本庁地区
- ・嫌な外人が増えた 女性-20代-本庁地区
- ・景観の美化 女性-40代-本庁地区
- ・住んで3年なので地域の課題について見えない 女性-40代-本庁地区
- ・下水道の整備 男性-70代-真和志地区
- ・道路工事が多い 女性-30代-真和志地区
- ・繁多川入口十字路口から工業高校向け通りはバス通りであるにも関わらず、歩道もなく時にバスや車の為に身体をよけることもあり危険なので改善してほしい 女性-60代-真和志地区
- ・学童が少ない 女性-40代-小祿地区
- ・静かで過ごしやすい 女性-50代-小祿地区
- ・公園がない 男性-60代-首里地区
- ・図書館をもっと利用しやすくしてほしい(暗くて子供が一人でいくには危険) 女性-20代-首里地区
- ・不審者対策 女性-40代-首里地区
- ・歩いて行ける範囲内で、買い物が出来ない 女性-70代-首里地区
- ・現在車を利用しているが、もっと高齢になってきたときは不安がある
- ・足腰が弱いためつき合いがないのでわからない 女性-70代-首里地区

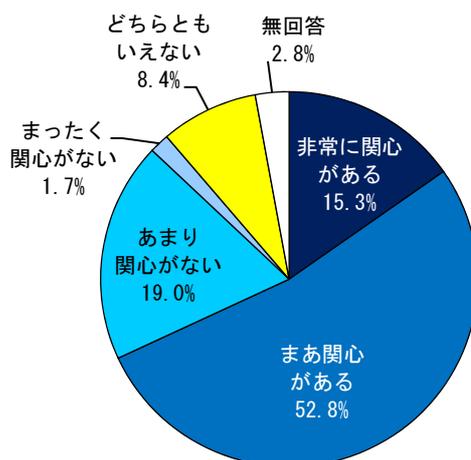
(3) 市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

- 1. 非常に関心がある 2. まあ関心がある 3. あまり関心がない
- 4. まったく関心がない 5. どちらともいえない

市政へ関心のある市民は 68.1%、関心がない市民は 20.7%。

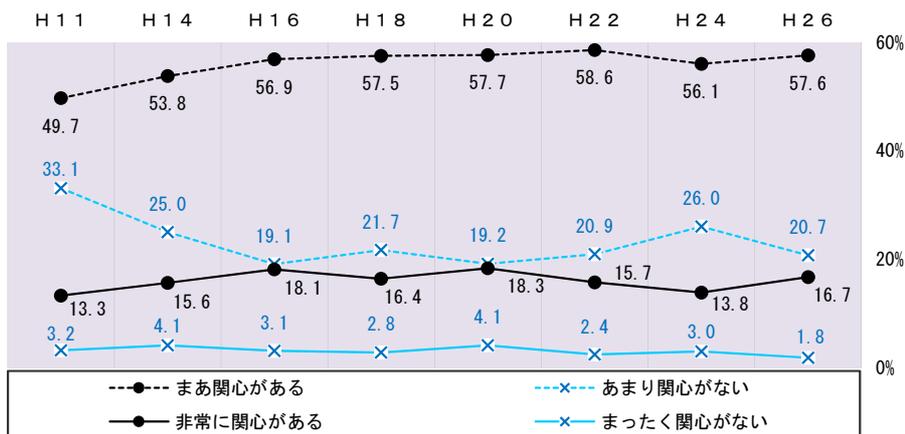
選択項目	回答数	(%)
非常に関心がある	217	(15.3%)
まあ関心がある	751	(52.8%)
あまり関心がない	270	(19.0%)
まったく関心がない	24	(1.7%)
どちらともいえない	119	(8.4%)
無回答	41	(2.8%)
合計	1,422	(100%)



市政に関心がある市民の割合は、「非常に関心がある」の 15.3%と「まあ関心がある」の 52.8%を合計すると、68.1%となっている。

対して関心がない市民の割合は、「あまり関心がない」の 19.0%と、「まったく関心がない」の 1.7%を合計すると、20.7%となっている。

経年変化グラフ (平成 11 年度～平成 26 年度)



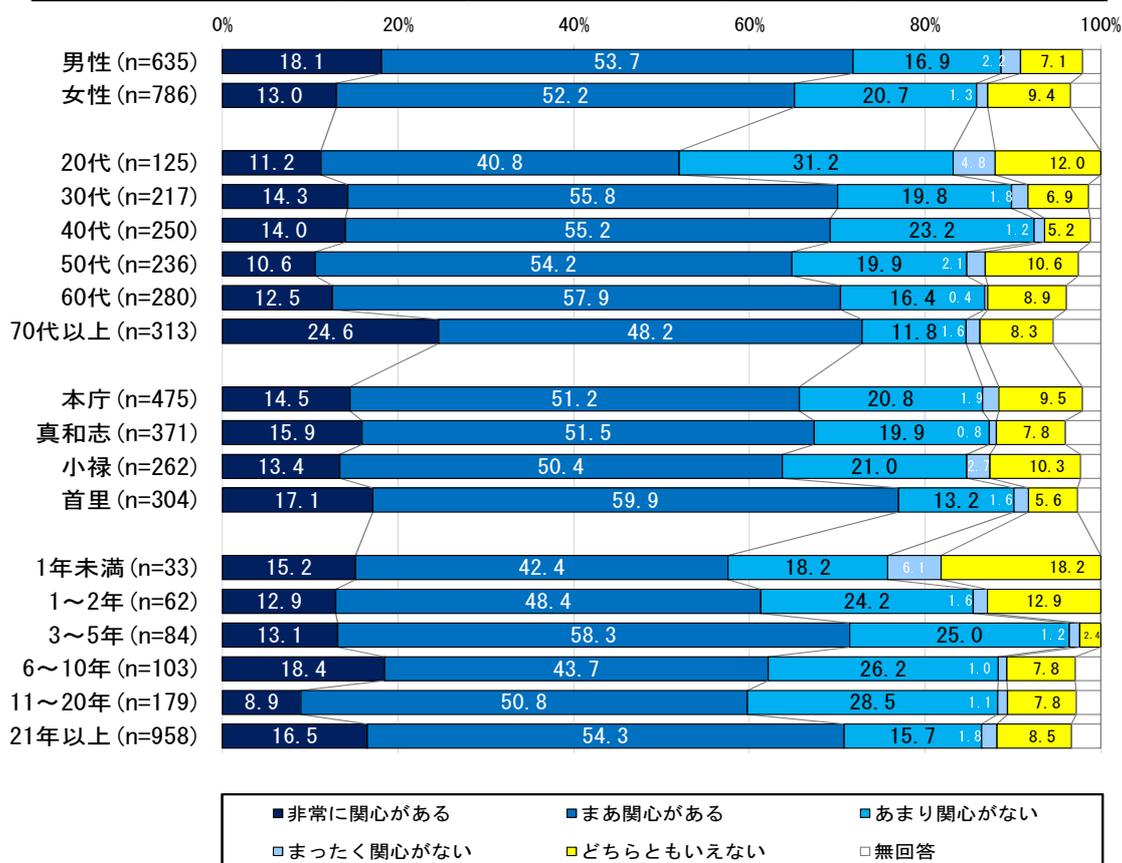
経年変化では、H20 以前には選択肢が無かった「どちらともいえない」を除いた割合で比較を行った (H22、H24、H26)。

前回調査と比較すると、「非常に関心がある」が 2.9 ポイント増加、「まあ関心がある」が 1.5 ポイント増加している。「あまり関心がない」は 5.3 ポイント、「まったく関心がない」は 1.2 ポイント減少しており、市民の市政へ対する関心は前回よりわずかに上昇している。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	選択項目					無回答
		お関非 る心常 がに	お関ま る心あ が	な関あ い心ま がり	な関ま い心っ がた く	なとど いもち いら え	
男性 (n= 635)		115	341	107	14	45	13
女性 (n= 786)		102	410	163	10	74	27
20代 (n= 125)		14	51	39	6	15	0
30代 (n= 217)		31	121	43	4	15	3
40代 (n= 250)		35	138	58	3	13	3
50代 (n= 236)		25	128	47	5	25	6
60代 (n= 280)		35	162	46	1	25	11
70代以上 (n= 313)		77	151	37	5	26	17
本庁 (n= 475)		69	243	99	9	45	10
真和志 (n= 371)		59	191	74	3	29	15
小禄 (n= 262)		35	132	55	7	27	6
首里 (n= 304)		52	182	40	5	17	8
1年未満 (n= 33)		5	14	6	2	6	0
1～2年 (n= 62)		8	30	15	1	8	0
3～5年 (n= 84)		11	49	21	1	2	0
6～10年 (n= 103)		19	45	27	1	8	3
11～20年 (n= 179)		16	91	51	2	14	5
21年以上 (n= 958)		158	520	150	17	81	32



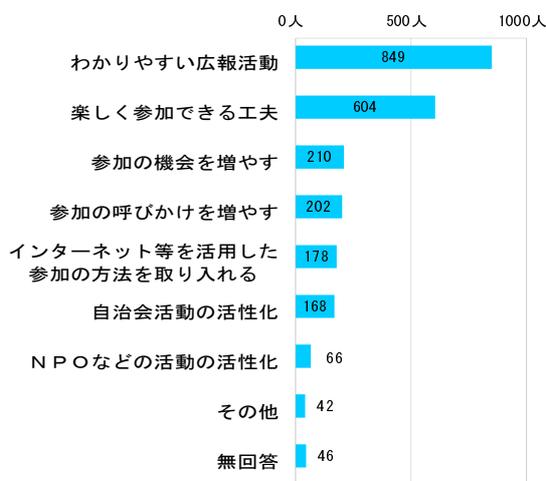
すべての地域で「非常に興味がある」「まあ興味がある」と回答した割合が6割を超えており、首里地区で最も高くなっている。年代別では20代で「まったく興味がない」「あまり興味がない」と回答した割合が最も高い。市政について若い世代に興味、関心を持ってもらう方策が今後重要と思われる。

質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

- 1. 参加の機会を増やす
- 2. わかりやすい広報活動
- 3. 楽しく参加できる工夫
- 4. 参加の呼びかけを増やす
- 5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる
- 6. 自治会活動の活性化
- 7. NPOなどの活動の活性化
- 8. その他（ ）

市民の市政参加を促すために、市がすべきことは「わかりやすい広報活動」や「楽しく参加できる工夫」。

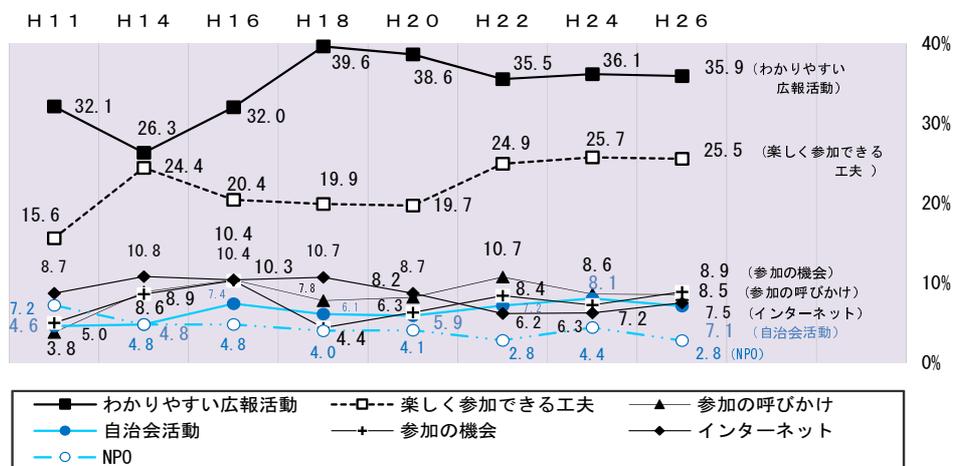
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	わかりやすい広報活動	849	(35.9%)
2位	楽しく参加できる工夫	604	(25.5%)
3位	参加の機会を増やす	210	(8.9%)
4位	参加の呼びかけを増やす	202	(8.5%)
5位	インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	178	(7.5%)
6位	自治会活動の活性化	168	(7.1%)
7位	NPOなどの活動の活性化	66	(2.8%)
-	その他	42	(1.8%)
-	無回答	46	(2.0%)
合計		2,365	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民の市政参加を促すために、市民が望むことの1位は「わかりやすい広報活動」の849人、2位は「楽しく参加できる工夫」の604人となっている。

経年変化グラフ（平成11年度～平成26年度）

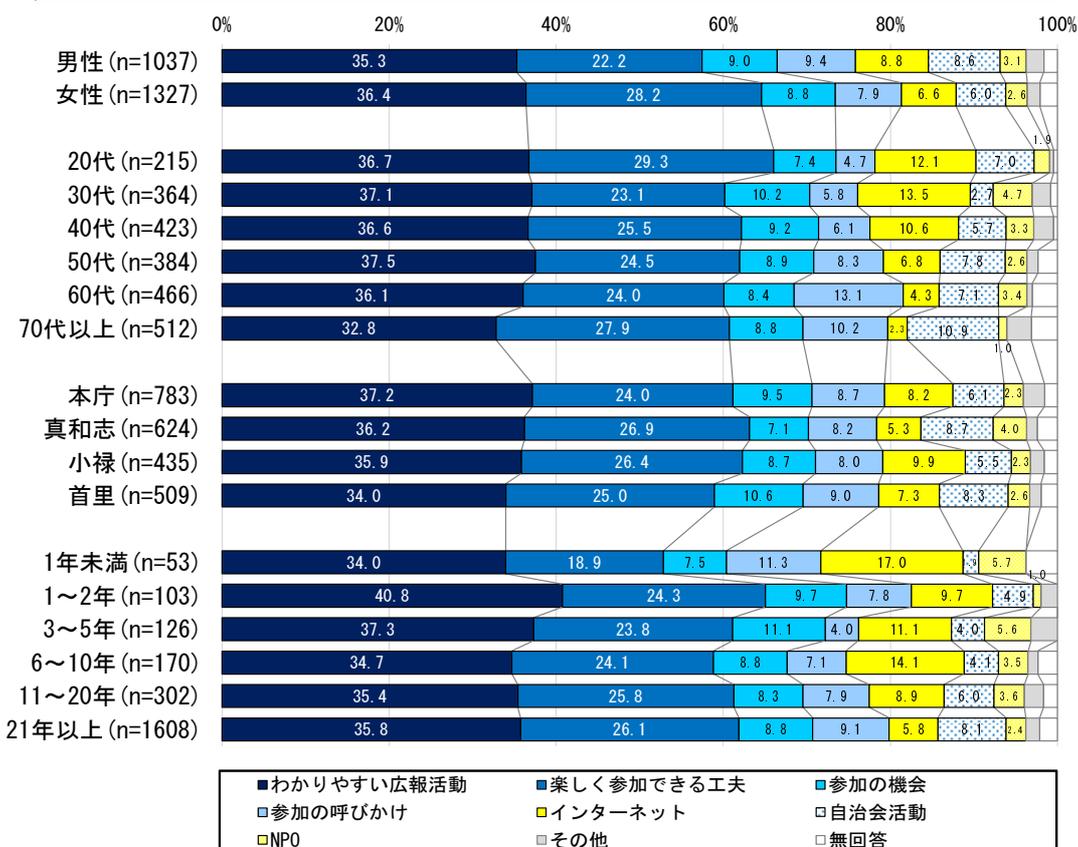


前回調査と比較すると、「参加の機会を増やす」「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が高くなっている。今後は楽しく参加できる工夫と合わせて、インターネットなどを活用し、市民の市政参加を促す事が重要と思われる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目									
	1位 わかりやすい 広報活動	2位 楽しく参加 できる工夫	3位 参加の 機会	4位 参加の 呼びかけ	5位 ネット	6位 自治会 活動	7位 NPO	- その他	- 無 回答	
男性 (n= 1,037)	366	230	93	97	91	89	32	22	17	
女性 (n= 1,327)	483	374	117	105	87	79	34	20	28	
20代 (n= 215)	79	63	16	10	26	15	4	1	1	
30代 (n= 364)	135	84	37	21	49	10	17	8	3	
40代 (n= 423)	155	108	39	26	45	24	14	10	2	
50代 (n= 384)	144	94	34	32	26	30	10	5	9	
60代 (n= 466)	168	112	39	61	20	33	16	3	14	
70代以上 (n= 512)	168	143	45	52	12	56	5	15	16	
本庁 (n= 783)	291	188	74	68	64	48	18	20	12	
真和志 (n= 624)	226	168	44	51	33	54	25	8	15	
小祿 (n= 435)	156	115	38	35	43	24	10	7	7	
首里 (n= 509)	173	127	54	46	37	42	13	7	10	
1年未満 (n= 53)	18	10	4	6	9	1	3	0	2	
1~2年 (n= 103)	42	25	10	8	10	5	1	2	0	
3~5年 (n= 126)	47	30	14	5	14	5	7	4	0	
6~10年 (n= 170)	59	41	15	12	24	7	6	2	4	
11~20年 (n= 302)	107	78	25	24	27	18	11	7	5	
21年以上 (n= 1,608)	575	420	142	147	94	131	38	27	34	



すべての属性で、「わかりやすい広報活動」が1位、「楽しく参加できる工夫」が2位となっているが、年代別で見ると20代~40代、20年以下すべての居住者で「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」が3位となっており、若い世代へ市政への参加を促すツールとしてインターネット等を活用することは有効だと考えられる。

選択肢「その他」の主な内容

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| ・特になし/わからない(11人) | 男性-40代-小禄地区・他 |
| ・市民の意見を聞く機会を設けてほしい(4人) | 男性-40代-首里地区・他 |
| ・市民向けサービスの企画や広報範囲を広げてほしい(3人) | 女性-30代-本庁地区・他 |
| ・市政が積極的に活動すべき(2人) | 男性-50代-本庁地区・他 |
| ・施設の周知、徹底及び対策の具現化 | 男性-30代-本庁地区 |
| ・今のままでよい | 男性-40代-本庁地区 |
| ・定住化を促す活動と、永住する人に対する積極的な勧誘 | 男性-40代-本庁地区 |
| ・外出するのが大変 | 女性-70代-本庁地区 |
| ・初等教育から行政が市政参加を促す(義務教育で市政参加の教育を行う) | 男性-20代-真和志地区 |
| ・できることの例示を行う | 男性-30代-真和志地区 |
| ・お年寄りの介護の充実をもっと良くしてほしい | 男性-50代-真和志地区 |
| ・市民が本当に必要な内容であれば、市民は必然と参加すると思う | 女性-40代-真和志地区 |
| ・投票率の底上げ | 男性-30代-小禄地区 |
| ・口頭だけではなく結果を出すべき | 男性-30代-小禄地区 |
| ・選挙活動の場所と時間厳守とスピーカーの音がうるさい | 男性-70代-小禄地区 |
| ・委員公募を増やして民間人を登用する | 女性-30代-首里地区 |
| ・政治について中立のためコメントを控えます | 女性-50代-首里地区 |
| ・市民生活に市の行政がどう直接かかわっているか? | 女性-60代-首里地区 |
| ・市民が多数集まるスーパーなどに広報のスペースを置いてはどうか? | |

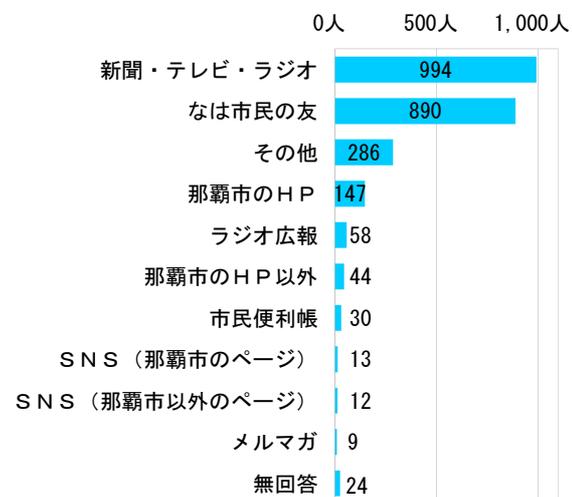
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 12. あなたは、那覇市の情報を何から得ていますか。主なものを次の中から 2 つまでお選びください。

1. 新聞やテレビ・ラジオ
2. インターネット(那覇市のホームページ)
3. インターネット(那覇市のホームページ以外)
4. フェイスブック等のソーシャルメディア(那覇市のページ)
5. フェイスブック等のソーシャルメディア(那覇市以外のページ)
6. 広報紙「広報なは市民の友」
7. ラジオ広報「那覇市民の時間」
8. 那覇市メールマガジン
9. 市民便利帳(タウンページ含む)
10. その他(市の配布するチラシやパンフレット等)

市民是那覇市の情報を主に「新聞やテレビ・ラジオ」、広報紙「なは市民の友」から得ている。

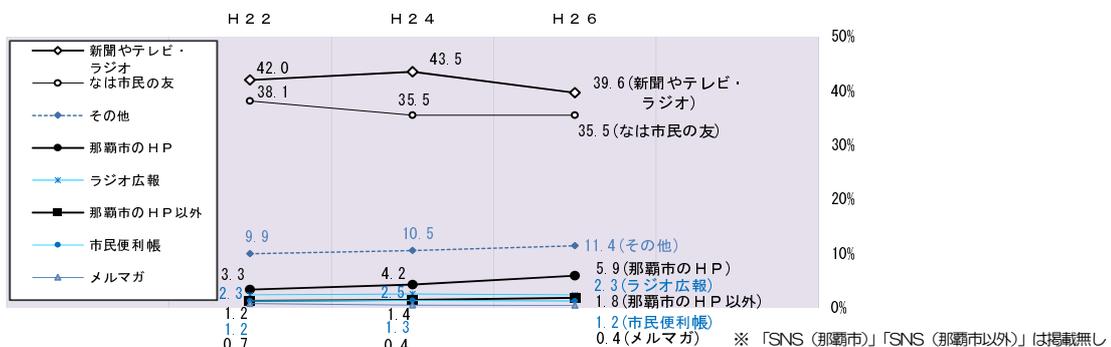
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	新聞やテレビ・ラジオ	994	(39.6%)
2位	広報紙「広報なは市民の友」	890	(35.5%)
3位	その他(市の配布するチラシやパンフレット等)	286	(11.4%)
4位	インターネット(那覇市のホームページ)	147	(5.9%)
5位	ラジオ広報「那覇市民の時間」	58	(2.3%)
6位	インターネット(那覇市のホームページ以外)	44	(1.8%)
7位	市民便利帳(タウンページ含む)	30	(1.2%)
8位	フェイスブック等のソーシャルメディア(那覇市のページ)	13	(0.5%)
9位	フェイスブック等のソーシャルメディア(那覇市以外のページ)	12	(0.5%)
10位	那覇市メールマガジン	9	(0.4%)
-	無回答	24	(0.9%)
合計		2,507	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民が那覇市の情報を得るツールとして、1位は「新聞やテレビ・ラジオ」、2位は「広報なは市民の友」となっている。また、「その他」の割合も高くなっており、各課からの定期的な情報提供も重要なツールとなっている。

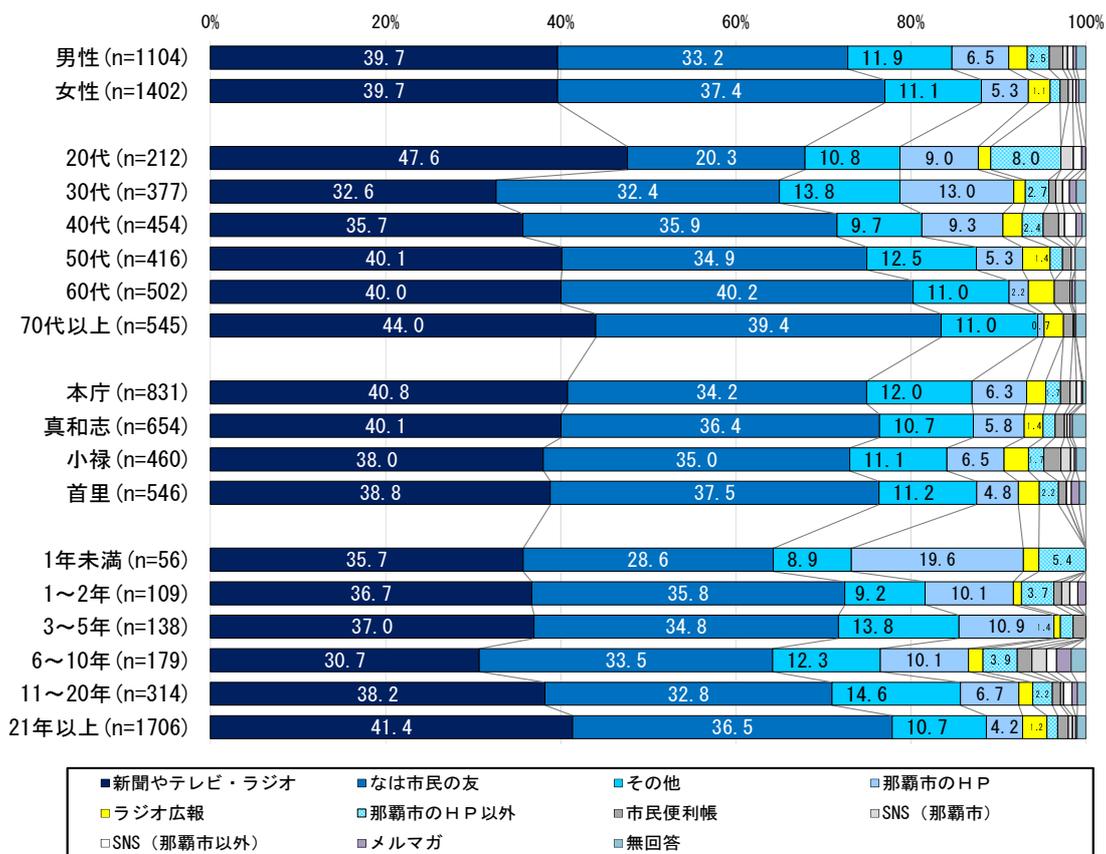
経年変化グラフ(平成22年度～平成26年度)



経年変化でみると、「新聞やテレビ・ラジオ」は前回調査より3.9ポイント減少し、インターネット(那覇市のホームページ、それ以外)での情報提供の割合が増加している。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目										
	1位 ラ新 ソ聞 オや テレ ビ・	2位 な は 市 民 の 友	3位 そ の 他	4位 那 覇 市 の H P	5位 ラ ジ オ 広 報	6位 以 外 那 覇 市 の H P	7位 市 民 便 利 帳	8位 (S N S 那 覇 市)	9位 (S N S 那 覇 市 以 外)	10位 メ ル マ ガ	- 無 回 答
男性 (n= 1,104)	438	366	131	72	23	28	17	6	7	4	12
女性 (n= 1,402)	556	524	155	75	35	16	13	7	5	5	11
20代 (n= 212)	101	43	23	19	3	17	0	3	2	1	0
30代 (n= 377)	123	122	52	49	5	10	3	3	3	3	4
40代 (n= 454)	162	163	44	42	10	11	8	3	6	3	2
50代 (n= 416)	167	145	52	22	13	6	4	2	0	0	5
60代 (n= 502)	201	202	55	11	15	0	9	1	0	2	6
70代以上 (n= 545)	240	215	60	4	12	0	6	1	1	0	6
本庁 (n= 831)	339	284	100	52	18	14	9	6	5	1	3
真和志 (n= 654)	262	238	70	38	14	9	7	2	2	2	10
小禄 (n= 460)	175	161	51	30	13	8	9	5	2	1	5
首里 (n= 546)	212	205	61	26	13	12	5	0	3	5	4
1年未満 (n= 56)	20	16	5	11	1	3	0	0	0	0	0
1~2年 (n= 109)	40	39	10	11	1	4	1	1	1	1	0
3~5年 (n= 138)	51	48	19	15	1	2	2	0	0	0	0
6~10年 (n= 179)	55	60	22	18	3	7	3	3	2	3	3
11~20年 (n= 314)	120	103	46	21	5	7	3	1	3	2	3
21年以上 (n= 1,706)	706	623	183	71	47	21	21	8	6	3	17



現在はわずかだが SNS から情報を得る割合は増加する可能性があることから、SNSを活用した広報の方策を取り入れていくことが有効と思われる。

(4) 議会への市民参加について

質問 13. あなたは、議会の情報をどこから得ていますか。次の中から2つまでお選びください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 新聞やテレビ・ラジオ | 2. 広報紙「市議会だより」 |
| 3. 議会の傍聴 | 4. ケーブルテレビ（OCN）（議会中継） |
| 5. 議会のホームページ（議会中継等） | 6. 議会主催の議会報告会 |
| 7. その他（ | ） |

市民は議会の情報を主に「新聞やテレビ・ラジオ」「広報紙 市議会だより」から得ている。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	新聞やテレビ・ラジオ	1,075	(48.1%)
2位	広報紙「市議会だより」	978	(43.8%)
3位	ケーブルテレビ（OCN）（議会中継）	35	(1.6%)
4位	議会のホームページ（議会中継等）	21	(0.9%)
5位	議会の傍聴	11	(0.5%)
6位	議会主催の議会報告会	10	(0.4%)
-	その他	66	(3.0%)
-	無回答	39	(1.7%)
合 計		2,235	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

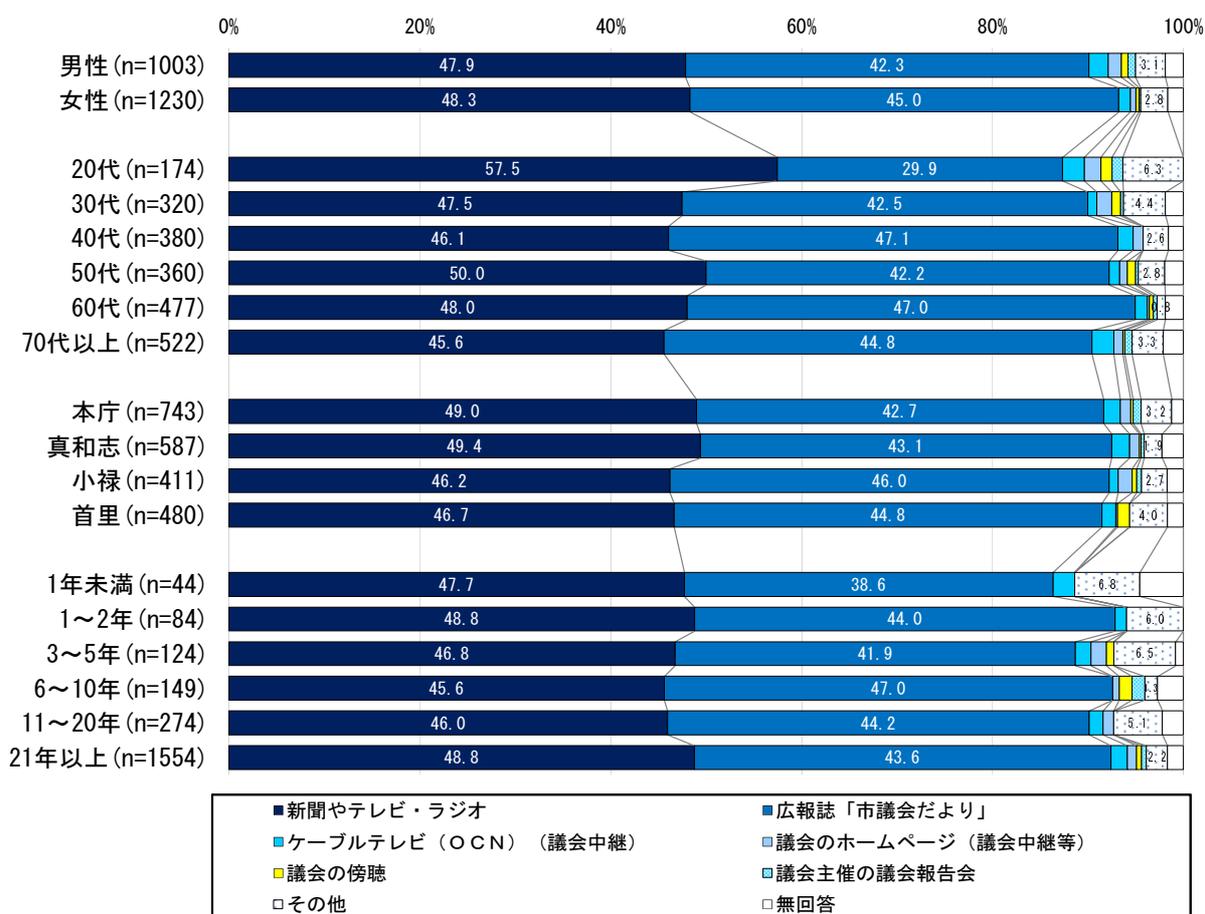
議会の情報を「新聞やテレビ・ラジオ」から得ていると回答した市民は 1,075 人、次いで「市議会だより」の 978 人となっている。

選択肢「その他」の主な内容

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・情報を得ていない(28人) ・関心がない/わからない(14人) ・友人や他人から聞く(4人) ・議員の報告、ニュース等で知る(5人) ・職場 ・市議会だよりが、分かりにくい、読む気を損なう、要改善 ・広報誌もたまたましか入りません ・ポストのチラシ ・市議のフェイスブック ・議員の情報誌 | <ul style="list-style-type: none"> 男性-30代-本庁地区・他 女性-40代-小祿地区・他 男性-70代-真和志地区・他 女性-40代-首里地区・他 女性-30代-本庁地区 女性-50代-本庁地区 女性-70代-本庁地区 男性-70代-小祿地区 女性-30代-首里地区 女性-70代-首里地区 |
|--|---|

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目							
	1位 ・新聞 ・ラジオ ・テレビ	2位 「広報誌 ・市議会 だより」	3位 ケーブル テレビ (OCN) (議会中継)	4位 議会の ホームページ (議会中継等)	5位 議会の 傍聴	6位 議会主催 の報告会	- その他	- 無回答
男性 (n= 1,003)	480	424	20	14	7	8	31	19
女性 (n= 1,230)	594	553	15	7	4	2	35	20
20代 (n= 174)	100	52	4	3	2	2	11	0
30代 (n= 320)	152	136	3	5	3	1	14	6
40代 (n= 380)	175	179	6	4	0	0	10	6
50代 (n= 360)	180	152	4	3	3	1	10	7
60代 (n= 477)	229	224	6	1	2	2	4	9
70代以上 (n= 522)	238	234	12	5	1	4	17	11
本庁 (n= 743)	364	317	13	8	2	6	24	9
真和志 (n= 587)	290	253	11	6	1	2	11	13
小禄 (n= 411)	190	189	4	6	2	2	11	7
首里 (n= 480)	224	215	7	1	6	0	19	8
1年未満 (n= 44)	21	17	1	0	0	0	3	2
1~2年 (n= 84)	41	37	1	0	0	0	5	0
3~5年 (n= 124)	58	52	2	2	1	0	8	1
6~10年 (n= 149)	68	70	0	1	2	2	2	4
11~20年 (n= 274)	126	121	4	3	0	0	14	6
21年以上 (n= 1,554)	758	678	27	15	8	8	34	26



すべての属性で、約9割の方が「新聞やテレビ・ラジオ」または「市議会だより」から議会の情報を得ている。年代別で見ると、20代は「新聞やテレビ・ラジオ」が顕著だが、30代以上は上記2項目の割合が同程度となっている。

主な情報取得手段として、議会中継や議会傍聴が、まだ浸透していないことが推察される。

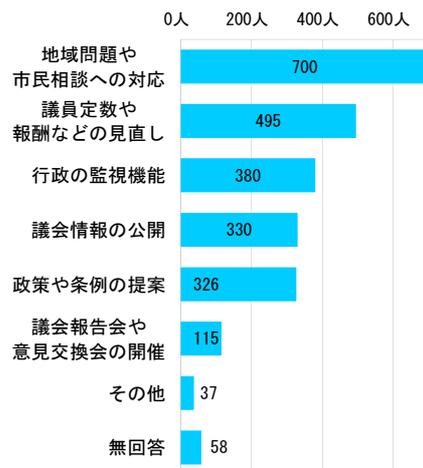
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 14. あなたは議会に何を求めますか。次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|------------------|-------------------|------------|
| 1. 行政の監視機能 | 2. 政策や条例の提案 | 3. 議会情報の公開 |
| 4. 地域問題や市民相談への対応 | 5. 議会報告会や意見交換会の開催 | |
| 6. 議員定数や報酬などの見直し | 7. その他 () | |

議会に求めることは「地域問題や市民相談への対応」、「議員定数や報酬などの見直し」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	地域問題や市民相談への対応	700	(28.7%)
2位	議員定数や報酬などの見直し	495	(20.3%)
3位	行政の監視機能	380	(15.6%)
4位	議会情報の公開	330	(13.5%)
5位	政策や条例の提案	326	(13.3%)
6位	議会報告会や意見交換会の開催	115	(4.7%)
-	その他	37	(1.5%)
-	無回答	58	(2.4%)
合 計		2,441	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

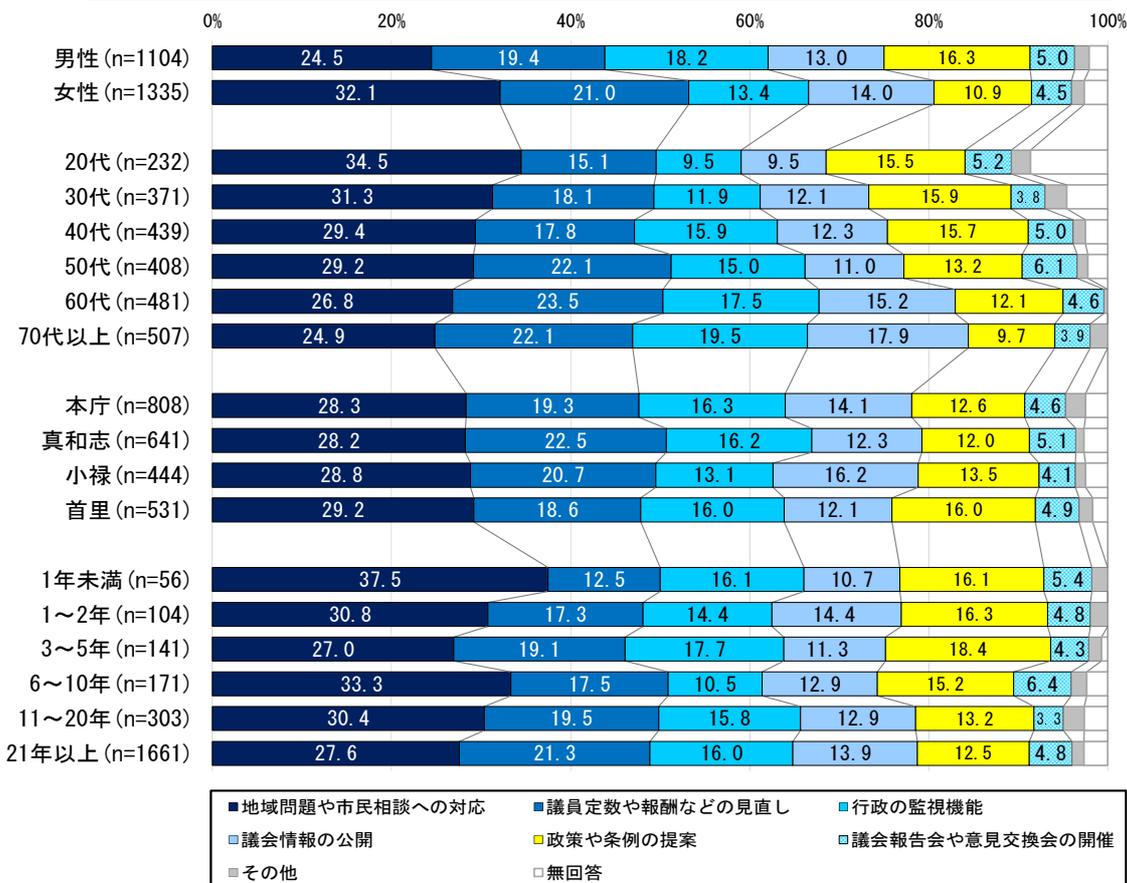
回答した市民が議会に求めることは「地域問題や市民相談への対応」が 700 人、次いで「議会定数や報酬などの見直し」が 495 人となっている。

選択肢「その他」の主な内容

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| ・特になし/わからない(15人) | 男性-30代-本庁地区・他 |
| ・県市民の教育(2人) | 男性-40代-本庁地区・他 |
| ・議会でどのようなことが議論されているかをもっと伝えてほしい(3人) | 女性-30代-本庁地区・他 |
| ・行政と連携してより良い那覇市を作る事(3人) | 男性-40代-本庁地区・他 |
| ・市議会は就職の場と、イデオロギーのたたきの場と化している | 男性-60代-本庁地区 |
| ・市民の耳になって! | 男性-70代-本庁地区 |
| ・反日取り締まり | 女性-20代-本庁地区 |
| ・求めても変わらない | 男性-20代-首里地区 |

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	1位 対市 心 域 相 談 へ の	2位 議 員 定 数 や 報 酬 な ど の 見 直 し	3位 行 政 の 監 視 機 能	4位 議 会 情 報 の 公 開	5位 提 案 や 条 例 の	6位 議 会 報 告 会 や 意 見 交 換 会 の 開 催	- そ の 他	- 無 回 答
男性 (n= 1,104)	270	214	201	143	180	55	18	23
女性 (n= 1,335)	429	281	179	187	145	60	19	35
20代 (n= 232)	80	35	22	22	36	12	5	20
30代 (n= 371)	116	67	44	45	59	14	9	17
40代 (n= 439)	129	78	70	54	69	22	6	11
50代 (n= 408)	119	90	61	45	54	25	5	9
60代 (n= 481)	129	113	84	73	58	22	2	0
70代以上 (n= 507)	126	112	99	91	49	20	10	0
本庁 (n= 808)	229	156	132	114	102	37	18	20
真和志 (n= 641)	181	144	104	79	77	33	6	17
小祿 (n= 444)	128	92	58	72	60	18	5	11
首里 (n= 531)	155	99	85	64	85	26	8	9
1年未満 (n= 56)	21	7	9	6	9	3	1	0
1～2年 (n= 104)	32	18	15	15	17	5	2	0
3～5年 (n= 141)	38	27	25	16	26	6	2	1
6～10年 (n= 171)	57	30	18	22	26	11	3	4
11～20年 (n= 303)	92	59	48	39	40	10	7	8
21年以上 (n= 1,661)	458	354	265	231	207	80	22	44



属性でみると、性別では女性、居住年数では1年未満で「地域問題や市民相談への対応」の割合が高くなっている。概ね年代に比例して「議員定数や報酬などの見直し」や「行政の監視機能」、「議会情報の公開」の割合が高くなる傾向がみられる。また、若い年代ほど「地域問題や市民相談への対応」「政策や条例の提案」の割合が高く、年代により求めているものに変化がみられる。

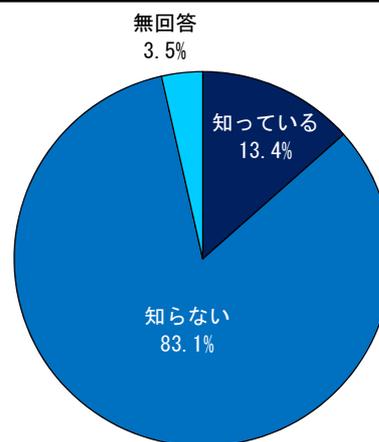
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 15. 那覇市議会では、市民と意見交換する議会報告会を開催しています。議会報告会のことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

議会報告会を「知っている」市民は 13.4%、「知らない」市民は 83.1%。

選択項目	回答数	(%)
知っている	191	(13.4%)
知らない	1,181	(83.1%)
無回答	50	(3.5%)
合計	1,422	(100%)

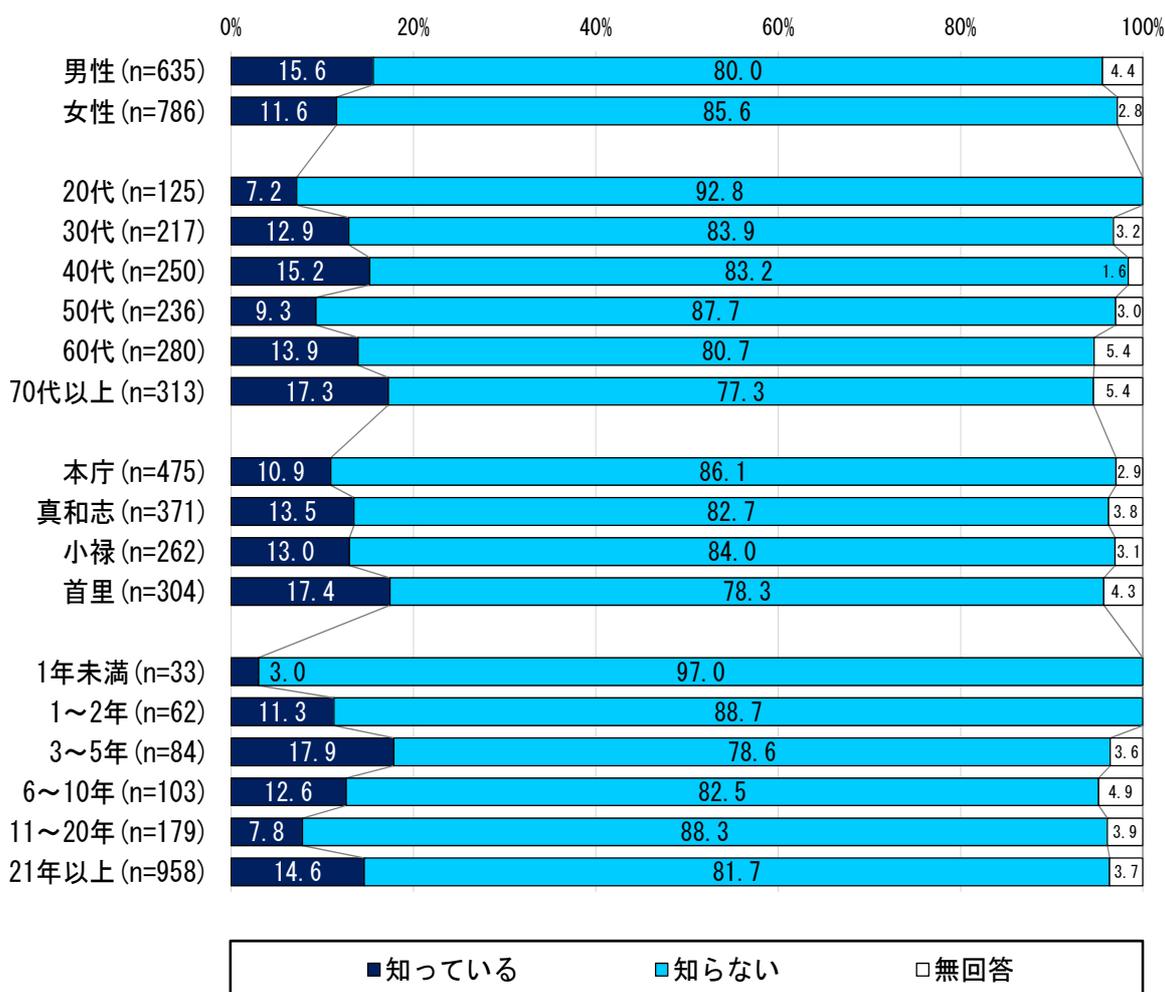


那覇市の議会報告会について、「知っている」と回答した市民が 13.4%、「知らない」と回答した市民が 83.1%。

8 割以上の市民が議会報告会を知らないという結果となった。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目		知っている	知らない	無回答
回答者属性 (n=合計)				
男性	(n= 635)	99	508	28
女性	(n= 786)	91	673	22
20代	(n= 125)	9	116	0
30代	(n= 217)	28	182	7
40代	(n= 250)	38	208	4
50代	(n= 236)	22	207	7
60代	(n= 280)	39	226	15
70代以上	(n= 313)	54	242	17
本庁	(n= 475)	52	409	14
真和志	(n= 371)	50	307	14
小禄	(n= 262)	34	220	8
首里	(n= 304)	53	238	13
1年未満	(n= 33)	1	32	0
1～2年	(n= 62)	7	55	0
3～5年	(n= 84)	15	66	3
6～10年	(n= 103)	13	85	5
11～20年	(n= 179)	14	158	7
21年以上	(n= 958)	140	783	35



年代別で見ると 70 代以上、居住地区別で見ると首里地区、居住年数で見ると 3~5 年、21 年以上で「知っている」と回答した割合が高くなっているが、依然 8 割以上の市民が議会報告会を知らないのが、幅広い世代に議会報告会を知ってもらうための取り組みが求められる。

また、地区別の周知度では、本庁地区が最も低いので、PR 方法を検討する必要があると思われる。

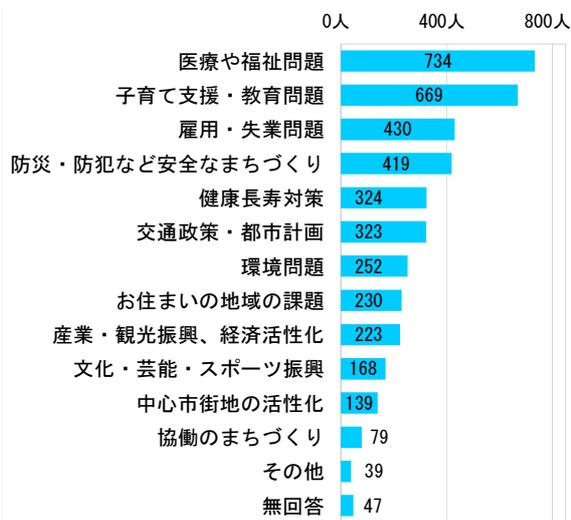
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 15-1. 議会報告会で取り上げてほしいテーマをお選びください。(複数回答可)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 子育て支援・教育問題 | 2. 健康長寿対策 |
| 3. 医療や福祉問題 | 4. 環境問題 |
| 5. お住まいの地域の課題 | 6. 産業・観光振興、経済活性化 |
| 7. 雇用・失業問題 | 8. 中心市街地の活性化 |
| 9. 交通政策・都市計画 | 10. 防災・防犯など安全なまちづくり |
| 11. 協働のまちづくり | 12. 文化・芸能・スポーツ振興 |
| 13. その他 () | |

議会報告会で取り上げてほしいテーマは「医療や福祉問題」、
「子育て支援・教育問題」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	医療や福祉問題	734	(18.0%)
2位	子育て支援・教育問題	669	(16.4%)
3位	雇用・失業問題	430	(10.5%)
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	419	(10.3%)
5位	健康長寿対策	324	(7.9%)
6位	交通政策・都市計画	323	(7.9%)
7位	環境問題	252	(6.2%)
8位	お住まいの地域の課題	230	(5.6%)
9位	産業・観光振興、経済活性化	223	(5.5%)
10位	文化・芸能・スポーツ振興	168	(4.1%)
11位	中心市街地の活性化	139	(3.4%)
12位	協働のまちづくり	79	(1.9%)
-	その他	39	(1.0%)
-	無回答	47	(1.1%)
合 計		4,076	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

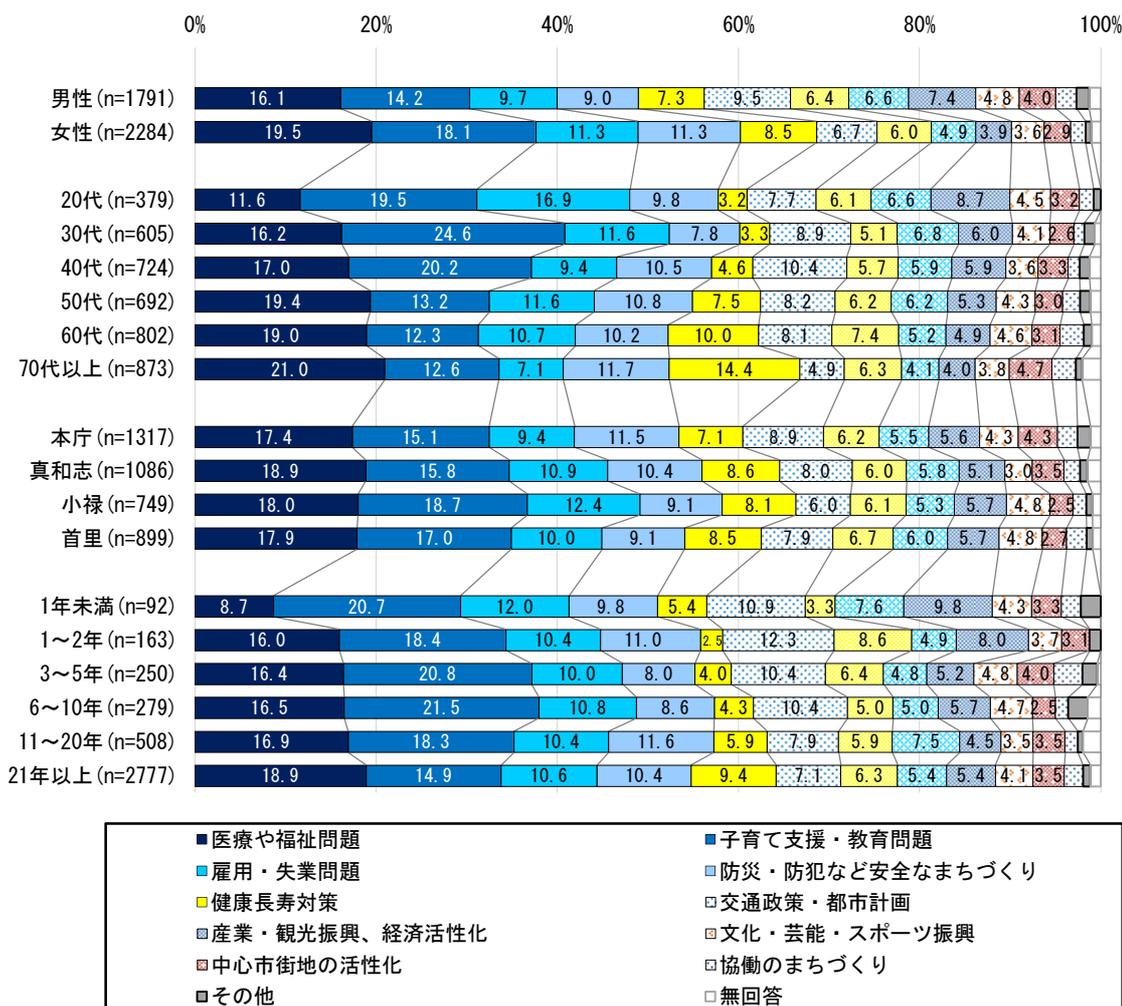
回答した市民が議会報告会で取り上げてほしいテーマは「医療や福祉問題」が 734 人、次いで「子育て支援・教育問題」が 669 人となっている。

選択肢「その他」の主な内容

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・特になし(5人) ・高齢者/障害者への支援(4人) ・街が汚い/美化・清掃活動を(2人) ・実感の湧く経済活性化、税金の使途(4人) ・交通規制の見直し及び強化(3人) ・雇用や賃金の改正(3人) ・中小企業の活性化、産業生産の拡充、減税(2人) ・多くの市民からもっと多様なテーマを取り上げて欲しい ・動物保護(イヌ・ネコ) ・不妊治療者への補助金などで少子化対策 | <ul style="list-style-type: none"> 女性-70代-首里地区・他 男性-60代-本庁地区・他 女性-20代-真和志地区・他 男性-40代-首里地区・他 男性-30代-本庁地区・他 男性-50代-小禄地区・他 男性-20代-真和志地区・他 男性-20代-真和志地区 男性-50代-真和志地区 女性-30代-首里地区 |
|---|--|

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目													
	1位 福医 社療 や 題	2位 教子 育育 問問 て支 援・	3位 失雇 用・ 題	4位 安防 全な まち づく り	5位 健康 長寿 対策	6位 都交 通政 策・ 都市 計画	7位 環 境問 題	8位 地お 域の ま 課 い 題の	9位 産業 ・観 光振 興 経済 活 性 化	10位 ス文 化・ ツ芸 振興 ・	11位 活中 心市 街地 の 活 性 化	12位 ま協 働の ま ち づく り	- そ の 他	- 無 回 答
男性 (n= 1,791)	288	255	173	161	130	171	115	118	133	86	72	41	25	23
女性 (n= 2,284)	446	414	257	258	193	152	137	112	90	82	67	38	14	24
20代 (n= 379)	44	74	64	37	12	29	23	25	33	17	12	6	3	0
30代 (n= 605)	98	149	70	47	20	54	31	41	36	25	16	7	7	4
40代 (n= 724)	123	146	68	76	33	75	41	43	43	26	24	9	8	9
50代 (n= 692)	134	91	80	75	52	57	43	43	37	30	21	13	8	8
60代 (n= 802)	152	99	86	82	80	65	59	42	39	37	25	21	7	8
70代以上 (n= 873)	183	110	62	102	126	43	55	36	35	33	41	23	6	18
本庁 (n= 1,317)	229	199	124	152	93	117	81	72	74	56	57	29	19	15
真和志 (n= 1,086)	205	172	118	113	93	87	65	63	55	33	38	19	9	16
小祿 (n= 749)	135	140	93	68	61	45	46	40	43	36	19	11	5	7
首里 (n= 899)	161	153	90	82	76	71	60	54	51	43	24	20	6	8
1年未満 (n= 92)	8	19	11	9	5	10	3	7	9	4	3	2	2	0
1~2年 (n= 163)	26	30	17	18	4	20	14	8	13	6	5	0	2	0
3~5年 (n= 250)	41	52	25	20	10	26	16	12	13	12	10	8	4	1
6~10年 (n= 279)	46	60	30	24	12	29	14	14	16	13	7	4	6	4
11~20年 (n= 508)	86	93	53	59	30	40	30	38	23	18	18	7	3	10
21年以上 (n= 2,777)	525	414	294	288	261	198	174	151	149	115	96	58	22	32



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

年代別にみると、20代～40代では「子育て支援・教育問題」が最も高い。50代以上では「医療や福祉問題」についての回答が最も高い割合となっている。

居住年数 10 年以下では「交通政策・都市計画」について取り上げてほしいとの回答が比較的高い割合となっている。

居住地区別でみると、本庁地区、真和志地区、首里地区では「医療や福祉問題」、小禄地区では「子育て支援・教育問題」を望む市民がそれぞれ最も多い。

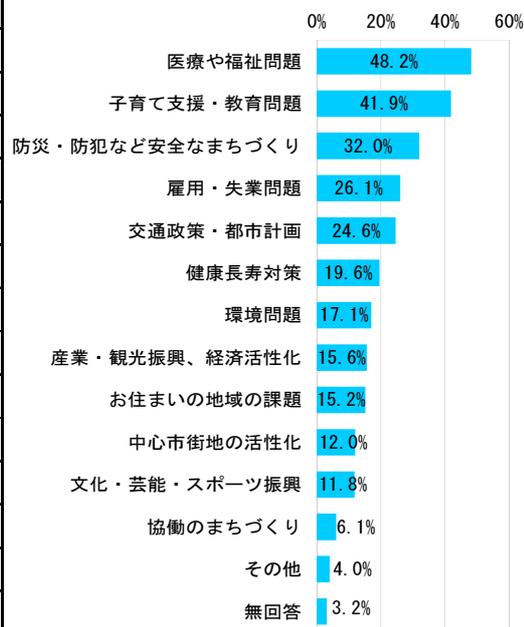
当該調査結果から、市民が緊急の課題として高い関心を示すのは、身近な問題であることがわかる。議会報告会を地区ごとに開催する際に、地区ごとのニーズに応じたテーマ設定を検討・対応することにより、質問 14 において市民が議会に対して求める「地域問題や市民相談への対応」へとつながるものと考えられる。

居住地区別分析で、テーマに対する意識の差がみられたため、居住地区別に回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

回答者のうち何%の市民が選択したかわかりやすくするため、表・グラフに記載する割合は各居住地区の回答者数に対する割合とした。また、居住地区が無回答であったサンプルは含んでいない。

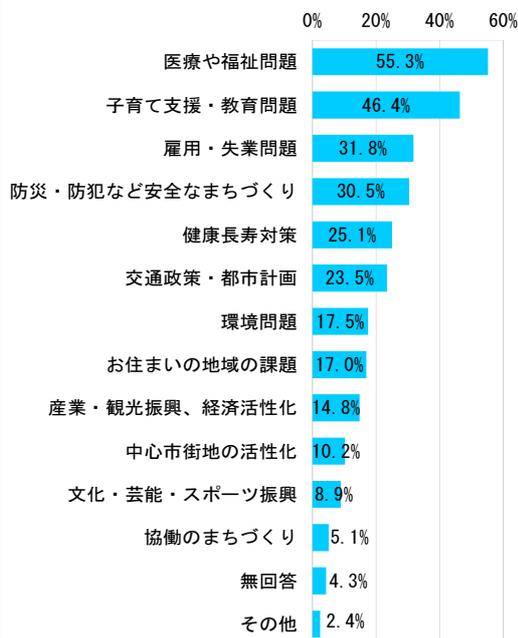
【本庁地区】

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	医療や福祉問題	229	(48.2%)
2位	子育て支援・教育問題	199	(41.9%)
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	152	(32.0%)
4位	雇用・失業問題	124	(26.1%)
5位	交通政策・都市計画	117	(24.6%)
6位	健康長寿対策	93	(19.6%)
7位	環境問題	81	(17.1%)
8位	産業・観光振興、経済活性化	74	(15.6%)
9位	お住まいの地域の課題	72	(15.2%)
10位	中心市街地の活性化	57	(12.0%)
11位	文化・芸能・スポーツ振興	56	(11.8%)
12位	協働のまちづくり	29	(6.1%)
-	その他	19	(4.0%)
-	無回答	15	(3.2%)
合 計		1,317	-
回 答 者 数		475	-



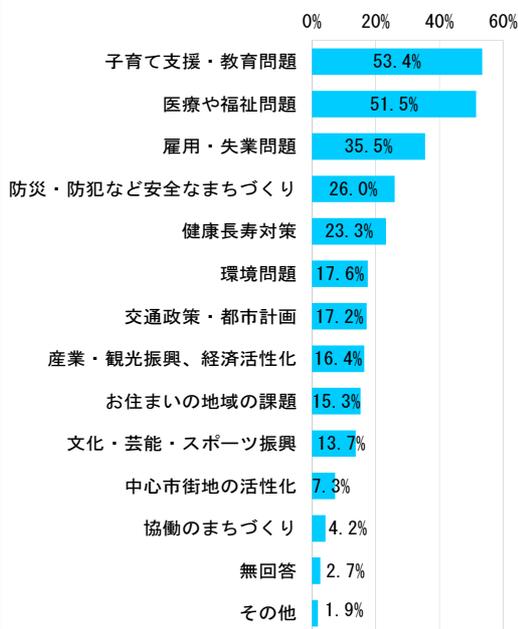
【真和志地区】

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	医療や福祉問題	205	(55.3%)
2位	子育て支援・教育問題	172	(46.4%)
3位	雇用・失業問題	118	(31.8%)
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	113	(30.5%)
5位	健康長寿対策	93	(25.1%)
6位	交通政策・都市計画	87	(23.5%)
7位	環境問題	65	(17.5%)
8位	お住まいの地域の課題	63	(17.0%)
9位	産業・観光振興、経済活性化	55	(14.8%)
10位	中心市街地の活性化	38	(10.2%)
11位	文化・芸能・スポーツ振興	33	(8.9%)
12位	協働のまちづくり	19	(5.1%)
-	無回答	16	(4.3%)
-	その他	9	(2.4%)
合 計		1,086	-
回 答 者 数		371	-



【小祿地区】

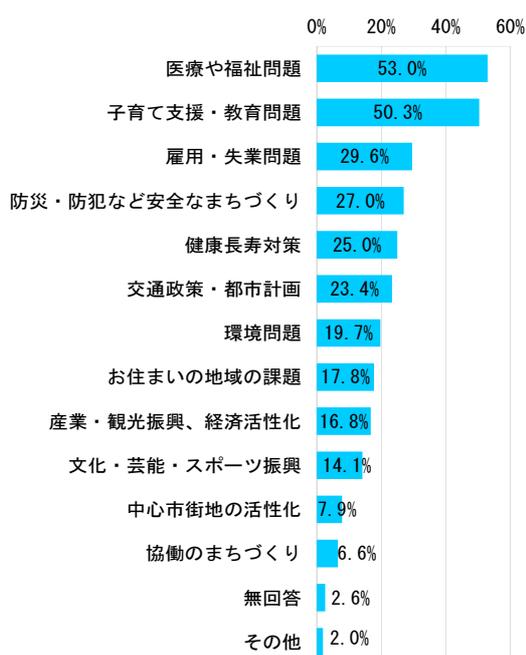
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	子育て支援・教育問題	140	(53.4%)
2位	医療や福祉問題	135	(51.5%)
3位	雇用・失業問題	93	(35.5%)
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	68	(26.0%)
5位	健康長寿対策	61	(23.3%)
6位	環境問題	46	(17.6%)
7位	交通政策・都市計画	45	(17.2%)
8位	産業・観光振興、経済活性化	43	(16.4%)
9位	お住まいの地域の課題	40	(15.3%)
10位	文化・芸能・スポーツ振興	36	(13.7%)
11位	中心市街地の活性化	19	(7.3%)
12位	協働のまちづくり	11	(4.2%)
-	無回答	7	(2.7%)
-	その他	5	(1.9%)
合 計		749	-
回 答 者 数		262	-



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【首里地区】

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	医療や福祉問題	161	(53.0%)
2位	子育て支援・教育問題	153	(50.3%)
3位	雇用・失業問題	90	(29.6%)
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	82	(27.0%)
5位	健康長寿対策	76	(25.0%)
6位	交通政策・都市計画	71	(23.4%)
7位	環境問題	60	(19.7%)
8位	お住まいの地域の課題	54	(17.8%)
9位	産業・観光振興、経済活性化	51	(16.8%)
10位	文化・芸能・スポーツ振興	43	(14.1%)
11位	中心市街地の活性化	24	(7.9%)
12位	協働のまちづくり	20	(6.6%)
-	無回答	8	(2.6%)
-	その他	6	(2.0%)
合 計		899	-
回 答 者 数		304	-



議会報告会で取り上げてほしいテーマを居住地区別に順位づけを行った。小禄地区では「子育て支援・教育問題」が1位となっており、本庁地区、真和志地区、首里地区では「医療や福祉問題」が1位となっている。すべての地区で「医療や福祉問題」「子育て支援・教育問題」が上位2つの選択肢で共通しているが、小禄地区、首里地区ではそれぞれ5割以上が望んでおり、特に関心が高いことが推察される。また、真和志地区では1位の「医療や福祉問題」を5割以上が望んでいる。本庁地区では3位に「防災・防犯など安全なまちづくり」、5位に「交通政策・都市計画」となっており、他の地区と比較すると上位にあることから、本庁地区の市民が重要な課題としてとらえていることがわかる。

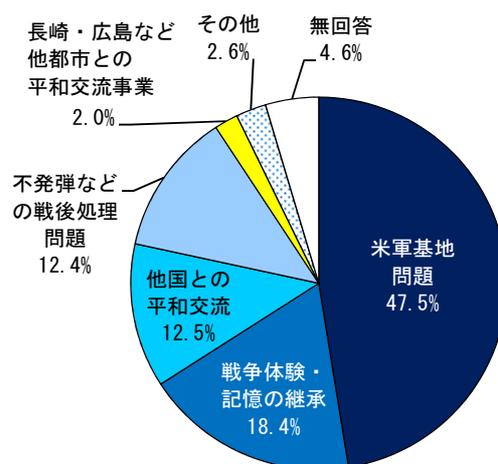
(5) 平和行政・男女共同参画について

質問 16. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを1つお選びください。

- 1. 米軍基地問題
- 2. 不発弾などの戦後処理問題
- 3. 戦争体験・記憶の継承
- 4. 長崎・広島など他都市との平和交流事業
- 5. 他国との平和交流
- 6. その他 ()

市民が、平和行政について重点的に取り組むべきだと思うのは「米軍基地問題」の47.5%。

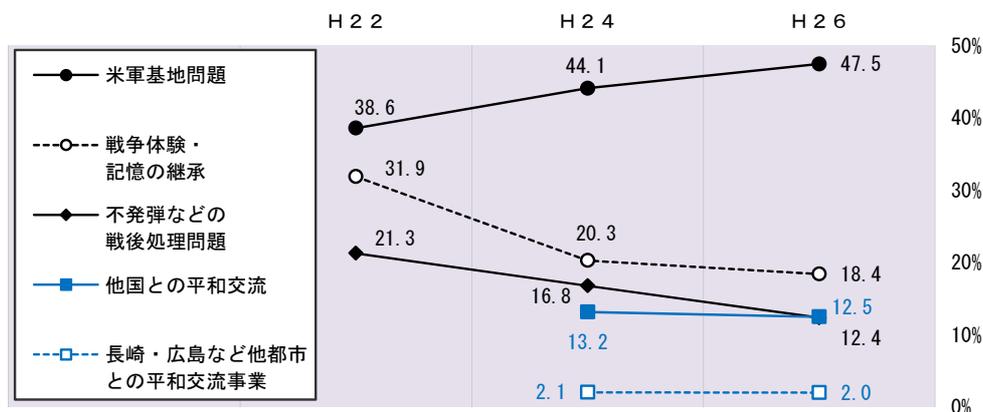
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	米軍基地問題	675	(47.5%)
2位	戦争体験・記憶の継承	262	(18.4%)
3位	他国との平和交流	178	(12.5%)
4位	不発弾などの戦後処理問題	176	(12.4%)
5位	長崎・広島など他都市との平和交流事業	29	(2.0%)
-	その他	37	(2.6%)
-	無回答	65	(4.6%)
合計		1,422	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

平和行政について重点的に取り組むべきと回答した割合が高かったのが「米軍基地問題」の47.5%、次いで「戦争体験・記憶の継承」の18.4%、「他国との平和交流」の12.5%となっている。

経年変化グラフ（平成22年度～平成26年度）

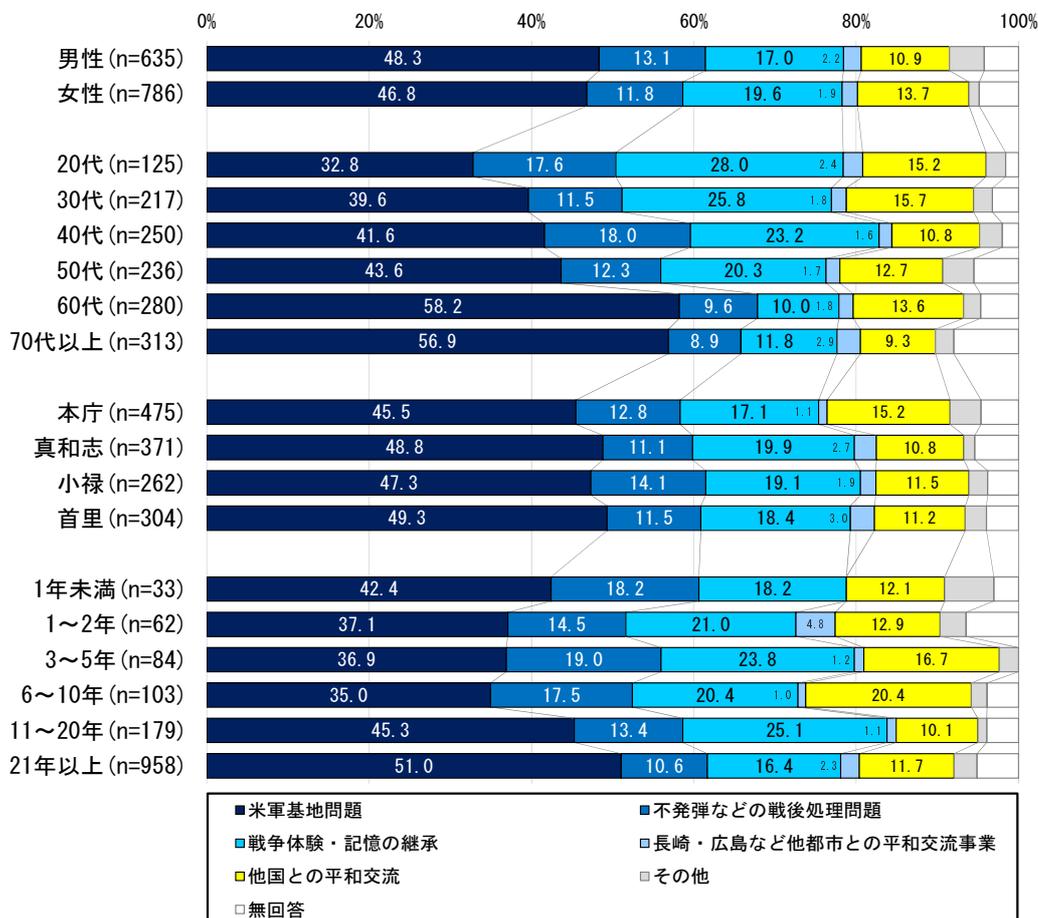


「戦争体験・記憶の継承」「不発弾処理」は前回調査と比較し、減少する結果となったが、「米軍基地問題」は前回調査と比較して3.4ポイント増加している。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	米軍基地問題	戦不戦 後発弾 処理な どの 問題の	記戦 争の 体験 ・ 継承	交他 流都 市と の平 和交 流事 業	長崎 ・ 広島 など	平和 国と の交 流の	その他	無回答
男性 (n= 635)	307	83	108	14	69	27	27	
女性 (n= 786)	368	93	154	15	108	10	38	
20代 (n= 125)	41	22	35	3	19	3	2	
30代 (n= 217)	86	25	56	4	34	5	7	
40代 (n= 250)	104	45	58	4	27	7	5	
50代 (n= 236)	103	29	48	4	30	9	13	
60代 (n= 280)	163	27	28	5	38	6	13	
70代以上 (n= 313)	178	28	37	9	29	7	25	
本庁 (n= 475)	216	61	81	5	72	18	22	
真和志 (n= 371)	181	41	74	10	40	5	20	
小祿 (n= 262)	124	37	50	5	30	6	10	
首里 (n= 304)	150	35	56	9	34	8	12	
1年未満 (n= 33)	14	6	6	0	4	2	1	
1～2年 (n= 62)	23	9	13	3	8	2	4	
3～5年 (n= 84)	31	16	20	1	14	2	0	
6～10年 (n= 103)	36	18	21	1	21	2	4	
11～20年 (n= 179)	81	24	45	2	18	2	7	
21年以上 (n= 958)	489	102	157	22	112	27	49	



すべての年代で「米軍基地問題」と回答した割合が最も高くなっている（特に60代～70代以上）。20代～50代は「米軍基地問題」に次いで「戦争体験・記憶の継承」と回答した割合が高くなっており。戦争体験者が少なくなっていく中で若い世代では記憶の継承を重視する傾向がみられる。

選択肢「その他」の主な内容

- | | |
|------------------------------|----------------|
| ・ 必要ない/特になし(8人) | 男性-50代-真和志地区・他 |
| ・ 平和の定義について(6人) | 女性-50代-小禄地区・他 |
| ・ 市で考える問題なのか?(2人) | 男性-40代-本庁地区・他 |
| ・ 国防意識の涵養/自衛隊の利用(3人) | 男性-40代-本庁地区・他 |
| ・ 那覇市主催の戦没者慰霊祭 | 男性-70代-本庁地区 |
| ・ 憲法九条の押し付けを止める | 女性-20代-本庁地区 |
| ・ 逆にテレビなどでやりすぎている感じがする | 女性-30代-本庁地区 |
| ・ 所有者不明土地の解決 | 男性-20代-真和志地区 |
| ・ 国との意思疎通 | 男性-30代-小禄地区 |
| ・ 普天間基地の返還を早くしてほしい、辺野古への移設賛成 | 女性-50代-小禄地区 |
| ・ 日米地位協定・米軍の必要性について | 男性-60代-首里地区 |
| ・ 小中高校生等の学習 | 男性-60代-首里地区 |

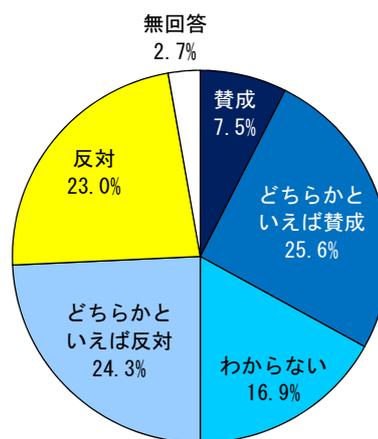
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 17. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはごどう思いますか。

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. わからない
4. どちらかといえば反対 5. 反対

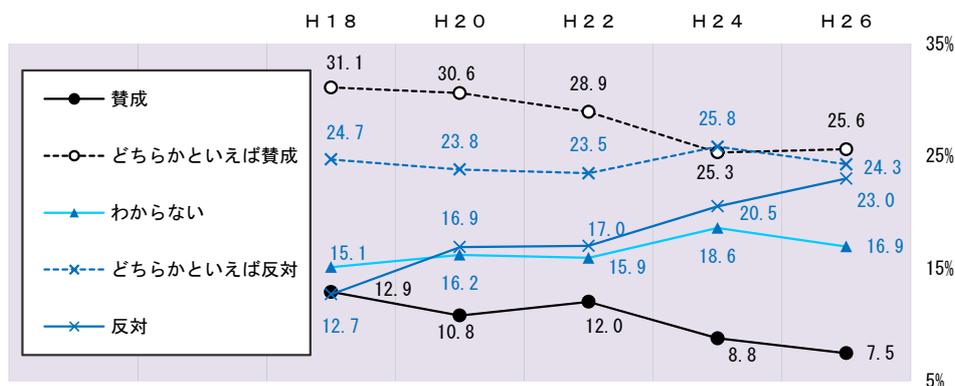
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えに賛成の市民は 33.1%、反対の市民は 47.3%。

選択項目	回答数	(%)
賛成	106	(7.5%)
どちらかといえば賛成	364	(25.6%)
わからない	241	(16.9%)
どちらかといえば反対	345	(24.3%)
反対	327	(23.0%)
無回答	39	(2.7%)
合計	1,422	(100%)



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると 33.1%、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせると 47.3% となり、「反対」と「どちらかといえば反対」という回答が上回る結果となった。

経年変化グラフ（平成 18 年度～平成 26 年度）

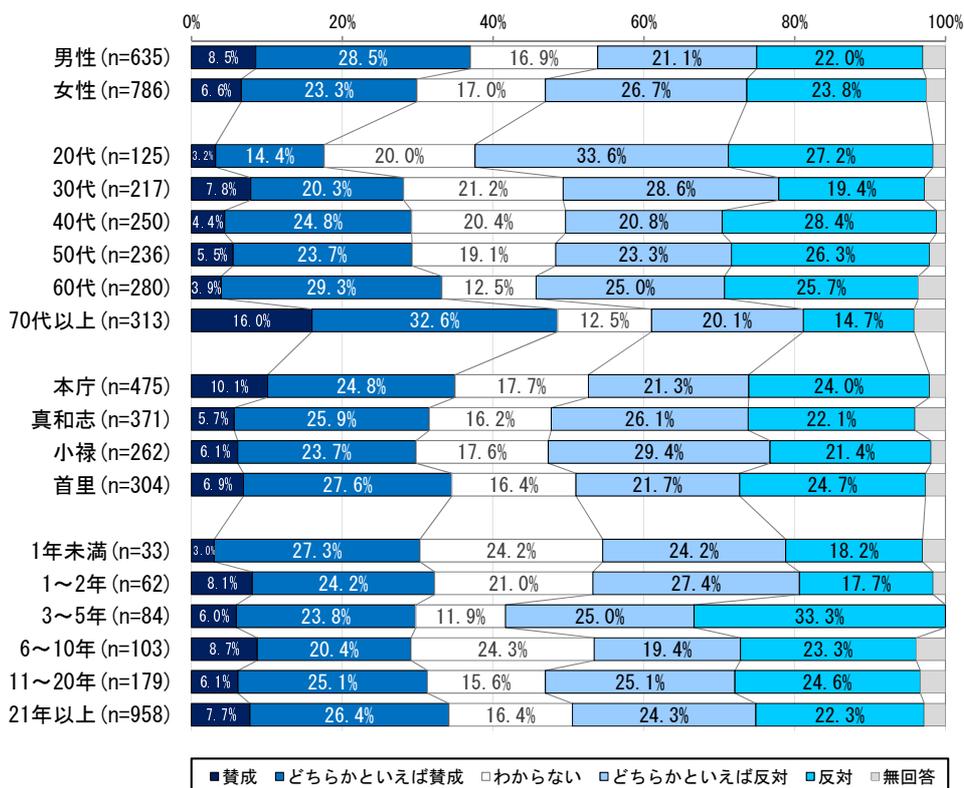


経年変化でみると、H18 から H22 までは、「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が「反対」「どちらかといえば反対」の割合を常に上回っていたが、H24 調査から逆転し、今回はそれから「反対」が 2.5 ポイント増、「賛成」が 1.3 ポイント減となっており、「反対」「どちらかといえば反対」が「賛成」「どちらかといえば賛成」をさらに上回る結果となった。

那覇市では、男女が共に等しく、あらゆる分野に参画できる社会の実現を目指して、第 3 次男女共同参画計画「なは男女平等推進プラン」を策定し、計画関連指標として、同質問に反対する市民意識の割合を高める目標を掲げている。今後も計画を市民に浸透させるための取り組みを行っていく必要があると考えられる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)	賛成	どちら ば賛成 かと	わ から ない	いど ちら ば反 対と	反対	無 回 答
男性 (n= 635)	54	181	107	134	140	19
女性 (n= 786)	52	183	134	210	187	20
20代 (n= 125)	4	18	25	42	34	2
30代 (n= 217)	17	44	46	62	42	6
40代 (n= 250)	11	62	51	52	71	3
50代 (n= 236)	13	56	45	55	62	5
60代 (n= 280)	11	82	35	70	72	10
70代以上 (n= 313)	50	102	39	63	46	13
本庁 (n= 475)	48	118	84	101	114	10
真和志 (n= 371)	21	96	60	97	82	15
小祿 (n= 262)	16	62	46	77	56	5
首里 (n= 304)	21	84	50	66	75	8
1年未満 (n= 33)	1	9	8	8	6	1
1～2年 (n= 62)	5	15	13	17	11	1
3～5年 (n= 84)	5	20	10	21	28	0
6～10年 (n= 103)	9	21	25	20	24	4
11～20年 (n= 179)	11	45	28	45	44	6
21年以上 (n= 958)	74	253	157	233	214	27



性別でみると、男性では「どちらかといえば賛成」が最も多く、女性は「どちらかといえば反対」が最も多い。

年代別では、40代と50代で「反対」が最も多く、60代以上では「どちらかといえば賛成」が最も多い。20代では「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると6割を超えており、若い世代の男女平等に対する意識が強まっているものと考えられる。

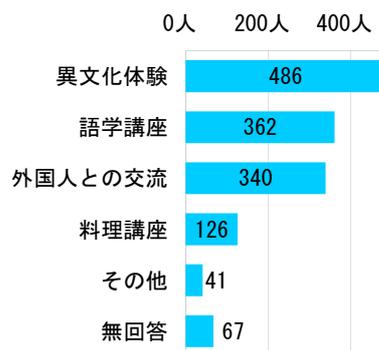
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 18. 国際理解・国際交流を推進するため、今後力を入れてほしい講座やイベントを、次の中から1つお選びください。

1. 異文化体験（各国の伝統文化等） 2. 語学講座 3. 外国人との交流 4. 料理講座
5. その他（ ）

市民の国際理解・国際交流を推進するため、市が力を入れるべきは「異文化体験」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	異文化体験（各国の伝統文化等）	486	(34.2%)
2位	語学講座	362	(25.4%)
3位	外国人との交流	340	(23.9%)
4位	料理講座	126	(8.9%)
5位	その他	41	(2.9%)
6位	無回答	67	(4.7%)
合 計		1,422	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

国際理解・国際交流を推進するため、市民が望む割合が高いのは、「異文化体験」が34.2%、「語学講座」が25.4%、「外国人との交流」が23.9%となっている。

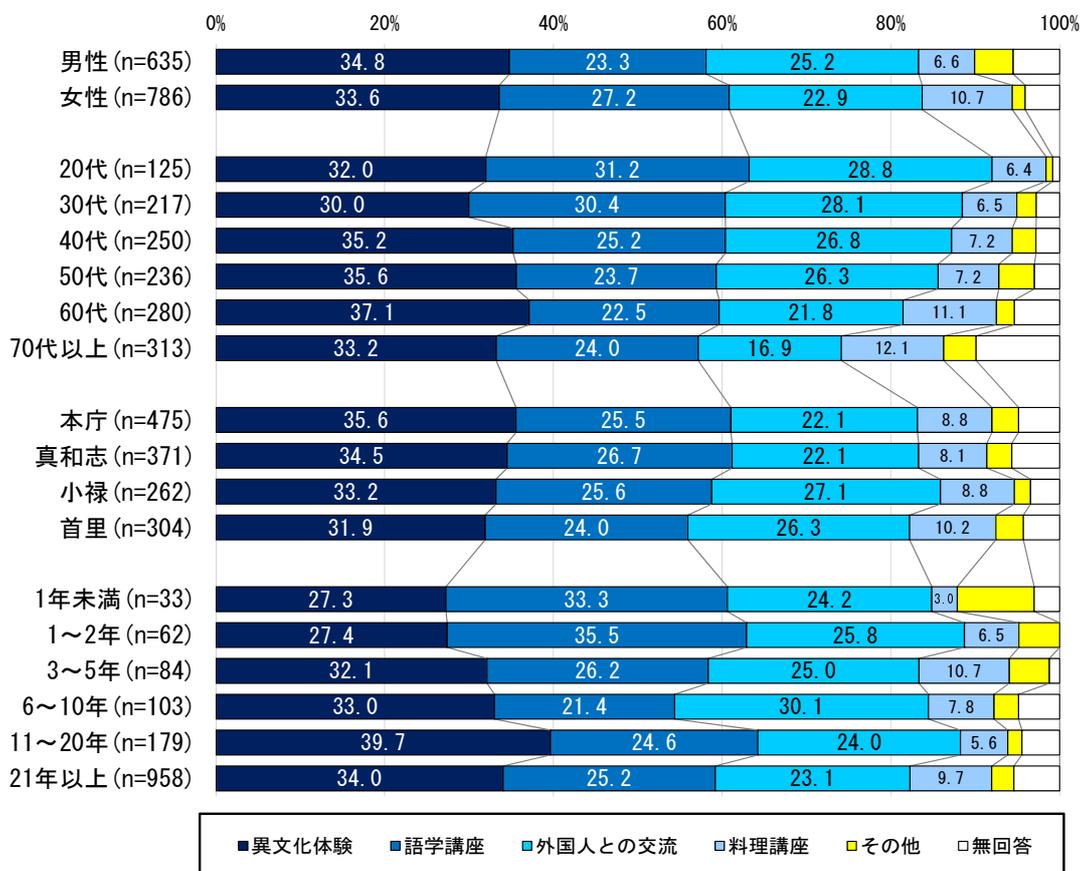
選択肢「その他」の主な内容

- ・特になし/わからない(17人)
- ・NPO/留学への支援(6人)
- ・観光客の誘致/アピール(2人)
- ・民間主導でやるべき/市の業務ではないので不要(2人)
- ・米軍の必要性に関する講座
- ・那覇市のアピールポイントは何か？
- ・反日の実態
- ・各国のビジネス講座。特にマイナーの各国の今のビジネスとか？
- ・情報発信。一般的な人へも情報発信して間口を広げるべき
- ・市として国際理解・交流をする時間の他にもすべき事がある

- 女性-70代-本庁地区・他
- 男性-30代-真和志地区・他
- 男性-40代-首里地区・他
- 男性-40代-小禄地区・他
- 男性-40代-本庁地区
- 男性-50代-本庁地区
- 女性-20代-本庁地区
- 男性-30代-真和志地区
- 男性-40代-首里地区
- 男性-60代-首里地区

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	-	-
	体異 験文 化	語 学 講 座	と外 の国 交人 流	料 理 講 座	そ の 他	無 回 答	
男性 (n= 635)		221	148	160	42	29	35
女性 (n= 786)		264	214	180	84	12	32
20代 (n= 125)		40	39	36	8	1	1
30代 (n= 217)		65	66	61	14	5	6
40代 (n= 250)		88	63	67	18	7	7
50代 (n= 236)		84	56	62	17	10	7
60代 (n= 280)		104	63	61	31	6	15
70代以上 (n= 313)		104	75	53	38	12	31
本庁 (n= 475)		169	121	105	42	15	23
真和志 (n= 371)		128	99	82	30	11	21
小祿 (n= 262)		87	67	71	23	5	9
首里 (n= 304)		97	73	80	31	10	13
1年未満 (n= 33)		9	11	8	1	3	1
1~2年 (n= 62)		17	22	16	4	3	0
3~5年 (n= 84)		27	22	21	9	4	1
6~10年 (n= 103)		34	22	31	8	3	5
11~20年 (n= 179)		71	44	43	10	3	8
21年以上 (n= 958)		326	241	221	93	25	52



年代別で見ると、20代、40代~70代以上では「異文化体験」と回答した割合が最も高く、30代では「語学講座」と回答した割合が最も高くなっている。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

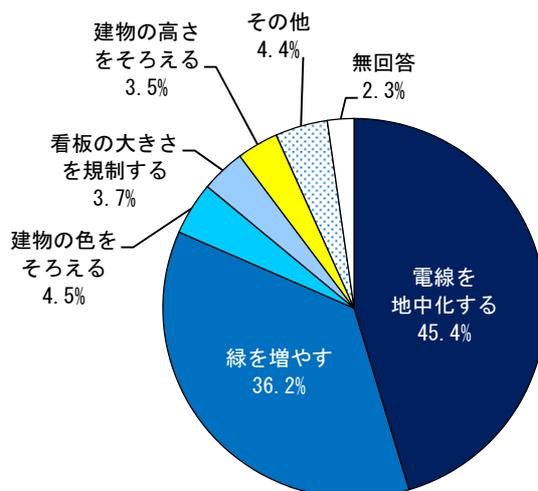
(6) 都市計画について

質問 19. 那覇市を景観的に美しいまちとするために、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から1つお選びください。

1. 建物の色をそろえる
2. 緑を増やす
3. 建物の高さをそろえる
4. 看板の大きさを規制する
5. 電線を地中化する
6. その他 ()

市民が那覇市の景観を美しくするために望む取り組みは「電線を地中化する」が45.4%、「緑を増やす」が36.2%。

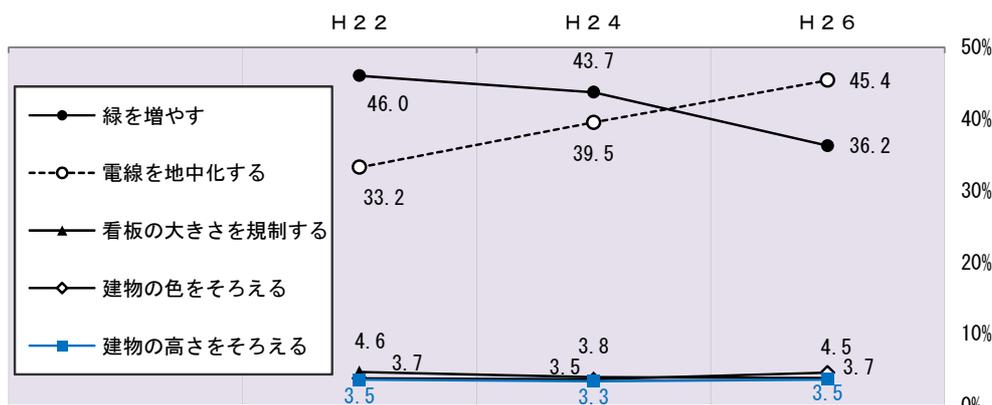
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	電線を地中化する	645	(45.4%)
2位	緑を増やす	515	(36.2%)
3位	建物の色をそろえる	64	(4.5%)
4位	看板の大きさを規制する	53	(3.7%)
5位	建物の高さをそろえる	50	(3.5%)
-	その他	63	(4.4%)
-	無回答	32	(2.3%)
合計		1,422	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

那覇市の景観を美しくするために望む取り組みで最も多かった回答が「電線を地中化する」の45.4%、次いで「緑を増やす」の36.2%となっている。

経年変化グラフ（平成22年度～平成26年度）

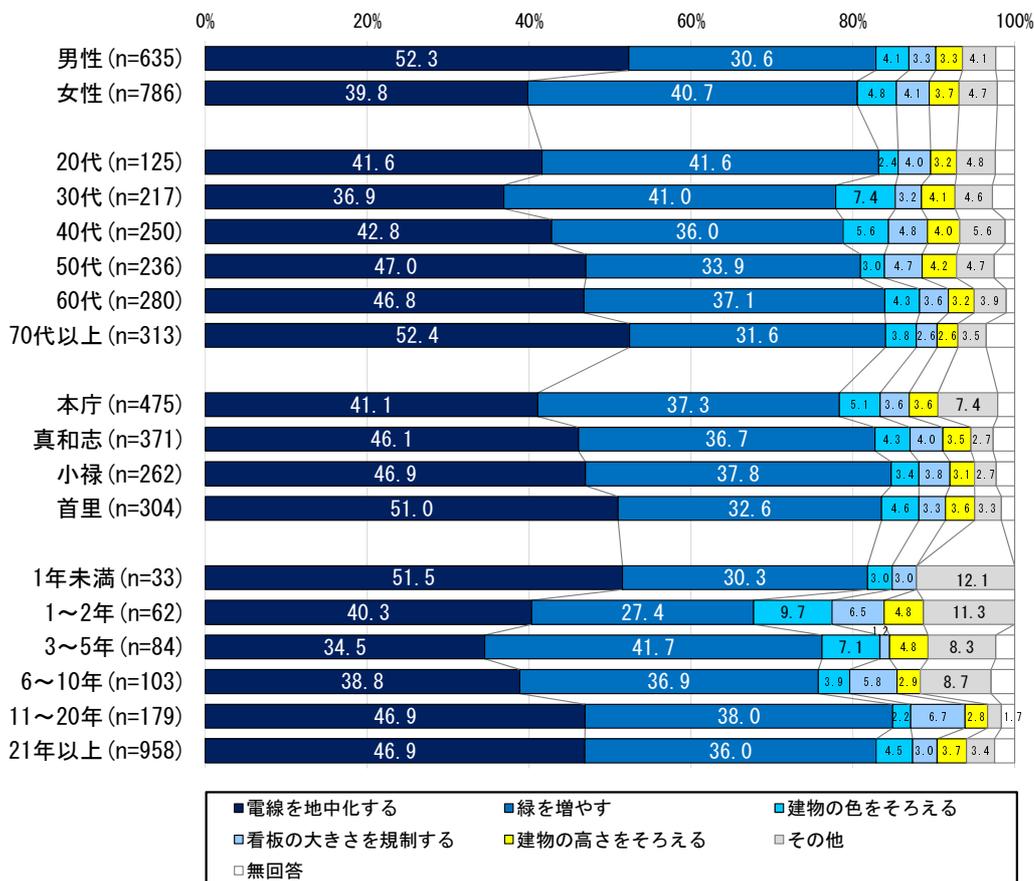


経年変化でみると、「緑を増やす」は前回調査より7.5ポイント減少し、「電線を地中化する」は前回調査より5.9ポイント増加している。

「電線を地中化する」が増加したのは、台風時の停電など沖縄ならではの事情も考えられるが、道路の電柱や電線がなくなると、安全性、快適性、景観性が向上し、地域の活性化にもつながることから、「人・自然・地球にやさしい環境共生都市」を目指す那覇市の施策が支持されていると思われる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	-	-
		地電 中線 化を する	緑 を増 やす	そ建 ろ物 えの 色を	規大 制き すさ るを	看 板の 高さ	を建 そ物 ろの え高 るさ	そ の 他
男性 (n= 635)		332	194	26	21	21	26	15
女性 (n= 786)		313	320	38	32	29	37	17
20代 (n= 125)		52	52	3	5	4	6	3
30代 (n= 217)		80	89	16	7	9	10	6
40代 (n= 250)		107	90	14	12	10	14	3
50代 (n= 236)		111	80	7	11	10	11	6
60代 (n= 280)		131	104	12	10	9	11	3
70代以上 (n= 313)		164	99	12	8	8	11	11
本庁 (n= 475)		195	177	24	17	17	35	10
真和志 (n= 371)		171	136	16	15	13	10	10
小祿 (n= 262)		123	99	9	10	8	7	6
首里 (n= 304)		155	99	14	10	11	10	5
1年未満 (n= 33)		17	10	1	1	0	4	0
1~2年 (n= 62)		25	17	6	4	3	7	0
3~5年 (n= 84)		29	35	6	1	4	7	2
6~10年 (n= 103)		40	38	4	6	3	9	3
11~20年 (n= 179)		84	68	4	12	5	3	3
21年以上 (n= 958)		449	345	43	29	35	33	24



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

性別でみると、男性は「電線を地中化する」、女性は「緑を増やす」が最も多くなっている。

年代別でみると、30代では「緑を増やす」が最も多く、次いで「電柱を地中化する」が多くなっている。40代以上では「電柱を地中化する」が最も多く、次いで「緑を増やす」が多くなっている。

居住地区では、すべての地区で「電柱を地中化する」が多く、安全性、快適性、景観性を重要視する市民が多い事がわかる。特に首里城や文化財の多い首里地区において要望が大きいのは納得できる結果である。居住地区の住宅事情や道路事情によるが、市民の要望を取り入れつつ、各地域にあった都市計画が必要と思われる。

選択肢「その他」の主な内容

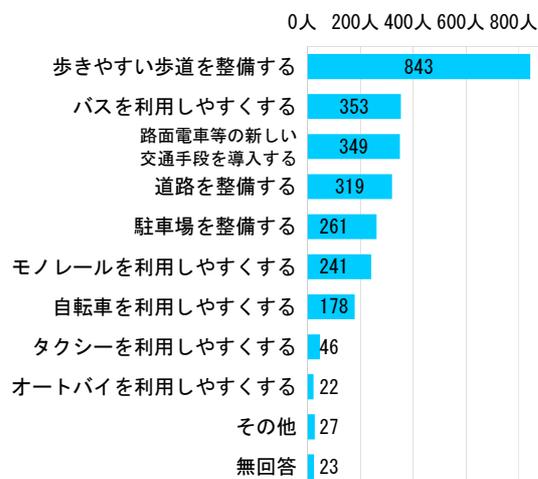
- | | |
|-------------------------------|----------------|
| ・街路樹や街の緑の美化/整備(2人) | 女性-30代-本庁地区・他 |
| ・沖縄らしさを出す(7人) | 男性-60代-真和志地区・他 |
| ・道路/歩道の整備(9人) | 男性-40代-本庁地区・他 |
| ・特に必要ない/わからない(2人) | 男性-30代-本庁地区・他 |
| ・犬/猫の糞の不始末に対する管理(2人) | 女性-20代-本庁地区・他 |
| ・建物の高さを制限する(2人) | 男性-70代-首里地区・他 |
| ・住み分け、商業地域と住宅地域(2人) | 男性-40代-真和志地区・他 |
| ・川や海辺の環境整備(2人) | 男性-20代-首里地区・他 |
| ・龍柱を作らない | 男性-40代-本庁地区 |
| ・選択肢1～5全て | 男性-40代-本庁地区 |
| ・歩きタバコや運転しながらの喫煙をなくしたほうが良いと思う | 男性-50代-真和志地区 |
| ・テーマを決める | 男性-50代-小禄地区 |

質問 20. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から2つまでお選び下さい。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 歩きやすい歩道を整備する | 2. 自転車を利用しやすくする |
| 3. バスを利用しやすくする | 4. モノレールを利用しやすくする |
| 5. タクシーを利用しやすくする | 6. オートバイを利用しやすくする |
| 7. 道路を整備する | 8. 路面電車等の新しい交通手段を導入する |
| 9. 駐車場を整備する | 10. その他 () |

誰でも快適に移動できるまちづくりのために最も重要だと思うものは、「歩きやすい歩道を整備する」こと。

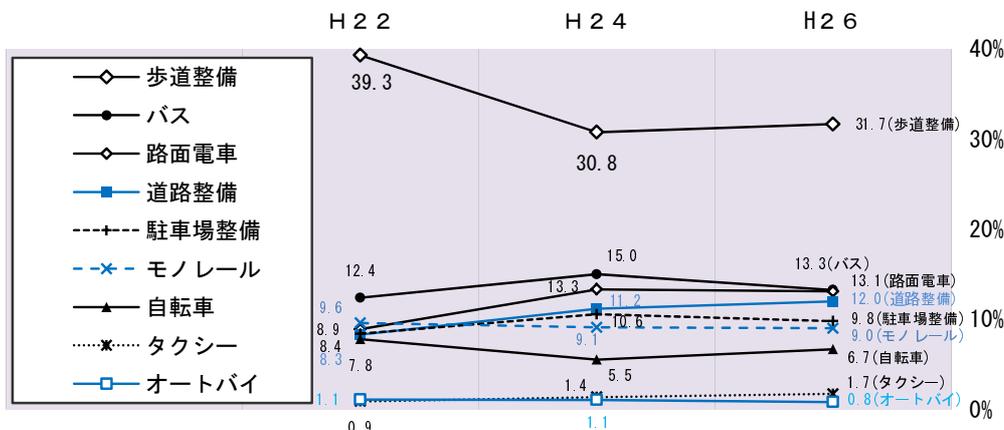
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	歩きやすい歩道を整備する	843	(31.7%)
2位	バスを利用しやすくする	353	(13.3%)
3位	路面電車等の新しい交通手段を導入する	349	(13.1%)
4位	道路を整備する	319	(12.0%)
5位	駐車場を整備する	261	(9.8%)
6位	モノレールを利用しやすくする	241	(9.0%)
7位	自転車を利用しやすくする	178	(6.7%)
8位	タクシーを利用しやすくする	46	(1.7%)
9位	オートバイを利用しやすくする	22	(0.8%)
-	その他	27	(1.0%)
-	無回答	23	(0.9%)
合 計		2,662	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民が快適に移動できるまちづくりのために重要だと感じているものは、1位が「歩きやすい歩道を整備する」、2位は「バスを利用しやすくする」となっている。

経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 26 年度）

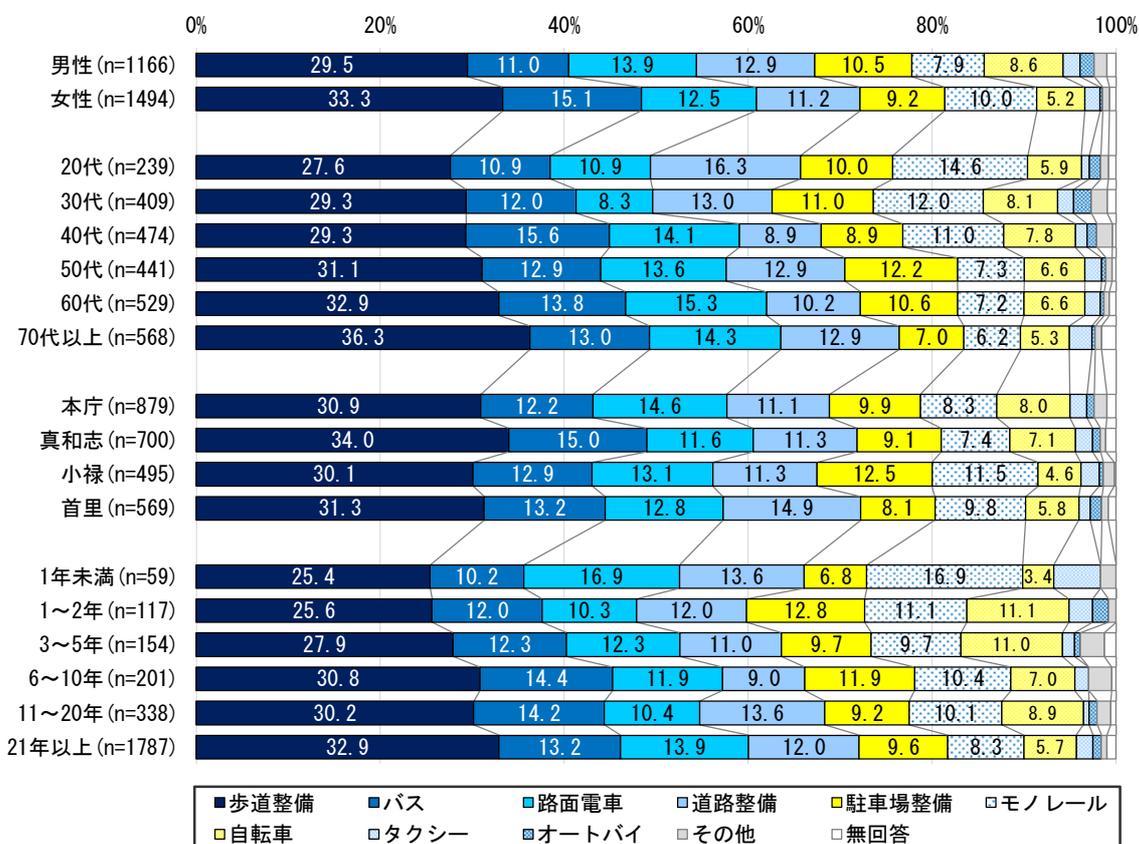


H22 調査以降「歩きやすい歩道を整備する」と回答する割合が最も高くなっている。「路面電車」「バス」は前回調査よりわずかに減少している。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	-	-
	歩道整備	バス	路面電車	道路整備	駐車場整備	モノレール	自転車	タクシー	オートバイ	その他	無回答
男性 (n= 1,166)	344	128	162	150	123	92	100	21	18	16	12
女性 (n= 1,494)	498	225	187	168	138	149	78	25	4	11	11
20代 (n= 239)	66	26	26	39	24	35	14	2	3	2	2
30代 (n= 409)	120	49	34	53	45	49	33	7	8	7	4
40代 (n= 474)	139	74	67	42	42	52	37	6	5	8	2
50代 (n= 441)	137	57	60	57	54	32	29	8	2	3	2
60代 (n= 529)	174	73	81	54	56	38	35	9	2	3	4
70代以上 (n= 568)	206	74	81	73	40	35	30	14	2	4	9
本庁 (n= 879)	272	107	128	98	87	73	70	16	7	12	9
真和志 (n= 700)	238	105	81	79	64	52	50	13	6	4	8
小祿 (n= 495)	149	64	65	56	62	57	23	10	2	6	1
首里 (n= 569)	178	75	73	85	46	56	33	7	7	4	5
1年未満 (n= 59)	15	6	10	8	4	10	2	3	0	1	0
1~2年 (n= 117)	30	14	12	14	15	13	13	3	2	1	0
3~5年 (n= 154)	43	19	19	17	15	15	17	2	1	4	2
6~10年 (n= 201)	62	29	24	18	24	21	14	3	0	5	1
11~20年 (n= 338)	102	48	35	46	31	34	30	2	3	5	2
21年以上 (n= 1,787)	588	236	249	215	172	148	102	32	16	11	18



※タクシー、オートバイ、その他は数値を表示していない

すべての年代において「歩道整備」の割合が最も高くなっている。「歩道整備」以外で割合が高いのは、40代で「バス」、20代、30代では「道路整備」、50代以上では「路面電車」となっている。すべての年代で「歩道整備」を重要としているが、次に重要としている項目は各世代の生活スタイルに深く関わっている事がうかがえる。

選択肢「その他」の主な内容

- | | |
|-------------------------------------|---------------|
| ・バス・モノレールの利便性（駅までの循環バス導入/位を下げる）（5人） | 男性-70代-本庁地区・他 |
| ・歩行者に優しい街作り（7人） | 女性-20代-本庁地区・他 |
| ・自転車利用者の交通マナーの向上（4人） | 女性-30代-本庁地区・他 |
| ・レンタカー利用に対する処置（2人） | 男性-40代-小祿地区・他 |
| ・中心地への進入規制、料金徴収する | 男性-40代-本庁地区 |
| ・タクシーを減らす | 男性-40代-本庁地区 |
| ・バリアフリー等の強化 | 男性-60代-本庁地区 |

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

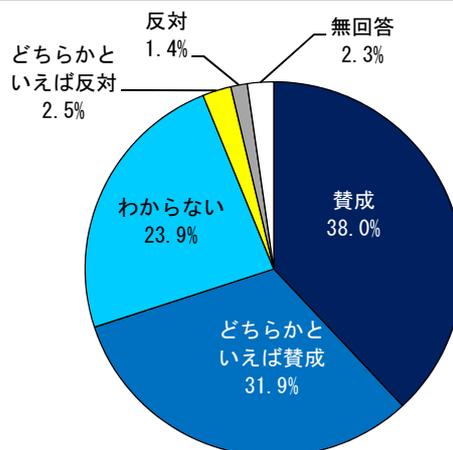
(7) 協働によるまちづくりについて

質問 21. 協働によるまちづくりを推進するため、学校を「地域コミュニティの拠点」とすることについて、あなたはどのように思いますか。

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. わからない
4. どちらかといえば反対 5. 反対

学校を「地域コミュニティの拠点」とすることに賛成の市民は 69.9%、反対の市民は 3.9%。

選択項目	回答数	(%)
賛成	541	(38.0%)
どちらかといえば賛成	454	(31.9%)
わからない	340	(23.9%)
どちらかといえば反対	35	(2.5%)
反対	20	(1.4%)
無回答	32	(2.3%)
合計	1,422	(100%)

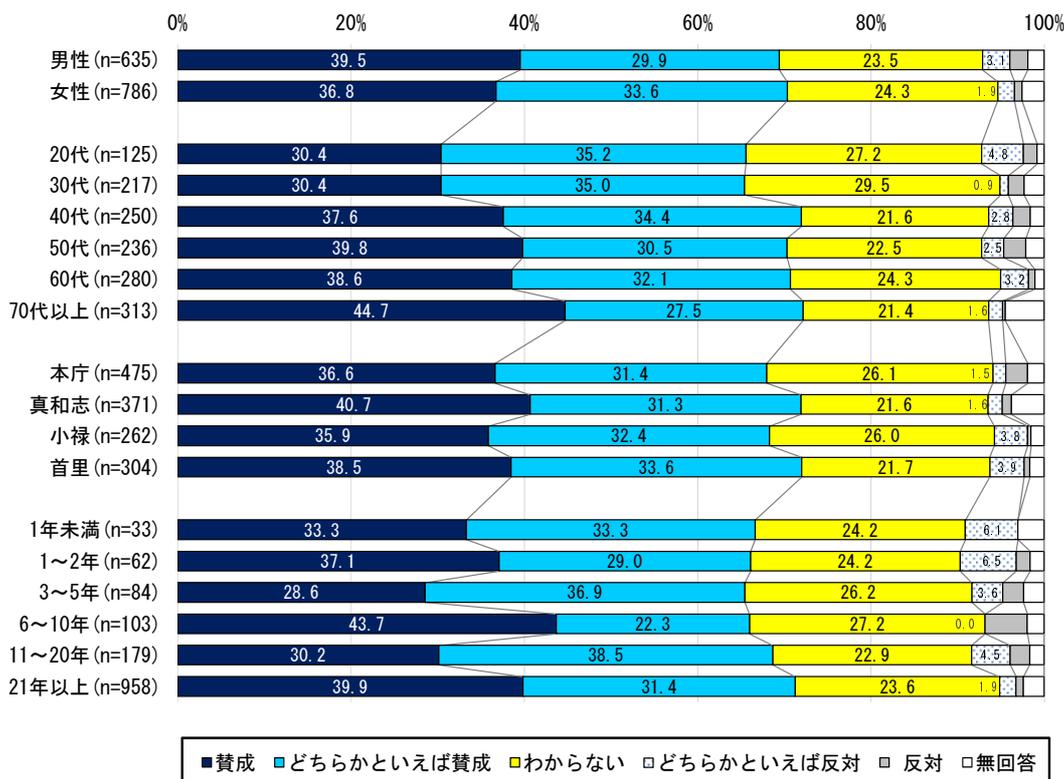


学校を「地域コミュニティの拠点」とすることに「賛成」「どちらかといえば賛成」の市民は 69.9%、「どちらかといえば反対」「反対」の市民は 3.9%となっている。

当該調査結果から H27 年度施政方針で掲げられた市長の考えは、大きな賛意を得ていることが確認された。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	賛成	いどちら えばら 賛か 成と	わ か ら な い	い ど ち ら か と 反 対	反 対	無 回 答
男性 (n= 635)		251	190	149	20	13	12
女性 (n= 786)		289	264	191	15	7	20
20代 (n= 125)		38	44	34	6	2	1
30代 (n= 217)		66	76	64	2	4	5
40代 (n= 250)		94	86	54	7	5	4
50代 (n= 236)		94	72	53	6	6	5
60代 (n= 280)		108	90	68	9	2	3
70代以上 (n= 313)		140	86	67	5	1	14
本庁 (n= 475)		174	149	124	7	12	9
真和志 (n= 371)		151	116	80	6	4	14
小禄 (n= 262)		94	85	68	10	1	4
首里 (n= 304)		117	102	66	12	2	5
1年未満 (n= 33)		11	11	8	2	0	1
1~2年 (n= 62)		23	18	15	4	1	1
3~5年 (n= 84)		24	31	22	3	2	2
6~10年 (n= 103)		45	23	28	0	5	2
11~20年 (n= 179)		54	69	41	8	4	3
21年以上 (n= 958)		382	301	226	18	8	23



すべての年代の約7割が「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答しており、特に40代以上で「賛成」の割合が高くなっている。

学校を地域コミュニティの拠点とすることは、協働によるまちづくりを推進するための足掛かりになると思われるが、「わからない」と回答している市民が約2割となっており、今後拠点化する必要性を説明し、評価してもらうことが必要である。

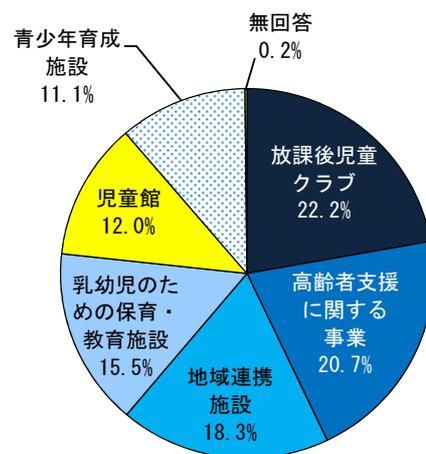
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問21-1. 「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。どのような施設が学校にあったら良いと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 地域連携施設
2. 乳幼児のための保育・教育施設（認定こども園）
3. 放課後児童クラブ（学童）
4. 児童館
5. 高齢者支援に関する事業（ふれあいデイサービス、介護予防教室、高齢者相談等）
6. 青少年育成施設

市民が学校にあったら良いと考える施設は、「放課後児童クラブ（学童）」、「高齢者支援に関する事業」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	放課後児童クラブ	516	(22.2%)
2位	高齢者支援に関する事業	481	(20.7%)
3位	地域連携施設	424	(18.3%)
4位	乳幼児のための保育・教育施設	361	(15.5%)
5位	児童館	279	(12.0%)
6位	青少年育成施設	258	(11.1%)
-	無回答	4	(0.2%)
合 計		2,323	(100%)

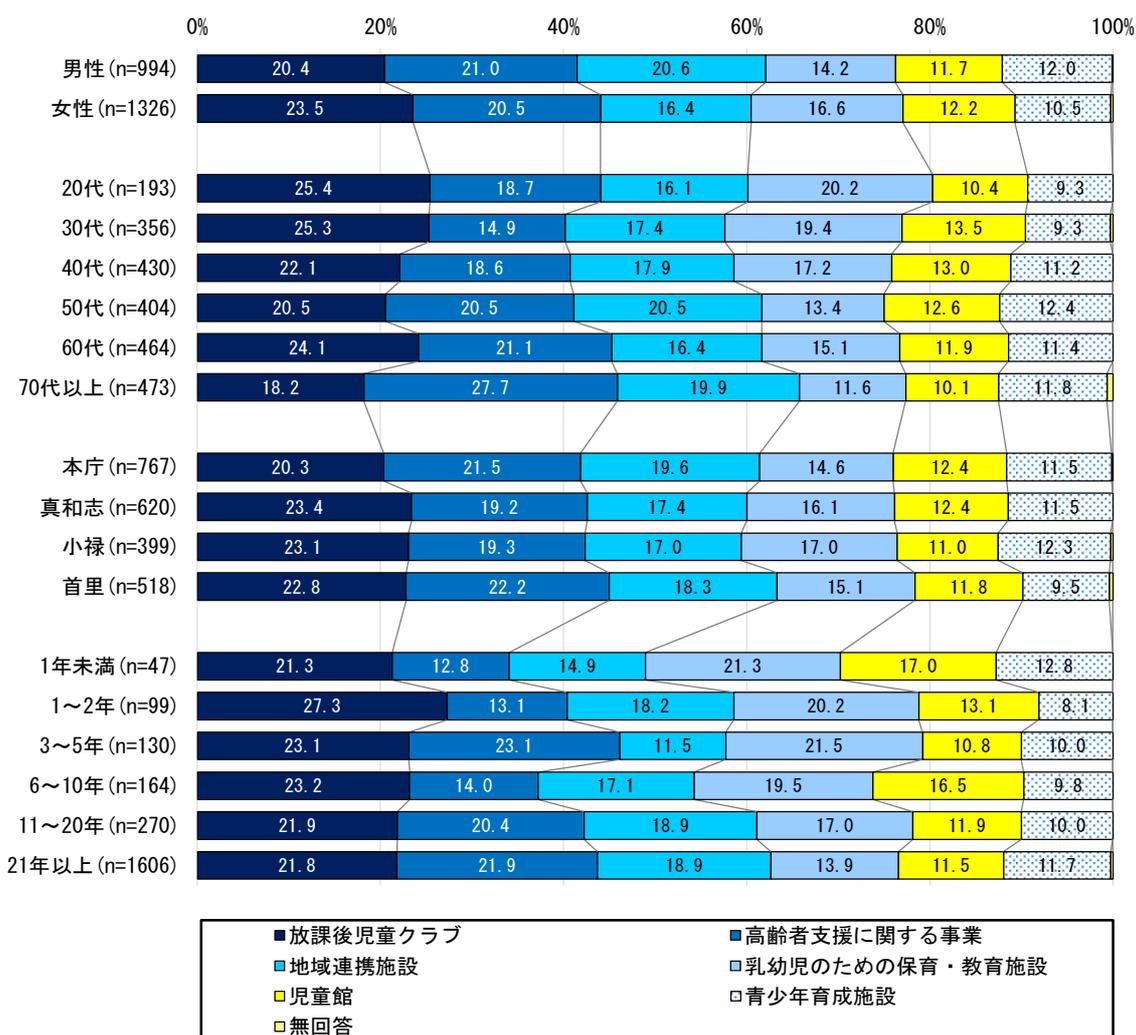


当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

学校にあったら良いと考える施設で最も多かった回答が、「放課後児童クラブ（学童）」の516人、次いで「高齢者支援に関する事業」の481人であった。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目							-
	1位 放課後児童 クラブ	2位 高 齢 者 支 援 に 関 する 事 業	3位 地 域 連 携 施 設	4位 保 育 幼 児 の た め の 施 設	5位 児 童 館	6位 青 少 年 育 成 施 設	無 回 答	
男性 (n= 994)	203	209	205	141	116	119	1	
女性 (n= 1,326)	312	272	218	220	162	139	3	
20代 (n= 193)	49	36	31	39	20	18	0	
30代 (n= 356)	90	53	62	69	48	33	1	
40代 (n= 430)	95	80	77	74	56	48	0	
50代 (n= 404)	83	83	83	54	51	50	0	
60代 (n= 464)	112	98	76	70	55	53	0	
70代以上 (n= 473)	86	131	94	55	48	56	3	
本庁 (n= 767)	156	165	150	112	95	88	1	
真和志 (n= 620)	145	119	108	100	77	71	0	
小祿 (n= 399)	92	77	68	68	44	49	1	
首里 (n= 518)	118	115	95	78	61	49	2	
1年未満 (n= 47)	10	6	7	10	8	6	0	
1~2年 (n= 99)	27	13	18	20	13	8	0	
3~5年 (n= 130)	30	30	15	28	14	13	0	
6~10年 (n= 164)	38	23	28	32	27	16	0	
11~20年 (n= 270)	59	55	51	46	32	27	0	
21年以上 (n= 1,606)	350	352	304	224	184	188	4	



年代別でみると、20代~60代で「放課後児童クラブ」の割合が最も高くなっている。70代以上では「高齢者支援に関する事業」の割合が最も高くなっている。50代では「放課後児童クラブ」「高齢者支援に関する事業」「地域連携施設」が同じ割合となっている。

20代、30代では「放課後児童クラブ」の次に「乳幼児のための保育・教育施設」の割合が高くなっており、小さな子供を持つ親の要望が伺える。

世代間で「地域コミュニティとしての拠点」に求めるものは異なるが、多くの世代が利用できるような仕組みを検討していく必要があると思われる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 22. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方に「協働大使」の委嘱を行っています。

「協働大使」にどのような役割を期待しますか？次の中から1つお選びください。

1. 協働大使としての活動の継続
2. 那覇市及び協働団体との連携強化
3. 協働大使の周知と広報活動の強化
4. 協働大使について知らないので分からない

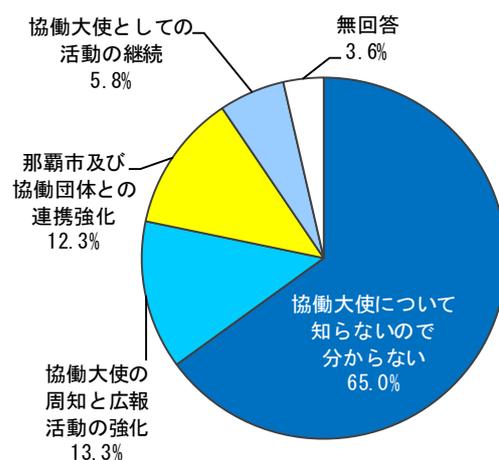
協働大使の存在・目的・役割を市民へ周知することが重要。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	協働大使について知らないので分からない	924	(65.0%)
2位	協働大使の周知と広報活動の強化	189	(13.3%)
3位	那覇市及び協働団体との連携強化	175	(12.3%)
4位	協働大使としての活動の継続	83	(5.8%)
-	無回答	51	(3.6%)
合 計		1,422	(100%)

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

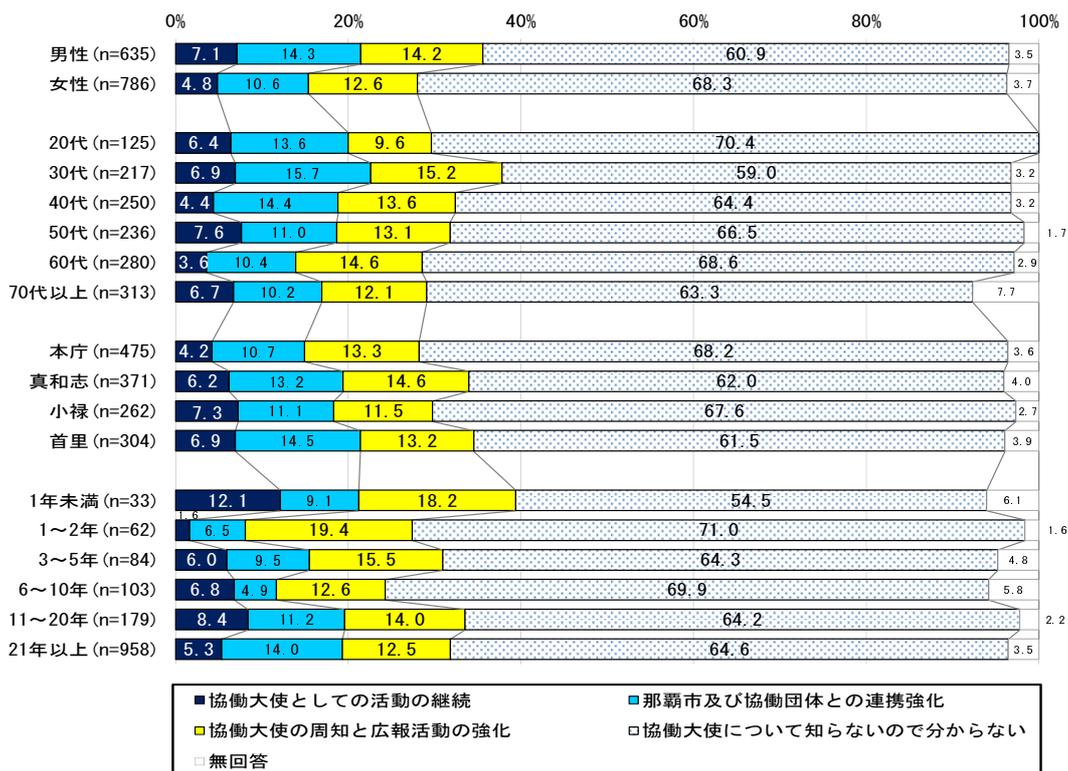
市民が協働大使に求める役割は、「協働大使の周知と広報活動の強化」が13.3%、次いで「那覇市及び協働団体との連携強化」が12.3%となっている。

「協働大使について知らないので分からない」市民が65.0%いることから、協働大使の存在、目的、役割を市民へ周知することが重要である。



属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	協働大使としての活動の継続	那覇市及び協働団体との連携強化	協働大使の周知と広報活動の強化	協働大使について知らないの分からない	無回答
男性 (n= 635)	45	91	90	387	22
女性 (n= 786)	38	83	99	537	29
20代 (n= 125)	8	17	12	88	0
30代 (n= 217)	15	34	33	128	7
40代 (n= 250)	11	36	34	161	8
50代 (n= 236)	18	26	31	157	4
60代 (n= 280)	10	29	41	192	8
70代以上 (n= 313)	21	32	38	198	24
本庁 (n= 475)	20	51	63	324	17
真和志 (n= 371)	23	49	54	230	15
小禄 (n= 262)	19	29	30	177	7
首里 (n= 304)	21	44	40	187	12
1年未満 (n= 33)	4	3	6	18	2
1~2年 (n= 62)	1	4	12	44	1
3~5年 (n= 84)	5	8	13	54	4
6~10年 (n= 103)	7	5	13	72	6
11~20年 (n= 179)	15	20	25	115	4
21年以上 (n= 958)	51	134	120	619	34

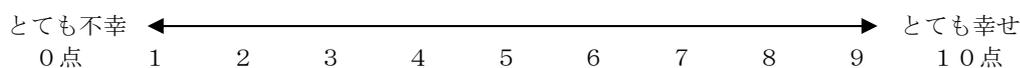


ほぼすべての年代で「協働大使について知らないの分からない」の割合が6割以上となっている。協働大使の存在、目的、役割、そして活動を市民へ積極的に周知するための広報活動が重要と思われる。

居住年数、年代とも若い市民が協働大使に比較的興味を持っていることから、移住者への広報活動や働き世代を取り込むための工夫（企業等への積極的な協力依頼）も必要ではないかと考える。

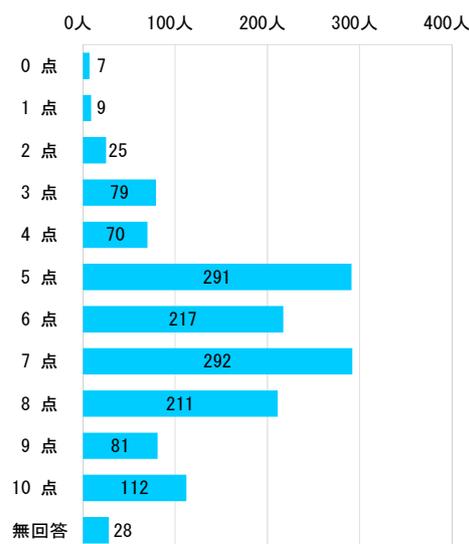
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 23. 那覇市は「いい暮らしより 楽しい暮らしを」を提唱していますが、現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。次の中から1つだけ点数を選んでください。



那覇市民の平均幸せ点数は、10点満点中6.39点。

選択項目	回答者数	各点数計	有意回答数	平均点
0点	7人	0点	1,394人	6.39点
1点	9人	9点		
2点	25人	50点		
3点	79人	237点		
4点	70人	280点		
5点	291人	1,455点		
6点	217人	1,302点		
7点	292人	2,044点		
8点	211人	1,688点		
9点	81人	729点		
10点	112人	1,120点		
無回答	28人	—		
計	1,422人	8,914点		



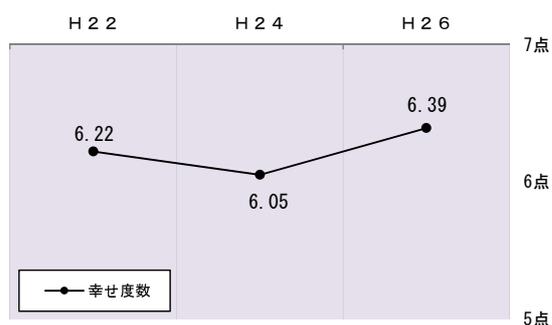
当該質問による平均点は、次の式により算出した。

$$\text{平均点} = \frac{\text{各点数計の合計}}{\text{有意回答数の合計}} = \frac{8,914 \text{ (点)}}{1,394 \text{ (人)}} = 6.39 \text{ 点}$$

内閣府が行った平成23年度の国民生活選好度調査における全国平均値6.41と比較すると、市民の平均幸せ度は0.02ポイント低い結果となったが、今回調査では、前回調査時の平均点6.05点から0.34ポイント高い6.39点となった。

今回の回答では「7点」をつけた292人が最も多く、次いで「5点」をつけた291人、「6点」をつけた217人、「8点」をつけた211人となっている。

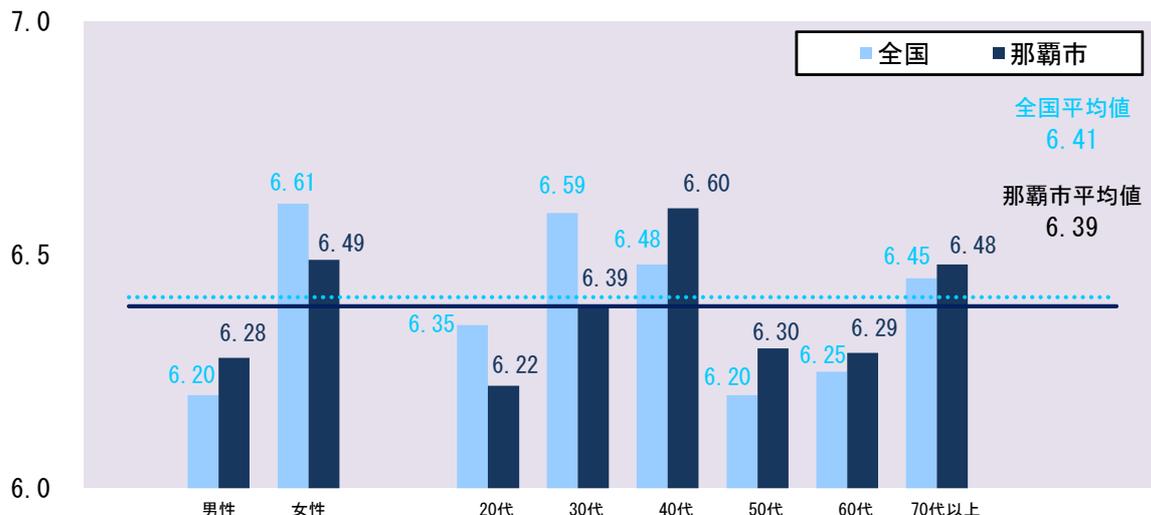
経年変化グラフ（平成22年度～平成26年度）



経年変化をみると、前回調査で0.17ポイント低下したが、今回調査で0.34ポイント増加し、市民の幸せ点数は向上したことがわかる。今後も市民の「幸せ度」の維持、向上に向けた取り組みが必要である。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

（全国平均値は平成 23 年度国民生活選好度調査参照）



市民の幸せ度数を、内閣府が行った「平成 23 年度国民生活選好度調査」と比較を行った。一部の属性において全国平均値の 6.41 点を上回っており、最も差が大きい 40 代は 0.19 ポイント差で上回っている。反対に、20 代は全国平均値より 0.19 ポイント下回っている。

那覇市の平均値と比較すると、性別では女性、年代では 40 代、70 代以上の属性において平均値を上回っている。

また、性別では男性、年代では 20 代、50 代、60 代の属性で那覇市の平均値を下回っていることから、雇用環境や定年後の環境にも一因があると思われる。

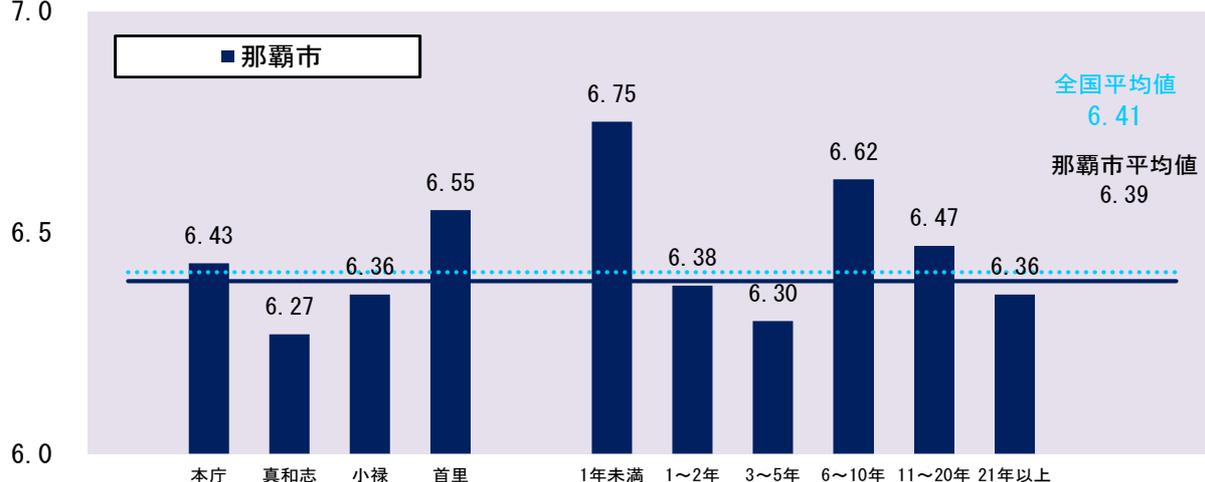
回答者属性 (n=合計)	選択項目											今回平均値	平均値 24 那覇市	平均値 23 全国	
	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点				無回答
男性 (n= 635)	2	3	11	40	35	123	122	133	81	33	42	10	6.28	5.82	6.20
女性 (n= 786)	5	6	14	38	35	168	95	159	130	48	70	18	6.49	6.23	6.61
20代 (n= 125)	0	1	3	11	7	22	22	23	22	6	7	1	6.22	6.28	6.35
30代 (n= 217)	2	2	4	9	9	42	37	52	28	8	19	5	6.39	6.04	6.59
40代 (n= 250)	2	0	6	17	9	37	39	51	45	18	24	2	6.60	5.76	6.48
50代 (n= 236)	0	2	4	16	15	50	31	54	32	14	16	2	6.30	5.90	6.20
60代 (n= 280)	1	1	5	17	15	59	42	67	36	16	16	5	6.29	6.23	6.25
70代以上 (n= 313)	2	3	3	8	15	81	46	45	48	19	30	13	6.48	6.16	6.45
本庁 (n= 475)	2	3	8	27	21	96	62	111	71	21	40	13	6.43	6.10	—
真和志 (n= 371)	2	2	9	16	26	81	58	75	49	17	28	8	6.27	6.14	—
小禄 (n= 262)	1	3	4	18	12	51	50	49	32	13	27	2	6.36	5.70	—
首里 (n= 304)	2	1	4	16	11	61	44	57	57	30	17	4	6.55	6.10	—
1年未満 (n= 33)	0	0	1	4	0	2	6	8	3	4	4	1	6.75	4.33	—
1~2年 (n= 62)	0	0	3	3	3	13	7	13	12	2	5	1	6.38	6.00	—
3~5年 (n= 84)	2	1	1	4	7	11	14	20	11	7	5	1	6.30	6.00	—
6~10年 (n= 103)	0	0	3	6	5	17	11	24	20	8	8	1	6.62	6.82	—
11~20年 (n= 179)	0	0	2	15	8	27	34	35	34	11	11	2	6.47	6.02	—
21年以上 (n= 958)	5	8	15	46	47	221	145	192	131	49	79	20	6.36	6.03	—

那覇市民の幸せ度数を、前回調査と比較すると今回の平均値では、20 代と居住年数 6~10 年を除くすべての属性で前回調査の平均値を上回る結果となった。

最も差の大きいのが居住年数 1 年未満で、前回調査からプラス 2.42 ポイントとなっており、すべての属性の中で最も幸せ度数が高くなっている。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

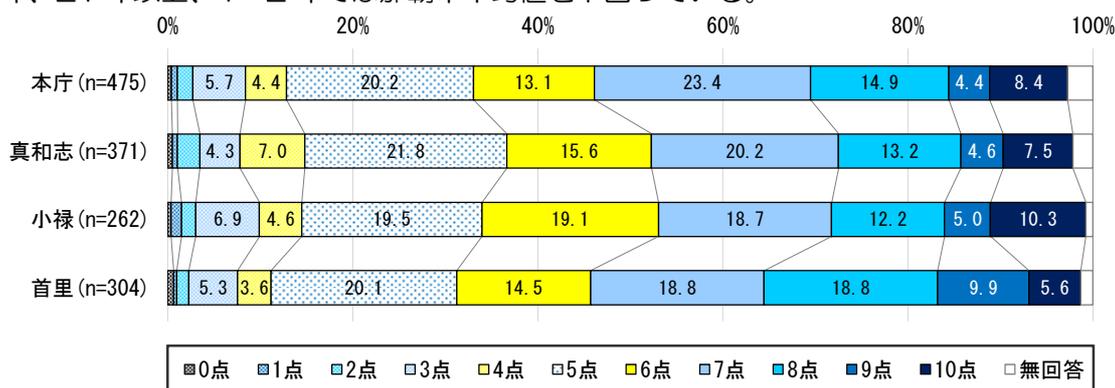
7.0



那覇市平均値と、居住地区、居住年数の平均値との比較を行った。

居住地区でみると首里地区が最も高く、那覇市平均値を 0.16 上回っている。那覇市の平均値を下回ったのは真和志地区と小禄地区で、那覇市平均値との差は真和志地区で 0.12 ポイント、小禄地区で 0.03 ポイントとなっている。

居住年数では 1 年未満の 6.75 が最も高く、次いで 6~10 年の 6.62 となっている。また 3~5 年、21 年以上、1~2 年では那覇市平均値を下回っている。

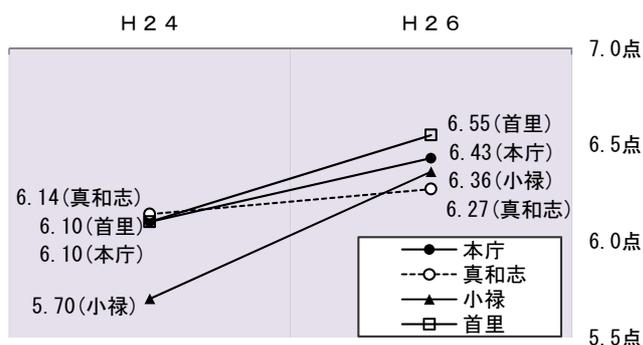


※0点~2点は数値を表示していない

属性を居住地区に絞り、点数の割合を確認した。

居住地区別でみると、真和志地区、小禄地区、首里地区では 5 点をつけた市民の割合が最も多く、本庁地区では 7 点をつけた市民の割合が最も多くなっている。

経年変化グラフ (平成 24 年度~平成 26 年度)



※H22 調査 地区別なし

居住地区ごとに経年変化をみると、すべての地区で幸せ度数が向上しており、今後も継続して、市民の「幸せづくり」に努めることが求められる。

(8) 市街地活性化について

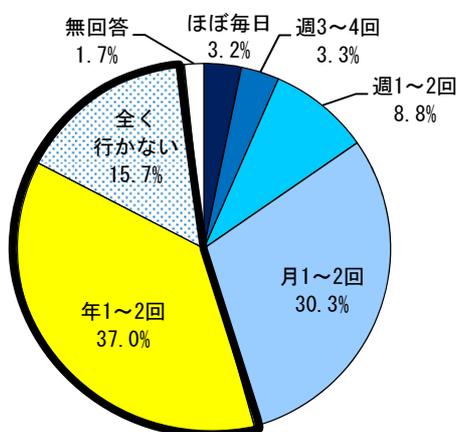
質問 24. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をお選びください。

- | | | | | |
|---------|---|----------|----------|-----------|
| 【国際通り】 | } | 1. ほぼ毎日 | 2. 週3~4回 | 3. 週1~2回 |
| | | 4. 月1~2回 | 5. 年1~2回 | 6. 全く行かない |
| 【マチグラー】 | } | 1. ほぼ毎日 | 2. 週3~4回 | 3. 週1~2回 |
| | | 4. 月1~2回 | 5. 年1~2回 | 6. 全く行かない |

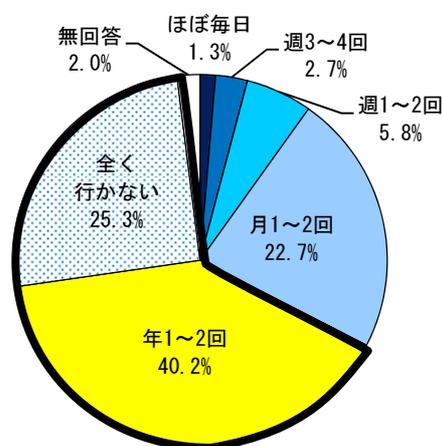
市民が国際通りに行く回数で最も多い回答は「年1~2回」の37.0%、マチグラーに行く回数で最も多い回答は「年1~2回」の40.2%。

選択項目	国際通り		マチグラー	
	回答数	(%)	回答数	(%)
ほぼ毎日	46	(3.2%)	19	(1.3%)
週3~4回	47	(3.3%)	39	(2.7%)
週1~2回	125	(8.8%)	82	(5.8%)
月1~2回	431	(30.3%)	323	(22.7%)
年1~2回	526	(37.0%)	571	(40.2%)
全く行かない	223	(15.7%)	360	(25.3%)
無回答	24	(1.7%)	28	(2.0%)
合計	1,422	(100%)	1,422	(100%)

【国際通り】



【マチグラー】



中心市街地を、国際通りとマチグラーに分けて市民が行く回数を掲載した。

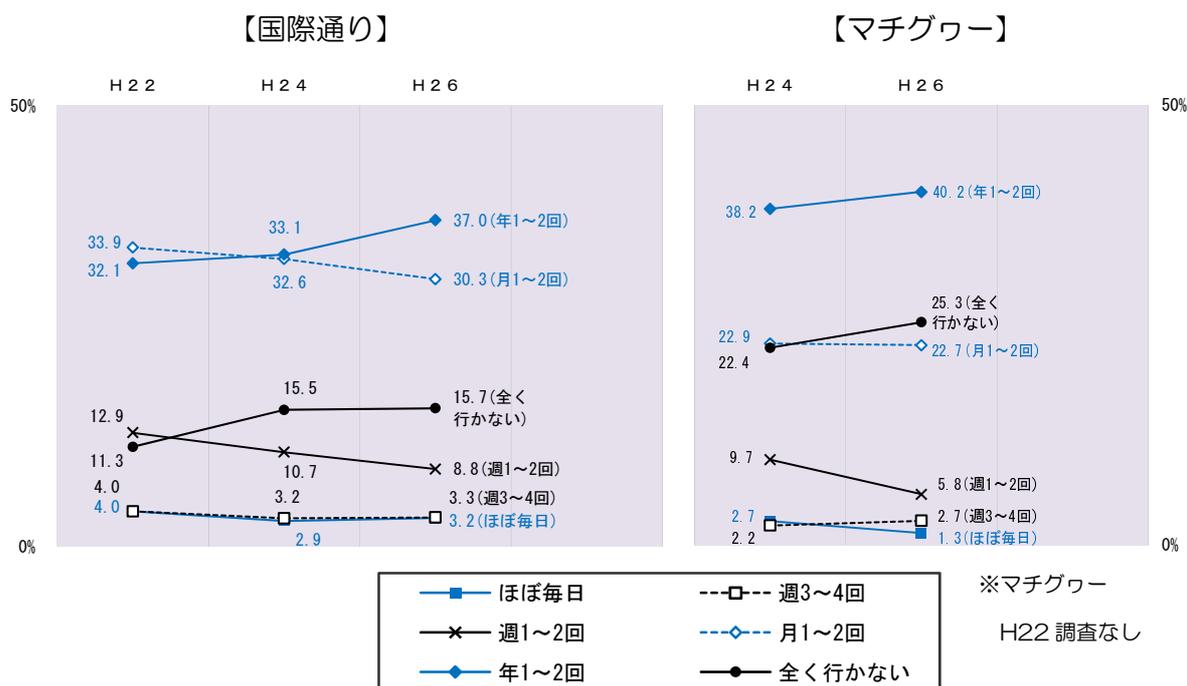
国際通りについては「年1~2回」の37.0%が最も多く、次いで「月1~2回」の30.3%となっている。

マチグラーについては「年1~2回」の40.2%に次いで「月1~2回」の22.7%となっているが、「全く行かない」が25.3%で「月1~2回」より多い割合となっている。

「年1~2回」と「全く行かない」市民の合計は、国際通りで52.5%、マチグラーで65.5%となっており、中心市街地商店街が市民の日常生活から確実に離れつつある実態が浮き彫りとなった。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 26 年度）



マチグラーについての回答は、国際通りと比較するために右欄に掲載した。

国際通りについては、「ほぼ毎日」と回答した割合は、前回調査より 0.3 ポイント増加しており、「週 1~2 回」は 1.9 ポイント減少している。「年 1~2 回」は 3.9 ポイント、「全く行かない」は 0.2 ポイント増加しており、市民が国際通りへ行く頻度は減少傾向にある。

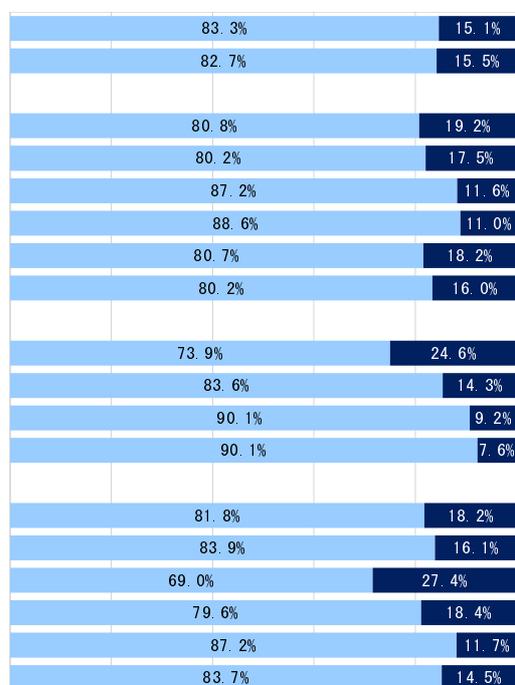
また、マチグラーについても、「ほぼ毎日」「週 3~4 回」「週 1~2 回」の、通う頻度が高いと回答した割合は、国際通りにおける同回答より低く、「全く行かない」「年 1~2 回」と回答した割合は高くなっており、国際通りよりマチグラーへ通う頻度は低いことがわかる。生活に直結した形で発展してきたマチグラーから市民の足が遠のいていることは、より深刻に受け止める必要がある。

今回調査であらゆる角度からの分析を試み、市民が中心市街地商店街から離れる原因を洗い出していくことで、どうすれば市民が国際通りやマチグラーへ集い、中心市街地の活性化へ繋がっていくかを検討する必要がある。

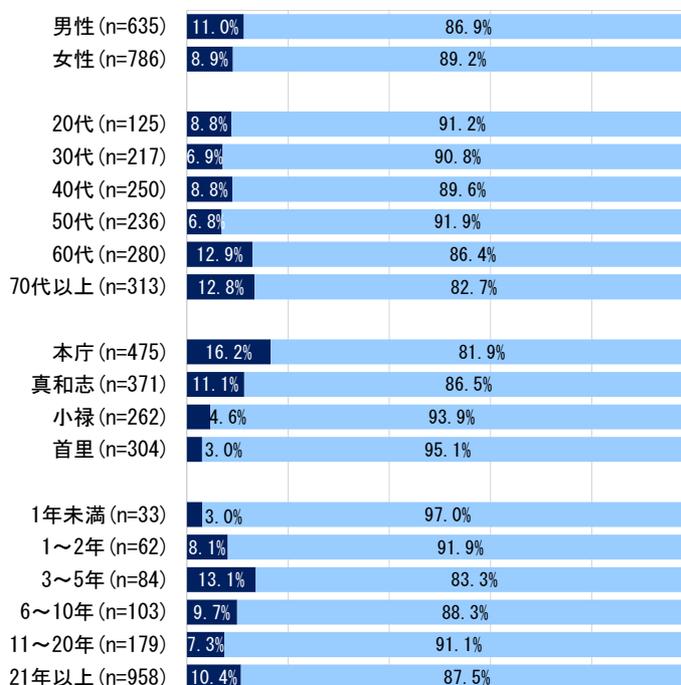
属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

無回答	国際通り						選択項目 回答者属性 (n=合計)	マチグラー						無回答
	行全 か か ない	年 1 1 2 回	月 1 1 2 回	週 1 1 2 回	週 3 3 4 回	ほ ほ 毎 日		ほ ほ 毎 日	週 3 3 4 回	週 1 1 2 回	月 1 1 2 回	年 1 1 2 回	行全 か か ない	
10	106	226	197	56	22	18	男性 (n= 635)	10	19	41	133	249	170	13
14	117	299	234	69	25	28	女性 (n= 786)	9	20	41	190	321	190	15
0	21	36	44	10	7	7	20代 (n= 125)	4	2	5	21	41	52	0
5	29	75	70	17	11	10	30代 (n= 217)	3	6	6	48	82	67	5
3	40	107	71	17	4	8	40代 (n= 250)	4	4	14	42	103	79	4
1	43	107	59	18	2	6	50代 (n= 236)	2	5	9	45	112	60	3
3	40	103	83	28	13	10	60代 (n= 280)	3	13	20	75	120	47	2
12	50	97	104	35	10	5	70代以上 (n= 313)	3	9	28	92	112	55	14
7	55	140	156	57	31	29	本庁 (n= 475)	12	23	42	125	167	97	9
8	61	141	108	30	11	12	真和志 (n= 371)	3	12	26	93	151	77	9
2	49	112	75	19	3	2	小禄 (n= 262)	1	1	10	51	105	90	4
7	56	128	90	19	1	3	首里 (n= 304)	3	2	4	53	144	92	6
0	3	10	14	5	0	1	1年未満 (n= 33)	0	0	1	7	12	13	0
0	4	28	20	6	3	1	1~2年 (n= 62)	1	1	3	17	26	14	0
3	13	21	24	13	8	2	3~5年 (n= 84)	1	4	6	12	26	32	3
2	18	36	28	10	3	6	6~10年 (n= 103)	0	4	6	24	39	28	2
2	29	72	55	12	4	5	11~20年 (n= 179)	2	4	7	38	70	55	3
17	156	358	288	79	29	31	21年以上 (n= 958)	15	26	59	225	395	218	20

【国際通り】



【マチグラー】



■ ほほ毎日～週1～2回 ■ 月1～2回～全く行かない

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

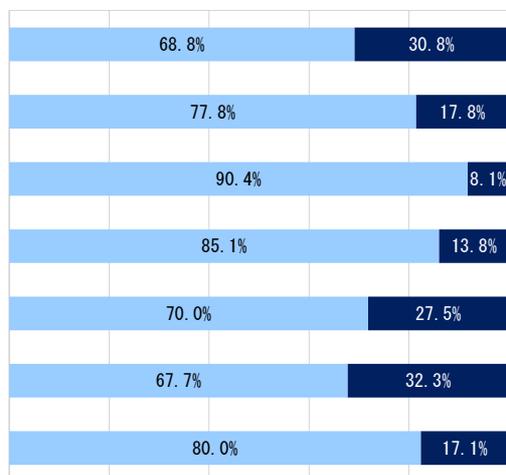
属性別グラフについては、比較がしやすいように、国際通り、マチグーに通う頻度が高い「ほぼ毎日」「週3～4回」「週1～2回」と、相対する「月1～2回」「年1～2回」「全く行かない」に分けて表示し分析を行った。

年代別でみると、国際通りへ通う頻度が高いのは20代、30代、60代以上、マチグーへ通う頻度が高いのは60代以上となっている。地区別でみると、本庁地区と真和志地区は国際通り、マチグー共に行く頻度が高く、小緑地区、首里地区では低くなっている。本庁地区、真和志地区は国際通りやマチグーに比較的近いことから、アクセスしやすく、通う頻度が高くなっていると考えられる。

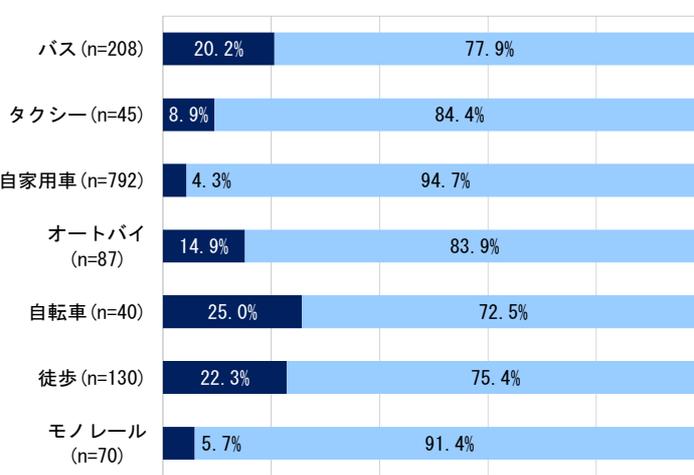
属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

無回答	国際通り							選択項目 回答者属性（n=合計）	マチグー						
	い全く行かない	年1～2回	月1～2回	週1～2回	週3～4回	ほぼ毎日	無回答		ほぼ毎日	週3～4回	週1～2回	月1～2回	年1～2回	い全く行かない	無回答
1	22	44	77	36	15	13	バス（n= 208）	6	11	25	62	61	39	4	
2	9	13	13	7	0	1	タクシー（n= 45）	2	0	2	13	15	10	3	
12	146	352	218	39	16	9	自家用車（n= 792）	2	12	20	151	370	229	8	
1	16	32	26	5	2	5	オートバイ（n= 87）	3	1	9	19	30	24	1	
1	4	13	11	7	1	3	自転車（n= 40）	0	2	8	8	13	8	1	
0	12	38	38	21	9	12	徒歩（n= 130）	6	10	13	36	43	19	3	
2	5	19	32	6	3	3	モノレール（n= 70）	0	1	3	20	27	17	2	

【国際通り】



【マチグー】



■ ほぼ毎日～週1～2回 ■ 月1～2回～全く行かない

中心市街地商店街へ通う頻度を、「ほぼ毎日～週1～2回」の頻繁に通う市民と、「月1～2回～全く行かない」の殆ど行かない市民に分け、今回調査項目である「質問 52.市民の主な交通手段」とクロス集計を行った。

徒歩、バス、自転車を主な交通手段とする市民ほど国際通りに行く頻度は高くなっている。マチグーにおいては、自転車、徒歩、バスの順となっている。

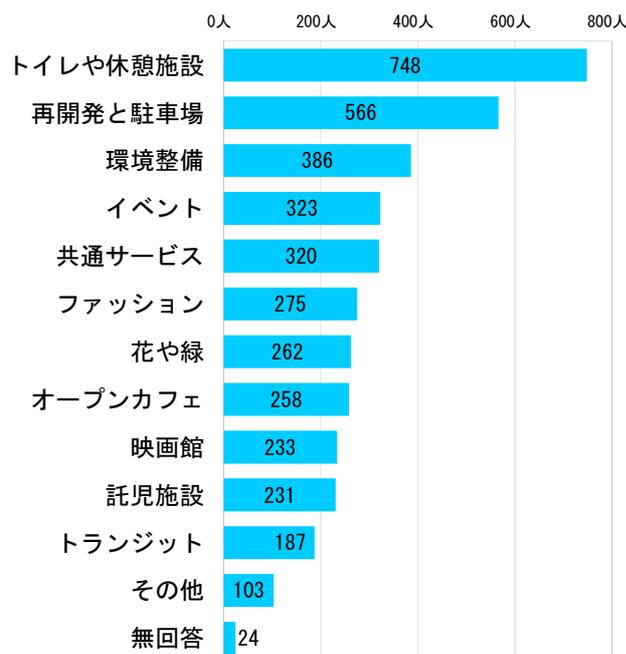
国際通りにおいては、バスやモノレールなどの公共交通機関利用者、マチグーにおいては、自転車利用者を見据えた活性化のあり方も検討する必要があると思われる。

質問 25. 国際通りやマチグラー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするには、どのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモールを続ける
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する
7. 新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する
8. 託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する
9. ファッション専門店やお洒落なカフェ等を誘致する
10. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
11. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
12. その他（ ）

市民にとって国際通りやマチグラーを魅力あるものにするために必要な方策は「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」や「新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	748	(19.1%)
2位	新たな再開発を行うとともに駐車場を整備する	566	(14.5%)
3位	日かげ等の環境整備（暑さ対策）	386	(9.9%)
4位	定期的にイベント等を開く	323	(8.2%)
5位	利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	320	(8.2%)
6位	ファッション専門店やお洒落なカフェ等を誘致する	275	(7.0%)
7位	花や緑を増やす	262	(6.7%)
8位	歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する	258	(6.6%)
9位	映画館等アミューズメント施設を誘致する	233	(5.9%)
10位	託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する	231	(5.9%)
11位	トランジットモールを続ける	187	(4.8%)
-	その他	103	(2.6%)
-	無回答	24	(0.6%)
合 計		3,916	(100%)



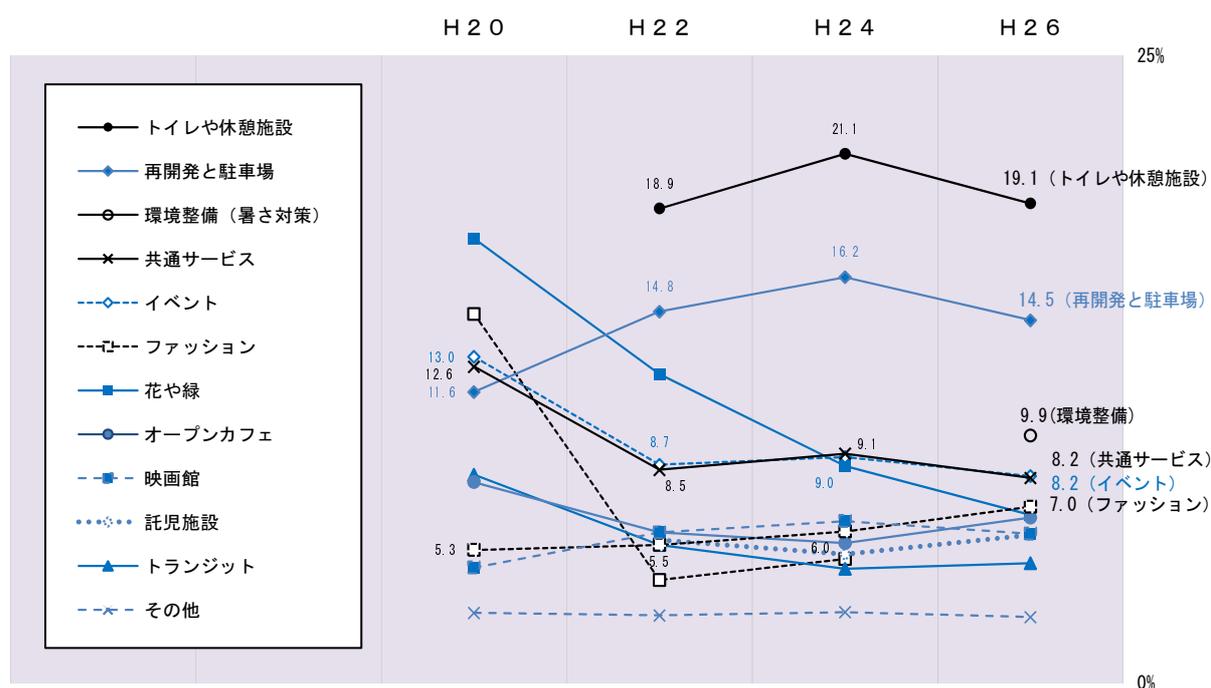
当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民にとって国際通りやマチグラーを魅力あるものにするために必要だと感じることは、1位が「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」の748人、2位が「新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する」の566人となっている。

選択肢「その他」の主な内容

- ・お土産屋を減らし、地元客向けの店を増やす(13人) 男性-30代-本庁地区・他
 - ・観光客向けの店が多すぎる(9人) 男性-40代-本庁地区・他
 - ・交通渋滞の緩和/道路・歩道の拡張や整備(9人) 男性-60代-首里地区・他
 - ・駐車場が高いので長居できない(7人) 女性-40代-小禄地区・他
 - ・店員のキャッチ行為や路上販売への規制(7人) 女性-40代-本庁地区・他
 - ・街の美化(8人) 女性-60代-本庁地区・他
 - ・特にない/あまり行かないのでわからない(4人) 女性-70代-本庁地区・他
 - ・公共交通機関の利便性の向上(4人) 男性-50代-真和志地区・他
 - ・トランジットモールを減らす/廃止する(3人) 女性-60代-真和志地区・他
 - ・ここでしか買えないもの/手に入らないという物を作る(2人) 女性-50代-本庁地区・他
 - ・市民に向けたサービス(2人) 男性-40代-真和志地区・他
 - ・国際観光都市にするには市民や県民の意識高揚が不可欠である(2人) 男性-60代-首里地区・他
 - ・何もするべきではない、自由競争に介入して成功した例はない 男性-30代-本庁地区
 - ・waon(電子マネー)が使えると嬉しい 男性-30代-本庁地区
 - ・伊勢のおかげ横丁的な統一感がほしい 男性-40代-本庁地区
 - ・観光客に対しておいしいものを食べてほしいので沖縄料理の指導 男性-70代-本庁地区
- 国際通りの居酒屋へ行くと、地元の人が食べて本当にかっかりする料理がある
- ・月に2~3回市場に行きますが、なんとかならないか? 男性-70代-本庁地区
 - ・雨の日に親子で行ける屋内公園(遊具)の設置 女性-30代-本庁地区
 - ・歩きたばこの問題 女性-20代-真和志地区
 - ・フラワーデザインの教室などの習い事、教室など 女性-20代-真和志地区
 - ・老人にもゆっくり出来る所 女性-60代-真和志地区
 - ・会員制が多いので少し減らしてほしいです 女性-60代-真和志地区
 - ・ビジネス街にする 男性-30代-小禄地区
 - ・娯楽施設を減らす(パチンコ、ゲームセンター等) 男性-30代-小禄地区
 - ・アート(芸術的)な街づくり、沖縄らしい建物や町並みづくり 女性-40代-小禄地区
 - ・地元で買い物をするので中心市街地商店街に魅力を感じない 女性-50代-小禄地区
 - ・外国人誘致 男性-50代-首里地区
 - ・若者が健全に遊べる(集える)イベント、および、団体の育成 男性-60代-首里地区
 - ・空店舗を若い人たちに安く提供する等 女性-30代-首里地区
 - ・料金が低いイベント 女性-60代-首里地区

経年変化グラフ（平成 20 年度～平成 26 年度）



グラフの見やすさを優先するために、上位 6 つのみ数値を掲載する。

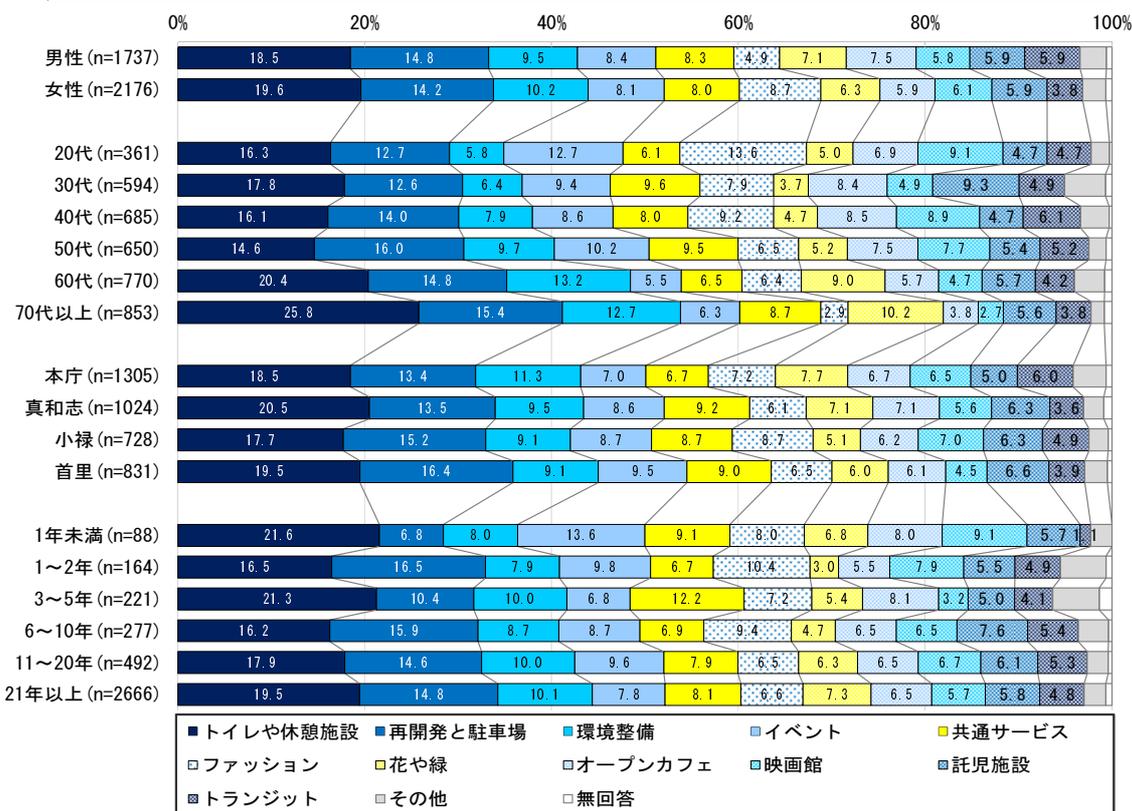
H22 から「トイレや休憩施設」「再開発と駐車場」を望む市民は多いが、今回から「環境整備（暑さ対策）」が加わったため、「トイレや休憩施設」「再開発と駐車場」の割合が前回より低くなっている。夏場は気温が高く、陽射しも強いため、「環境整備（暑さ対策）」を望む割合が高くなっていると考えられる。

国際通りやマチグラーを魅力あるものにするために「トイレや休憩施設」「再開発と駐車場」の整備と「環境整備（暑さ対策）」は必要不可欠であると考えられる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目												-	-
	1位 トイレ 休憩施設	2位 再開 発と 駐車 場	3位 環 境 整 備	4位 イ ベ ン ト	5位 サ ー ビ ス 共 通	6位 フ ァ ッ シ ョ ン	7位 花 や 緑	8位 カ ー フ ェ ン	9位 映 画 館	10位 託 児 施 設	11位 ト ラ ン ジ ット	- そ の 他	- 無 回 答	
男性 (n= 1,737)	321	257	165	146	145	85	124	130	100	102	103	49	10	
女性 (n= 2,176)	426	309	221	177	175	190	138	128	132	129	83	54	14	
20代 (n= 361)	59	46	21	46	22	49	18	25	33	17	17	7	1	
30代 (n= 594)	106	75	38	56	57	47	22	50	29	55	29	26	4	
40代 (n= 685)	110	96	54	59	55	63	32	58	61	32	42	21	2	
50代 (n= 650)	95	104	63	66	62	42	34	49	50	35	34	12	4	
60代 (n= 770)	157	114	102	42	50	49	69	44	36	44	32	25	6	
70代以上 (n= 853)	220	131	108	54	74	25	87	32	23	48	32	12	7	
本庁 (n= 1,305)	241	175	147	91	87	94	101	87	85	65	78	46	8	
真和志 (n= 1,024)	210	138	97	88	94	62	73	73	57	64	37	22	9	
小祿 (n= 728)	129	111	66	63	63	63	37	45	51	46	36	15	3	
首里 (n= 831)	162	136	76	79	75	54	50	51	37	55	32	20	4	
1年未満 (n= 88)	19	6	7	12	8	7	6	7	8	5	1	2	0	
1～2年 (n= 164)	27	27	13	16	11	17	5	9	13	9	8	8	1	
3～5年 (n= 221)	47	23	22	15	27	16	12	18	7	11	9	11	3	
6～10年 (n= 277)	45	44	24	24	19	26	13	18	18	21	15	9	1	
11～20年 (n= 492)	88	72	49	47	39	32	31	32	33	30	26	11	2	
21年以上 (n= 2,666)	519	394	270	208	216	177	195	173	153	155	127	62	17	

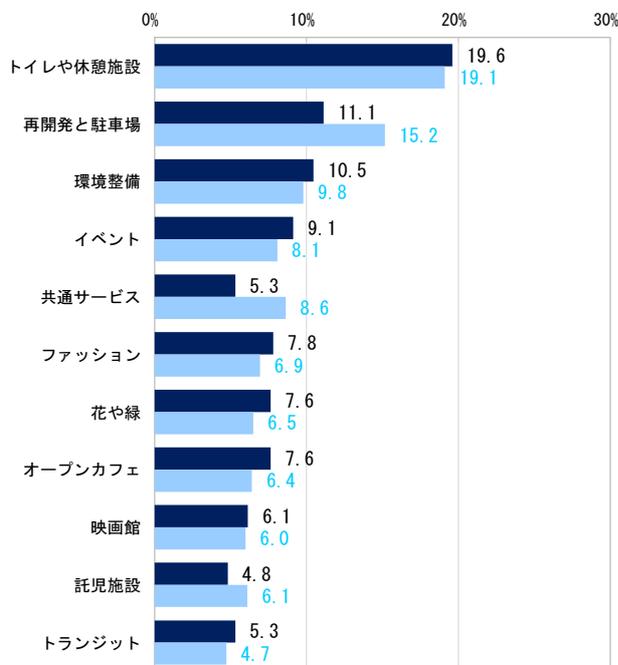


年代別でみると、20代～40代、60代以上では「トイレや休憩施設」の割合が高く、50代では「再開発と駐車場」の割合が高くなっている。

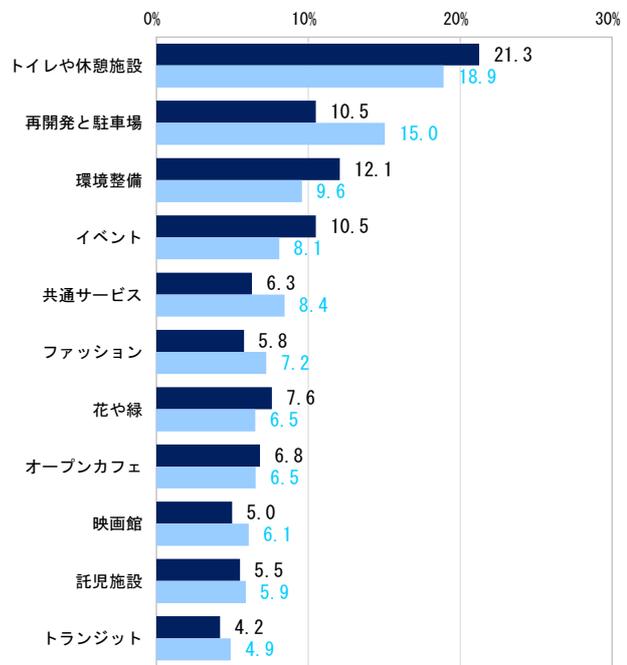
居住地区別では、小祿地区、首里地区で「再開発と駐車場」を望む割合が他の地区より高い。車や公共交通で来街する市民が多いためと考えられる。

回答者属性 (n=合計)		選択項目													-	-
		1位 休ト 憩イ 施レ 設や	2位 駐再 車開 場発 と	3位 環 境 整 備	4位 イ ベ ン ト	5位 サ共 ー通 ビ ス	6位 フ ア ッ シ ョ ン	7位 花 や 緑	8位 カオ ーフ エ ン	9位 映 画 館	10位 託 児 施 設	11位 ト ラ ン ジ ット	そ の 他	無 回 答		
国際通り	合 計	744	564	384	320	315	274	259	256	233	229	187	102	10		
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 602)	118	67	63	55	32	47	46	46	37	29	32	29	1		
	月1～2回～全く行かない (n= 3,275)	626	497	321	265	283	227	213	210	196	200	155	73	9		
マチグラー	合 計	740	564	380	322	318	274	256	254	231	226	187	103	10		
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 381)	81	40	46	40	24	22	29	26	19	21	16	16	1		
	月1～2回～全く行かない (n= 3,484)	659	524	334	282	294	252	227	228	212	205	171	87	9		

【国際通り】



【マチグラー】



■ ほぼ毎日～週1～2回 □ 月1～2回～全く行かない

■ ほぼ毎日～週1～2回 □ 月1～2回～全く行かない

中心市街地商店街を魅力あるものにするための方策について、「質問 24.国際通り、マチグラーに行く回数」で、頻繁に通う市民と殆ど行かない市民に分けクロス集計を行った。

国際通りやマチグラーへ頻繁に通う市民、ほとんど行かない市民共に「トイレや休憩施設」の割合が最も高くなっている。今後市としては中心市街地商店街の活性化に向けた取り組みを継続しつつ、ほとんど行かない市民の望むことを参考にさらなる活性化に向けた取り組みを検討することが必要と思われる。

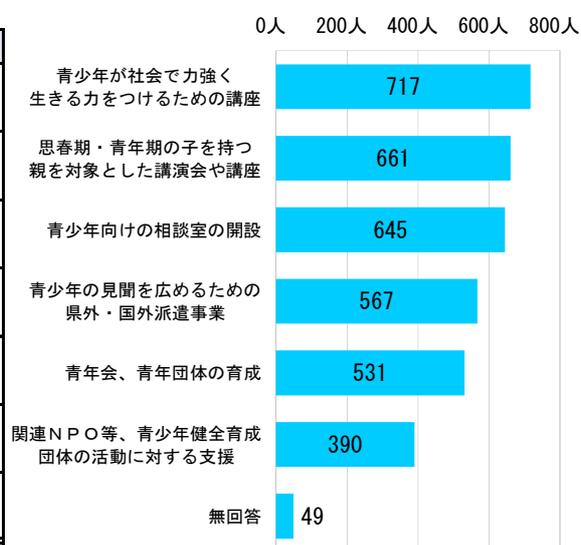
(9) 青少年の健全育成について

質問 26. 青少年に対する健全育成施策として、取り組んで欲しいものを次の中から3つまでお選びください。

1. 青少年が社会で力強く生きる力をつけるための講座
2. 思春期・青年期の子を持つ親を対象とした講演会や講座
3. 青少年向け相談室の開設
4. 青年会、青年団体の育成
5. 関連NPO等、青少年健全育成団体の活動に対する支援
6. 青少年の見聞を広めるための県外・国外派遣事業

市民が健全育成施策として取り組んで欲しいのは「青少年が社会で力強く生きる力をつけるための講座」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	青少年が社会で力強く生きる力をつけるための講座	717	(20.1%)
2位	思春期・青年期の子を持つ親を対象とした講演会や講座	661	(18.6%)
3位	青少年向けの相談室の開設	645	(18.1%)
4位	青少年の見聞を広めるための県外・国外派遣事業	567	(15.9%)
5位	青年会、青年団体の育成	531	(14.9%)
6位	関連NPO等、青少年健全育成団体の活動に対する支援	390	(11.0%)
-	無回答	49	(1.4%)
合計		3,560	(100%)



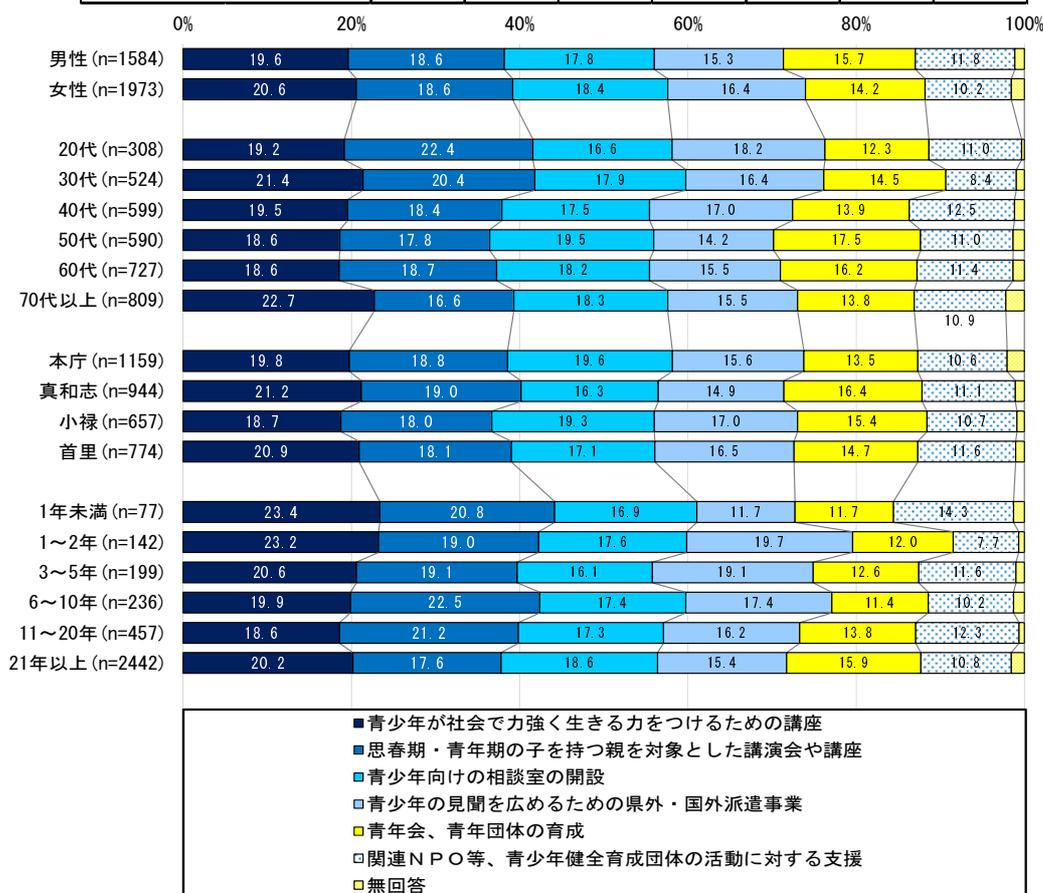
当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

青少年に対する健全育成施策として取り組んでほしいものの第1位は「青少年が社会で力強く生きる力をつけるための講座」、第2位は「思春期・青年期の子を持つ親を対象とした講演会や講座」となっている。

家庭・学校・地域が連携して、青少年健全育成に向けた取り組みを実施すると共に、思春期・青年期の子を持つ親を対象とした取り組みも検討することが必要と思われる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目							- 無回答
	1位 講を生 座つき ける力	2位 講と親 座しを た対 象	3位 開相 談室 の	4位 事外 業派 外遣 ・国	5位 の青 育年 成団 体	6位 支にN 援対P すO る等		
男性 (n= 1,584)	311	294	282	243	249	187	18	
女性 (n= 1,973)	406	367	363	323	281	202	31	
20代 (n= 308)	59	69	51	56	38	34	1	
30代 (n= 524)	112	107	94	86	76	44	5	
40代 (n= 599)	117	110	105	102	83	75	7	
50代 (n= 590)	110	105	115	84	103	65	8	
60代 (n= 727)	135	136	132	113	118	83	10	
70代以上 (n= 809)	184	134	148	125	112	88	18	
本庁 (n= 1,159)	229	218	227	181	157	123	24	
真和志 (n= 944)	200	179	154	141	155	105	10	
小祿 (n= 657)	123	118	127	112	101	70	6	
首里 (n= 774)	162	140	132	128	114	90	8	
1年未満 (n= 77)	18	16	13	9	9	11	1	
1～2年 (n= 142)	33	27	25	28	17	11	1	
3～5年 (n= 199)	41	38	32	38	25	23	2	
6～10年 (n= 236)	47	53	41	41	27	24	3	
11～20年 (n= 457)	85	97	79	74	63	56	3	
21年以上 (n= 2,442)	493	430	454	375	389	263	38	



年代別などの属性別にみても、回答に大きなバラつきはない。すべての世代で「青少年が社会で力強く生きる力をつけるための講座」「思春期・青年期の子を持つ親を対象とした講演会や講座」「青少年向けの相談室の開設」を望む市民がそれぞれ約2割となっている。

今後、家庭・学校・地域が連携して青少年の健全育成に向けて取り組むことが必要と思われる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

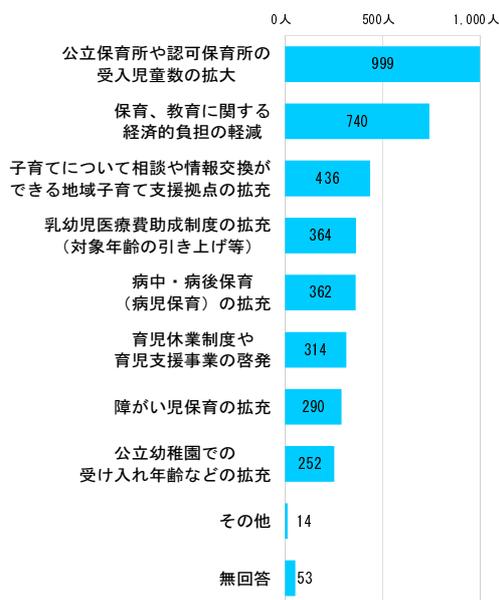
(10) 子育て支援について

質問 27. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選び下さい。

1. 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 公立幼稚園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
8. 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）
9. その他

小学校就学前の子育て支援について、市民が一番取り組んでほしい施策は、「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」。

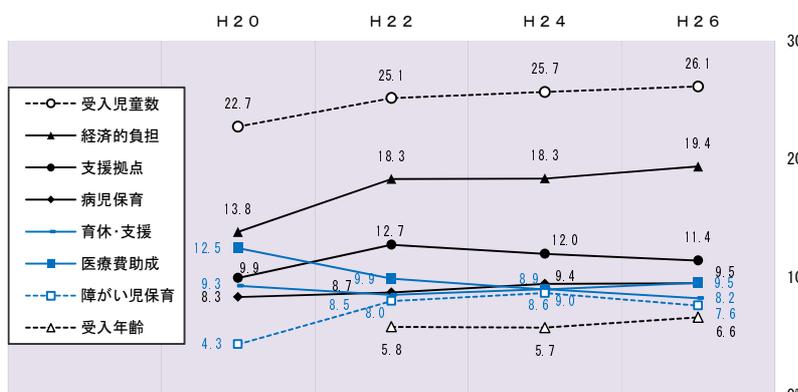
順位	選択項目	回答数	(%)
1位	公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大	999	(26.1%)
2位	保育、教育に関する経済的負担の軽減	740	(19.4%)
3位	子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充	436	(11.4%)
4位	乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）	364	(9.5%)
5位	病中・病後保育（病児保育）の拡充	362	(9.5%)
6位	育児休業制度や育児支援事業の啓発	314	(8.2%)
7位	障がい児保育の拡充	290	(7.6%)
8位	公立幼稚園での受け入れ年齢などの拡充	252	(6.6%)
-	その他	14	(0.3%)
-	無回答	53	(1.4%)
合計		3,824	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

小学校就学前の子育て支援について、市民が一番取り組んでほしいのは「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」となっている。

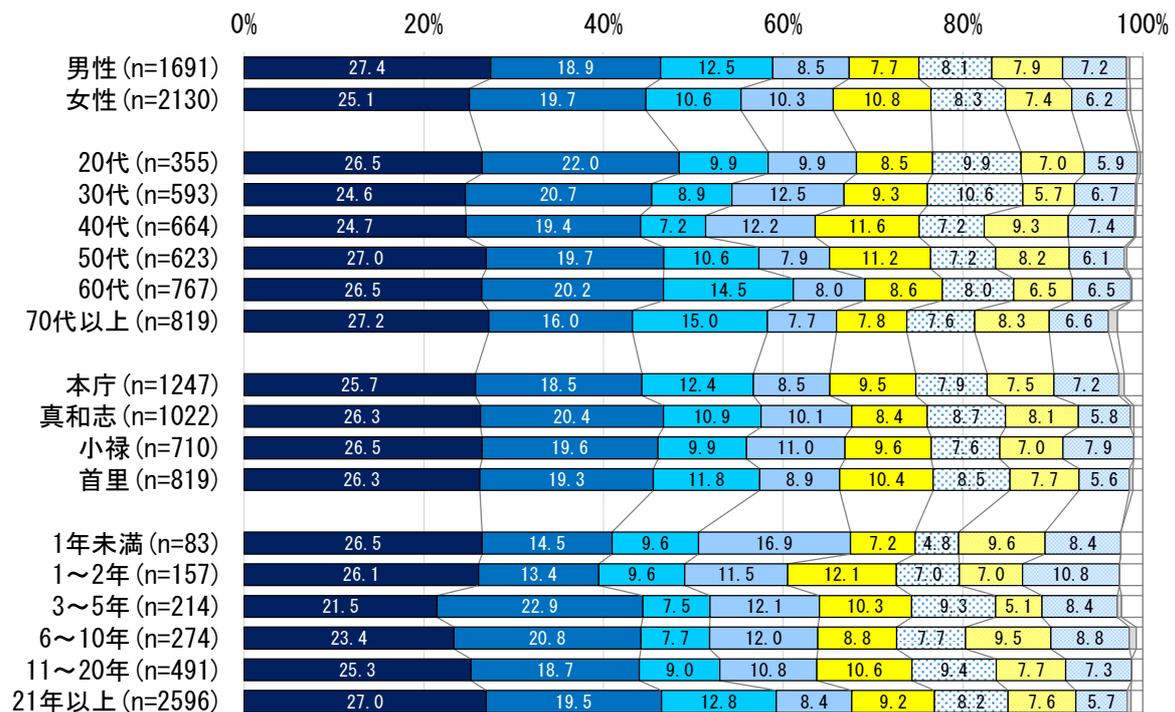
経年変化グラフ（平成 20 年度～平成 26 年度）



H20 の調査以降、上位 2 つの選択肢は変わらず、割合も増加傾向にあり、「受入児童数の拡大」と「経済的負担の軽減」に対する市民の要望が高いことがわかる。また、「公立幼稚園での受け入れ年齢などの拡充」を望む市民がわずかに増加している。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

属性別集計	選択項目									
	1位 の受認公 拡入可立 大児保保 童育育所 数所所の のや	2位 負関保 担す育、 のる 軽経 減済育 的に	3位 支で相子 援き談育 拠るやて 点地情に の域報つ 拡子交い 充育換て が	4位 引（制乳 き対度幼 上象の児 げ年拡医 等）の療 の費助 成	5位 拡（病中 充病中 児・病 保後保 育）の育	6位 啓育育 発児児 支休業 援事制 業度 のや	7位 拡障 充がい 児保 育の	8位 な受公立 どの拡入 のれ幼 充充稚 年園 のの	- そ の 他	- 無 回 答
回答者属性 (n=合計)										
男性 (n= 1,691)	464	320	211	144	131	137	133	121	6	24
女性 (n= 2,130)	534	419	225	219	231	177	157	131	8	29
20代 (n= 355)	94	78	35	35	30	35	25	21	1	1
30代 (n= 593)	146	123	53	74	55	63	34	40	1	4
40代 (n= 664)	164	129	48	81	77	48	62	49	1	5
50代 (n= 623)	168	123	66	49	70	45	51	38	2	11
60代 (n= 767)	203	155	111	61	66	61	50	50	1	9
70代以上 (n= 819)	223	131	123	63	64	62	68	54	8	23
本庁 (n= 1,247)	321	231	155	106	119	99	93	90	7	26
真和志 (n= 1,022)	269	208	111	103	86	89	83	59	4	10
小禄 (n= 710)	188	139	70	78	68	54	50	56	0	7
首里 (n= 819)	215	158	97	73	85	70	63	46	3	9
1年未満 (n= 83)	22	12	8	14	6	4	8	7	0	2
1~2年 (n= 157)	41	21	15	18	19	11	11	17	0	4
3~5年 (n= 214)	46	49	16	26	22	20	11	18	1	5
6~10年 (n= 274)	64	57	21	33	24	21	26	24	2	2
11~20年 (n= 491)	124	92	44	53	52	46	38	36	0	6
21年以上 (n= 2,596)	700	506	332	218	239	212	196	148	11	34



- 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
- 保育、教育に関する経済的負担の軽減
- 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
- 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）
- 病中・病後保育（病児保育）の拡充
- 育児休業制度や育児支援事業の啓発
- 障がい児保育の拡充
- 公立幼稚園での受け入れ年齢などの拡充
- その他
- 無回答

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

「受入児童数の拡大」と「経済的負担の軽減」に対する市民の要望は高く、すべての年代において高い回答の割合となっている。

年代別では、30代、40代で「乳幼児医療費助成制度の拡充」の割合が高くなっていることから、保育・教育費以外の子育てにかかる経済的負担の軽減についての要望がうかがえる。「受け入れ児童数の拡大」「経済的負担の軽減」はもちろん、今後は地域をあげて子育てをしていく取り組みも必要と思われる。

選択肢「その他」の主な内容

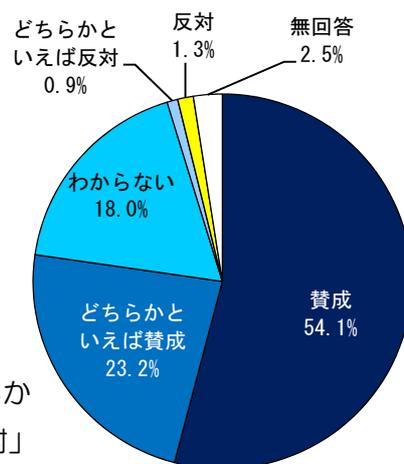
- | | |
|-----------------------|----------------|
| ・わからない/特になし(5人) | 女性-70代-本庁地区・他 |
| ・保育士の給与アップ/保育所の充実(4人) | 女性-20代-真和志地区・他 |
| ・親の知識力の向上 | 男性-70代-本庁地区 |
| ・DV対策 | 男性-30代-真和志地区 |

質問 28. 那覇市では、地域の子育て支援の充実のため、保護者の就労に関わらず、就学前の子どもにも教育・保育を一体的に行う取り組み（「認定こども園」の普及）を検討していますが、あなたはごどう思いますか。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. わからない
4. どちらかといえば反対
5. 反対

「認定こども園」に「賛成（賛成、どちらかといえば賛成）」の市民は 77.3%、「反対（どちらかといえば反対、反対）」の市民は 2.2%。

選択項目	回答数	(%)
賛成	769	(54.1%)
どちらかといえば賛成	330	(23.2%)
わからない	256	(18.0%)
どちらかといえば反対	13	(0.9%)
反対	19	(1.3%)
無回答	35	(2.5%)
合計	1,422	(100%)

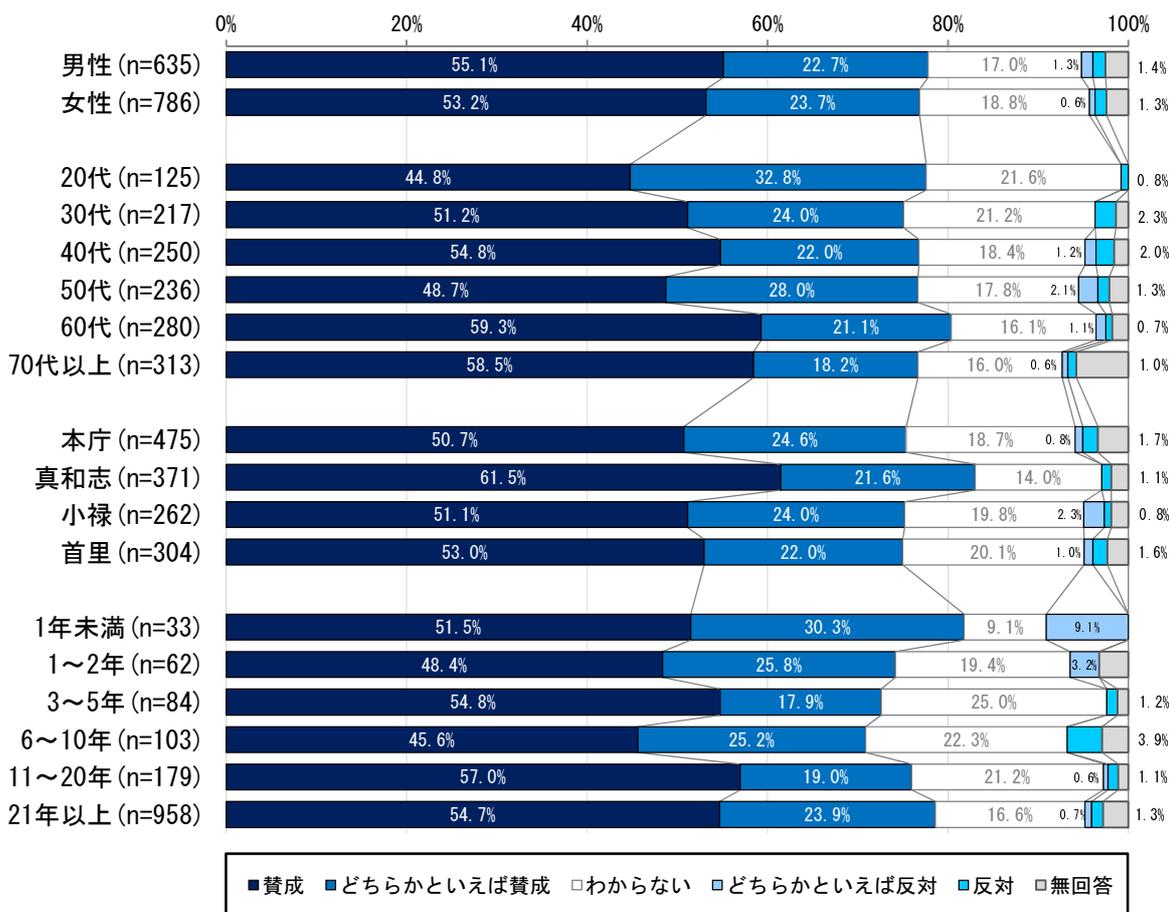


地域の子育て支援の充実のため、就学前の子供にも教育・保育を一体的に行う取り組み「認定こども園」の普及に「賛成」「どちらかといえば賛成」の市民は 77.3%、「どちらかといえば反対」「反対」が 2.2%となった。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目		回答者属性 (n=合計)					
		賛成	い ど ち ら か い え ば 賛 成 と	わ か ら な い	い ど ち ら か い え ば 反 対 と	反 対	無 回 答
男性	(n= 635)	350	144	108	8	9	16
女性	(n= 786)	418	186	148	5	10	19
20代	(n= 125)	56	41	27	0	1	0
30代	(n= 217)	111	52	46	0	5	3
40代	(n= 250)	137	55	46	3	5	4
50代	(n= 236)	115	66	42	5	3	5
60代	(n= 280)	166	59	45	3	2	5
70代以上	(n= 313)	183	57	50	2	3	18
本庁	(n= 475)	241	117	89	4	8	16
真和志	(n= 371)	228	80	52	0	4	7
小禄	(n= 262)	134	63	52	6	2	5
首里	(n= 304)	161	67	61	3	5	7
1年未満	(n= 33)	17	10	3	3	0	0
1~2年	(n= 62)	30	16	12	2	0	2
3~5年	(n= 84)	46	15	21	0	1	1
6~10年	(n= 103)	47	26	23	0	4	3
11~20年	(n= 179)	102	34	38	1	2	2
21年以上	(n= 958)	524	229	159	7	12	27

IV. 日常生活等に関する意識調査結果



※「反対」の数値はグラフ右端に表示

すべての年代で「賛成」の割合が最も高くなっている。

居住地区別では、真和志地区で「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が他の地区より高くなっている。地域性か、それとも何らかの強いニーズがあるのか、今後分析する必要があると考える。

年代別では、60代、70代以上で「賛成」の割合が他の年代より高くなっているが、子育て世代ではない当該世代の賛成の意図の裏に、子や孫の世話などのニーズがあるとすれば納得できるものである。

また、居住年数別では1年未満で「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が他の居住年数より高くなっているが、「どちらかといえば反対」の回答も他の居住年数より高くなっている。

性別による分析で、男性の「賛成」の割合が女性より高いという結果がわかった。

「わからない」とした回答者は全体で18%であることから、「認定こども園」の存在を市民に認識してもらい、活動内容の理解を深めてもらうことが必要と思われる。

(11) 福祉について

質問 29. 高齢者になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりに必要なものは何だ
と思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 地域での支え合いづくり
2. 地域での介護予防の充実（介護予防教室、健康教室、栄養指導等）
3. 介護予防リーダー及びボランティアの養成
4. 身近な「地域包括支援センター」の充実（総合相談・権利擁護・見守り等）
5. 「地域ふれあいデイサービス」の拡充（生きがいつくり、健康づくり支援）
6. 認知症予防と理解への取り組み
7. 介護サービスの充実（通所介護・特別養護老人ホーム・認定デイ等）
8. 在宅医療の充実
9. その他（ ）

高齢者になっても安心して暮らせるまちづくりに必要なものは、「介護サービスの充実」、「地域での支え合いづくり」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	介護サービスの充実 (通所介護・特別養護老人ホーム・認定デイ等)	708	(18.1%)
2位	地域での支え合いづくり	585	(14.9%)
3位	「地域ふれあいデイサービス」の拡充 (生きがいつくり、健康づくり支援)	547	(14.0%)
4位	地域での介護予防の充実 (介護予防教室、健康教室、栄養指導等)	521	(13.3%)
5位	在宅医療の充実	477	(12.2%)
6位	身近な「地域包括支援センター」の充実 (総合相談・権利擁護・見守り等)	445	(11.4%)
7位	認知症予防と理解への取組	341	(8.7%)
8位	介護予防リーダー及びボランティアの養成	240	(6.1%)
-	その他	31	(0.8%)
-	無回答	23	(0.5%)
合 計		3,918	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

最も多かった回答が「介護サービスの充実」の708人で18.1%、次いで「地域での支え合いづくり」の585人で14.9%となっている。

選択肢「その他」の主な内容

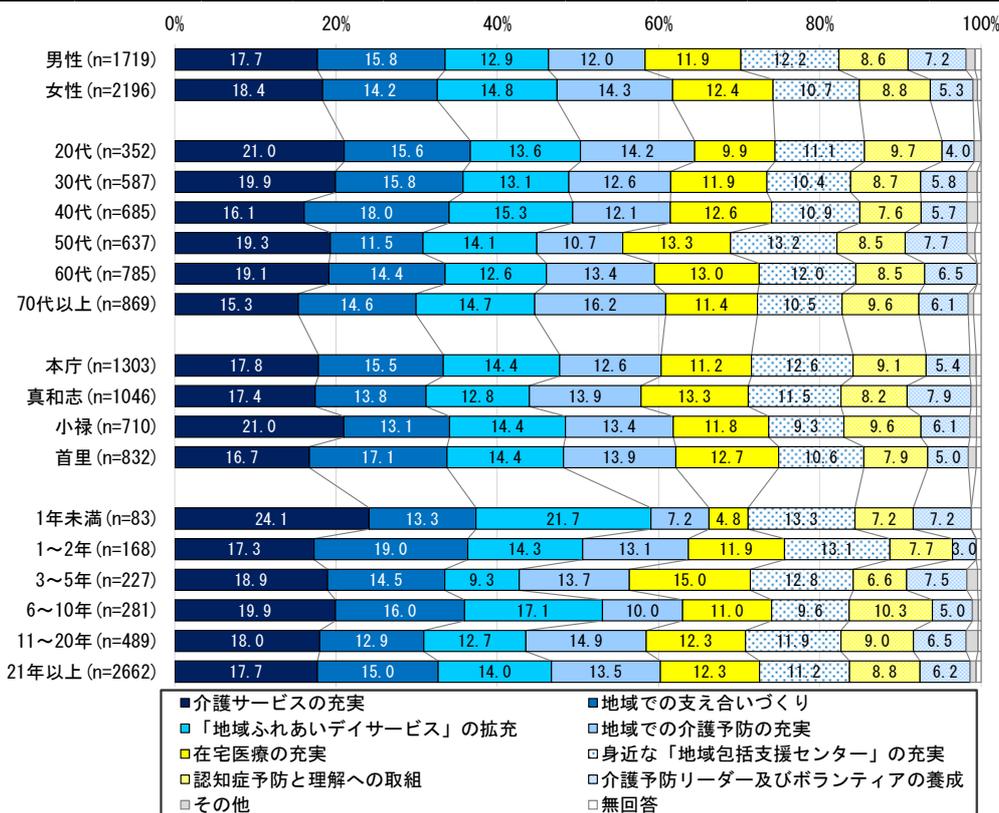
- ・経済的負担の軽減(6人)
- ・高齢者・要介護者への支援/配慮(7人)
- ・わからない/特になし(4人)
- ・介護認定が厳しい(2人)
- ・集まってゆんたくできる場所の確保
- ・1つのボランティアじゃなく、3つ、4つくらいのボランティアをさせる
- ・徘徊で行方がわからなくなった場合の発見システムづくり
- ・町並みを大きく変化させない
- ・団地などの市営の住居希望者の枠の拡大

- 男性-30代-本庁地区・他
- 男性-70代-小祿地区・他
- 女性-70代-本庁地区・他
- 男性-50代-真和志地区・他
- 男性-30代-真和志地区
- 男性-30代-真和志地区
- 女性-40代-真和志地区
- 男性-20代-小祿地区
- 男性-50代-首里地区

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	-	-
	介護サービスの充実	地域での支え合いのづくり	「地域ふれあいデイサービス」の拡充	地域での介護予防の充実	在宅医療の充実	身近な「地域包括支援センター」の充実	認知症予防と理解への取組	ボランティアの養成	その他	無回答
男性 (n= 1,719)	304	272	221	206	204	209	147	124	19	13
女性 (n= 2,196)	403	312	326	315	273	235	194	116	12	10
20代 (n= 352)	74	55	48	50	35	39	34	14	3	0
30代 (n= 587)	117	93	77	74	70	61	51	34	7	3
40代 (n= 685)	110	123	105	83	86	75	52	39	9	3
50代 (n= 637)	123	73	90	68	85	84	54	49	6	5
60代 (n= 785)	150	113	99	105	102	94	67	51	0	4
70代以上 (n= 869)	133	127	128	141	99	91	83	53	6	8
本庁 (n= 1,303)	232	202	188	164	146	164	118	71	10	8
真和志 (n= 1,046)	182	144	134	145	139	120	86	83	7	6
小祿 (n= 710)	149	93	102	95	84	66	68	43	6	4
首里 (n= 832)	139	142	120	116	106	88	66	42	8	5
1年未満 (n= 83)	20	11	18	6	4	11	6	6	0	1
1~2年 (n= 168)	29	32	24	22	20	22	13	5	0	1
3~5年 (n= 227)	43	33	21	31	34	29	15	17	3	1
6~10年 (n= 281)	56	45	48	28	31	27	29	14	2	1
11~20年 (n= 489)	88	63	62	73	60	58	44	32	7	2
21年以上 (n= 2,662)	471	399	373	360	327	297	233	166	19	17



年代別では20代、30代、50代、60代で「介護サービス」の割合が最も高く、40代では「地域での支え合い」が高い。70代以上では「介護予防」が最も高くなっている。70代以上の高い年代では他の年代よりも予防意識が高いことが推察される。

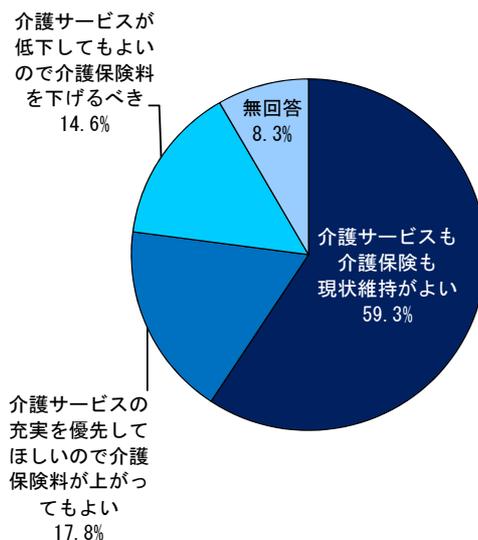
居住地区別分析で、小祿地区での「介護サービス」に対する意識の高さが注目される。次の質問30での居住地区別分析との違いから、将来について小祿地区での意識の差がでたものと推測される。

質問 30. 介護サービスと介護保険料について、次の中から1つお選びください。

1. 介護サービスも介護保険料も現状維持がよい
2. 介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい
3. 介護サービスが低下してもよいので介護保険料を下げるべき

介護サービスと介護保険料のバランスについて「現状維持がよい」と思う市民が59.3%。

選択項目	回答数	(%)
介護サービスも介護保険も現状維持がよい	843	(59.3%)
介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい	253	(17.8%)
介護サービスが低下してもよいので介護保険料を下げるべき	207	(14.6%)
無回答	119	(8.3%)
合計	1,422	(100%)



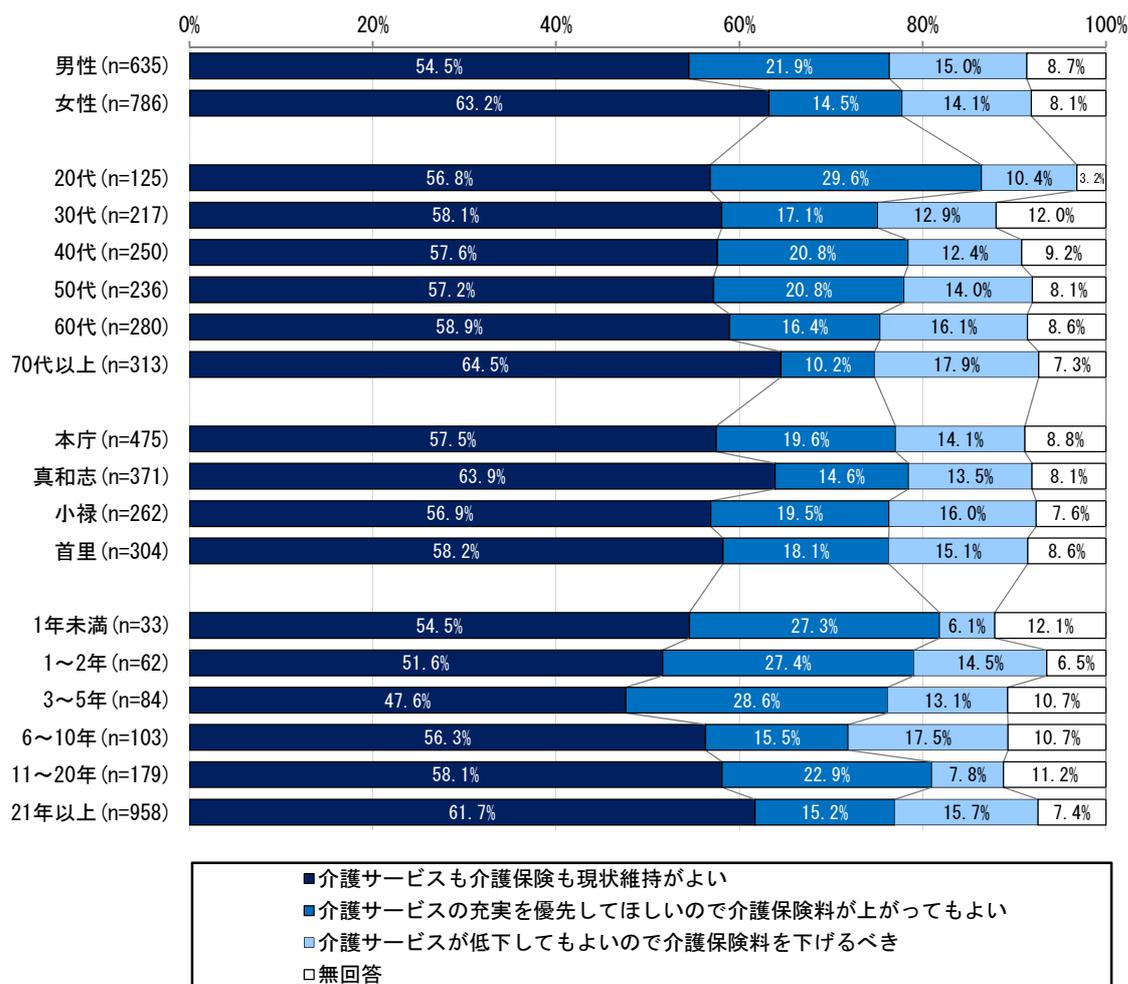
「介護サービスも介護保険料も現状維持がよい」と思う市民の割合は59.3%、「介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい」は17.8%となっている。

サービス優先か、料金優先か、それとも現状維持か、今後の行政の方向性を問う設問である。市民意識として、結果は、現状維持となったと判断される。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目			
	介護サービスも介護保険も現状維持がよい	介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい	介護サービスが低下してもよいので介護保険料を下げるべき	無回答
男性 (n= 635)	346	139	95	55
女性 (n= 786)	497	114	111	64
20代 (n= 125)	71	37	13	4
30代 (n= 217)	126	37	28	26
40代 (n= 250)	144	52	31	23
50代 (n= 236)	135	49	33	19
60代 (n= 280)	165	46	45	24
70代以上 (n= 313)	202	32	56	23
本庁 (n= 475)	273	93	67	42
真和志 (n= 371)	237	54	50	30
小祿 (n= 262)	149	51	42	20
首里 (n= 304)	177	55	46	26
1年未満 (n= 33)	18	9	2	4
1~2年 (n= 62)	32	17	9	4
3~5年 (n= 84)	40	24	11	9
6~10年 (n= 103)	58	16	18	11
11~20年 (n= 179)	104	41	14	20
21年以上 (n= 958)	591	146	150	71

IV. 日常生活等に関する意識調査結果



すべての年代で「介護サービスも介護保険料も現状維持がよい」の割合が6割近くになっているが、特に、サービスを受ける側になると思われる70代以上で「現状維持」が高まり、次に料金優先と続いており、保険料優先の意識が高まっていることがわかる。対照的に、20代～60代では「介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい」と回答した割合が料金優先よりも高くなっている。

男女別では、現状維持で8.7ポイント差があり、サービス優先か保険料優先かでも割合に違いがある。これは、介護に関わる割合の差によるものと思われるが、男性がサービス優先を考えていることからすると、負担感が女性よりも大きいものにとらえている傾向がうかがえる。

居住地区別では、真和志地区の「現状維持」を望む割合が高いのが特長である。介護を受けている人数が多い可能性が考えられる。

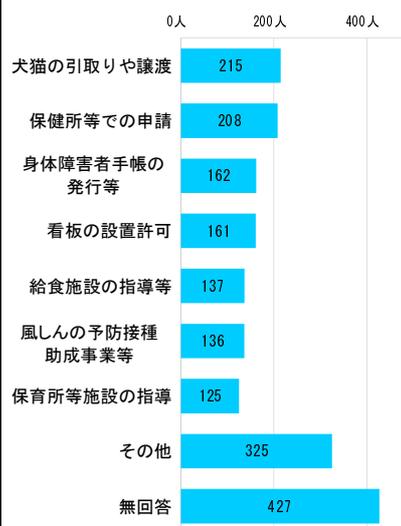
(12) 中核市について

質問 31. 那覇市は平成 25 年 4 月から中核市へ移行しました。様々な業務分野でより市民に身近なサービスの提供に取り組んでいます。那覇市が中核市に移行したことにより行政サービスが向上したと思うサービス内容があれば、あてはまるものをすべてお選びください。その他、ご意見があれば、()の中にご記入ください。

1. 身体障害者手帳の発行等において申請から交付までの期間が短縮された
2. 保育所等施設の指導を市が行うことにより利用者として相談がしやすくなった
3. 風しんの予防接種助成事業等において市の対応が早くなった
4. 保健所等で申請を行う際に住民票などの添付資料を省略することで便利になった
5. 看板の設置の許可が必要なこと等で景観に対する意識が変わった
6. 給食施設の指導等で食中毒に対する意識が高まった
7. 犬猫の引取りや譲渡を市が行うことによって動物愛護に対する関心が高まった
8. その他 ()

行政サービスの中で向上したと思うものは「犬猫の引取りや譲渡」、「保健所等での申請」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	犬猫の引取りや譲渡	215	(11.3%)
2位	保健所等での申請	208	(11.0%)
3位	身体障害者手帳の発行等	162	(8.5%)
4位	看板の設置許可	161	(8.5%)
5位	給食施設の指導等	137	(7.2%)
6位	風しんの予防接種助成事業等	136	(7.2%)
7位	保育所等施設の指導	125	(6.6%)
-	その他	325	(17.2%)
-	無回答	427	(22.5%)
合 計		1,896	(100%)



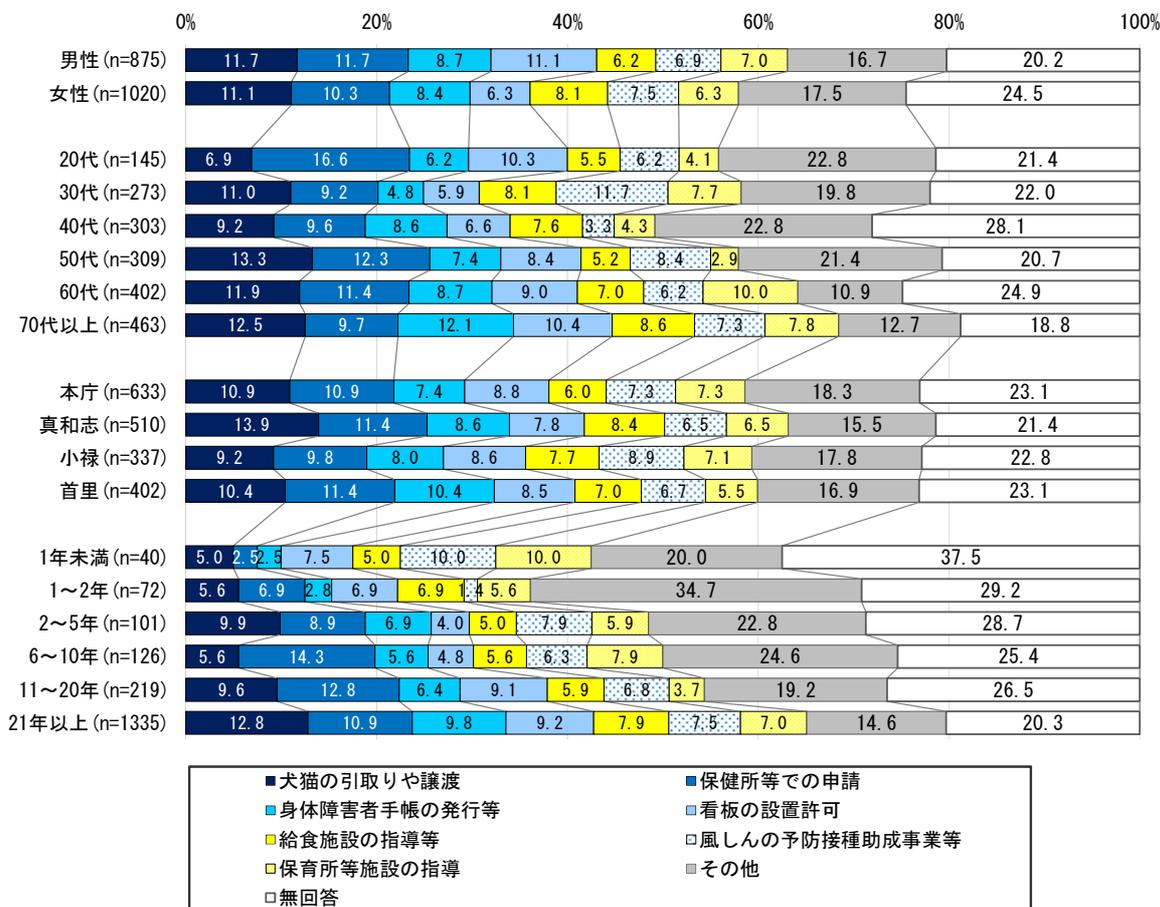
当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

回答した市民が行政サービスの中で向上したと思うものは 1 位が「犬猫の引取りや譲渡」の 215 人、2 位が「保健所等での申請」の 208 人となっている。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目									
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	-	-	
	譲引犬 渡取猫 りのや	で保 の健 申所 請等	発手 行帳 等の 障 害者	設置 看板 の 可	指給 導食 等施 設の	助予 成防 事接 業種 等	風し んの 防 接 種 助 成 事 業 等	施保 設育 の所 指等 導	そ の 他	無 回 答
男性 (n= 875)	102	102	76	97	54	60	61	146	177	
女性 (n= 1,020)	113	105	86	64	83	76	64	179	250	
20代 (n= 145)	10	24	9	15	8	9	6	33	31	
30代 (n= 273)	30	25	13	16	22	32	21	54	60	
40代 (n= 303)	28	29	26	20	23	10	13	69	85	
50代 (n= 309)	41	38	23	26	16	26	9	66	64	
60代 (n= 402)	48	46	35	36	28	25	40	44	100	
70代以上 (n= 463)	58	45	56	48	40	34	36	59	87	
本庁 (n= 633)	69	69	47	56	38	46	46	116	146	
真和志 (n= 510)	71	58	44	40	43	33	33	79	109	
小禄 (n= 337)	31	33	27	29	26	30	24	60	77	
首里 (n= 402)	42	46	42	34	28	27	22	68	93	
1年未満 (n= 40)	2	1	1	3	2	4	4	8	15	
1～2年 (n= 72)	4	5	2	5	5	1	4	25	21	
2～5年 (n= 101)	10	9	7	4	5	8	6	23	29	
6～10年 (n= 126)	7	18	7	6	7	8	10	31	32	
11～20年 (n= 219)	21	28	14	20	13	15	8	42	58	
21年以上 (n= 1,335)	171	146	131	123	105	100	93	195	271	



年代で見ると、20代と50代で「その他」の割合が最も高く、30代、40代、60代以上では「無回答」の割合が最も高くなっている。「その他」と「無回答」を除くと、50代以上では「犬猫の引取りや譲渡」の割合が高く、20代と40代で「保健所等での申請」の割合が高い。30代では「風疹の予防接種助成事業等」に対する割合の高さが注目される。

居住地区別では、1位「犬猫の引取りや譲渡」について、真和志地区の割合が高くなっている。当該地区での問題が多い可能性があると思われる。

「その他」の回答の中に「わからない」がかなりの数含まれていることから、「無回答」も合わせて中核市移行による行政サービス向上を実感できない市民が数多くいることが推定される。

今後、行政サービスの向上を市民が実感できるような取り組みが必要と思われる。

選択肢「その他」の主な内容

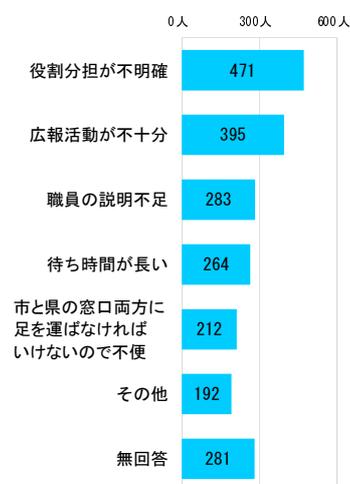
- | | |
|---|----------------|
| ・わからない/特になし(108人) | 男性-30代-本庁地区・他 |
| ・利用したことがないのでわからない(46人) | 女性-40代-本庁地区・他 |
| ・特に感じない(43人) | 男性-20代-真和志地区・他 |
| ・行政サービスの向上は感じられない(27人) | 女性-20代-小祿地区・他 |
| ・中核市が何かわからない(24人) | 男性-40代-首里地区・他 |
| ・サービスの内容やどう変化したのかが不明(19人) | 女性-70代-首里地区・他 |
| ・犬・猫に対する対処(5人) | 女性-70代-本庁地区・他 |
| ・引っ越してきたばかりで以前的那覇市を知らないので変化がわからず(2人) | 女性-20代-首里地区・他 |
| ・対応に不満を感じる(7人) | 女性-60代-本庁地区・他 |
| ・サービスの向上を感じる(7人) | 男性-30代-真和志地区・他 |
| ・子育て支援の行政サービス提供を希望しています | 男性-40代-小祿地区 |
| ・住民票の書類交付手数料を下げる
自動交付機を多くの場所にもうけて、無駄な人件費を削る | 男性-40代-首里地区 |
| ・コンプライアンスを基に声の大きい人を優先的と考えることはやめてほしい | 男性-50代-首里地区 |
| ・Wi-Fiのエリアが拡大されたこと、外国のようにもっとエリアを拡大すべき
外国人の観光客が多いので重宝すると思う、本土より先がけすべき | 女性-20代-首里地区 |

質問 32. 那覇市は中核市に移行しましたが、行政サービスの課題として、あてはまるものをすべてお選びください。

1. 市と県の窓口両方に足を運ばなければならなくなったため不便
2. 市と県や他の機関との役割分担が不明確である
3. 待ち時間が長い
4. 市の職員の説明不足
5. 市の広報活動が不十分である
6. その他 ()

市が取り組むべき行政サービスの課題は、市と県や他の機関との役割分担を明確にすること。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	市と県や他の機関との役割分担が不明確	471	(22.4%)
2位	市の広報活動が不十分	395	(18.8%)
3位	市の職員の説明不足	283	(13.5%)
4位	待ち時間が長い	264	(12.6%)
5位	市と県の窓口両方に足を運ばなければならなかったため不便	212	(10.1%)
-	その他	192	(9.2%)
-	無回答	281	(13.4%)
合 計		2,098	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

回答した市民が行政サービスの課題として感じているのは、1位が「市と県や他の機関との役割分担が不明確」の471人、2位が「市の広報活動が不十分」の395人となっている。

質問 31 での「無回答」427人、「その他」325人（そのうち「わからない」197人）にもかかわらず、ここでの有意回答が増えている点に注目したい。設問で求めている内容は、「中核市移行にかかる行政サービス」についてだが、そのように理解されることなく、行政サービス全般についての評価を確認しているものと解釈されたと思われる。従って、意図した設問にこだわらず、行政サービスについて、市民からの課題意識として捉えることが必要と考える。

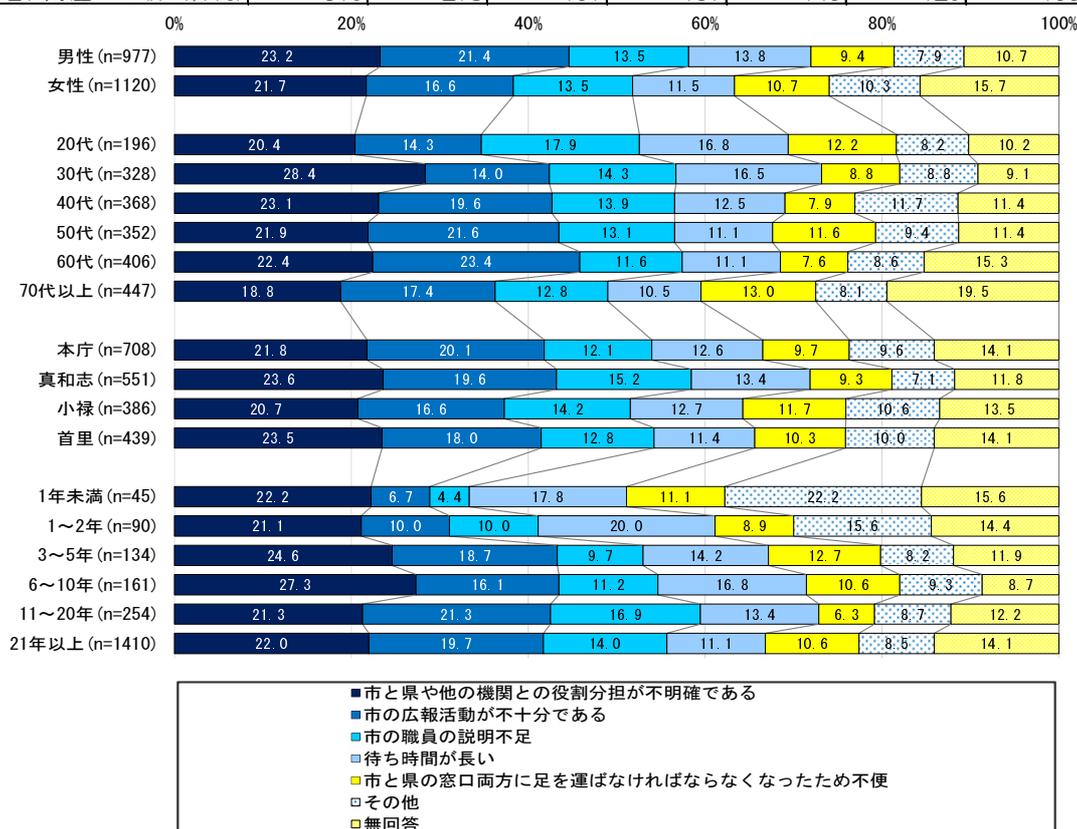
選択肢「その他」の主な内容

- ・特になし/わからない/実感なし/変化を感じない(107人)
- ・中核市自体不明/理解していない(15人)
- ・市の職員の対応やサービスについて不満(20人)
- ・回答 1～5 全部(7人)
- ・駐車場(5人)
- ・中核市になっても向上変化を感じない(3人)
- ・役所が土・日も利用できたら良いと思う(2人)
- ・よくなっている

- 男性-30代-本庁地区・他
- 男性-70代-本庁地区・他
- 女性-60代-本庁地区・他
- 女性-20代-本庁地区・他
- 女性-60代-本庁地区・他
- 男性-40代-小禄地区・他
- 女性-40代-首里地区・他
- 男性-50代-本庁地区

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)	1位	2位	3位	4位	5位	-	-
	不役他市 明割のと 確分機関や 担関との	が市 不の 十広 分報 活動	説市 明の 職不 足員 の	長待 いち 時間 が	不な運両市 便らば方と ななに足の いけ足の窓 たれを口 めば	そ の 他	無 回 答
男性 (n= 977)	227	209	132	135	92	77	105
女性 (n= 1,120)	243	186	151	129	120	115	176
20代 (n= 196)	40	28	35	33	24	16	20
30代 (n= 328)	93	46	47	54	29	29	30
40代 (n= 368)	85	72	51	46	29	43	42
50代 (n= 352)	77	76	46	39	41	33	40
60代 (n= 406)	91	95	47	45	31	35	62
70代以上 (n= 447)	84	78	57	47	58	36	87
本庁 (n= 708)	154	142	86	89	69	68	100
真和志 (n= 551)	130	108	84	74	51	39	65
小禄 (n= 386)	80	64	55	49	45	41	52
首里 (n= 439)	103	79	56	50	45	44	62
1年未満 (n= 45)	10	3	2	8	5	10	7
1~2年 (n= 90)	19	9	9	18	8	14	13
3~5年 (n= 134)	33	25	13	19	17	11	16
6~10年 (n= 161)	44	26	18	27	17	15	14
11~20年 (n= 254)	54	54	43	34	16	22	31
21年以上 (n= 1,410)	310	278	197	157	149	120	199



年代別にみると、20代～50代で「市と県や他の機関との役割分担が不明確である」という回答の割合が高く、60代では「市の広報活動が不十分である」の割合が高くなっている。中核市に移行して前出の質問のように改善された行政サービスがある一方で、課題も残っていることから、中核市に移行して行政サービスが向上したと市民が実感できるような取り組みが必要と思われる。

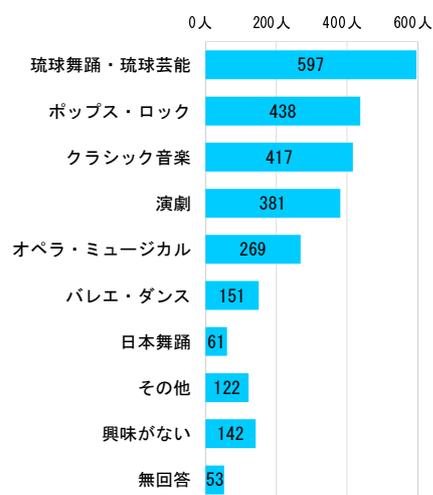
(13) 文化・芸術について

質問 33. あなたはどんな文化・芸術に興味がありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. クラシック音楽 2. オペラ・ミュージカル 3. ポップス・ロック
 4. 演劇 5. バレエ・ダンス 6. 琉球舞踊・琉球芸能 7. 日本舞踊
 8. その他 () 9. 文化・芸術に興味がない

市民が特に興味をもっている文化・芸術は「琉球舞踊・琉球芸能」「ポップス・ロック」。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	琉球舞踊・琉球芸能	597	(22.7%)
2位	ポップス・ロック	438	(16.6%)
3位	クラシック音楽	417	(15.9%)
4位	演劇	381	(14.5%)
5位	オペラ・ミュージカル	269	(10.2%)
6位	バレエ・ダンス	151	(5.8%)
7位	日本舞踊	61	(2.3%)
-	その他	122	(4.6%)
-	文化・芸術に興味がない	142	(5.4%)
-	無回答	53	(2.0%)
合 計		2,631	(100%)



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

回答した市民が興味を持っている文化・芸術は、1位は「琉球舞踊・琉球芸能」の597人、2位は「ポップス・ロック」の438人となっている。

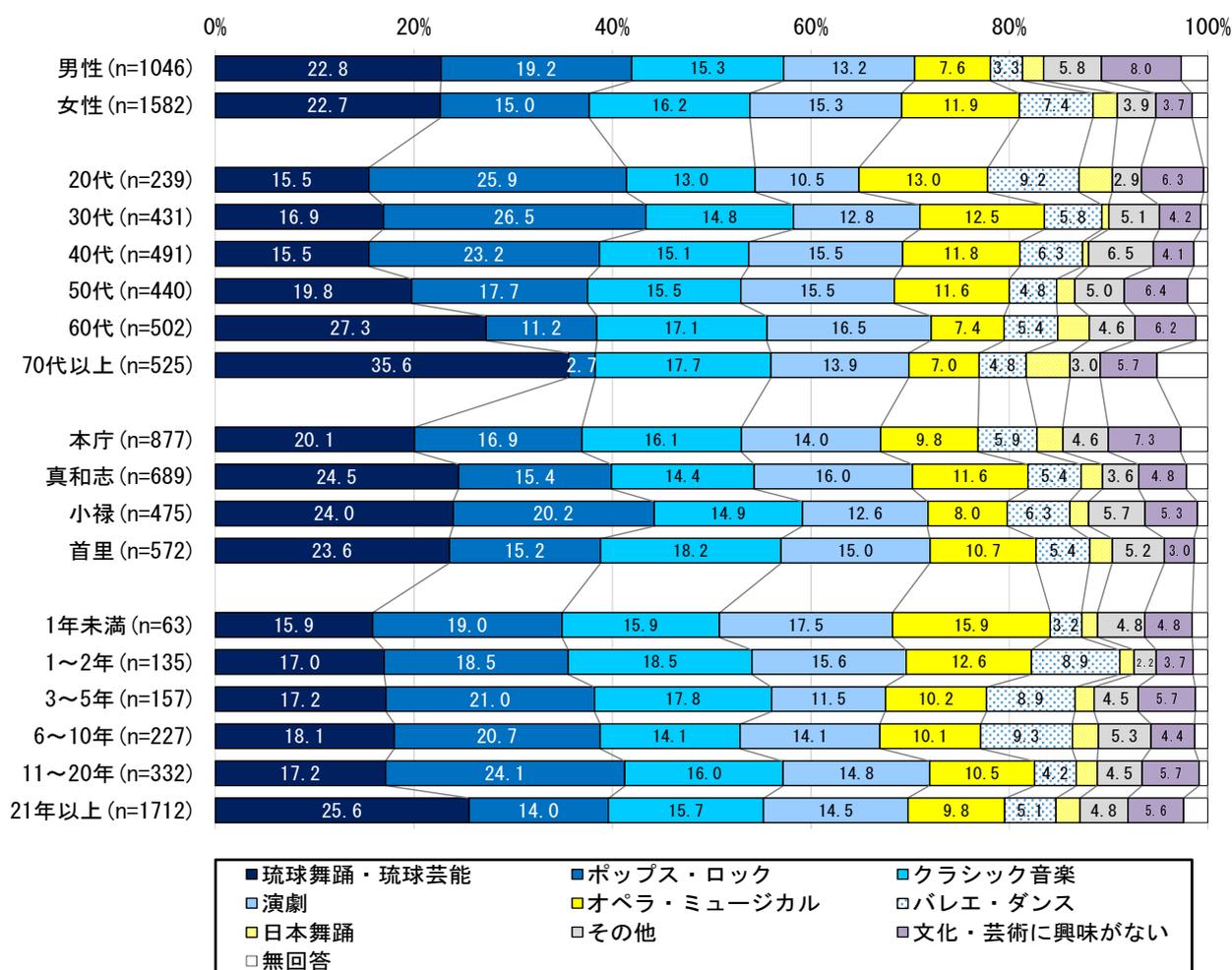
伝統芸能、伝統文化定着の強さを示す結果になったと考える。

選択肢「その他」の主な内容

- ・絵/美術/写真/映像/映画(35人)
 - ・空手/格闘技(8人)
 - ・工芸/焼き物/やちむんアート(10人)
 - ・落語/歌舞伎・舞台(8人)
 - ・三味線/エイサー/紅型・染物/旗頭/伝統の継続(9人)
 - ・語学・英会話(4人)
 - ・ハワイアンフラ・コンサート(3人)
 - ・お笑い(2人)
 - ・楽器演奏/演歌/歌謡曲/音楽関連/ジャズ(18人)
 - ・哲学/科学(2人)
 - ・書道/華道(2人)
- 女性-40代-小祿地区・他
 男性-40代-首里地区・他
 男性-70代-真和志地区・他
 女性-40代-本庁地区・他
 男性-60代-真和志地区・他
 女性-50代-小祿地区・他
 女性-60代-首里地区・他
 男性-30代-小祿地区・他
 男性-50代-真和志地区・他
 男性-60代-真和志地区・他
 女性-70代-首里地区・他

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	-	-	-
	・琉球舞踊 ・琉球芸能	・ポップス ・ロック	音楽 クラシック	演劇	ミオ ペラ ・ミュージ カル	・バレエ ・ダンス	日本舞踊	その他	興味が ない	文化・ 芸術に 興味がない
男性 (n= 1,046)	238	201	160	138	80	34	22	61	84	28
女性 (n= 1,582)	359	237	256	242	188	117	39	61	58	25
20代 (n= 239)	37	62	31	25	31	22	8	7	15	1
30代 (n= 431)	73	114	64	55	54	25	3	22	18	3
40代 (n= 491)	76	114	74	76	58	31	3	32	20	7
50代 (n= 440)	87	78	68	68	51	21	8	22	28	9
60代 (n= 502)	137	56	86	83	37	27	16	23	31	6
70代以上 (n= 525)	187	14	93	73	37	25	23	16	30	27
本庁 (n= 877)	176	148	141	123	86	52	23	40	64	24
真和志 (n= 689)	169	106	99	110	80	37	15	25	33	15
小禄 (n= 475)	114	96	71	60	38	30	9	27	25	5
首里 (n= 572)	135	87	104	86	61	31	13	30	17	8
1年未満 (n= 63)	10	12	10	11	10	2	1	3	3	1
1~2年 (n= 135)	23	25	25	21	17	12	2	3	5	2
3~5年 (n= 157)	27	33	28	18	16	14	3	7	9	2
6~10年 (n= 227)	41	47	32	32	23	21	6	12	10	3
11~20年 (n= 332)	57	80	53	49	35	14	7	15	19	3
21年以上 (n= 1,712)	438	240	268	249	167	88	42	82	96	42



※「日本舞踊」は数値を表示していない

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

性別で分析すると、「琉球舞踊・琉球芸能」と「ポップス・ロック」の差が男性ではかなり接近する。

年代別分析では、年代が上がるにつれて「琉球舞踊・琉球芸能」の比率が高まり、逆に年代が下がるにつれて、「ポップス・ロック」の比率が高くなって逆転している。それでも20代～40代での「琉球舞踊・琉球芸能」に対する比率に大きな差はなく、「琉球舞踊・琉球芸能」の根強い定着を示すものと思われる。

地区別でも大きな差はないが、本庁地区の「琉球舞踊・琉球芸能」に対する低さと小禄地区の「ポップス・ロック」の高さは、注目される傾向であろう。

最後に居住年数の差による分析では、21年以上で「琉球舞踊・琉球芸能」の比率が最も高くなっている。20年以下で「ポップス・ロック」の比率が最も高くなっている。1～2年、3～5年、6～10年では他より「バレエ・ダンス」の比率が高くなっている。

すべての年代において約5%が「文化・芸術に興味がない」と回答している。

(14) 消防行政について

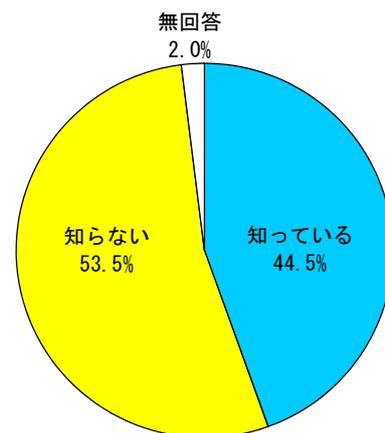
質問 34. 那覇市は平成 25 年 3 月から那覇市内ほぼ全てのコンビニエンスストアに AED を設置する、「那覇市コンビニ AED ステーション設置事業」を開始しましたがご存知ですか。

1. 知っている

2. 知らない

「那覇市コンビニ AED ステーション設置事業」を知っている市民は、44.5%。

選択項目	回答数	(%)
知っている	633	(44.5%)
知らない	761	(53.5%)
無回答	28	(2.0%)
合計	1,422	(100%)



那覇市内のコンビニエンスストアに AED を設置する「那覇市コンビニ AED ステーション設置事業」を知っている市民は、44.5%、知らない市民は、53.5%となっている。



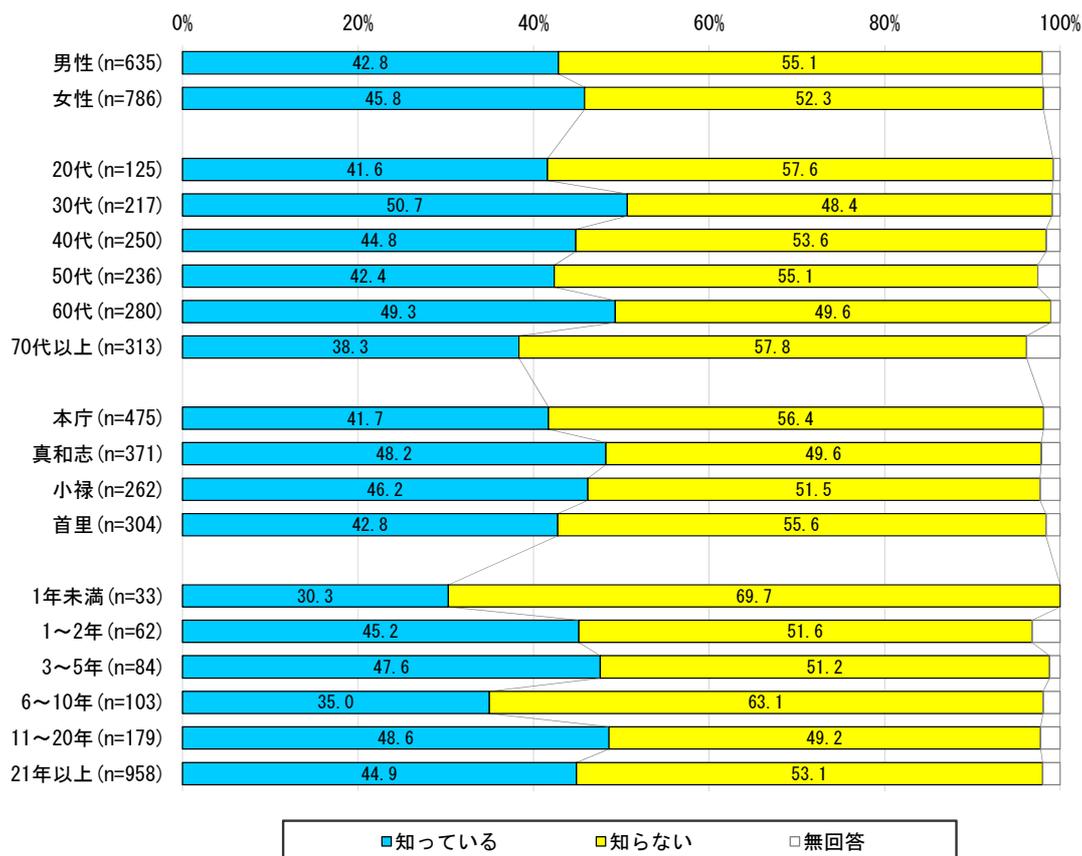
当該事業は、「市民の安心・安全を守る」という点からも、より多くの市民に周知されることが重要であり、積極的な PR をさらに進めるべきと考える。

「コンビニエンスストアにある」ことを市民に知らせるため、コンビニでの広報活動など市民の「知っている」を増やす工夫が必要と思われる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目		知っている	知らない	無回答
回答者属性 (n=合計)				
男性	(n= 635)	272	350	13
女性	(n= 786)	360	411	15
20代	(n= 125)	52	72	1
30代	(n= 217)	110	105	2
40代	(n= 250)	112	134	4
50代	(n= 236)	100	130	6
60代	(n= 280)	138	139	3
70代以上	(n= 313)	120	181	12
本庁	(n= 475)	198	268	9
真和志	(n= 371)	179	184	8
小祿	(n= 262)	121	135	6
首里	(n= 304)	130	169	5
1年未満	(n= 33)	10	23	0
1～2年	(n= 62)	28	32	2
3～5年	(n= 84)	40	43	1
6～10年	(n= 103)	36	65	2
11～20年	(n= 179)	87	88	4
21年以上	(n= 958)	430	509	19



年代別にみると、30代、60代では「知っている」という回答の割合が5割近くと高く、それ以外の年代では4割台にとどまっている。

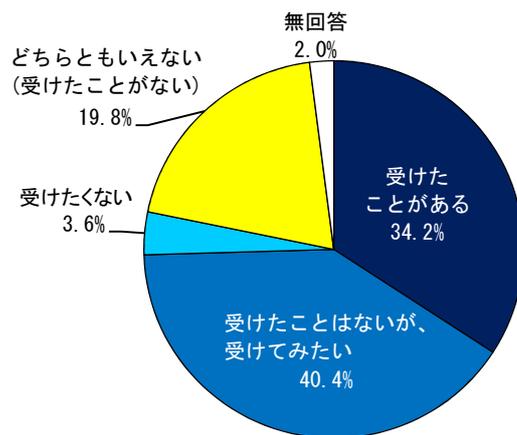
居住年数別では、特に1年未満、6～10年で「知らない」と回答した割合が高くなっている。地区別では大きな差は見られないが、若干の差はコンビニの数が影響している可能性がある。

質問 35. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。

- 1. 受けたことがある
- 2. 受けたことはないが、受けてみたい
- 3. 受けたくない
- 4. どちらともいえない(受けたことがない)

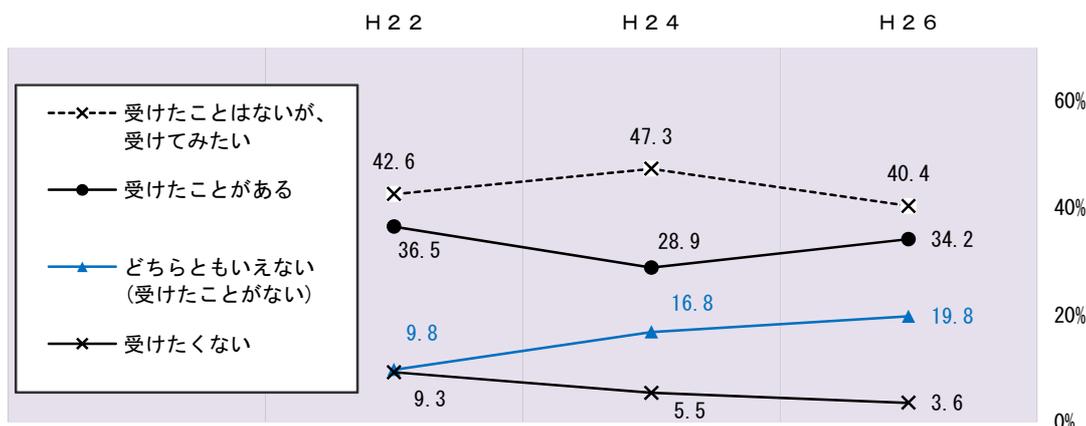
応急手当の講習を「受けたことがある」市民は 34.2%、「受けてみたい」市民が 40.4%。

選択項目	回答数	(%)
受けたことがある	486	(34.2%)
受けたことはないが、受けてみたい	574	(40.4%)
受けたくない	52	(3.6%)
どちらともいえない(受けたことがない)	281	(19.8%)
無回答	29	(2.0%)
合 計	1,422	(100%)



応急手当の講習については、「受けたことがある」と回答した市民が 34.2%、「受けたことはないが受けてみたい」と回答した市民が 40.4%と、市民の約 7 割は、心肺蘇生法及び AED の講習に対して意欲的である。

経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 26 年度）



H22 調査の選択肢「受けたこともないし、受けたいとも思わない」を今回調査の選択肢「受けたくない」に置き換えて比較を行った。

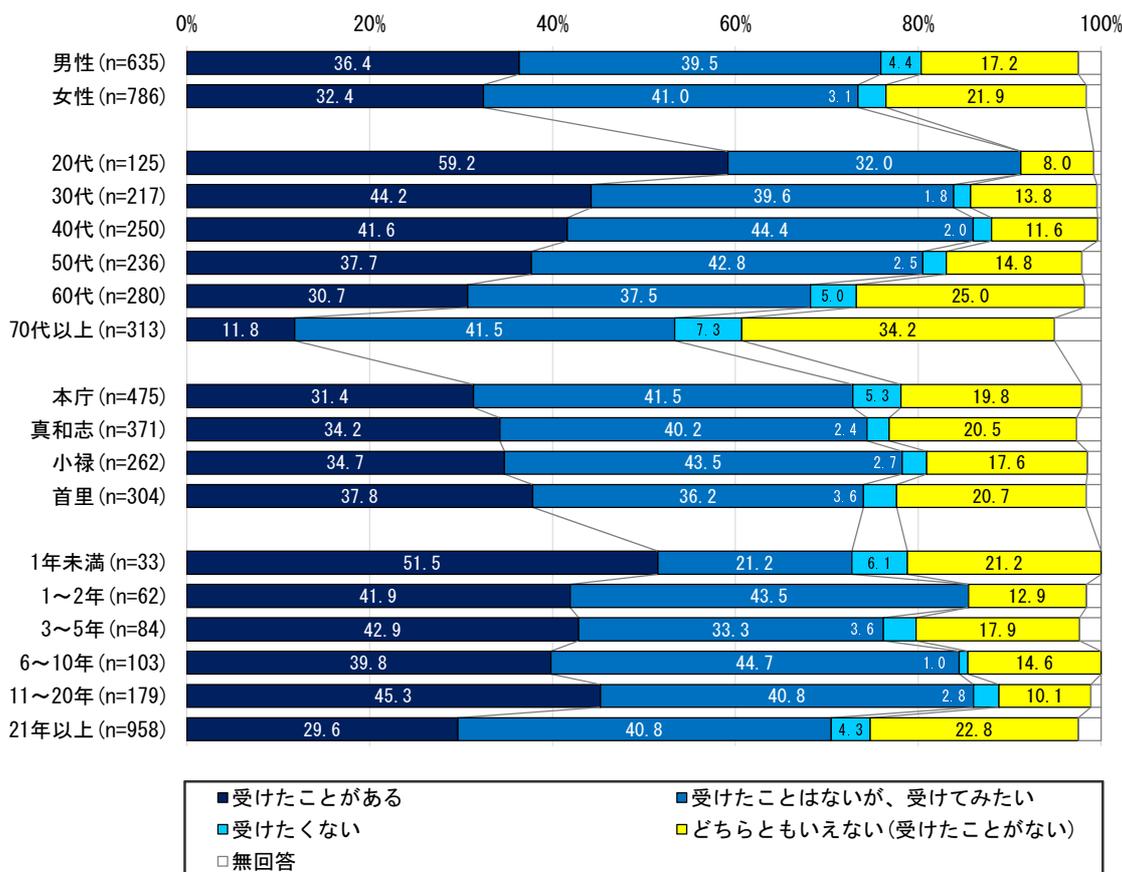
「受けたことがある」と回答した市民は 5.3 ポイント増加しているが、「受けてみたい」が 6.9 ポイント、「受けたくない」が 1.7 ポイント減少している。

今回 3 ポイント増加している「どちらともいえない」を「受けてみたい」へ移行させていくためには、市民への心肺蘇生法及び AED の講習の意図、目的を周知させる取り組みが必要と考えられる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	が受けたこと	受けてみたい	受けたくない	どちらでもない(受けたことがない)	無回答
男性 (n= 635)		231	251	28	109	16
女性 (n= 786)		255	322	24	172	13
20代 (n= 125)		74	40	0	10	1
30代 (n= 217)		96	86	4	30	1
40代 (n= 250)		104	111	5	29	1
50代 (n= 236)		89	101	6	35	5
60代 (n= 280)		86	105	14	70	5
70代以上 (n= 313)		37	130	23	107	16
本庁 (n= 475)		149	197	25	94	10
真和志 (n= 371)		127	149	9	76	10
小祿 (n= 262)		91	114	7	46	4
首里 (n= 304)		115	110	11	63	5
1年未満 (n= 33)		17	7	2	7	0
1~2年 (n= 62)		26	27	0	8	1
3~5年 (n= 84)		36	28	3	15	2
6~10年 (n= 103)		41	46	1	15	0
11~20年 (n= 179)		81	73	5	18	2
21年以上 (n= 958)		284	391	41	218	24



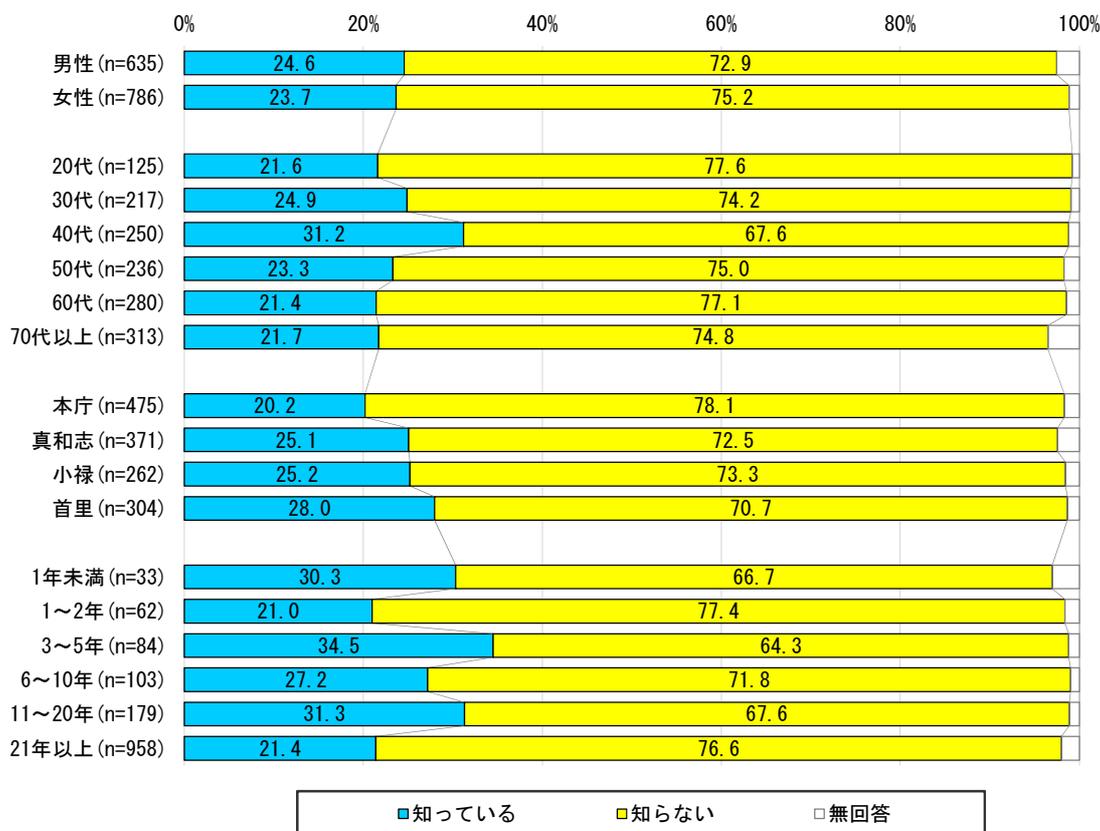
年代別では、若い世代ほど受講経験の割合は高く、年代が高くなるに従って、「受けたくない」「どちらともいえない」市民の割合は高くなる傾向がある。

受講を希望している割合は前回調査より低下しているが、受講した割合は増加している。機会提供の拡充や受講しやすい環境づくりなどの工夫を継続することが求められているものとする。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)		知っている	知らない	無回答
男性	(n= 635)	156	463	16
女性	(n= 786)	186	591	9
20代	(n= 125)	27	97	1
30代	(n= 217)	54	161	2
40代	(n= 250)	78	169	3
50代	(n= 236)	55	177	4
60代	(n= 280)	60	216	4
70代以上	(n= 313)	68	234	11
本庁	(n= 475)	96	371	8
真和志	(n= 371)	93	269	9
小祿	(n= 262)	66	192	4
首里	(n= 304)	85	215	4
1年未満	(n= 33)	10	22	1
1～2年	(n= 62)	13	48	1
3～5年	(n= 84)	29	54	1
6～10年	(n= 103)	28	74	1
11～20年	(n= 179)	56	121	2
21年以上	(n= 958)	205	734	19



年代別で見ると 40 代で「知っている」と回答した割合が他の年代より高くなっているが、全ての年代で約 7～8 割が「知らない」と回答しており、性別、年代別、居住年数別のいずれも全体的に認知度が低い状況である。

質問 36-1. 「知っている」と答えた方にお聞きします。それはどちらで入手、またはご覧になりましたか？あてはまるものをすべてお選び下さい。

- 1. 「なは市民の友」の折り込み
- 2. 本市関係機関の窓口
- 3. 小学校からの配布
- 4. 公民館・図書館等

那覇市上下水道広報誌「なはの水」は「なは市民の友の折り込み」から入手している市民が多い。

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	「なは市民の友」の折り込み	260	(68.1%)
2位	本市関係機関の窓口	70	(18.3%)
3位	公民館・図書館等	35	(9.2%)
4位	小学校からの配布	14	(3.7%)
-	無回答	3	(0.7%)
合 計		382	(100%)

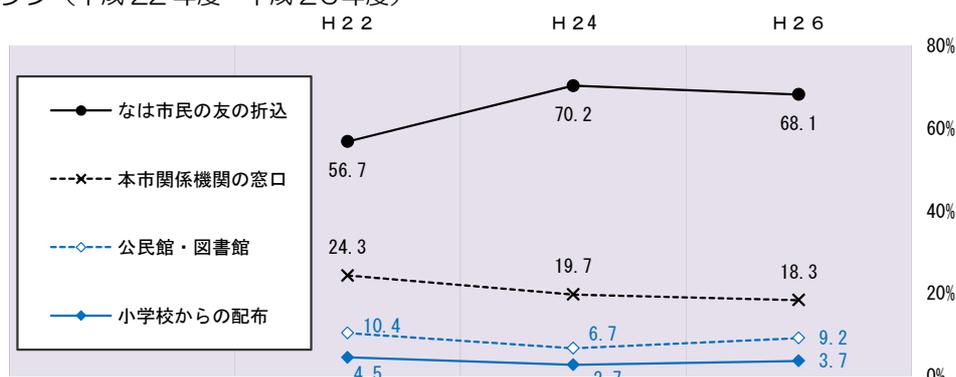


当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

広報誌「なはの水」の入手・閲覧先について最も多かった回答が「なは市民の友の折り込み」の260人で、次いで「本市関係機関の窓口」の70人、「公民館・図書館等」の35人となっている。

割合で見ると約7割の市民は「なは市民の友の折り込み」で「なはの水」を認識している。

経年変化グラフ（平成22年度～平成26年度）



情報源として最も多い「なは市民の友の折り込み」は2.1ポイント減少しており、次いで「本市関係機関の窓口」も1.4ポイント減少している。「公民館・図書館」は2.5ポイント、「小学校からの配布」は1.0ポイントとわずかに増加している。

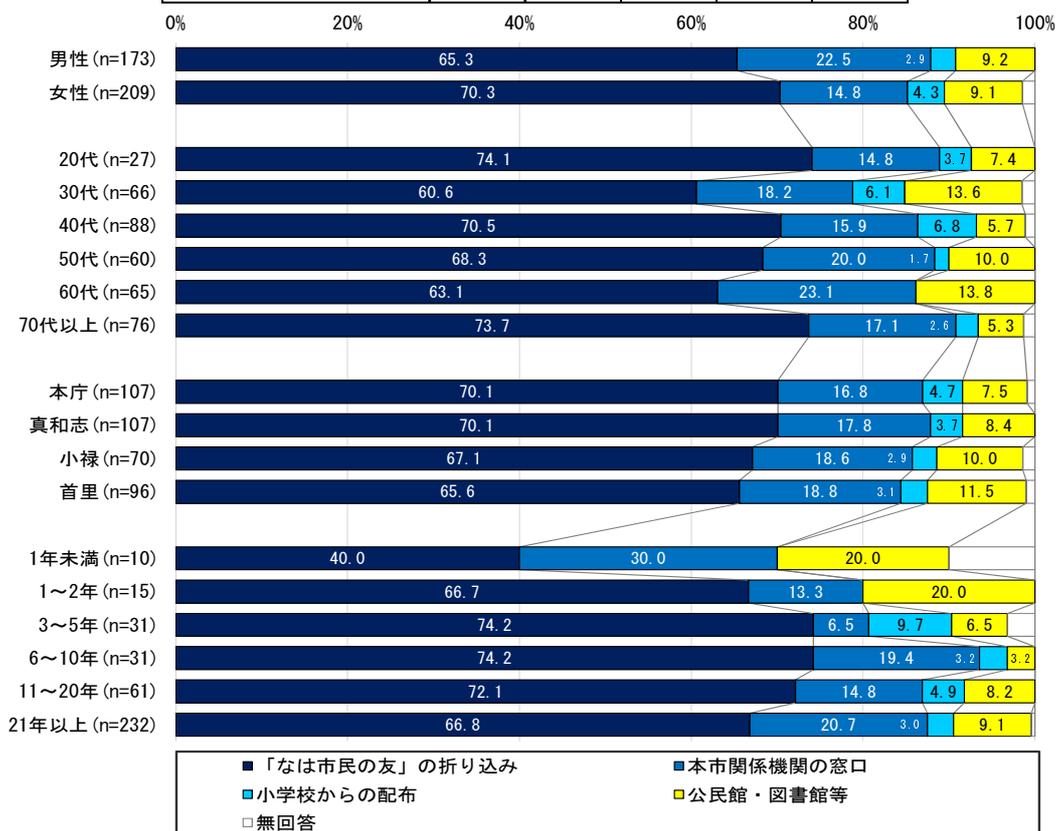
広報誌「なはの水」については従前から指摘されているとおり、「なは市民の友」の折り込みと合わせて入手されるため、「なは市民の友」の一部と混同されていると思われる。

それは質問12での認識との差が大きいことから推察される。今後は「小学校からの配布」「公民館・図書館等」公的機関の効果的な利用、そして各戸配布手法の検討も必要と思われる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	折のり友なはみ市民	機本市関係窓口	か小の校配布	図公書民館等	無回答
男性 (n= 173)	113	39	5	16	0
女性 (n= 209)	147	31	9	19	3
20代 (n= 27)	20	4	1	2	0
30代 (n= 66)	40	12	4	9	1
40代 (n= 88)	62	14	6	5	1
50代 (n= 60)	41	12	1	6	0
60代 (n= 65)	41	15	0	9	0
70代以上 (n= 76)	56	13	2	4	1
本庁 (n= 107)	75	18	5	8	1
真和志 (n= 107)	75	19	4	9	0
小祿 (n= 70)	47	13	2	7	1
首里 (n= 96)	63	18	3	11	1
1年未満 (n= 10)	4	3	0	2	1
1～2年 (n= 15)	10	2	0	3	0
3～5年 (n= 31)	23	2	3	2	1
6～10年 (n= 31)	23	6	1	1	0
11～20年 (n= 61)	44	9	3	5	0
21年以上 (n= 232)	155	48	7	21	1



すべての年代で「なは市民の友の折り込み」の割合が高く、次いで「本市関係機関の窓口」となっている。30代、50代、60代では「公民館・図書館等」の割合が他の年代より高くなっている。また、30代、40代では「小学校からの配布」の割合が他の年代より高くなっていることから、小学生の子を持つ親世代が多いため、他の年代より割合が高くなっていると思われる。

関連して、「なはの水」についての認識を高めるため、積極的に注目を集める記事等の工夫も必要と思われる。

V. 総合計画の指標調査結果

V. 総合計画の指標調査結果

施策体系別の20の指標についての調査結果は、以下のとおりである。なお、指標目標数値は、「わからない」や「無回答」の影響を考慮して設定されていないので、ここでは、その影響を受ける場合（以下「全回答」という）と、その影響を除いた場合（以下、「有意回答」という）について分けて検証を行っている。

報告書の見方について

V. 総合計画の指標調査結果

(1) まちづくり活動に参加している市民の割合（指標番号2）

施策体系
 都市環境 心地よいつながりてくる自治・協働・半和都市
 政策 協働によるまちづくり
 施策 自治会やNPO、ボランティアが活躍できる機会を造り出す

① 質問 37. あなたは、行政や自治会、PTA等が行うまちづくり活動に参加したことがありますか
 1. よく参加している 2. 参加したことがある 3. 参加したことがない 4. わからない

② 【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
よく参加している	62人 (4.4%)	389人 (30.9%)	2012年目標値 (30.0%)
参加したことがある	327人 (23.0%)		
参加したことがない	868人 (61.0%)	868人 (69.1%)	1 (50.0%)
無回答	14人 (1.0%)		2017年目標値
わからない	24人 (1.7%)		
無回答	1,422人 (100%)		

③

参加したことがない 61.0%
 よく参加している 4.4%
 参加したことがある 23.0%
 無回答 1.7%
 わからない 9.9%

まちづくり活動に参加したことがある市民は、全回答で27.4%、有意回答で30.9%となっている。前回調査から全回答で7.4ポイント、有意回答で6.2ポイント減少しており、2008年（H20）からの低下傾向にまったく歯止めがかかっていない。自治会加入率の低下がある一方で2017年の「めざそう値」を達成するには、基本的な取り組みを再行し、市民参加促進策の取り組みが強く求められる。

④

2008年 (H20) 43.7%
 2010年 (H22) 37.2%
 2012年 (H24) 37.1%
 2014年 (H26) 30.9%
 2017年 (H29) 27.4%
 2012年目標値 30%
 2017年目標値 50%

- 124 -

V. 総合計画の指標調査結果

まちづくり活動に参加したことがある市民は 27.4%(有意回答は 30.9%)で、有意回答では2012年の「めざそう値」を達成している。しかし、低下傾向に歯止めがかかっていない。2017年の「めざそう値」を達成するためには、根本的な取り組みが強く求められる。

【今後の課題】
 「めざそう値」達成の課題理解のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有前回答のみで割合を算出した。

⑤ 性別集計・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	よく参加している	参加したことがある	参加したことがない
男性 (n=558)	171	387	
女性 (n=688)	218	480	
20代 (n=104)	13	91	
30代 (n=157)	31	156	
40代 (n=221)	69	152	
50代 (n=206)	74	131	
60代 (n=259)	80	179	
70代以上 (n=282)	122	159	
本庁 (n=418)	118	300	
真光区 (n=331)	103	228	
川原 (n=231)	62	169	
島原 (n=270)	104	166	
1年未満 (n=29)	3	26	
1～2年 (n=58)	6	52	
3～5年 (n=67)	9	58	
6～10年 (n=91)	23	68	
11～20年 (n=156)	44	112	
21年以上 (n=853)	304	549	

⑥

性別別: 男性 20.0%, 女性 31.8%
 年代別: 20代 12.5%, 30代 19.7%, 40代 28.1%, 50代 33.5%, 60代 30.9%, 70代以上 43.6%
 居住地別: 本庁 28.2%, 真光区 31.1%, 小津 28.8%, 島原 38.5%
 居住年数別: 1～2年 10.3%, 3～5年 13.4%, 6～10年 25.0%, 11～20年 28.2%, 21年以上 35.7%

男女で有意の差はみられないが、年代別では若年者ほど参加の割合が低くなる傾向にある。居住年数別においては、居住期間が短いほど参加が少なくなる傾向にある。居住地区別みると、祭りや文化遺産のある真光地区の参加割合が高く、転出入者の割合が高いとされる小津地区が低い。年代では20～30代、居住年数別では新転入者へ呼びかけを強める必要がある。また、地域でのイベント等のオープン化も有効と考えられるので、積極的な開催と参加呼びかけが求められる。

- 125 -

- ① 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載
- ② ①の質問に関し、回答数の集計及び「めざそう値」を掲載
- ③ ①の質問に関する、回答数の集計グラフを掲載
- ④ 調査開始～H26までの、指標「めざそう値」の達成状況の経年変化グラフを掲載
- ⑤ ①の質問に関する回答を、属性（性別、年代、居住地区、居住年数）別に集計し掲載
- ⑥ ⑤において集計した結果を棒グラフにて掲載

V. 総合計画の指標調査結果

(1) まちづくり活動に参加している市民の割合（指標番号 2）

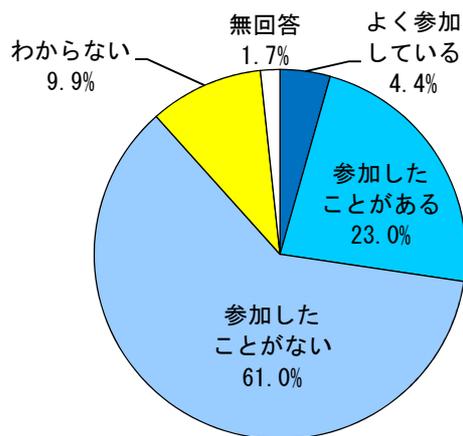
政策体系
 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 協働によるまちづくり
 施策 自治会やNPO、ボランティアが活躍できる機会を増やす

質問 37. あなたは、行政や自治会、PTA等が行うまちづくり活動に参加したことがありますか

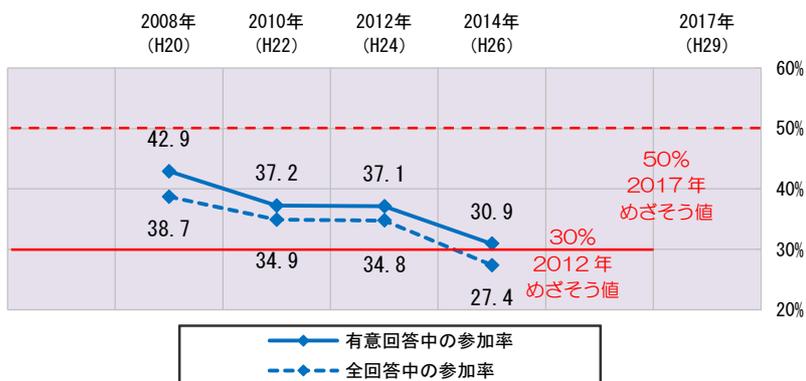
1. よく参加している 2. 参加したことがある 3. 参加したことがない 4. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
よく参加している	62人 (4.4%)	389人 (30.9%)	2012年目標値 (30.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
参加したことがある	327人 (23.0%)		
参加したことがない	868人 (61.0%)		
有意回答 計	1,257人 (88.4%)	1,257人 (100%)	
わからない	141人 (9.9%)	-	
無回答	24人 (1.7%)		
合計	1,422人 (100%)		



まちづくり活動に参加したことがある市民は、全回答で27.4%、有意回答で30.9%となっている。前回調査から全回答で7.4ポイント、有意回答で6.2ポイント減少しており、2008年（H20）からの低下傾向にまったく歯止めがかかっていない。自治会加入率の低下がある一方で2017年の「めざそう値」を達成するには、抜本的な取り組みを行い、市民参加を促す取り組みが強く求められている。



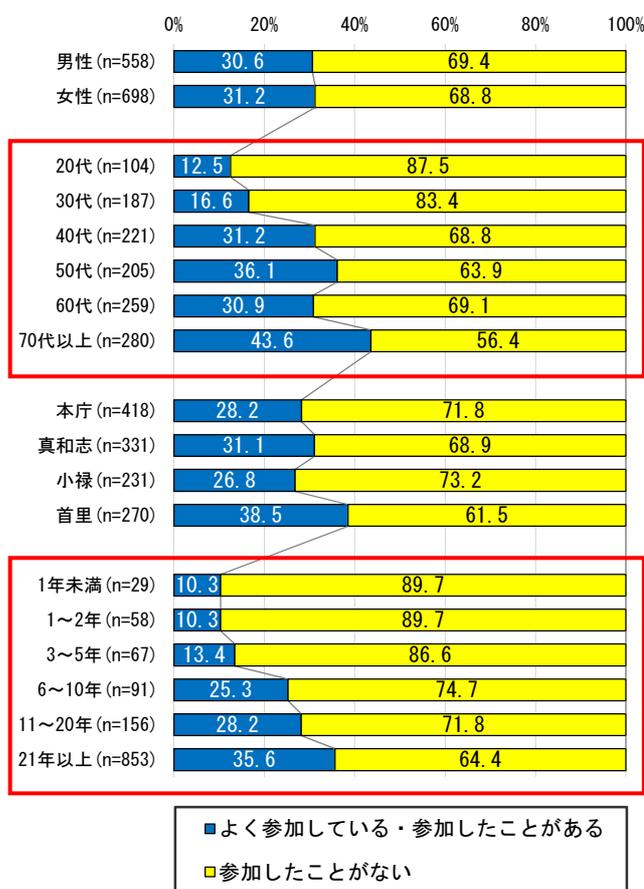
まちづくり活動に参加したことがある市民は 27.4%(有意回答は 30.9%)で、有意回答ではでは 2012 年の「めざそう値」を達成している。しかし、低下傾向に歯止めがかかっていない。2017 年の「めざそう値」を達成するためには、抜本的な取り組みが強く求められる。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)		選択項目	とるよ が・く あ参参 る加加 したて こい	な参 い加 したこ とが
男性	(n= 558)		171	387
女性	(n= 698)		218	480
20代	(n= 104)		13	91
30代	(n= 187)		31	156
40代	(n= 221)		69	152
50代	(n= 205)		74	131
60代	(n= 259)		80	179
70代以上	(n= 280)		122	158
本庁	(n= 418)		118	300
真和志	(n= 331)		103	228
小禄	(n= 231)		62	169
首里	(n= 270)		104	166
1年未満	(n= 29)		3	26
1~2年	(n= 58)		6	52
3~5年	(n= 67)		9	58
6~10年	(n= 91)		23	68
11~20年	(n= 156)		44	112
21年以上	(n= 853)		304	549



男女で有意の差はみられないが、年代別では若年者ほど参加の割合が低くなる傾向にある。

居住年数別においては、居住期間が短いほど参加が少なくなる傾向にある。

居住地区別にみると、祭りや文化遺産のある首里地区の参加割合が高く、転出入者の割合が高いとされる小禄地区が低い。

年代では 20~30 代、居住年数別では新規転入者へ呼びかけを強めることが必要である。また、地域でのイベント等のオープン化も有効と考えられるので、積極的な開催と参加呼びかけが求められる。

V. 総合計画の指標調査結果

(2) 市政運営に対する満足度（指標番号 4）

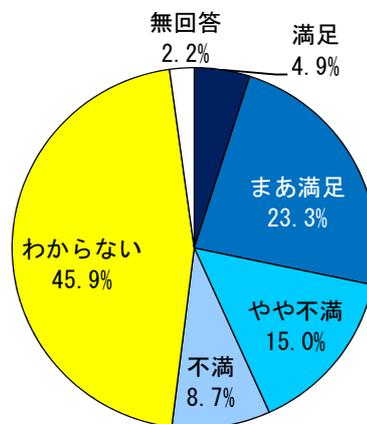
政策体系 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 協働によるまちづくり
 施策 市民の声がまちづくりに反映させる仕組みをつくる

質問 38. 市民の声を行政に反映するしくみづくりについて、あなたはごどう思いますか。

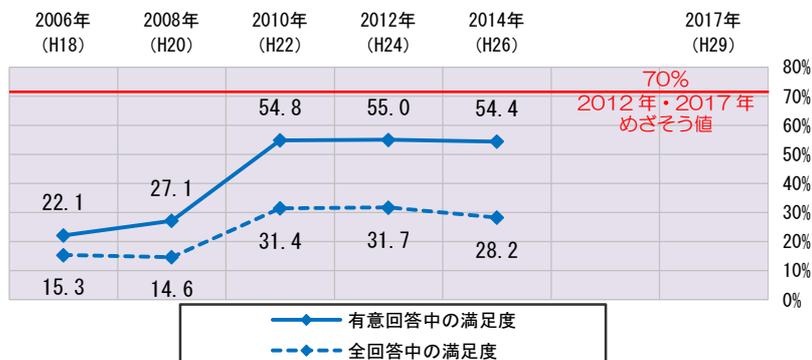
1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	70人 (4.9%)	402人 (54.4%)	2012年目標値 (70.0%) ↓ (70.0%) 2017年目標値
まあ満足	332人 (23.3%)		
やや不満	213人 (15.0%)		
不満	124人 (8.7%)		
有意回答 計	739人 (51.9%)	739人 (100%)	
わからない	652人 (45.9%)	-	
無回答	31人 (2.2%)		
合計	1,422人 (100%)		



市政運営について「満足」「まあ満足」と回答した市民は、全回答で28.2%、有意回答で54.4%となっており、2012年の「めざそう値」70%を達成していない。前回調査から全回答で3.5ポイント、有意回答で0.6ポイント減少している。2017年の「めざそう値」を達成するためには、不満の理由を洗い出して、改善に取り組む必要がある。2008年から2010年の変化は、そのような取り組みの有効性を示すものと考えられる。



市政運営に対する満足度は、28.2%(有意回答で 54.4%)で、2012 年の「めざそう値」70%を達成していない。

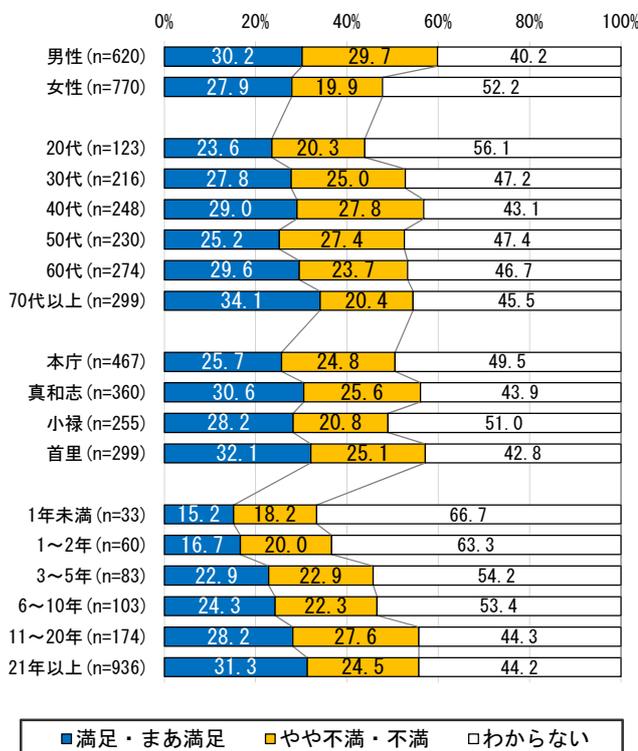
2017 年に「めざそう値」を達成するためには、市民の市政参加を促し、市政運営に興味を抱く取り組みが必要である。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)	満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性 (n= 620)	187	184	249
女性 (n= 770)	215	153	402
20代 (n= 123)	29	25	69
30代 (n= 216)	60	54	102
40代 (n= 248)	72	69	107
50代 (n= 230)	58	63	109
60代 (n= 274)	81	65	128
70代以上 (n= 299)	102	61	136
本庁 (n= 467)	120	116	231
真和志 (n= 360)	110	92	158
小祿 (n= 255)	72	53	130
首里 (n= 299)	96	75	128
1年未満 (n= 33)	5	6	22
1~2年 (n= 60)	10	12	38
3~5年 (n= 83)	19	19	45
6~10年 (n= 103)	25	23	55
11~20年 (n= 174)	49	48	77
21年以上 (n= 936)	293	229	414



すべての属性で「わからない」と回答した割合が最も高くなっている。

性別でみると、男性は女性より「満足・まあ満足」が2.3ポイント高く、「やや不満・不満」も9.8ポイント高くなっており、女性より関心が高いことがわかる。

居住年数別では、1年未満、1~2年で「やや不満・不満」の割合が「満足・まあ満足」より高く、居住年数6~10年、11~20年、21年以上では、「やや不満・不満」の割合が「満足・まあ満足」より低くなっている。

今後2017年の「めざそう値」を達成するためにも、「わからない」と回答した市民の市政への関心を高める取り組みや、特に、男性の市政への不満の原因を明らかにしていくことが重要と考えられる。

次回調査で具体的な不満内容の確認を行い、対応を検討することが望ましい。

V. 総合計画の指標調査結果

(3) 平和の発信・国際交流についての市政への満足度（指標番号 7）

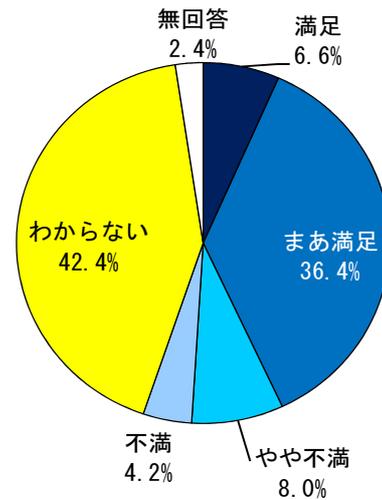
政策体系
 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 平和交流・男女共同参画
 施策 平和都市の実現と発信の取り組みをすすめる

質問 39. 平和の発信や国際交流（姉妹友好都市との交流など）の推進について、あなたはどのように思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

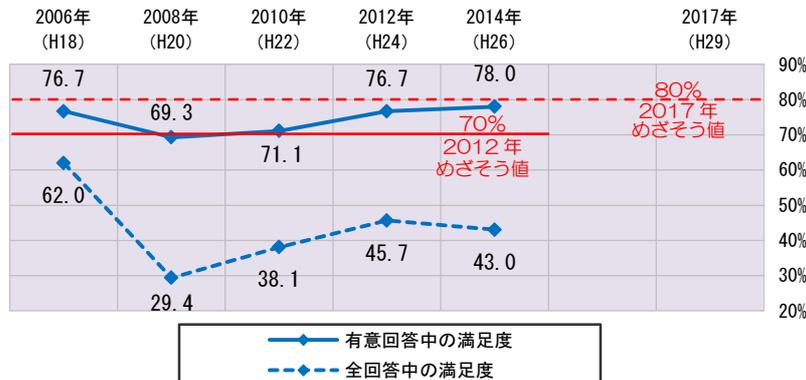
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	94人 (6.6%)	612人 (78.0%)	2012年目標値 (70.0%)
まあ満足	518人 (36.4%)		
やや不満	113人 (8.0%)	173人 (22.0%)	↓ (80.0%) 2017年目標値
不満	60人 (4.2%)		
有意回答 計	785人 (55.2%)	785人 (100%)	
わからない	603人 (42.4%)	-	
無回答	34人 (2.4%)		
合計	1,422人 (100%)		



平和の発信や国際交流の推進について満足している市民は、有意回答で78.0%となっており、有意回答では2012年の「めざそう値」を達成している。全回答では43.0%と有意回答と差が開いていることから、「わからない」や「無回答」の無効回答数によって2017年の「めざそう値」達成が左右される可能性がある。

「めざそう値」達成のためには「わからない」と回答した市民が減少し、平和の発信や国際交流の推進に満足される取り組みを実施することが必要と思われる。



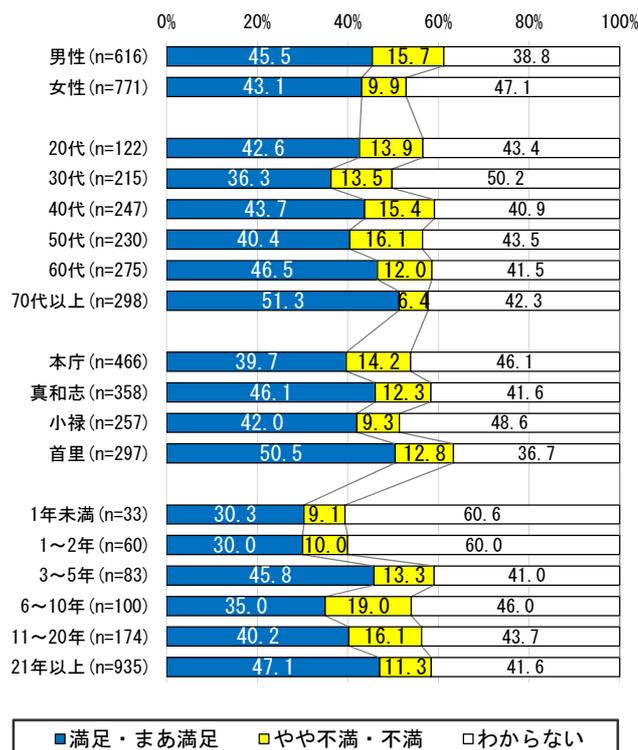
平和の発信や国際交流についての市民の満足度は、43.0%(有意回答で 78.0%)
で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)		選択項目		
		満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性	(n= 616)	280	97	239
女性	(n= 771)	332	76	363
20代	(n= 122)	52	17	53
30代	(n= 215)	78	29	108
40代	(n= 247)	108	38	101
50代	(n= 230)	93	37	100
60代	(n= 275)	128	33	114
70代以上	(n= 298)	153	19	126
本庁	(n= 466)	185	66	215
真和志	(n= 358)	165	44	149
小祿	(n= 257)	108	24	125
首里	(n= 297)	150	38	109
1年未満	(n= 33)	10	3	20
1~2年	(n= 60)	18	6	36
3~5年	(n= 83)	38	11	34
6~10年	(n= 100)	35	19	46
11~20年	(n= 174)	70	28	76
21年以上	(n= 935)	440	106	389



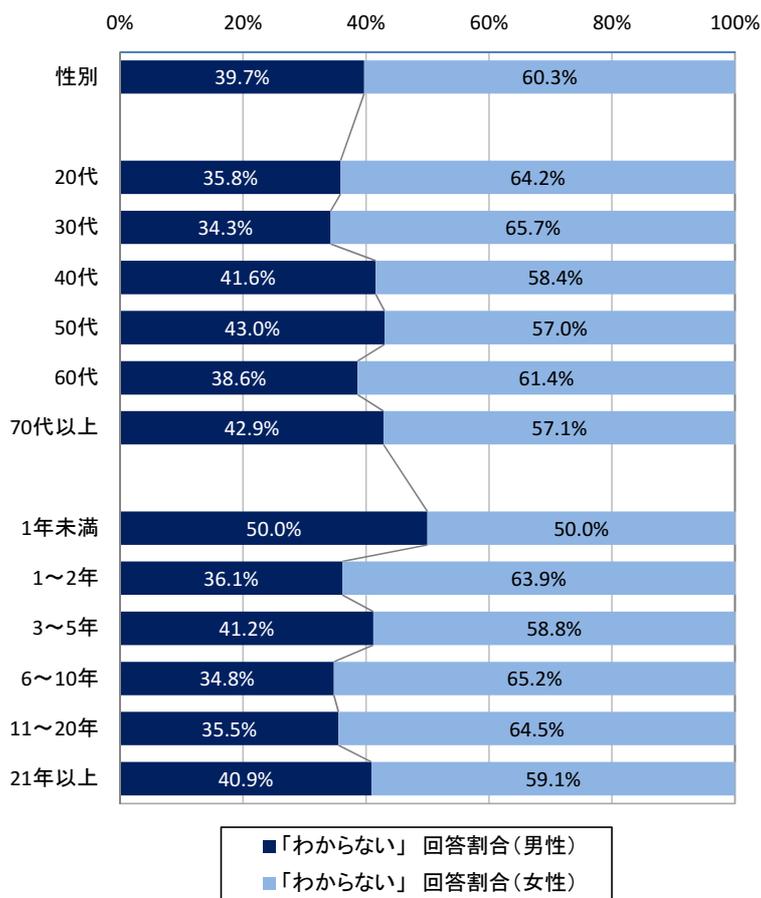
年代別で見ると、40代、60代、70代以上で平和の発信や国際交流についての市民の満足度が高くなっている。

21年以上居住しているにもかかわらず、「わからない」とする回答者が400人近く、さらに70代以上でも126人もいることから、「わからない」と回答した市民に着目して分析を行う。分析の結果から、今後市民の関心を高めるような方策を打ち出し、満足度向上に向けた取り組みが必要である。

V. 総合計画の指標調査結果

平和の発信や国際交流の推進について「わからない」の回答が多かったことから、「わからない」と回答した市民に着目し、性別と年代、居住地区について分析を行った。

属性	有意回答数	「わからない」回答数 (%)	「わからない」回答数 (男性) (%)	「わからない」回答数 (女性) (%)
性別	1,387	602 (43.4%)	239 (39.7%)	363 (60.3%)
20代	122	53 (43.4%)	19 (35.8%)	34 (64.2%)
30代	215	108 (50.2%)	37 (34.3%)	71 (65.7%)
40代	247	101 (40.9%)	42 (41.6%)	59 (58.4%)
50代	230	100 (43.5%)	43 (43.0%)	57 (57.0%)
60代	275	114 (41.5%)	44 (38.6%)	70 (61.4%)
70代以上	298	126 (42.3%)	54 (42.9%)	72 (57.1%)
1年未満	33	20 (60.6%)	10 (50.0%)	10 (50.0%)
1～2年	60	36 (60.0%)	13 (36.1%)	23 (63.9%)
3～5年	83	34 (41.0%)	14 (41.2%)	20 (58.8%)
6～10年	100	46 (46.0%)	16 (34.8%)	30 (65.2%)
11～20年	174	76 (43.7%)	27 (35.5%)	49 (64.5%)
21年以上	935	389 (41.6%)	159 (40.9%)	230 (59.1%)



性別では男性よりも女性の方が「わからない」割合が高くなっている。

年代別と性別で比較すると、30代で女性が男性の約2倍の割合となっている。他の年代においても男性より女性の方が多く「わからない」と回答している。

居住年数別と性別においても、1年未満を除くと女性の方が男性より「わからない」割合が高く、約6割を占める。

平和の発信や国際交流の推進について、男性よりも女性の方が「わからない」と回答している割合が高い。

子どもたちに向けた平和について学ぶ機会があるように、すべての市民に向けた平和に関する史跡や資料などを紹介・活用する機会を増やすことで、「わからない」と回答した市民に関心を持ってもらうことが必要であると思われる。「わからない」を減らし、「満足・まあ満足」を増やすためにも、平和についての取り組みを市民に向けて発信し、市民レベルの国際交流を積極的に行い、市民へ啓発していくことが重要である。

V. 総合計画の指標調査結果

(4) 男女の地位が平等だと感じる人の割合（指標番号 11）

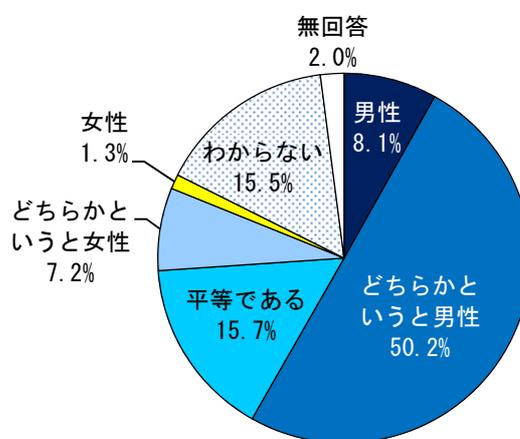
政策体系 都市像 心地よいつながりをつくる自治・協働・平和都市
 政策 平和交流・男女共同参画
 施策 男女共同参画社会の実現をめざす

質問 40. 社会全体でみた男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

- 1. 男性の方が非常に優遇されている
- 2. どちらかという、男性の方が優遇されている
- 3. 平等である
- 4. どちらかという、女性の方が優遇されている
- 5. 女性の方が非常に優遇されている
- 6. わからない

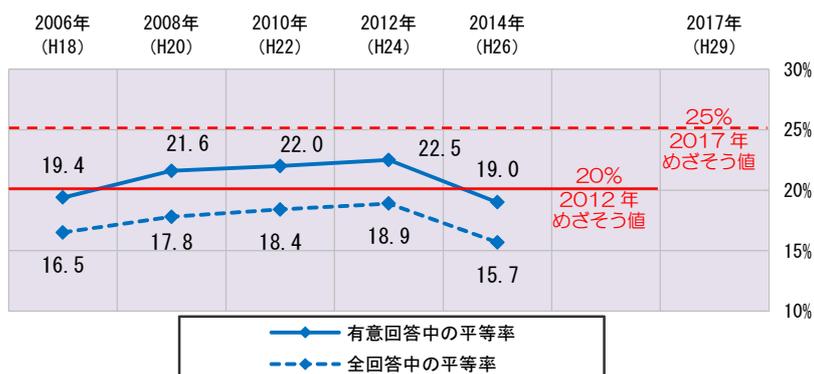
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
男性の方が非常に優遇されている	115人 (8.1%)	828人 (70.7%)	2012年目標値 (20.0%) ↓ 2017年目標値 (25.0%)
どちらかという、男性の方が優遇されている	713人 (50.2%)		
平等である	223人 (15.7%)	223人 (19.0%)	
どちらかという、女性の方が優遇されている	103人 (7.2%)	121人 (10.3%)	
女性の方が非常に優遇されている	18人 (1.3%)		
有意回答 計	1,172人 (82.5%)	1,172人 (100%)	
わからない	221人 (15.5%)	—	
無回答	29人 (2.0%)		
合計	1,422人 (100%)		



男女の地位が「平等である」と感じる市民の割合は、全回答で 15.7%、有意回答で 19.0%となっており、2012 年の「めざそう値」を達成できていない。

H18 調査以降、「平等である」と感じる市民の割合は増加傾向にあったが、今回調査では前回から全回答で 3.2 ポイント、有意回答で 3.5 ポイント減少した。直接の原因は、男性が優遇されているという意識が大きくなったことにある。2017 年の「めざそう値」を達成するためには、市民が男女平等であると感じる取り組みを打ち出していく必要があると思われる。



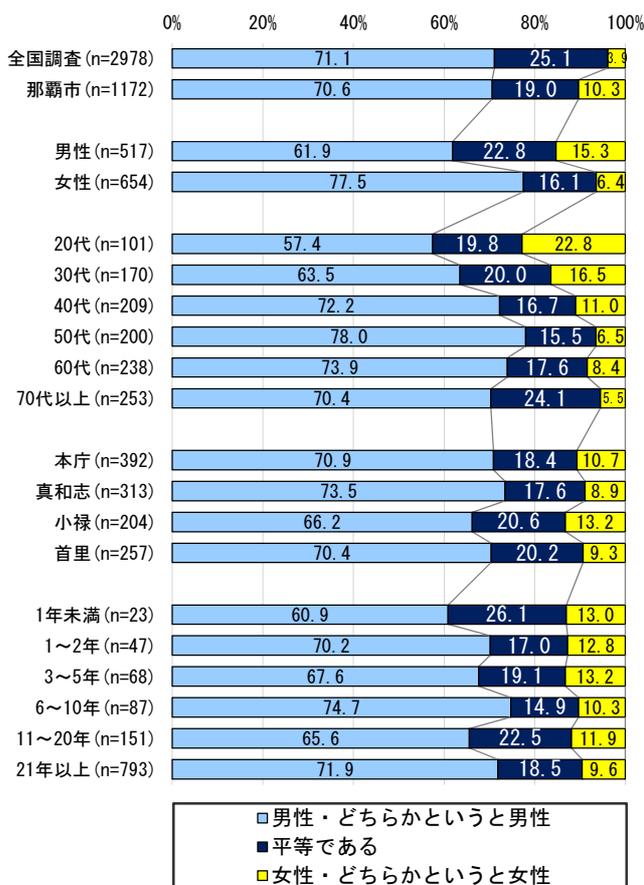
男女の地位が平等だと感じる市民は 15.7%(有意回答で 19.0%)で、2012 年の「めざそう値」を達成できていない。

2017 年の「めざそう値」を達成するためには、市民が男女平等であると感じる取り組みを打ち出していくことが必要である。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	と男 い性 う・ とど ち性 ら か	平 等 で あ る	と女 い性 う・ とど ち性 ら か
全国調査 (n= 2,978)	2117	746	115
那覇市 (n= 1,172)	828	223	121
男性 (n= 517)	320	118	79
女性 (n= 654)	507	105	42
20代 (n= 101)	58	20	23
30代 (n= 170)	108	34	28
40代 (n= 209)	151	35	23
50代 (n= 200)	156	31	13
60代 (n= 238)	176	42	20
70代以上 (n= 253)	178	61	14
本庁 (n= 392)	278	72	42
真和志 (n= 313)	230	55	28
小禄 (n= 204)	135	42	27
首里 (n= 257)	181	52	24
1年未満 (n= 23)	14	6	3
1~2年 (n= 47)	33	8	6
3~5年 (n= 68)	46	13	9
6~10年 (n= 87)	65	13	9
11~20年 (n= 151)	99	34	18
21年以上 (n= 793)	570	147	76



ここでは属性に、内閣府が全国調査で実施した「社会全体における男女の地位の平等感」の調査結果 (H24.10) と、那覇市全体の結果を加えて、比較、分析を行った。

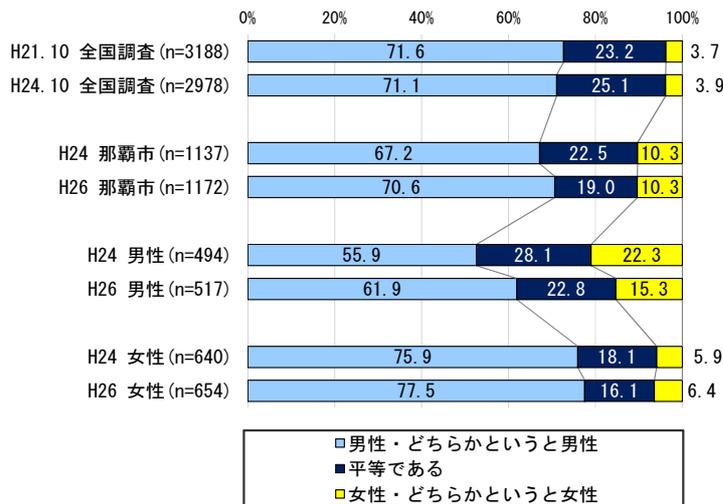
「那覇市全体」では「平等である」と感じている割合は全国より 6.1 ポイント低いが、全国に比べて、男性より女性が優遇されていると感じている割合が高くなっている。

性別でみると、「男性が優遇されている」と感じている割合は女性の方が高く、「平等である・女性が優遇されている」と感じている割合が低くなっている。

年代別では、「平等である」と感じている割合は 70 代以上で高く、次いで 30 代、20 代となっている。20 代では女性が優遇されていると感じている市民が 2 割を超えており、他の年代より高くなっている。

V. 総合計画の指標調査結果

次に、前回の調査結果と比較を行った。全国調査では前回の調査より「平等である」割合が高くなったことに対し、那覇市は前回調査から3.5ポイント低下し、「男性が優遇されている」と感じる割合は3.4ポイント増加している。また性別でみても前回調査から「平等である」割合は低下し、「男性が優遇されている」割合は増加しており、女性より男性の比率の変動が大きくなっている。

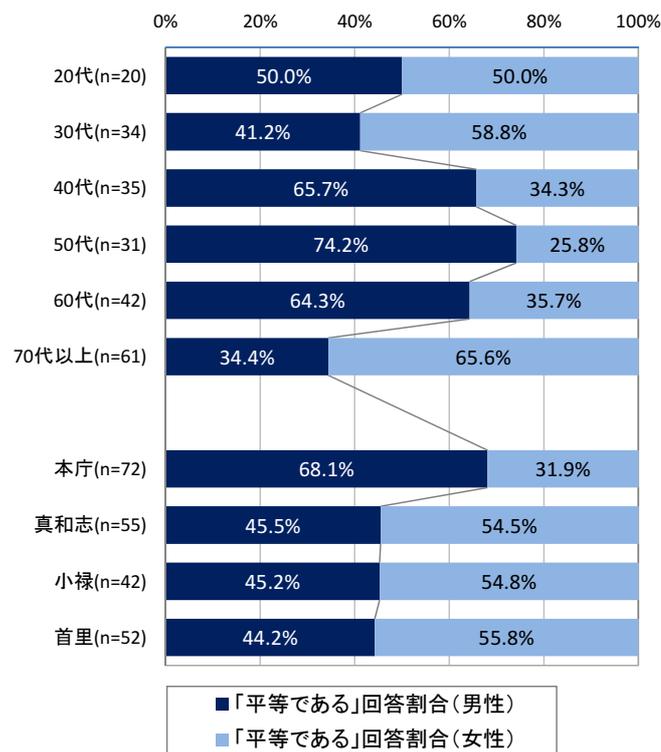


「平等である」の回答者に着目し、分析を行った。ここでは、年代別、居住地区別の有意回答数のうち、「平等である」の回答数、男性、女性の回答数が何割を占めるかを示している。

回答者属性	有意回答数	「平等である」回答数 (%)	「平等である」回答数 (男性) (%)	「平等である」回答数 (女性) (%)
20代	101	20 (19.8%)	10 (50.0%)	10 (50.0%)
30代	170	34 (20.0%)	14 (41.2%)	20 (58.8%)
40代	209	35 (16.7%)	23 (65.7%)	12 (34.3%)
50代	200	31 (15.5%)	23 (74.2%)	8 (25.8%)
60代	238	42 (17.6%)	27 (64.3%)	15 (35.7%)
70代以上	253	61 (24.1%)	21 (34.4%)	40 (65.6%)
本庁	392	72 (18.4%)	49 (68.1%)	23 (31.9%)
真和志	313	55 (17.6%)	25 (45.5%)	30 (54.5%)
小禄	204	42 (20.6%)	19 (45.2%)	23 (54.8%)
首里	257	52 (20.2%)	23 (44.2%)	29 (55.8%)

「平等である」と回答した割合を各年代の男女別にみると、30代と70代以上で女性の方が割合が高く、20代では同率、40代~60代は男性の割合が高くなっている。50代では男性の割合が女性の約3倍、70代以上では女性の割合が男性の約2倍となっている。

居住地区別でみると、本庁地区では男性の割合が高く、真和志、小禄、首里地区では女性の割合が高くなっている。本庁地区では男性の「平等である」割合が女性の2倍以上となっている。

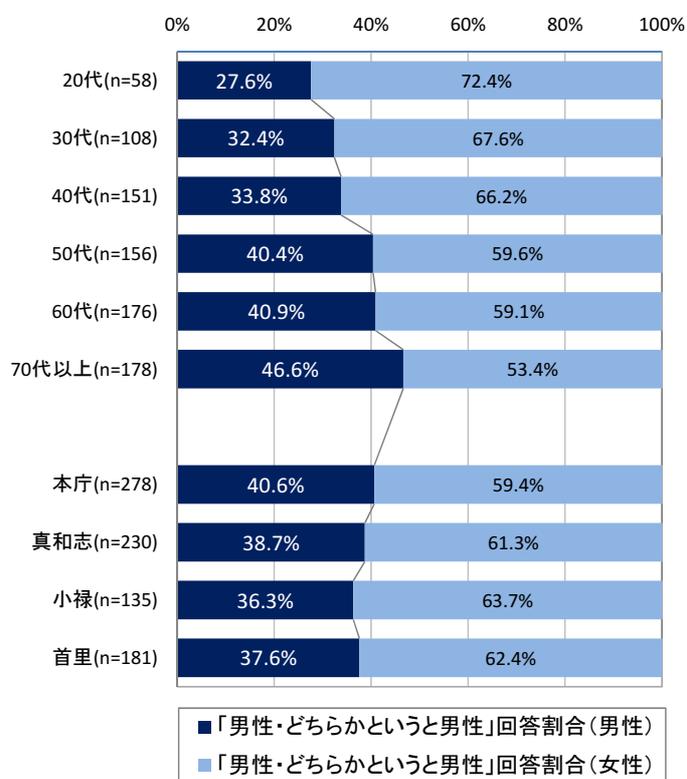


さらに、すべての属性で最も割合の高い「男性が優遇されている」の回答者に着目し、分析を行った。ここでは、年代別、居住地区別の有意回答数のうち、「男性が優遇されている」の回答数、男性、女性の回答数が何割を占めるかを示している。

回答者属性	有意回答数	「男性・どちらかという男性」回答数 (%)	「男性・どちらかという男性」回答数 (男性) (%)	「男性・どちらかという男性」回答数 (女性) (%)
20代	101	58 (57.4%)	16 (27.6%)	42 (72.4%)
30代	170	108 (63.5%)	35 (32.4%)	73 (67.6%)
40代	209	151 (72.2%)	51 (33.8%)	100 (66.2%)
50代	200	156 (78.0%)	63 (40.4%)	93 (59.6%)
60代	238	176 (73.9%)	72 (40.9%)	104 (59.1%)
70代以上	253	178 (70.4%)	83 (46.6%)	95 (53.4%)
本庁	392	278 (70.9%)	113 (40.6%)	165 (59.4%)
真和志	313	230 (73.5%)	89 (38.7%)	141 (61.3%)
小禄	204	135 (66.2%)	49 (36.3%)	86 (63.7%)
首里	257	181 (70.4%)	68 (37.6%)	113 (62.4%)

各年代を男女別にみると、すべての年代で女性の方が高くなっている。特に20代～40代では男性の約2～3倍の割合となっており、概ね年代が若いほど女性の割合が高い傾向にあり、「男性が優遇されている」と感じている。

居住地区を男女別でみると、年代別と同様に女性の割合が高く、約6割の女性が「男性が優遇されている」と感じている。居住地区別では大きな差は見られない。



前回調査から、男女の地位が平等であると感じる市民の割合が低下し、「男性が優遇されている」と感じる割合が高くなっていることから、各項目の回答者属性の割合を算出した。年代によって平等感は異なるが、特に男女の差が顕著に見られたことから、どのような場面で男性（女性）が優遇されていると感じるのかを明らかにし、市民が男女平等であると感じられる方策を検討することが必要と考える。

また、「平等である」と回答した男女の割合に差が見られた40代～60代と本庁地区において、「平等である」と感じる場面を明らかにすることは、「平等である」と考える市民を増やすために重要と思われる。

(5) 市からの情報提供についての満足度（指標番号 15）

政策体系 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 市民に開かれた効率的な行政
 施策 行政情報を様々な方法でわかりやすく受けとれるようにする

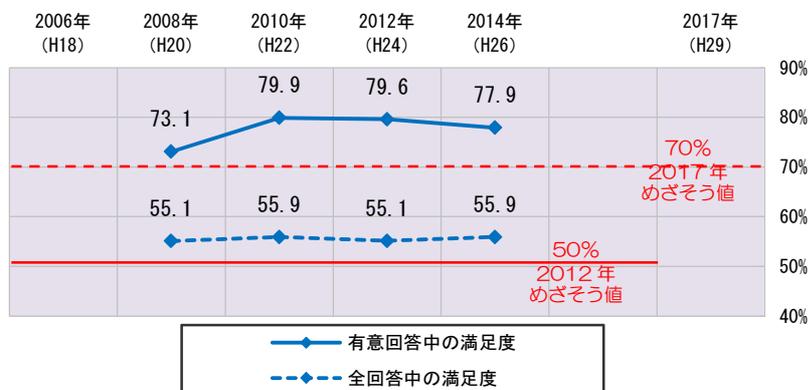
質問 41. あなたは、市の広報活動（広報紙「広報なは市民の友」、ラジオ広報、那覇市ホームページ等）について、どう思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	102人 (7.2%)	794人 (77.9%)	2012年目標値 (50.0%)
まあ満足	692人 (48.7%)		
やや不満	176人 (12.4%)	225人 (22.1%)	↓ (70.0%) 2017年目標値
不満	49人 (3.4%)		
有意回答 計	1,019人 (71.7%)	1,019人 (100%)	
わからない	380人 (26.7%)	—	
無回答	23人 (1.6%)		
合計	1,422人 (100%)		

市からの情報提供について満足している市民は、全回答で 55.9%、有意回答で 77.9%となっており、どちらも 2012 年の「めざそう値」を達成している。有意回答では 2017 年の「めざそう値」70%も達成しているが、H22 からわずかに減少傾向にあることから、市民の満足度を維持させつつ、「わからない」や「無回答」を「まあ満足」以上に転換していく必要がある。

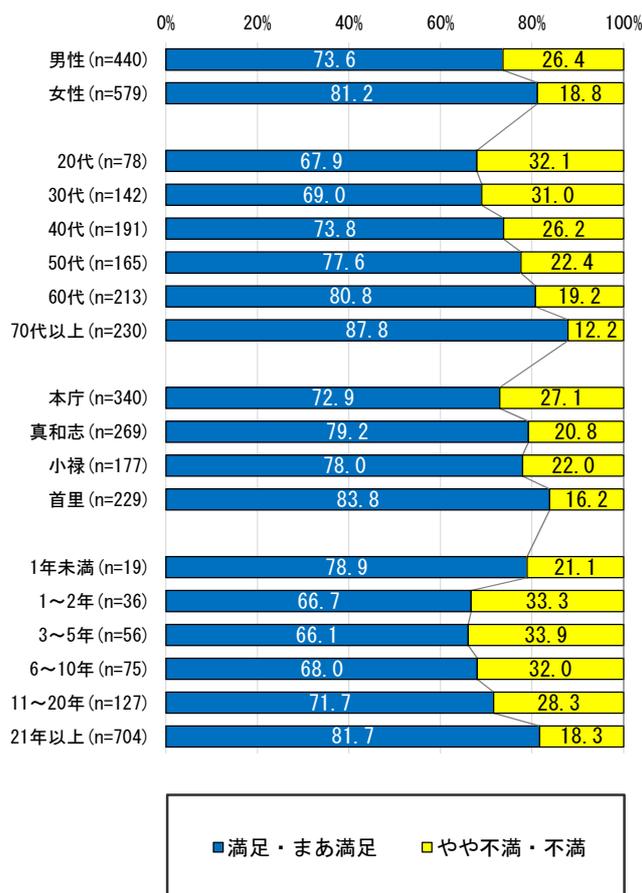


市からの情報提供についての満足度は、55.9%(有意回答で 77.9%)で、2012年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目		満足・まあ満足	やや不満・不満
回答者属性 (n=合計)			
男性 (n= 440)		324	116
女性 (n= 579)		470	109
20代 (n= 78)		53	25
30代 (n= 142)		98	44
40代 (n= 191)		141	50
50代 (n= 165)		128	37
60代 (n= 213)		172	41
70代以上 (n= 230)		202	28
本庁 (n= 340)		248	92
真和志 (n= 269)		213	56
小祿 (n= 177)		138	39
首里 (n= 229)		192	37
1年未満 (n= 19)		15	4
1~2年 (n= 36)		24	12
3~5年 (n= 56)		37	19
6~10年 (n= 75)		51	24
11~20年 (n= 127)		91	36
21年以上 (n= 704)		575	129



居住年数別では、21年以上が最も満足度が高く、1年未満を除いて居住年数に比例して満足度が高くなっている。1年未満で満足度が高くなっていることから、新規転入者向けの行政サービスが評価されていると考えられる。

年代別でみると、市からの情報提供に最も満足しているのは70代で、年代に比例して満足度が高くなっている。20代、30代の若い年代では、「やや不満・不満」と感じる市民が3割を超えることから、年代によってどのような行政サービスを望んでいるのかを把握することで満足度の向上につながると考えられる。

V. 総合計画の指標調査結果

(6) 行政サービスに満足している人の割合（指標番号 16）

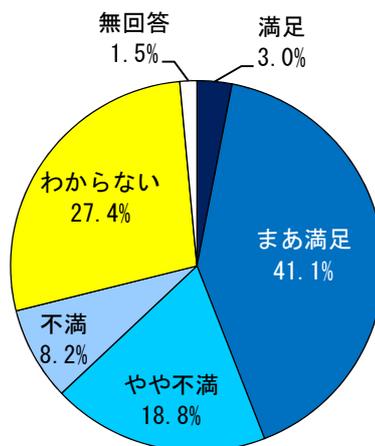
政策体系 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 市民に開かれた効率的な行政
 施策 効率的で満足度の高い行政サービスをおこなう

質問 42. あなたは、市の行政サービス全般について、満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

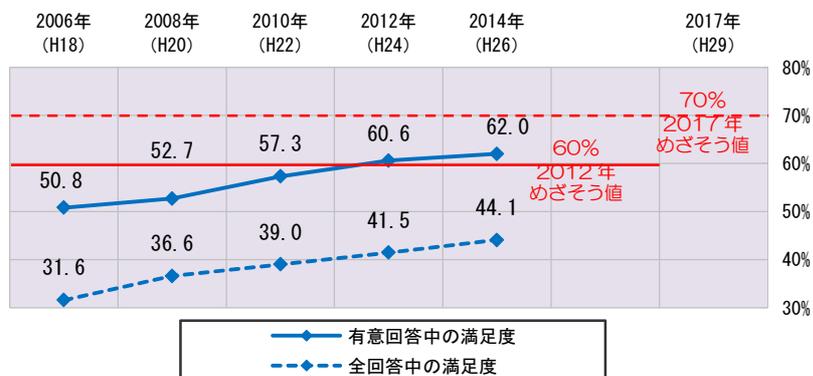
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	43人 (3.0%)	627人 (62.0%)	2012年目標値 (60.0%) ↓ (70.0%) 2017年目標値
まあ満足	584人 (41.1%)		
やや不満	268人 (18.8%)		
不満	116人 (8.2%)		
有意回答 計	1,011人 (71.1%)	1,011人 (100%)	
わからない	390人 (27.4%)	-	
無回答	21人 (1.5%)		
合計	1,422人 (100%)		



市の行政サービスの満足している市民の割合は、全回答で 44.1%、有意回答で 62.0%となっており、有意回答で 2012 年の「めざそう値」を達成している。

H18 調査から満足度は増加傾向にあり、2017 年の「めざそう値」を達成するには、現在の増加率を維持しつつ、「わからない」と「無回答」の無効回答を「満足・まあ満足」へ転換するような取り組みが必要と考えられる。

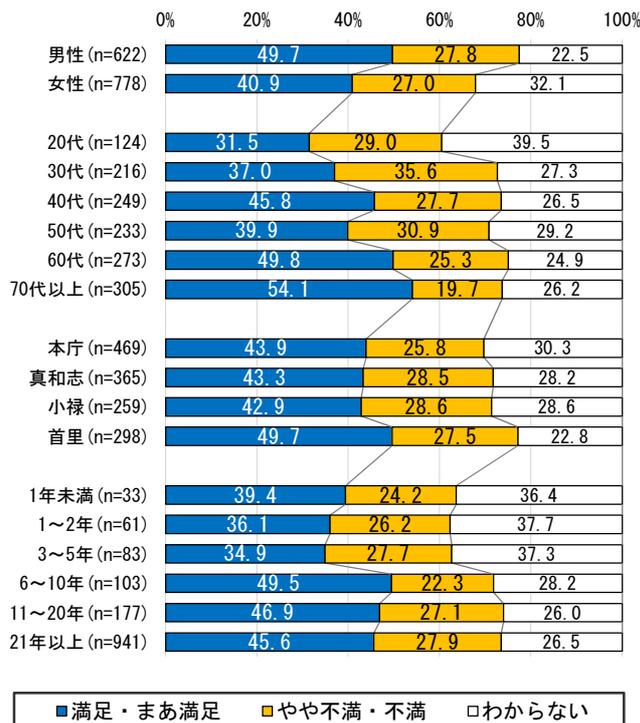


行政サービスに対する満足度は、44.1%(有意回答で62.0%)で、有意回答では2012年の「めざそう値」を達成している

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

回答者属性 (n=合計)	満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性 (n= 622)	309	173	140
女性 (n= 778)	318	210	250
20代 (n= 124)	39	36	49
30代 (n= 216)	80	77	59
40代 (n= 249)	114	69	66
50代 (n= 233)	93	72	68
60代 (n= 273)	136	69	68
70代以上 (n= 305)	165	60	80
本庁 (n= 469)	206	121	142
真和志 (n= 365)	158	104	103
小祿 (n= 259)	111	74	74
首里 (n= 298)	148	82	68
1年未満 (n= 33)	13	8	12
1~2年 (n= 61)	22	16	23
3~5年 (n= 83)	29	23	31
6~10年 (n= 103)	51	23	29
11~20年 (n= 177)	83	48	46
21年以上 (n= 941)	429	263	249



行政サービスに対する満足度を居住年数別にみると、6年以上で約5割が「満足・まあ満足」と回答している。5年以下では「分からない」と回答している市民が約4割いることがわかる。

年代別では20代で他の年代より満足度が低く、「分からない」が約4割いることがわかる。

行政サービス満足度について、女性で「わからない」とする回答が3割を超え、これは前回調査から継続している。

今後、行政サービスに対する満足度向上に向け、女性、若い年代、5年以下の居住者を中心にサービスのPRを実施すべきと考える。

(7) 電子行政サービスを利用したことがある人の割合（指標番号 18）

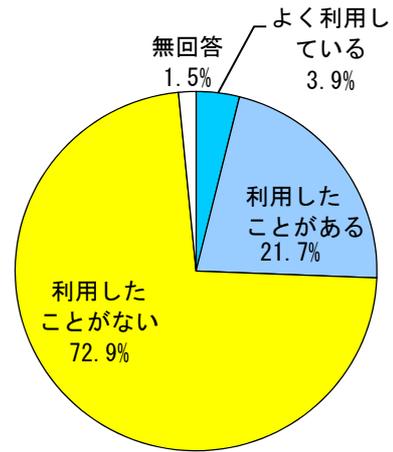
政策体系
都市像
心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
政策
市民に開かれた効率的な行政
施策
電子化による行政サービスの向上をすすめる

質問 43. あなたは、市が提供する電子行政サービス（メールマガジンや電子相談システム、公共施設の予約システム、図書館の貸出予約システム、自動交付機、粗大ごみインターネット受付サービス等）を利用したことがありますか

1. よく利用している 2. 利用したことがある 3. 利用したことがない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

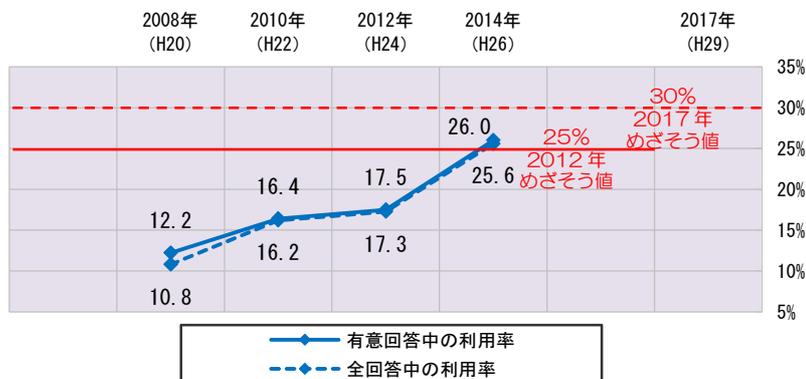
選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
よく利用している	55人 (3.9%)	364人 (26.0%)	2012年目標値 (25.0%)
利用したことがある	309人 (21.7%)		
利用したことがない	1,036人 (72.9%)	1,036人 (74.0%)	↓
有意回答 計	1,400人 (98.5%)	1,400人 (100%)	(30.0%)
無回答	22人 (1.5%)	—	2017年目標値
合計	1,422人 (100%)	—	



市が提供する電子行政サービスを利用したことある市民は、全回答で 25.6%、有意回答で 26.0%となっており、2012 年の「めざそう値」を達成している。

H20 年調査から利用率は増加傾向にあるが、今回調査では前回より全回答で 8.3 ポイント、有意回答で 8.5 ポイントと大幅に増加している。インターネットを利用した行政サービスが市民に浸透してきている結果と考えられる。

2017 年の「めざそう値」達成のために、利用経験のない市民へ電子行政サービスの活用方法・サービス内容を周知することに、より一層取り組むことが必要と思われる。

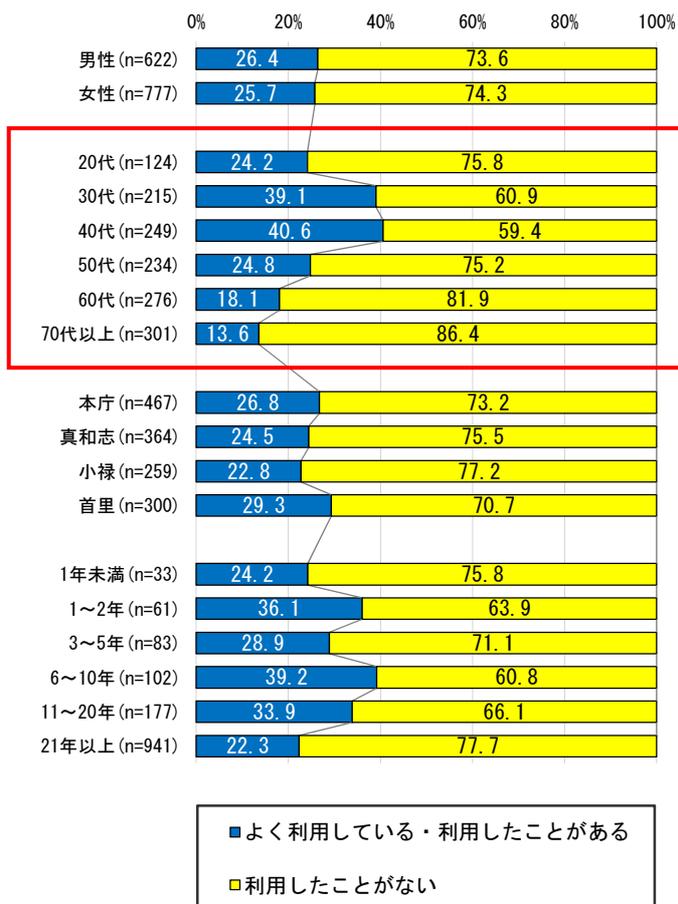


電子行政サービスを利用したことがある人の割合は、25.6%(有意回答で26.0%)で、2012年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目 回答者属性 (n=合計)		利用状況	
		とるよ が・く あ利利 る用用 しし たて こい	な利 い用 し た こ が
男性	(n= 622)	164	458
女性	(n= 777)	200	577
20代	(n= 124)	30	94
30代	(n= 215)	84	131
40代	(n= 249)	101	148
50代	(n= 234)	58	176
60代	(n= 276)	50	226
70代以上	(n= 301)	41	260
本庁	(n= 467)	125	342
真和志	(n= 364)	89	275
小祿	(n= 259)	59	200
首里	(n= 300)	88	212
1年未満	(n= 33)	8	25
1~2年	(n= 61)	22	39
3~5年	(n= 83)	24	59
6~10年	(n= 102)	40	62
11~20年	(n= 177)	60	117
21年以上	(n= 941)	210	731



年代別に電子行政サービスの利用経験をみると、30代、40代では約4割が利用したことがあり、50代以上では年代の高さに比例して利用経験がない市民の割合が高くなっている。全ての年代で半数以上で利用経験がないことから、20代~40代の若い年代に対してはさらなる電子行政サービス活用の促進に取り組み、比較的利用率の低い50代以上の年代に対しては、電子行政サービス活用の促進と合わせて、利用しやすい環境を整えることが要と考えられる。

V. 総合計画の指標調査結果

(8) 自分の適正体重に見合った食事を理解している成人の割合（指標番号 22）

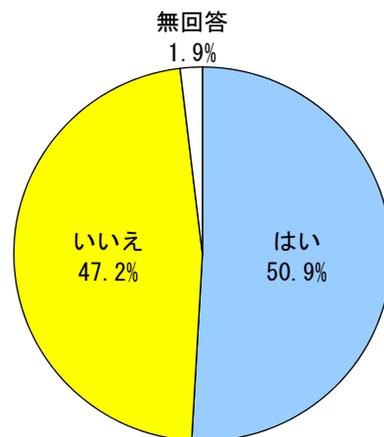
政策体系
 都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
 政策 健康づくりと地域医療の充実
 施策 市民自ら健康の保持と増進を図れるよう支援する

質問 44. あなたは、自分の標準体重（適正体重）に見合った食事の量を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

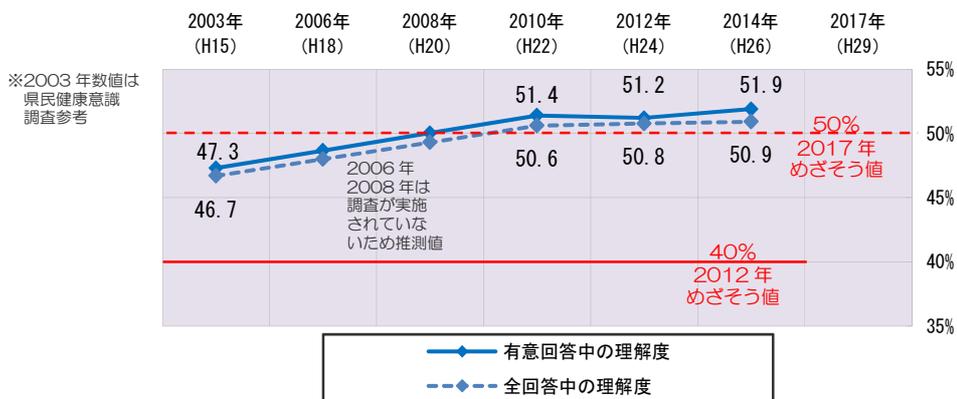
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
はい	724人 (50.9%)	724人 (51.9%)	2012年目標値 (40.0%)
いいえ	671人 (47.2%)	671人 (48.1%)	↓
有意回答計	1,395人 (98.1%)	1,395人 (100%)	(50.0%)
無回答	27人 (1.9%)	—	2017年目標値
合計	1,422人 (100%)	—	



当該調査は、H15に「県民健康意識調査」により実施され、H22以降本調査で確認を行っているものである。

自分の標準体重（適正体重）に見合った食事の量を把握している市民は、全回答で50.9%、有意回答で51.9%となっており、2012年、2017年の「めざそう値」を達成している。継続して2017年の「めざそう値」を達成できる傾向にあることから、現状を維持していくことが重要である。

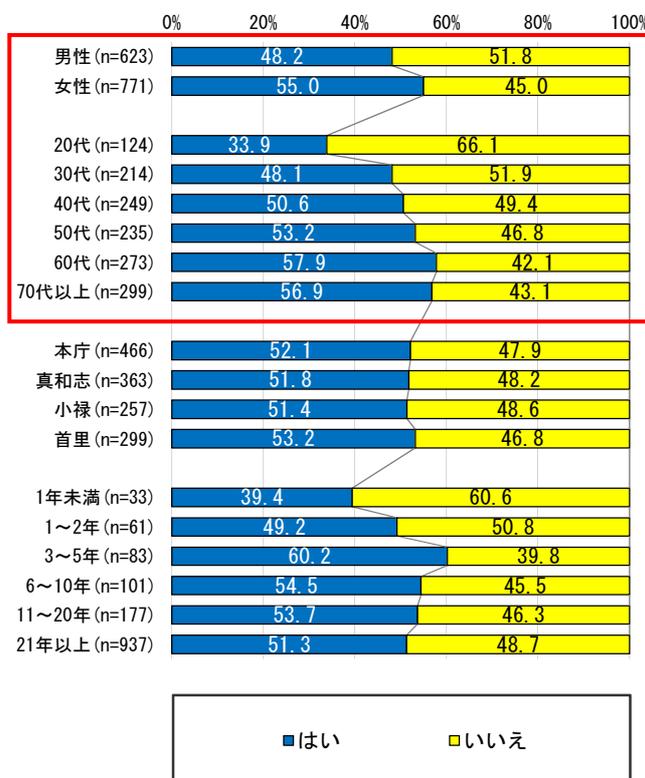


自分の適正体重に見合った食事量を理解している市民は 50.9%(有意回答で 51.9%)で、2012 年・2017 年の「めざそう値」を達成している。
 2017 年の「めざそう値」を継続して達成するには、現在の把握率を維持するため、20 代の若い年代に対する周知、指導等を含めた取り組みが必要である。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
 ここでは、「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目	はい	いいえ
回答者属性 (n=合計)		
男性 (n= 623)	300	323
女性 (n= 771)	424	347
20代 (n= 124)	42	82
30代 (n= 214)	103	111
40代 (n= 249)	126	123
50代 (n= 235)	125	110
60代 (n= 273)	158	115
70代以上 (n= 299)	170	129
本庁 (n= 466)	243	223
真和志 (n= 363)	188	175
小禄 (n= 257)	132	125
首里 (n= 299)	159	140
1年未満 (n= 33)	13	20
1~2年 (n= 61)	30	31
3~5年 (n= 83)	50	33
6~10年 (n= 101)	55	46
11~20年 (n= 177)	95	82
21年以上 (n= 937)	481	456



性別で見ると、自分の体重に見合った食事の量を把握している割合が高いのは女性となっている。

年代別では、60代が最も高く、30代以上では約5割の市民が自分の体重に見合った食事の量を把握していることがわかる。

沖縄県の肥満度は、男性3位、女性1位（「H24 国民健康・栄養調査」厚生労働省）とされており、生活習慣病の予防や、健康管理に対する意識啓発を推進していかなければならない。

20代では自分の体重に見合った食事の量を把握している割合が他の年代より低くなっていることから、重点的に周知・指導を行う必要がある。

(9) かかりつけ医を決めている人の割合（指標番号 24）

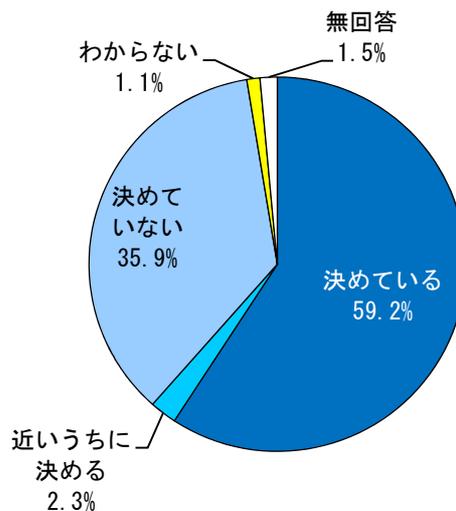
政策体系 都市像 地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市
政策 健康づくりと地域医療の充実
施策 かかりつけ医など身近な地域で医療の相談ができる

質問 45. あなたは、かかりつけ医を決めていますか。

1. 決めている（市内・市外） 2. 近いうちに決める 3. 決めていない 4. わからない

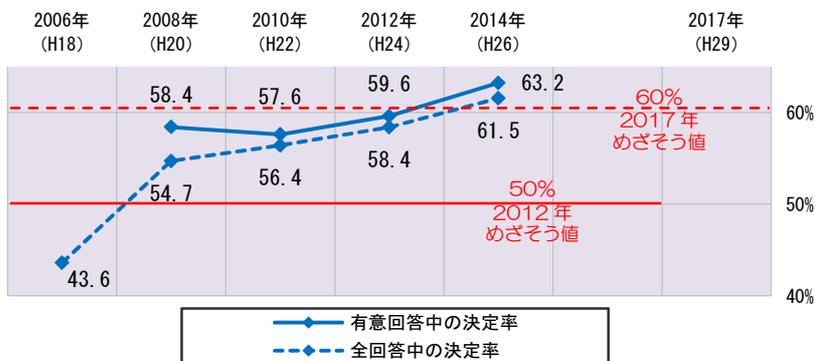
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
決めている	842人 (59.2%)	875人 (63.2%)	2012年目標値 (50.0%)
近いうちに決める	33人 (2.3%)		↓
決めていない	510人 (35.9%)	510人 (36.8%)	(60.0%)
有意回答 計	1,385人 (97.4%)	1,385人 (100%)	2017年目標値
わからない	16人 (1.1%)	-	
無回答	21人 (1.5%)		
合計	1,422人 (100%)		



かかりつけ医を「決めている・近いうちに決める」と回答した市民の割合は、全回答で61.5%、有意回答で63.2%となっており、共に2017年の「めざそう値」を初めて達成した。

H20 調査から増加傾向にあるが、今後も継続して、かかりつけ医に関する市民への情報提供等を行うことで、今回調査の決定率を維持していくことが、継続して2017年の「めざそう値」を達成していくために重要である。

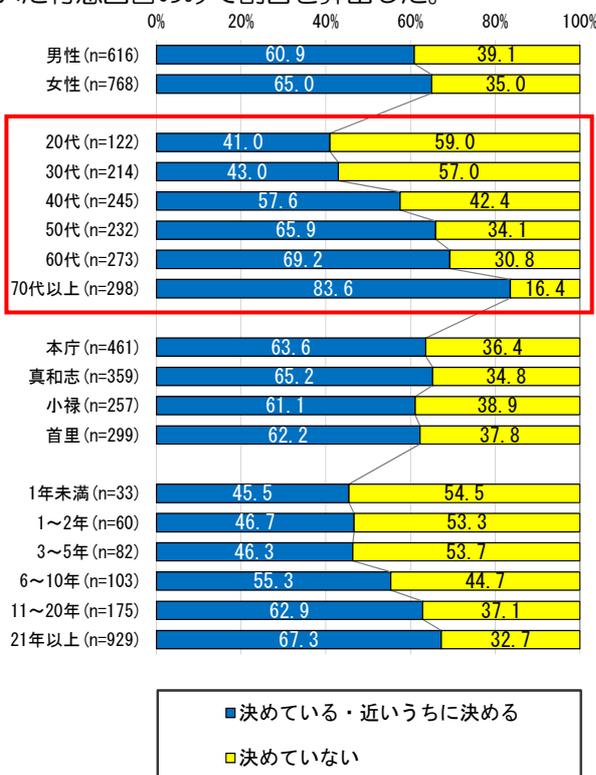


かかりつけ医を決めている市民は「近いうちに決める」を含めると 61.5%(有意回答では 63.2%)で、2012 年・2017 年共に「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)		選択項目	
		い決 うめ ちて にい 決る め・ る近	決 めて い ない
男性	(n= 616)	375	241
女性	(n= 768)	499	269
20代	(n= 122)	50	72
30代	(n= 214)	92	122
40代	(n= 245)	141	104
50代	(n= 232)	153	79
60代	(n= 273)	189	84
70代以上	(n= 298)	249	49
本庁	(n= 461)	293	168
真和志	(n= 359)	234	125
小禄	(n= 257)	157	100
首里	(n= 299)	186	113
1年未満	(n= 33)	15	18
1~2年	(n= 60)	28	32
3~5年	(n= 82)	38	44
6~10年	(n= 103)	57	46
11~20年	(n= 175)	110	65
21年以上	(n= 929)	625	304



年代別にみると、年代の高さに比例してかかりつけ医を「決めている・近いうちに決める」割合が高くなっている。20代、30代の若い年代でかかりつけ医を決めていない市民が約 6 割いることから、2017 年の「めざそう値」達成には、特に若い年代へ、かかりつけ医の特定を薦める取り組みが必要であると考えられる。

2007 年に実施された、沖縄県保健医療県民意識調査と比較すると、男女共にかかりつけ医を「決めている」割合が高くなっていることから、市民の健康意識の高さがうかがえる。

参考：2007 年沖縄保健医療県民意識調査

回答者属性	選択項目 疾病か 療気か 機にり 関よつ はつけ 決ての ま決医 つめ師 ててが いいい るる ..	な か い か り つ け の 医 師 ・ 医 療 機 関 は
男性	52.1%	47.9%
女性	59.8%	40.2%
20代	28.9%	71.1%
30代	40.7%	59.3%
40代	45.1%	54.9%
50代	62.8%	37.2%
60代	69.9%	30.1%
70代以上	87.0%	13.0%

※県調査の選択項目「病気になるといつも相談するかかりつけの医師がいる」「この病気ならこの先生という意味でなら、かかりつけの医師がいる」「かかりつけの医療機関ならあるが、みてもらう医師は決まっていない」の 3 つをまとめて当該調査との比較を行った

(10) バリアフリーに配慮されていると感じる人の割合（指標番号 28）

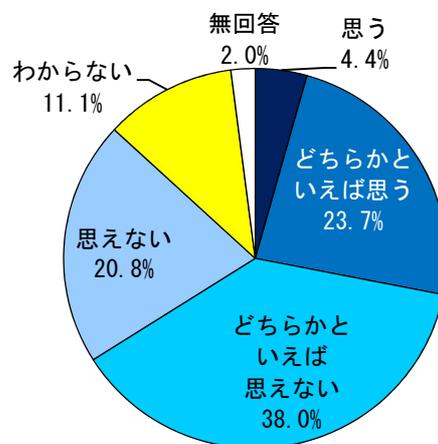
政策体系
都市像 地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市
政策 ユニバーサルデザインのまちづくり
施策 高齢者や障がい者が暮らしやすいまちをつくる

質問 46. 市内の道路や公園、建物のバリアフリー化（高齢者や障がい者も使いやすくすること）について、配慮されていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
 4. 思えない 5. わからない

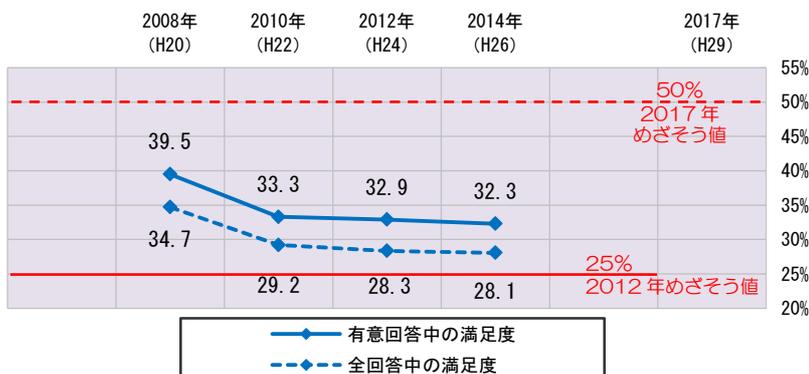
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	62人 (4.4%)	399人 (32.3%)	2012年目標値 (25.0%)
どちらかといえば思う	337人 (23.7%)		
どちらかといえば思えない	540人 (38.0%)		
思えない	296人 (20.8%)	836人 (67.7%)	(50.0%)
有意回答 計	1,235人 (86.9%)	1,235人 (100%)	2017年目標値
わからない	158人 (11.1%)	-	
無回答	29人 (2.0%)		
合計	1,422人 (100%)		



バリアフリーに配慮されていると感じている市民は、全回答で28.1%、有意回答で32.3%となっており、2012年の「めざそう値」を達成している。

H20 調査以降、満足度は減少傾向にあるため、2017年の「めざそう値」を達成するためには、バリアフリーに配慮されていない（「どちらかといえば思えない」「思えない」）と回答した市民の意見を吸い上げ、改善に向けた取り組みを行うことが必要と思われる。

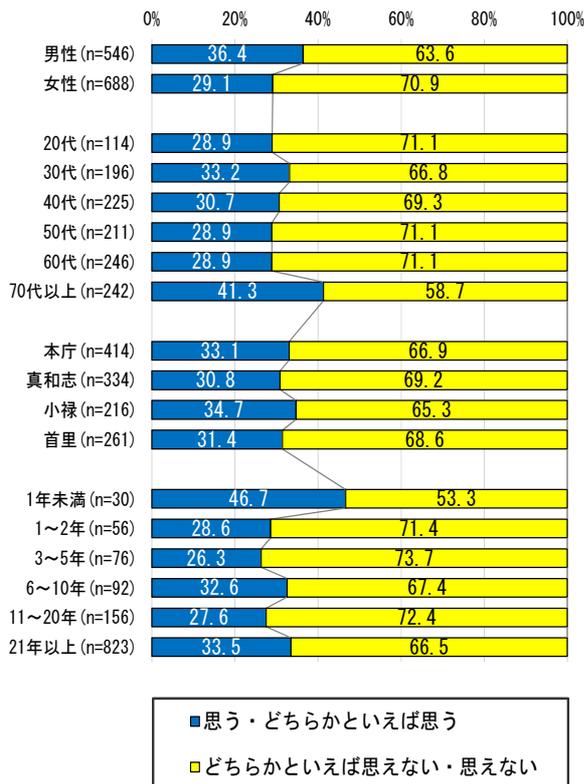


バリアフリーに配慮されていると感じている市民は 28.1% (有意回答では 32.3%) で、2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)		選択項目	
		と思 い え ば ど ち ら か か	え ば ど ち ら か い え な い と い え な い 思 え
男性 (n= 546)		199	347
女性 (n= 688)		200	488
20代 (n= 114)		33	81
30代 (n= 196)		65	131
40代 (n= 225)		69	156
50代 (n= 211)		61	150
60代 (n= 246)		71	175
70代以上 (n= 242)		100	142
本庁 (n= 414)		137	277
真和志 (n= 334)		103	231
小祿 (n= 216)		75	141
首里 (n= 261)		82	179
1年未満 (n= 30)		14	16
1~2年 (n= 56)		16	40
3~5年 (n= 76)		20	56
6~10年 (n= 92)		30	62
11~20年 (n= 156)		43	113
21年以上 (n= 823)		276	547



年代別にみると、バリアフリーに配慮されていると感じているのは、70代で最も高くなっている。70代以上の高齢者は、バリアフリーの必要性を感じることによって意識が高まっている事、また比較的バリアフリー化が進んだ施設を利用していると考えられ、他の年代より評価が高いと考えられる。

20代から60代における満足度は約3割であることから、どのような施設で不満を感じるのかを把握し、改善していくことが2017年の「めざそう値」達成につながると考えられる。

(11) 障がい者が共に暮らせる環境づくりの満足度（指標番号 29）

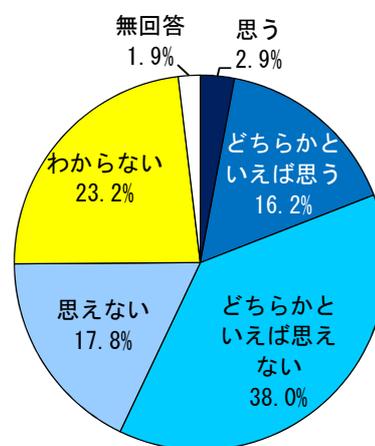
政策体系
都市像 地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市
政策 とともに生きる心を育てる
施策 相互に理解し、支えあう大切さを共有できるよう支援する

質問 47. 那覇市は、障がい者が地域でともに暮らせる環境整備（相談体制の整備、障がい者の介護、心のバリアフリーなど）がすすんでいると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
 4. 思えない 5. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	42人 (2.9%)	272人 (25.5%)	2012年目標値 (25.0%)
どちらかといえば思う	230人 (16.2%)		
どちらかといえば思えない	540人 (38.0%)	793人 (74.5%)	↓ (33.0%) 2017年目標値
思えない	253人 (17.8%)		
有意回答 計	1,065人 (74.9%)	1,065人 (100%)	
わからない	330人 (23.2%)	-	
無回答	27人 (1.9%)		
合計	1,422人 (100%)		



障がい者がともに暮らせる環境整備が進んでいると感じている市民は、有意回答で25.5%となっており、2012年の「めざそう値」は達成している。H18調査以降、満足度は減少傾向にあり、前回調査でわずかに改善されたが、今回調査では全回答で1.3ポイント、有意回答で3.4ポイント減少した。2017年の「めざそう値」を達成するためには、不満に感じている市民の意見を吸い上げ、満足度を向上させる取り組みを行うことが必要と考えられる。

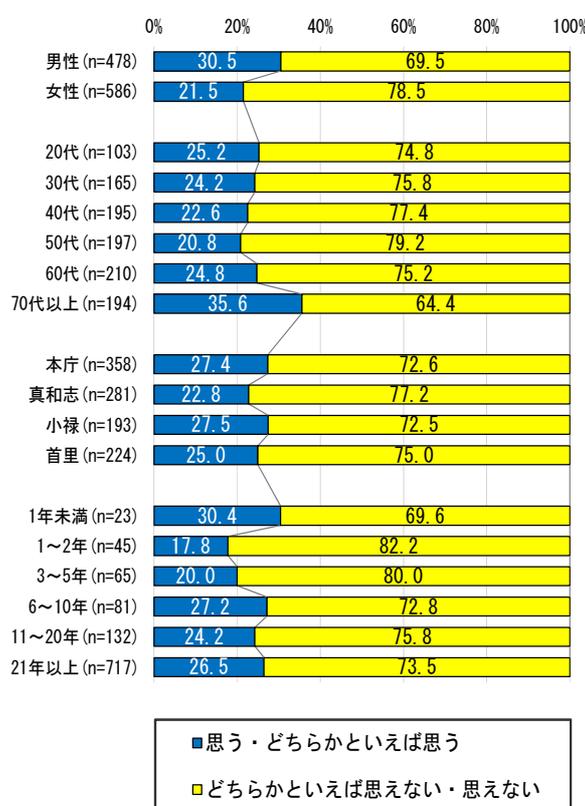


障がい者が共に暮らせる環境整備が進んでいると感じている市民は 19.1% (有意回答で 25.5%) で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。2017 年の「めざそう値」を達成するためには、「どちらかといえば思えない」「思えない」と感じている市民の満足度を改善していく必要がある。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	と思う・どちらか	えほどない・思えない・思えない
男性 (n= 478)		146	332
女性 (n= 586)		126	460
20代 (n= 103)		26	77
30代 (n= 165)		40	125
40代 (n= 195)		44	151
50代 (n= 197)		41	156
60代 (n= 210)		52	158
70代以上 (n= 194)		69	125
本庁 (n= 358)		98	260
真和志 (n= 281)		64	217
小祿 (n= 193)		53	140
首里 (n= 224)		56	168
1年未満 (n= 23)		7	16
1~2年 (n= 45)		8	37
3~5年 (n= 65)		13	52
6~10年 (n= 81)		22	59
11~20年 (n= 132)		32	100
21年以上 (n= 717)		190	527



年代別にみると、障がい者がともに暮らせる環境整備が進んでいると感じている市民の割合は、70代以上で突出して高くなっている。

性別でみると、男性のほうが女性より満足度が9ポイント高いことがわかる。

70代以上、男性で満足度が比較的高くなっているが、40代、50代、女性の満足度が低くなっていることから、より一層のサービス向上が求められる。

また、本指標はソフト面でのバリアフリー、146ページの指標28（バリアフリーに配慮されていると感じている人の割合）はハード面でのバリアフリーとなっている。比較すると指標28よりも本指標の方が評価が低くなっていることから、ソフト面での評価が厳しいことがわかる。

次ページの指標31（「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている人の割合）の結果との違いを比較すると、障がい者、介護の面での評価が低いと判断されるので、その取り組みが重要と考える。

V. 総合計画の指標調査結果

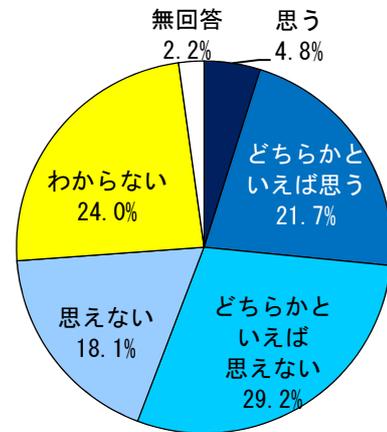
(12)「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている人の割合（指標番号 31）

政策体系 都市像 地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市
 政策 地域の支えあい
 施策 悩みや問題の相談ができるまちをつくる

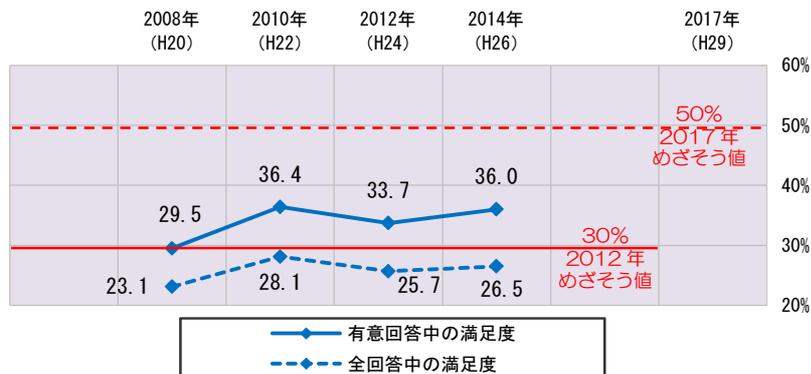
質問 48. あなたは、行政や民間相談機関、地域の人などが「困ったときには助けてくれる（相談できる）」と感じていますか。
 1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
 4. 思えない 5. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	69人 (4.8%)	378人 (36.0%)	2012年目標値 (30.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
どちらかといえば思う	309人 (21.7%)		
どちらかといえば思えない	415人 (29.2%)		
思えない	257人 (18.1%)		
有意回答計	1,050人 (73.8%)	1,050人 (100%)	
わからない	341人 (24.0%)	-	
無回答	31人 (2.2%)		
合計	1,422人 (100%)		



「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている市民は、全回答で 26.5%、有意回答で 36.0% となっており、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。前回調査から全回答で 0.8 ポイント、有意回答で 2.3 ポイント増加しているが、2017 年の「めざそう値」50%を達成するためには、「わからない」と回答した市民が「思う・どちらかといえば思う」に転換するような取り組みが必要と考えられる。

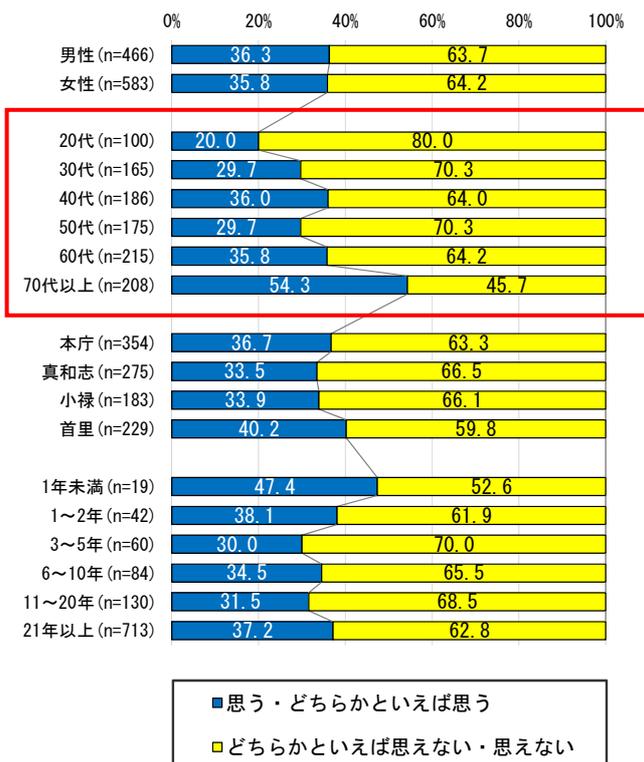


「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている市民は 26.5%（有意回答で 36.0%）で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	と	え
		思	ば
		い	ど
		う	ち
		・	い
		ど	え
		ち	な
		ら	い
		か	え
			な
			い
			え
男性 (n= 466)		169	297
女性 (n= 583)		209	374
20代 (n= 100)		20	80
30代 (n= 165)		49	116
40代 (n= 186)		67	119
50代 (n= 175)		52	123
60代 (n= 215)		77	138
70代以上 (n= 208)		113	95
本庁 (n= 354)		130	224
真和志 (n= 275)		92	183
小祿 (n= 183)		62	121
首里 (n= 229)		92	137
1年未満 (n= 19)		9	10
1~2年 (n= 42)		16	26
3~5年 (n= 60)		18	42
6~10年 (n= 84)		29	55
11~20年 (n= 130)		41	89
21年以上 (n= 713)		265	448

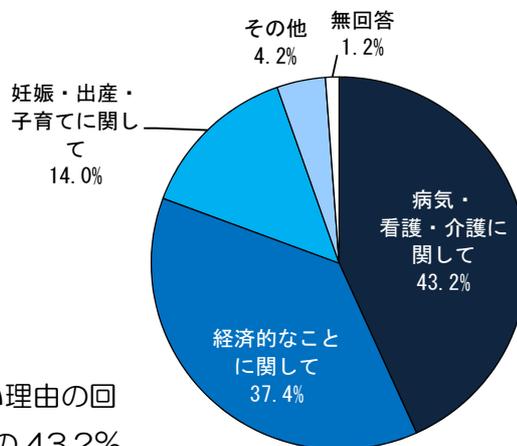


年代別で見ると、70代以上で「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている割合が最も高く、20代で最も低くなっており、概ね年代が高くなるにつれて満足度が高くなっている。70代以上と20代では、34.3ポイントの差があることから、若い年代の満足度をあげていくことが2017年の「めざそう値」達成のポイントとなると考えられる。

質問 48-1. 「どちらかといえば思えない」または「思えない」と答えた方にお聞きします。
 どのようなことに関して、そう思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 妊娠・出産・子育てに関して
2. 病気・看護・介護に関して
3. 経済的なことに関して
4. その他 ()

順位	選択項目	回答数	(%)
1位	病気・看護・介護に関して	445	(43.2%)
2位	経済的なことに関して	385	(37.4%)
3位	妊娠・出産・子育てに関して	144	(14.0%)
-	その他	43	(4.2%)
-	無回答	12	(1.2%)
合計		1,029	(100%)



「困ったときに助けてくれるまちである」と思えない理由の回答で最も多かったのは、「病気・看護・介護に関して」の43.2%で、次いで「経済的なことに関して」の37.4%、「妊娠・出産・子育てに関して」の14.0%となっている。単純に考えると1位と3位は視点が異なるが、2位に関しては、1位と3位の両方に関わるものでもある。1位と3位において、2位を重複して選んだ市民がかなりいることがうかがえる。経済的な負担がいずれの場合においても大きいことが推察される。

「困ったときに助けてくれるまちである」と感じていない市民に対して、関係する相談機関の周知、活動内容の理解を図る等の取り組みを行うことが必要と考えられる。

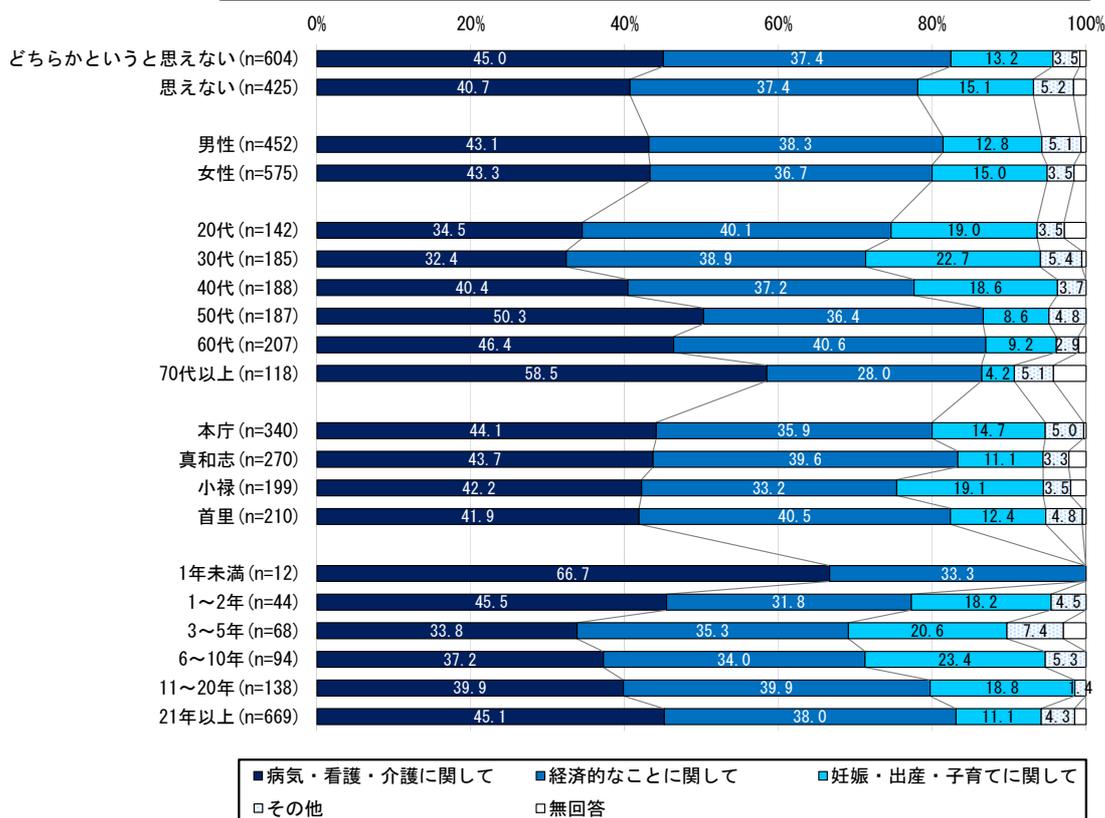
「病気・看護・介護に関して」、「経済的なことに関して」、「妊娠・出産・子育てに関して」の3つの回答で94.6%を占め、当該項目の対策が2017年の「めざそう値」達成の重要な鍵となっている。

選択肢「その他」の主な内容

- ・近所付き合いが薄い/他人だから(6人) 女性-70代-本庁地区・他
- ・どこに、誰に相談したらいいかわからない(5人) 女性-20代-首里地区・他
- ・クレームに対する対応(2人) 女性-30代-本庁地区・他
- ・就業相談について(2人) 女性-40代-首里地区・他
- ・道路・橋・街灯の設置等(2人) 男性-30代-真和志地区・他
- ・沖縄は交通ルールがなっていない。警察は積極的に取り締まりをするべき 男性-50代-本庁地区
- ・ペット、小動物による衛生環境の悪化 男性-60代-本庁地区
- ・教育体制(親・子双方) 男性-30代-真和志地区
- ・困った人を見ても手助けが出来ない。区長や民生委員が知らないため 男性-30代-小禄地区
- ・身障者について 男性-40代-首里地区
- ・相談機関のネットワークが確立されておらず支援が必要でも対応が不十分がほとんど 男性-40代-首里地区

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	-	-
		関護病 し・気・ て介・ 護着に	と経 に済 関的 しな てこ	に産妊 関・娠 し・子 て育 て	そ の 他	無 回 答
どちらかというと思えない (n= 604)		272	226	80	21	5
思えない (n= 425)		173	159	64	22	7
男性 (n= 452)		195	173	58	23	3
女性 (n= 575)		249	211	86	20	9
20代 (n= 142)		49	57	27	5	4
30代 (n= 185)		60	72	42	10	1
40代 (n= 188)		76	70	35	7	0
50代 (n= 187)		94	68	16	9	0
60代 (n= 207)		96	84	19	6	2
70代以上 (n= 118)		69	33	5	6	5
本庁 (n= 340)		150	122	50	17	1
真和志 (n= 270)		118	107	30	9	6
小祿 (n= 199)		84	66	38	7	4
首里 (n= 210)		88	85	26	10	1
1年未満 (n= 12)		8	4	0	0	0
1～2年 (n= 44)		20	14	8	2	0
3～5年 (n= 68)		23	24	14	5	2
6～10年 (n= 94)		35	32	22	5	0
11～20年 (n= 138)		55	55	26	2	0
21年以上 (n= 669)		302	254	74	29	10



年代別でみると、40代以上の年代では「病気・看護・介護に関して」の割合が最も高く、20代、30代では「経済的なことに関して」の割合が最も高くなっている。また、20代～40代の若い年代では「妊娠・出産・子育てについて」の割合も比較的高くなっている。

年代によって不満に感じていることは異なるが、今回調査結果から関係機関の周知や活動内容の理解を図る等の取り組みを行うことが満足度向上につながると考えられる。

V. 総合計画の指標調査結果

(13) 子育て施策に対する満足度（指標番号 56）

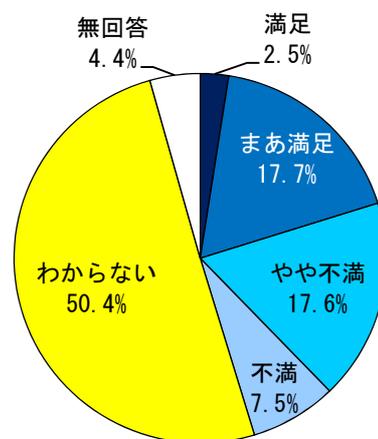
政策体系
都市像
子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
政策
子育て支援と就学前教育・保育
施策
家庭や子育てに夢を持てるまちをつくる

質問 49. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、公立幼稚園での預かり保育、放課後児童クラブ等）の取り組みについて、満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	35人 (2.5%)	287人 (44.6%)	2012年目標値 (80.0%) ↓ (90.0%) 2017年目標値
まあ満足	252人 (17.7%)		
やや不満	250人 (17.6%)		
不満	107人 (7.5%)		
有意回答 計	644人 (45.3%)	644人 (100%)	
わからない	716人 (50.3%)	-	
無回答	62人 (4.4%)		
合計	1,422人 (100%)		



子育て支援について満足している市民は、全回答で 20.2%、有意回答で 44.6%となっており、2012 年の「めざそう値」を達成していない。H20 調査から増加傾向にあるが、2012 年の「めざそう値」80%と大きくかけ離れており、現状のままでは 2017 年の「めざそう値」達成は厳しいと思われる。2017 年「めざそう値」を達成するためには、不満に感じている市民の意見を吸い上げ、改善に取り組むことや、「わからない」と回答した市民に向けて取り組みの周知、活動を認識してもらうことで満足度が向上すると考えられる。

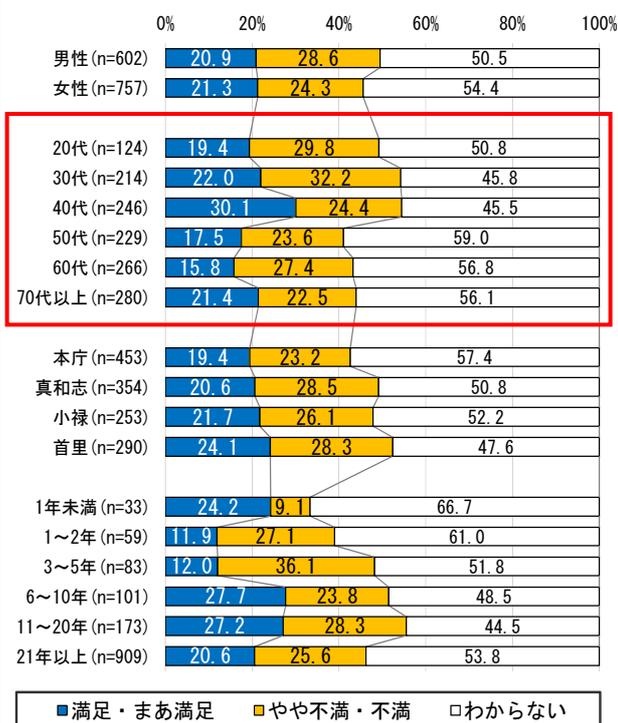


子育て支援に満足している市民は 20.2%（有意回答で 44.6%）で、2012 年「めざそう値」を達成していない。2017 年「めざそう値」達成には、年代に適した情報の提供を行うことで「わからない」と回答した市民を減小させる努力が必要である。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

選択項目 回答者属性 (n=合計)		満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性 (n= 602)		126	172	304
女性 (n= 757)		161	184	412
20代 (n= 124)		24	37	63
30代 (n= 214)		47	69	98
40代 (n= 246)		74	60	112
50代 (n= 229)		40	54	135
60代 (n= 266)		42	73	151
70代以上 (n= 280)		60	63	157
本庁 (n= 453)		88	105	260
真和志 (n= 354)		73	101	180
小祿 (n= 253)		55	66	132
首里 (n= 290)		70	82	138
1年未満 (n= 33)		8	3	22
1~2年 (n= 59)		7	16	36
3~5年 (n= 83)		10	30	43
6~10年 (n= 101)		28	24	49
11~20年 (n= 173)		47	49	77
21年以上 (n= 909)		187	233	489



年代別にみると、40代で「満足・まあ満足」の割合が「やや不満・不満」よりも高いが、他の年代では「やや不満・不満」の割合の方が高くなっている。特に、20代、30代では約3割が子育て支援に不満を持っていることがわかる。

前出（質問 27）の市民が優先的に取り組んでほしい子育て支援策の意見を参考にして、年代に適した情報の提供を行い、市民の子育て支援への満足度を上げる努力が必要と考えられる。

V. 総合計画の指標調査結果

(14) 生涯学習施策に関する市民満足度（指標番号 52）

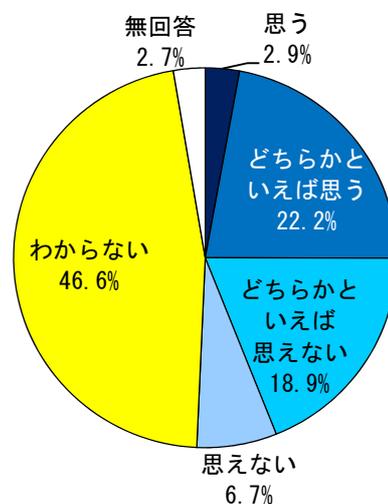
政策体系
 都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
 政策 生涯学習の推進と地域の教育力の向上
 施策 どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる

質問 50. 本市は、市民の学習意欲に応える学習機会づくりや地域活動の支援・促進を図っていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
 4. 思えない 5. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	41人 (2.9%)	356人 (49.4%)	2012年目標値 (42.0%)
どちらかといえば思う	315人 (22.2%)		
どちらかといえば思えない	269人 (18.9%)	365人 (50.6%)	↓ (50.0%) 2017年目標値
思えない	96人 (6.7%)		
有意回答 計	721人 (50.7%)	721人 (100%)	
わからない	663人 (46.6%)	-	
無回答	38人 (2.7%)		
合計	1,422人 (100%)		



生涯学習施策について満足している市民は、有意回答で49.4%となっており、2017年の「めざそう値」達成に近い値となっている。しかし、全回答では25.1%と有意回答と差が開いていることから、「わからない」や「無回答」の無効回答数によって2017年の「めざそう値」達成が左右される可能性がある。今後は現状を維持・向上しつつ、「わからない」と「無回答」の無効回答を「思う・どちらかといえば思う」にもっていけるようなPR型の取り組みが重要と考えられる。

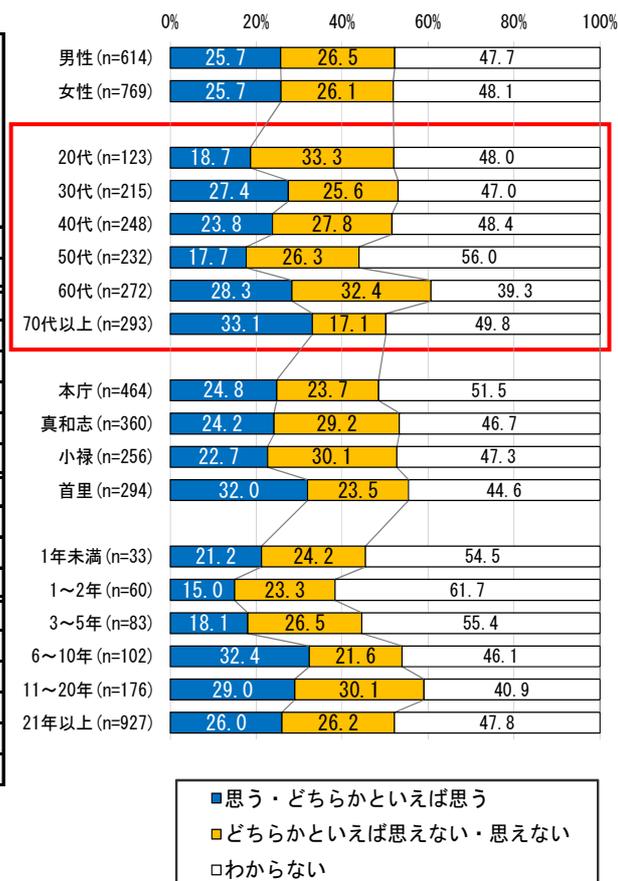


生涯学習施策に関する市民の満足度は25.1%（有意回答で49.4%）で、有意回答では2012年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	と思う え・ど ちう か	えど ち な い え ら な か い と 思 え	わ か ら な い
男性 (n= 614)		158	163	293
女性 (n= 769)		198	201	370
20代 (n= 123)		23	41	59
30代 (n= 215)		59	55	101
40代 (n= 248)		59	69	120
50代 (n= 232)		41	61	130
60代 (n= 272)		77	88	107
70代以上 (n= 293)		97	50	146
本庁 (n= 464)		115	110	239
真和志 (n= 360)		87	105	168
小祿 (n= 256)		58	77	121
首里 (n= 294)		94	69	131
1年未満 (n= 33)		7	8	18
1~2年 (n= 60)		9	14	37
3~5年 (n= 83)		15	22	46
6~10年 (n= 102)		33	22	47
11~20年 (n= 176)		51	53	72
21年以上 (n= 927)		241	243	443



生涯学習施策について年代別にみると、70代以上で満足度の割合が最も高く、50代では最も低くなっている。

30代、70代以上では、満足と感じている割合の方が不満と感じている割合より高い。反対に20代、40代~60代では不満と感じている割合が満足と感じている割合を上回っていることから、不満の要因を明らかにして改善に取り組む必要があると考えられる。

(15) 地球環境保護のための実践項目数（指標番号 39）

政策体系
 都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
 政策 地球環境への配慮
 施策 省エネやエコ商品の利用など市民のエコライフを促進する

質問 51. 地球環境保護のため、あなたが実践していることを次の中からお選びください。この質問では、あてはまるものをすべてお選びください。

- | | | |
|----------------------|--------------------------|---------------------------|
| 1. 電気の節約 | 2. 水の節約 | 3. マイバッグの使用 |
| 4. ごみの減量 | 5. 紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別 | 8. 公共交通の利用 |
| 6. 生ごみの堆肥化 | 7. エコドライブの実践 | 11. 環境にやさしい商品の選択 |
| 9. ノーマイカーデーの実践 | 10. 地産地消の実践 | 14. 太陽熱温水器の利用 |
| 12. ベランダ・屋上・壁面等緑化の実践 | 13. 太陽光発電の利用 | 18. その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他） |
| 15. ハイブリッド車・低公害車等の利用 | 16. 省エネ家電・製品の利用 | |
| 17. エコ住宅の新築・エコ住宅への改築 | | |

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

1人当たりの実践項目数(平均) =

実践項目の選択総数 7,703 ÷ 回答者数 1,422 ÷ 5.42 (前回 4.77)

実践項目の 選択個数	回答者数	1人当たり 実践項目数	前回の1人当たり 実施個数 (前回調査比)	めざそう値
7,703 個	1,422 人	5.42 個	4.77 個 (+0.65個)	6個 (2012年) 8個 (2017年)

当該調査では、選択個数の総和を、1個も回答しなかった25人(実践個数0とみなす)を含めた1,422人で割り、1人当たりの実践個数を算出した。

前回調査よりも0.65ポイント上昇しているが、2012年の「めざそう値」達成には至らなかった。

H16調査から1人あたりの実践個数は増加傾向にあるが、現状の増加率では2017年の「めざそう値」達成は難しいと思われることから、市民のエコライフを促進するためにより一層環境保全の意識を高める取り組みが必要と考えられる。



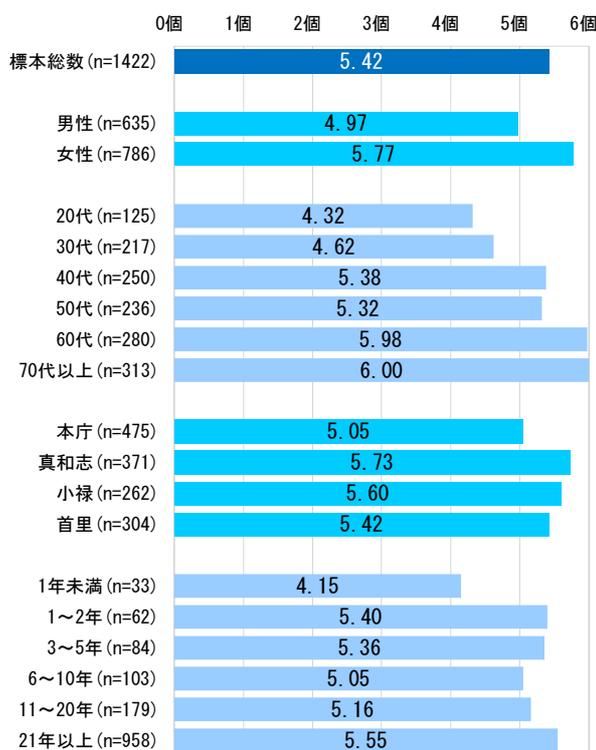
市民が実践しているエコ活動の項目数は、平均 5.42 個で 2012 年の「めざそう値」を達成していない。

2017 年の「めざそう値」を達成するためには、市民のエコライフを促進するためにより一層取り組む必要がある。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、標本総数の平均実践個数 5.42 個と、属性別の平均実践個数との比較を行った。

選択項目	実践個数 (個)	実践個数/人 (個)
標本総数 (n= 1,422)	7,703	5.42
男性 (n= 635)	3,157	4.97
女性 (n= 786)	4,539	5.77
20代 (n= 125)	540	4.32
30代 (n= 217)	1,003	4.62
40代 (n= 250)	1,346	5.38
50代 (n= 236)	1,255	5.32
60代 (n= 280)	1,673	5.98
70代以上 (n= 313)	1,879	6.00
本庁 (n= 475)	2,400	5.05
真和志 (n= 371)	2,125	5.73
小禄 (n= 262)	1,466	5.60
首里 (n= 304)	1,649	5.42
1年未満 (n= 33)	137	4.15
1～2年 (n= 62)	335	5.40
3～5年 (n= 84)	450	5.36
6～10年 (n= 103)	520	5.05
11～20年 (n= 179)	924	5.16
21年以上 (n= 958)	5,317	5.55



性別で見ると、女性の方が男性より 0.8 ポイント高くなっている。

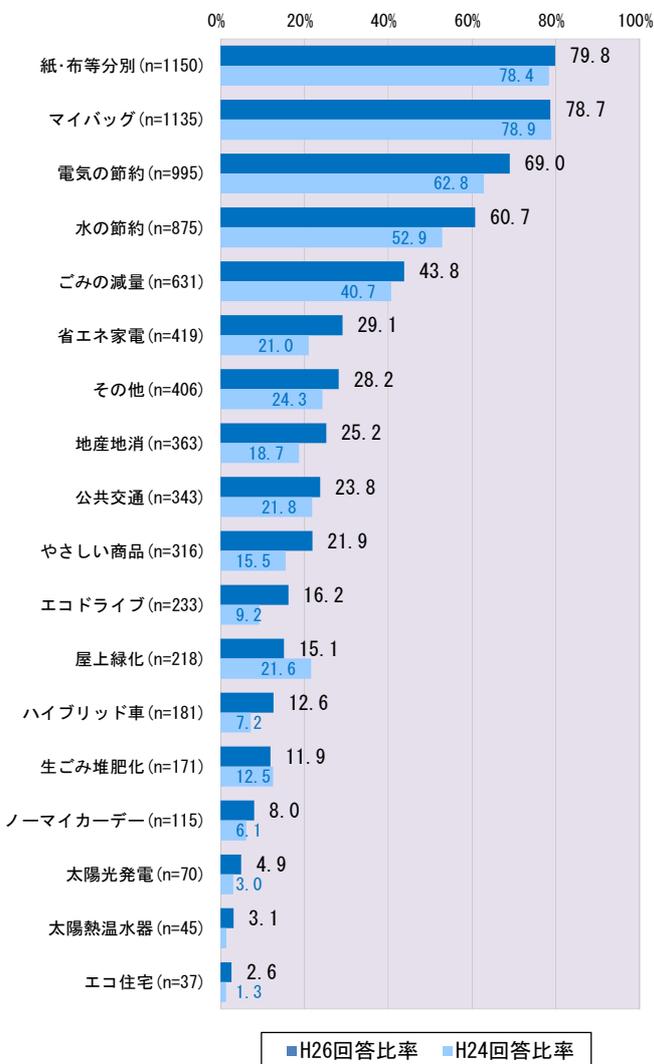
年代では、20 代の 1 人当たりの実践個数が最も少なく、70 代以上で最も多くなっており、概ね年代に比例して多くなっていることがわかる。また、70 代以上でのみ 2012 年の「めざそう値」を達成している。20 代、30 代の若い年代で実践個数が少なくなっていることから、省エネやエコ活動の推進など、意識の啓発が重要と考えられる。

エコ活動は、地球環境保護のための重要な市民の役割であり、継続して実践していかなければならない。

●実践項目の順位

ここでは、実践個数の多い順からグラフの掲載を行い、経年変化をみるために、前回調査の割合と共に掲載を行った。

順位	選択項目	回答数	H24比較
1位	紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別	1,150	↑
2位	マイバッグの使用	1,135	↓
3位	電気の節約	995	↑
4位	水の節約	875	↑
5位	ごみの減量	631	↑
6位	省エネ家電・製品の利用	419	↑
7位	その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他）	406	↑
8位	地産地消の実践	363	↑
9位	公共交通の利用	343	↑
10位	環境にやさしい商品の選択	316	↑
11位	エコドライブの実践	233	↑
12位	ベランダ・屋上・壁面緑化	218	↓
13位	ハイブリッド車・低公害車等の利用	181	↑
14位	生ごみの堆肥化	171	↓
15位	ノーマイカーデーの実践	115	↑
16位	太陽光発電の利用	70	↑
17位	太陽熱温水器の利用	45	↑
18位	エコ住宅の新築・エコ住宅への改築	37	↑



前回調査より、わずかな差だが1位と2位が入れ替わり、「紙・布等分別」が1位、「マイバッグ」が2位となっている。3位から5位までは前回から変動はないが、前回調査より増加している項目が目立つ。3位の「電気の節約」は6.2ポイント、4位の「水の節約」は7.8ポイント、5位の「ごみの減量」は3.1ポイント増加している。前回から最も増加したのは6位の「省エネ家電」で8.1ポイント増加している。2位の「マイバッグ」で0.2ポイント、12位の「屋上緑化」で6.5ポイント、14位の「生ごみの堆肥化」で0.6ポイントの減少を除く、すべての項目で前回より増加していることから、市民1人1人の意識が高まってきていることがわかる。特に上位5項目については、比較的实践しやすい項目であることから、市民が意識して実践していくことで2017年の「めざそう値」達成も見えてくるのではないかと考えられる。

また、5位の「ごみの減量」と7位の「その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他）」の実践内容は幅が広いので、積極的に取り組めるようにPRするのも効果があると思われる。

例) 5位「ごみの減量」→1位、2位、7位、10位、14位と関係

(16) 交通手段に占める自家用車の割合（指標番号 103）

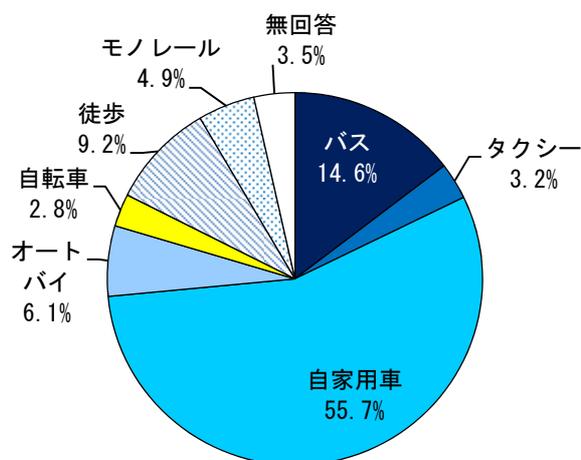
政策体系 都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
 政策 交通体系の整備
 施策 誰もが移動しやすいまちをつくる

質問 52. あなたが、ふだん使っている主な交通手段を次の中から1つお選びください。

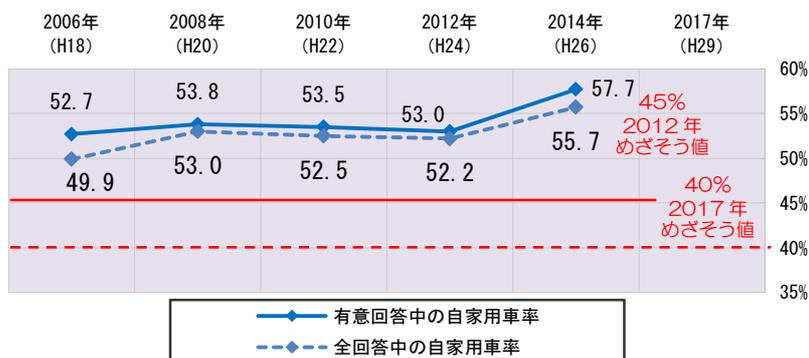
- 1. バス 2. タクシー 3. 自家用車 4. オートバイ
- 5. 自転車 6. 徒歩 7. モノレール

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	回答数		めざそう値 (%)
	全回答%	有意回答%	
バス	208人 (14.6%)	208人 (15.2%)	2012年目標値 (45.0%) ↓ (40.0%) 2017年目標値
タクシー	45人 (3.2%)	45人 (3.3%)	
自家用車	792人 (55.7%)	792人 (57.7%)	
オートバイ	87人 (6.1%)	87人 (6.3%)	
自転車	40人 (2.8%)	40人 (2.9%)	
徒歩	130人 (9.2%)	130人 (9.5%)	
モノレール	70人 (4.9%)	70人 (5.1%)	
有意回答 計	1,372人 (96.5%)	1,372人 (100%)	
無回答	50人 (3.5%)	—	
合計	1,422人 (100%)	—	



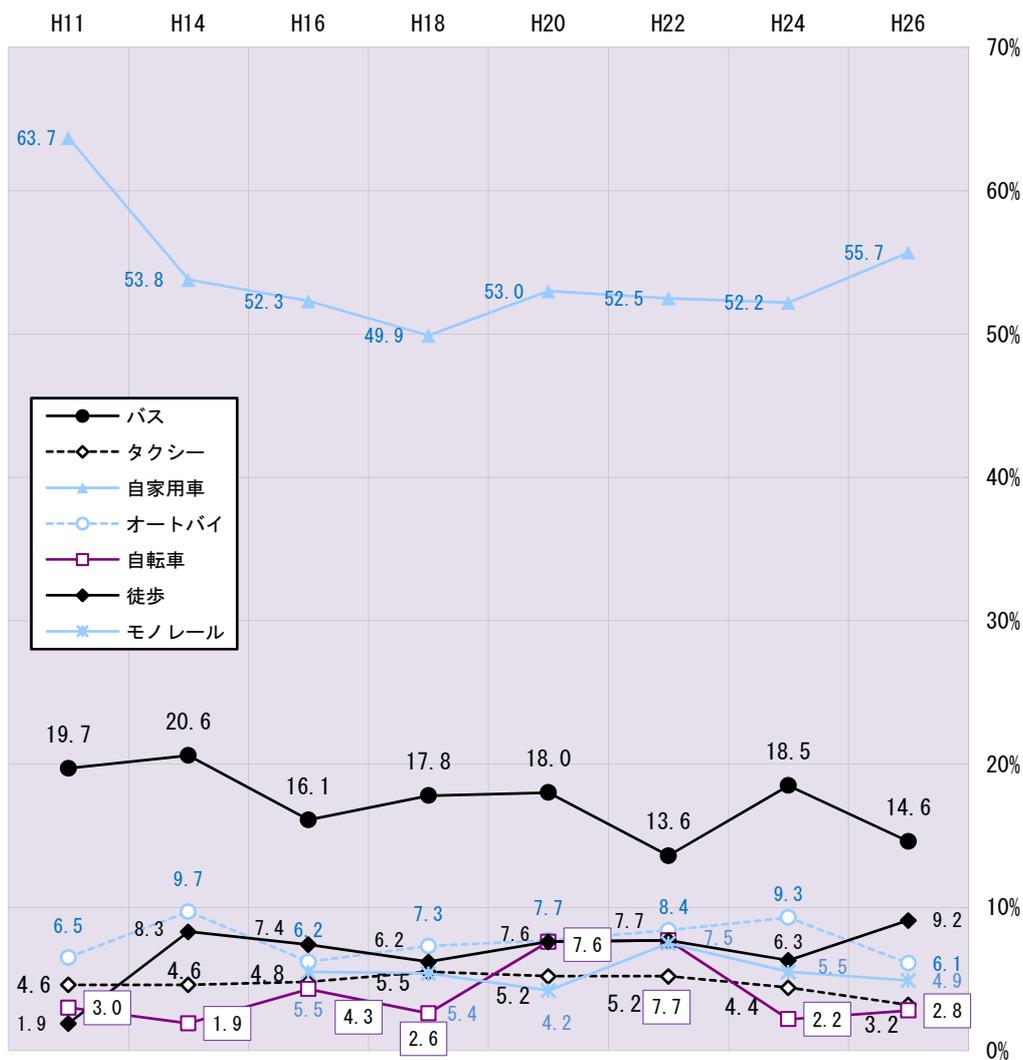
自家用車を利用する市民の割合を、2012年には45%、2017年には40%まで減らすことを目標としている指標だが、今回調査では2012年の「めざそう値」を達成することはできなかった。H20～H24調査ではわずかな増減で横ばいであったが、今回調査では前回から全回答で3.5ポイント、有意回答で4.7ポイント増加している。2012年の目標値には12.7ポイント、2017年の目標値には17.7ポイントの差があることから、これまでの取り組みを見直し、対策を打ち出すことが必要である。



市民の交通手段に占める自家用車の割合は55.7%（有意回答で57.7%）で、2012年の「めざそう値」を達成していない。

2017年の「めざそう値」を達成するには、これまでの取り組みを見直し、効果的な対策を講じる必要がある。

●主な交通手段の経年変化の状況



自家用車の利用については、H11年調査以降、増減がありながらも、全体的には減少傾向となっていたが、今回調査で増加する結果となった。これまでの取り組みを見直し、効果的な対策を講じない限り、2017年の「めざそう値」達成には程遠いと思われる。

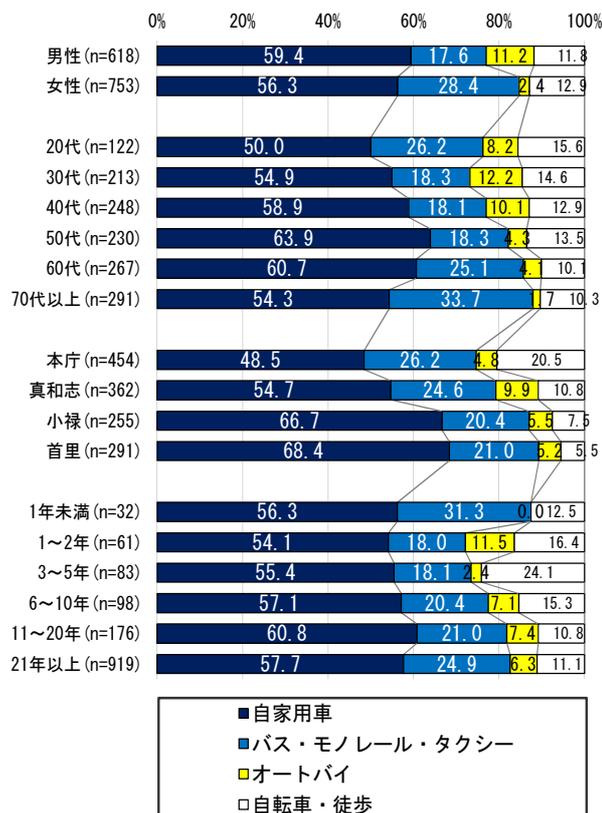
自家用車の次にバスの利用率が高いが、前回より3.9ポイント減少している。今回調査で増加した項目は、徒歩で2.9ポイント、自転車で0.6ポイントとなっている。今回調査では、バスやモノレールを利用する市民が減少しているが、2014年10月よりモノレールで利用できるICカード「OKICA」が導入されたことから、今後利用者が増加することが期待される。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。

ここでは、「無回答」を除き「自家用車」、「バス・モノレール・タクシー」の公共交通機関、「オートバイ」「自転車・徒歩」に分けて割合を算出した。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	自家用車	バス・モノレール・タクシー	オートバイ	自転車・徒歩
男性 (n= 618)	367	109	69	73
女性 (n= 753)	424	214	18	97
20代 (n= 122)	61	32	10	19
30代 (n= 213)	117	39	26	31
40代 (n= 248)	146	45	25	32
50代 (n= 230)	147	42	10	31
60代 (n= 267)	162	67	11	27
70代以上 (n= 291)	158	98	5	30
本庁 (n= 454)	220	119	22	93
真和志 (n= 362)	198	89	36	39
小禄 (n= 255)	170	52	14	19
首里 (n= 291)	199	61	15	16
1年未満 (n= 32)	18	10	0	4
1～2年 (n= 61)	33	11	7	10
3～5年 (n= 83)	46	15	2	20
6～10年 (n= 98)	56	20	7	15
11～20年 (n= 176)	107	37	13	19
21年以上 (n= 919)	530	229	58	102



すべての属性で自家用車の利用率が最も高く、次いでバス・モノレール・タクシー、自転車・徒歩となっている。

居住地区別では、自家用車の利用率は首里地区で最も高く、次いで小禄地区となっている。本庁地区では、バス・モノレール・タクシー、自転車・徒歩の割合が他の地区より高くなっているが、狭い中心市街地で自家用車の駐車スペースを維持するコスト、公共交通網の充実という面が大きく影響しているものと思われる。沖縄振興の推進により道路網の整備も着実に進んでいることも自家用車利用を後押ししていると思われるが、勤務地が市外へ広がると、その傾向はますます高まるものと予想される。

本庁地区を除くすべての属性で自家用車の利用率が5割を超えていることから、今後自家用車の利用を減らすためにも、バスやモノレールなどの公共交通機関の利用者を増加させる必要性があり、利用率の低い男性や30代～50代に利用を呼び掛けていく必要がある。

V. 総合計画の指標調査結果

(17) 身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度（指標番号 104）

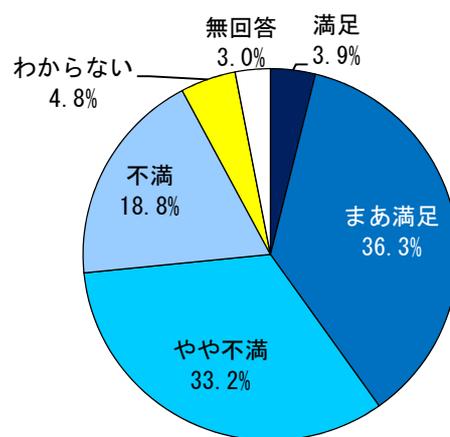
政策体系
 都市像 安心・安全で快適な亜熱帯庭園都市
 政策 交通体系の整備
 施策 体系的な道路網をつくる

質問 53. 市内の身近な道路の整備について、あなたは満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

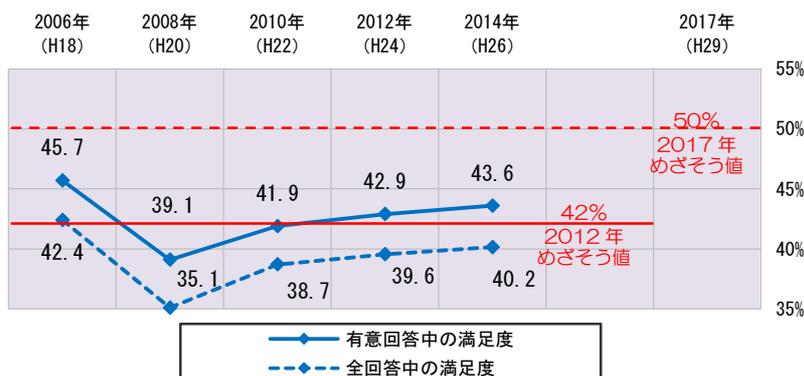
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	55人 (3.9%)	571人 (43.6%)	2012年目標値 (42.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
まあ満足	516人 (36.3%)		
やや不満	473人 (33.2%)		
不満	267人 (18.8%)		
有意回答 計	1,311人 (92.2%)	1,311人 (100%)	
わからない	68人 (4.8%)	—	
無回答	43人 (3.0%)		
合計	1,422人 (100%)		



道路整備に満足している市民は、有意回答で43.6%となっており、2012年の「めざそう値」を達成している。H20 調査から緩やかな増加傾向がみられる。前回調査からは全回答で0.6ポイント、有意回答で0.7ポイント増加しているが、現状の増加率では2017年の「めざそう値」達成は難しいことから、「やや不満」「不満」と感じている市民の満足度を上げる方策を打ち出すことで目標値達成が見えてくると考えられる。

また、161ページの指標番号103「交通手段に占める自家用車の割合」との相関関係から、交通手段によって道路整備への満足度に違いがでる可能性も考えられる。

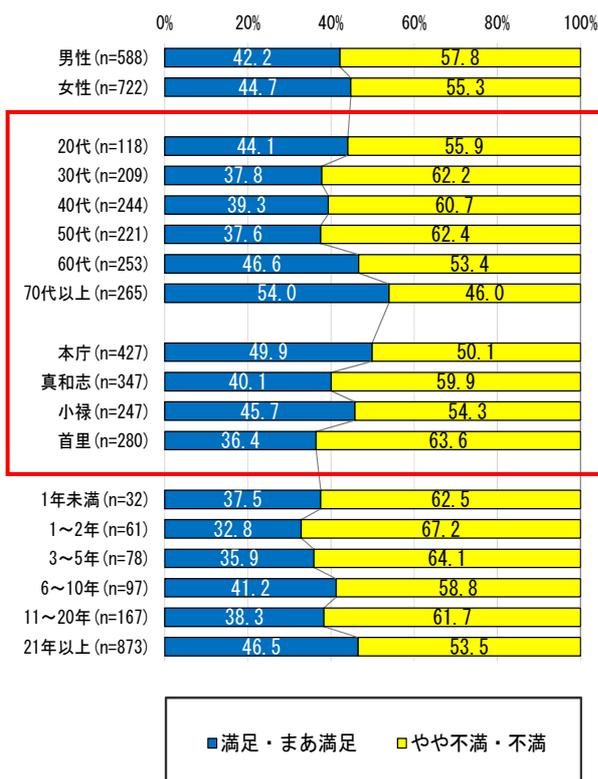


市内の身近な道路整備についての市民の満足度は 40.2%(有意回答で 43.6%)
で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目		満足・まあ満足	やや不満・不満
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 588)	248	340
女性	(n= 722)	323	399
20代	(n= 118)	52	66
30代	(n= 209)	79	130
40代	(n= 244)	96	148
50代	(n= 221)	83	138
60代	(n= 253)	118	135
70代以上	(n= 265)	143	122
本庁	(n= 427)	213	214
真和志	(n= 347)	139	208
小禄	(n= 247)	113	134
首里	(n= 280)	102	178
1年未満	(n= 32)	12	20
1~2年	(n= 61)	20	41
3~5年	(n= 78)	28	50
6~10年	(n= 97)	40	57
11~20年	(n= 167)	64	103
21年以上	(n= 873)	406	467



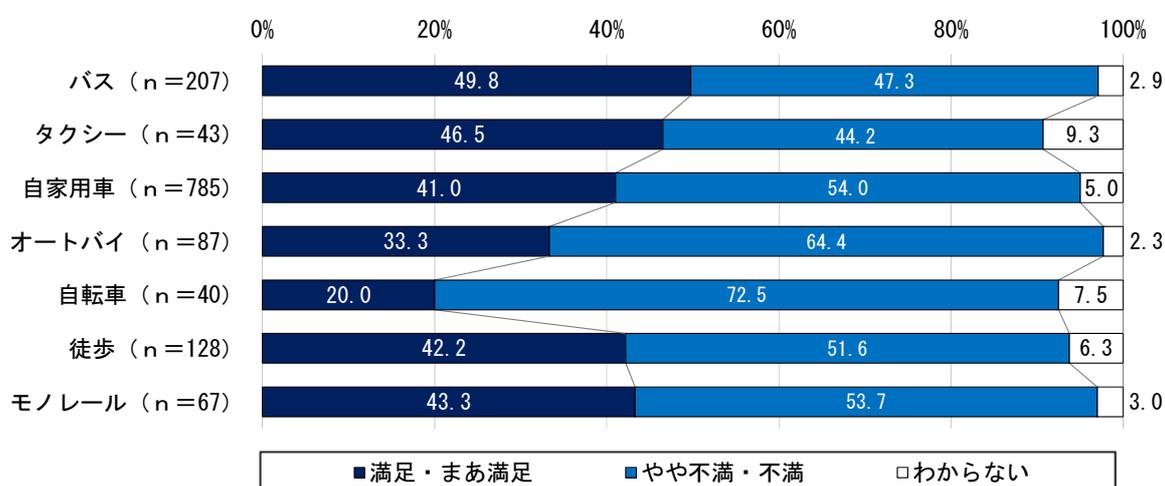
年代別で見ると、満足度は 50 代で最も低くなっており、70 代以上で最も高くなっている。20 代から 60 代までは不満の方が割合が高くなっている。

居住地区別では、本庁地区で満足度が最も高くなっており、次いで小禄地区、真和志地区、首里地区となっている。狭あい道路が多く存在する地域で満足度が低くなっている。主要幹線道路や補助幹線道路など交通機能の高い道路の整備が主に行われる一方で、市民に身近な生活道路の利便性・安全性の向上を求める市民が多いと考えられる。

V. 総合計画の指標調査結果

本指標「身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度」と指標番号 103「交通手段に占める自家用車の割合」の相関関係をみるため、ここでは「無回答」を除き、質問 52「ふだん使っている主な交通手段」とのクロス集計を行った。

主な交通手段	道路整備 (n)	満足・まあ満足 (n= 565)	やや不満・不満 (n= 728)	わからない (n= 64)
バス	(n= 207)	103	98	6
タクシー	(n= 43)	20	19	4
自家用車	(n= 785)	322	424	39
オートバイ	(n= 87)	29	56	2
自転車	(n= 40)	8	29	3
徒歩	(n= 128)	54	66	8
モノレール	(n= 67)	29	36	2
無回答	(n= 22)	6	12	4



「バス」「タクシー」では満足度が最も高くなっているが、それ以外では不満の割合が高くなっている。特に「自転車」「オートバイ」利用者が道路整備に不満を感じている。「自転車」については満足に感じているのは約 2 割だけで、7 割以上が道路整備に対し不満を感じている。

「バス」「タクシー」「モノレール」など主に公共交通機関を利用している市民の方が、他の交通手段を利用している市民より満足度が高くなっている。しかし「モノレール」利用者については「バス」「タクシー」に次いで満足度は高いが、同時に不満も高くなっていることがわかる。

利用する交通機関によって道路整備に対する不満は異なると思われるが、どのような不満があるかを明らかにすることで、道路整備の満足度向上につなげることができると思われる。

(18) 自然と調和したまちづくりだと感じている人の割合（指標番号110）

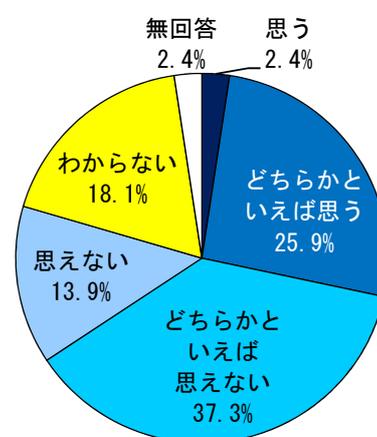
政策体系 都市像 安心・安全で快適な亜熱帯庭園都市
政策 自然と調和したまちなみ
施策 自然を感じられるまちをつくる

質問 54. 本市は、自然と調和したまちづくりが進んでいると思いますか。

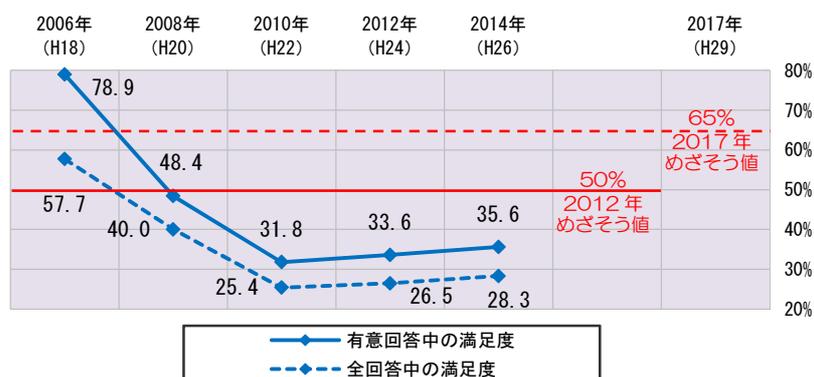
- 1. 思う
- 2. どちらかといえば思う
- 3. どちらかといえば思えない
- 4. 思えない
- 5. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	34人 (2.4%)	403人 (35.6%)	2012年目標値 (50.0%)
どちらかといえば思う	369人 (25.9%)		
どちらかといえば思えない	531人 (37.3%)	728人 (64.4%)	↓ (65.0%) 2017年目標値
思えない	197人 (13.9%)		
有意回答 計	1,131人 (79.5%)	1,131人 (100%)	
わからない	257人 (18.1%)	-	
無回答	34人 (2.4%)		
合計	1,422人 (100%)		



自然と調和したまちづくりだと感じている市民は、全回答で28.3%、有意回答で35.6%となっており、2012年の「めざそう値」を達成していない。H22調査以降わずかに増加傾向にあるが、2012年の「めざそう値」との差は14.4ポイントと大きく開いており、現状のままでは2017年の「めざそう値」達成は難しい。2017年の「めざそう値」を達成するためには、「どちらかといえば思えない」「わからない」と回答した市民を「思う」「どちらかといえば思う」に転換していくような取り組みが必要と考えられる。

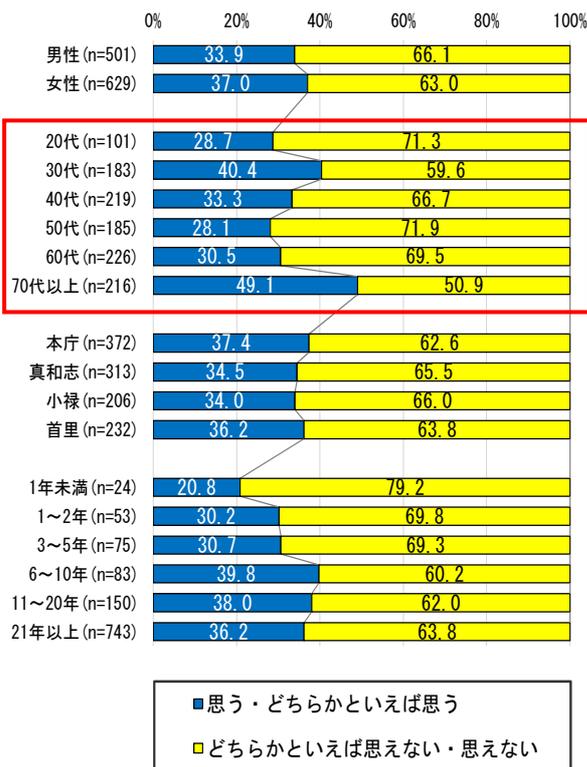


自然と調和したまちづくりだと感じている市民は 28.3%(有意回答で 35.6%)で、2012 年の「めざそう値」を達成していない。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)		選択項目	
		と思 い え ・ ど ち ら か	え ば ど な 思 ち い え ら な か い と ・ い 思 え
男性	(n= 501)	170	331
女性	(n= 629)	233	396
20代	(n= 101)	29	72
30代	(n= 183)	74	109
40代	(n= 219)	73	146
50代	(n= 185)	52	133
60代	(n= 226)	69	157
70代以上	(n= 216)	106	110
本庁	(n= 372)	139	233
真和志	(n= 313)	108	205
小祿	(n= 206)	70	136
首里	(n= 232)	84	148
1年未満	(n= 24)	5	19
1~2年	(n= 53)	16	37
3~5年	(n= 75)	23	52
6~10年	(n= 83)	33	50
11~20年	(n= 150)	57	93
21年以上	(n= 743)	269	474



年代別でみると、70代以上で最も満足度が高く、次いで30代で高くなっている。50代では最も満足度が低くなっており、次いで20代が低くなっている。最も満足度の高い70代で約5割、30代で約4割の市民が自然と調和したまちづくりが進んでいると感じていることから、どのような視点から評価しているのかを明らかにし、他の年代へ啓発していくことで2017年の「めざそう値」達成が見えてくると考えられる。

本設問は「自然との調和」の解釈が非常に狭くとらえられている調査である。何をもって「自然」と考えるかが曖昧であり、調査の中でイメージを正確に伝えることによって意識調査の結果は大きく変わるものと思われる。総合計画におけるイメージを再確認し、設問を再検討、変更すべきと考える。

(19) 地域に合ったまちづくりがなされていると感じる人の割合（指標番号 112）

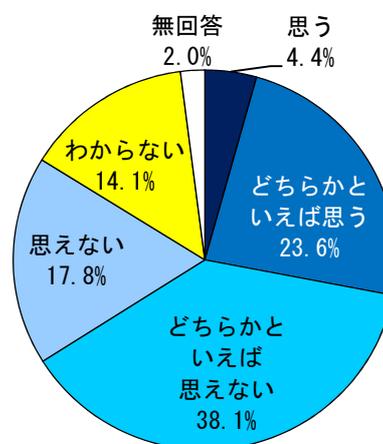
政策体系
 都市像 安心・安全で快適な亜熱帯庭園都市
 政策 自然と調和したまちなみ
 施策 地域にあったまちなみをつくる

質問 55. 本市では、赤瓦や石垣、樹木などをいかした、地域に合った個性豊かな景観づくりが行われていると思いますか。

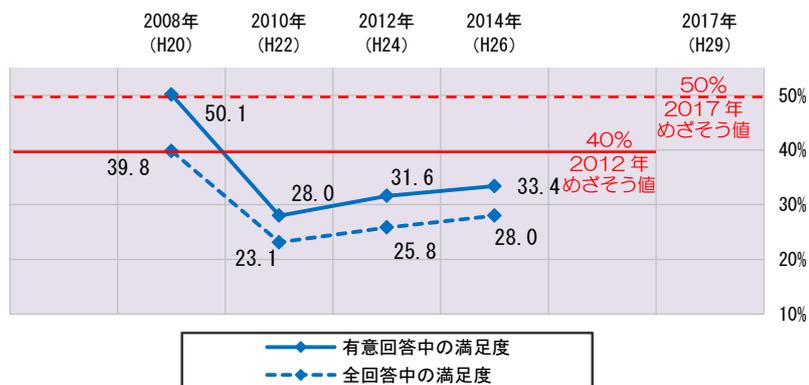
1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
 4. 思えない 5. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	62人 (4.4%)	398人 (33.4%)	2012年目標値 (40.0%)
どちらかといえば思う	336人 (23.6%)		
どちらかといえば思えない	541人 (38.1%)	794人 (66.6%)	(50.0%)
思えない	253人 (17.8%)		
有意回答 計	1,192人 (83.9%)	1,192人 (100%)	2017年目標値
わからない	201人 (14.1%)	-	
無回答	29人 (2.0%)		
合計	1,422人 (100%)		



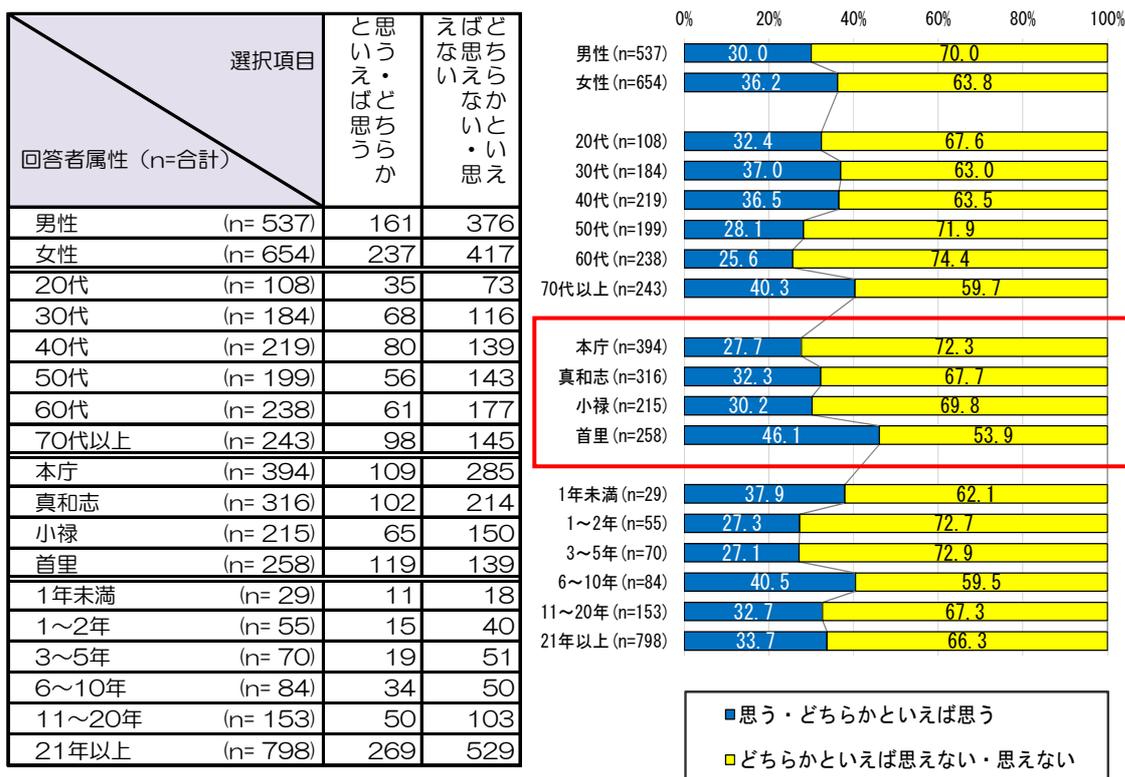
地域に合ったまちと感じている市民は、全回答で 28.0%、有意回答で 33.4%となっており、2012年の「めざそう値」を達成していない。H22 調査以降わずかに増加傾向にあるが、2012年の「めざそう値」との差は 6.6 ポイント開いており、現状のままでは 2017年の「めざそう値」達成は難しい。2017年の「めざそう値」を達成するためには、「どちらかといえば思えない」「わからない」と回答した市民の満足度向上につなげるような取り組みが必要と考えられる。



地域に合ったまちづくりがなされていると感じる市民は 28.0%(有意回答で 33.4%)で、2012 年の「めざそう値」を達成していない。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。



年代別では 70 代以上、居住地区別では首里地区、居住年数別では 6~10 年の満足度が最も高くなっており、2012 年の「めざそう値」40%を超える結果となっている。

居住地区別では首里地区の満足度が特に高くなっている。那覇市都市景観条例により 3 つの地区が都市空間形成地域に指定されているが、このうち 2 つが首里地区にあることも満足度が高い要因の一つと考えられる。首里以外の地区においても地域にあったまちづくりのイメージを共有することが大切と考えられる。本庁、真和志、小祿、首里のいずれも何かしらの地区の個性の提示が必要と思われる。都市化が広がる中で景観づくりのイメージ提示の難しさが汲みとれる。

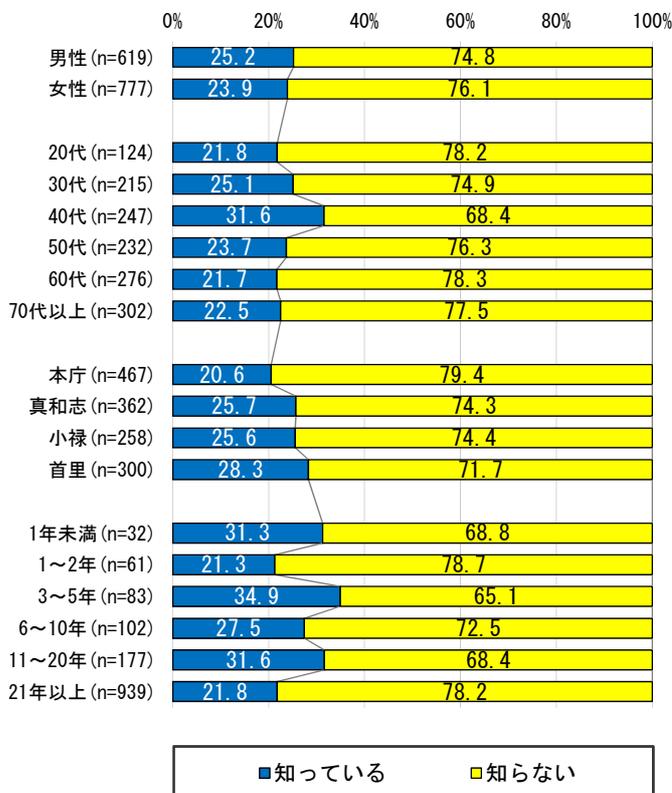
地域によって景観に対する意識や問題点は異なるが、地域の特性を上手く利用した景観づくりに取り組むことで、2017 年の「めざそう値」達成が見えてくると思われる。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)		知っている	知らない
男性	(n= 619)	156	463
女性	(n= 777)	186	591
20代	(n= 124)	27	97
30代	(n= 215)	54	161
40代	(n= 247)	78	169
50代	(n= 232)	55	177
60代	(n= 276)	60	216
70代以上	(n= 302)	68	234
本庁	(n= 467)	96	371
真和志	(n= 362)	93	269
小祿	(n= 258)	66	192
首里	(n= 300)	85	215
1年未満	(n= 32)	10	22
1~2年	(n= 61)	13	48
3~5年	(n= 83)	29	54
6~10年	(n= 102)	28	74
11~20年	(n= 177)	56	121
21年以上	(n= 939)	205	734



年代別で見ると、40代の認知度が最も高く、60代で最も低くなっている。すべての年代で7~8割の市民が「知らない」と回答していることから、現状のままでは2017年の「めざそう値」達成は難しいため、今後配布方法の見直しも含めて、認知度を高める取り組みが必要と思われる。

VI. 市の政策に対する満足度・ 重要度調査結果

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

1. 満足度・重要度調査の結果

平成20年度からスタートした第4次那覇市総合計画で、那覇市は、25の政策を掲げ、各施策（さまざまな取り組み）を展開している。

満足度・重要度調査は、本市が取り組んでいる25の政策に対する市民の満足度と重要度を把握し、政策に対する市民意識として今後の取り組みに反映させるものである。

政策という抽象的なイメージの強い調査となったため、前回同様、全体として「わからない」の回答の比率が高かったが、考察ではそれを除いて分析を試みた。

2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価

(1) 満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点

満足度・重要度調査の結果は、各政策ごとに集計を行い、下記のような点数配点をもって、政策ごとの平均評価点を算出した。（※「わからない」無回答は加点から除いてある。）

満足度：「満足」＝4点、「まあ満足」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満」＝1点
重要度：「高い」＝4点、「まあ高い」＝3点、「やや低い」＝2点、「低い」＝1点

政 策	満足度			重要度 (H24 参考流用)		
	合計点数	有意回答者数	平均評価点	合計点数	有意回答者数	平均評価点
1. 協働によるまちづくり	1,463	600	2.44	2,258	783	2.88
2. 幸せ感のあるまちの創出	1,604	682	2.35	2,430	824	2.95
3. 平和交流・男女共同参画	1,791	686	2.61	2,461	832	2.96
4. 市民に開かれた効率的な行政	1,729	786	2.20	2,813	918	3.06
5. 健康づくりと地域医療の充実	2,493	968	2.58	3,331	1,036	3.22
6. ユニバーサルデザインのまちづくり	1,537	665	2.31	2,533	859	2.95
7. とともに生きる心を育てる	1,657	701	2.36	2,979	962	3.10
8. 地域の支えあい	1,795	756	2.37	2,891	922	3.14
9. 自立を支援するサービスの提供	1,590	675	2.36	2,960	951	3.11
10. 地球環境への配慮	2,121	839	2.53	2,963	966	3.07
11. 資源循環型社会	2,788	1,016	2.74	3,541	1,104	3.21
12. 自然環境の保全・再生・創造	2,289	902	2.54	2,962	1,019	2.91
13. 衛生的な環境の確保	2,470	923	2.68	3,112	1,002	3.11
14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2,524	1,009	2.50	3,119	1,050	2.97
15. 子育て支援と就学前教育・保育	1,724	829	2.08	3,014	952	3.17
16. 子どもの視点に立った環境づくり	1,789	815	2.20	2,981	954	3.12
17. 文化の継承と発展	2,404	884	2.72	3,020	982	3.08
18. 産業の振興	2,039	832	2.45	2,968	962	3.09
19. まちの活性化	2,089	966	2.16	3,018	1,033	2.92
20. 就労支援・相談体制	1,647	809	2.04	3,183	1,018	3.13
21. 都市防災と防犯	2,085	880	2.37	3,264	1,024	3.19
22. 市街地の整備	2,118	922	2.30	2,810	965	2.91
23. 交通体系の整備	2,311	1,094	2.11	3,348	1,112	3.01
24. 上下水道の整備	3,082	1,049	2.94	3,324	1,063	3.13
25. 自然と調和したまちなみ	2,679	1,105	2.42	3,245	1,086	2.99
平 均 値	2,073	856	2.42	2,981	975	3.06

(2) 満足度調査結果の分析

各政策を満足度調査の平均評価点（満足度）でランク付けすると下記のとおりとなる。なお、全政策の平均評価点は、2.42点である。

前回調査の平均点は2.38点であり、今回調査では0.04ポイントの増加となった。

政策25項目のうち、17項目で満足度が高まっている。

順位	政 策	平均評価点	有意回答者数
1	24. 上下水道の整備	2.94	1,049
2	11. 資源循環型社会	2.74	1,016
3	17. 文化の継承と発展	2.72	884
4	13. 衛生的な環境の確保	2.68	923
5	3. 平和交流・男女共同参画	2.61	686
6	5. 健康づくりと地域医療の充実	2.58	968
7	12. 自然環境の保全・再生・創造	2.54	902
8	10. 地球環境への配慮	2.53	839
9	14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2.50	1,009
10	18. 産業の振興	2.45	832
11	1. 協働によるまちづくり	2.44	600
12	25. 自然と調和したまちなみ	2.42	1,105
13	8. 地域の支えあい	2.37	756
14	21. 都市防災と防犯	2.37	880
15	7. とともに生きる心を育てる	2.36	701
16	9. 自立を支援するサービスの提供	2.36	675
17	2. 幸せ感のあるまちの創出	2.35	682
18	6. ユニバーサルデザインのまちづくり	2.31	665
19	22. 市街地の整備	2.30	922
20	4. 市民に開かれた効率的な行政	2.20	786
21	16. 子どもの視点に立った環境づくり	2.20	815
22	19. まちの活性化	2.16	966
23	23. 交通体系の整備	2.11	1,094
24	15. 子育て支援と就学前教育・保育	2.08	829
25	20. 就労支援・相談体制	2.04	809
平 均 値		2.42	856



(3) 重要度調査結果の分析

各政策の重要度調査については、前回（H24）調査から大きな変動はないと判断し、今回調査では実施せず、前回調査結果を使用する。なお、全政策の平均評価点は、3.06点である。

順位	政 策	平均評価点	有意回答者数
1	5. 健康づくりと地域医療の充実	3.22	1,036
2	11. 資源循環型社会	3.21	1,104
3	21. 都市防災と防犯	3.19	1,024
4	15. 子育て支援と就学前教育・保育	3.17	952
5	8. 地域の支えあい	3.14	922
6	24. 上下水道の整備	3.13	1,063
7	20. 就労支援・相談体制	3.13	1,018
8	16. 子どもの視点に立った環境づくり	3.12	954
9	9. 自立を支援するサービスの提供	3.11	951
10	13. 衛生的な環境の確保	3.11	1,002
11	7. とともに生きる心を育てる	3.10	962
12	18. 産業の振興	3.09	962
13	17. 文化の継承と発展	3.08	982
14	10. 地球環境への配慮	3.07	966
15	4. 市民に開かれた効率的な行政	3.06	918
16	23. 交通体系の整備	3.01	1,112
17	25. 自然と調和したまちなみ	2.99	1,086
18	14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2.97	1,050
19	3. 平和交流・男女共同参画	2.96	832
20	2. 幸せ感のあるまちの創出	2.95	824
21	6. ユニバーサルデザインのまちづくり	2.95	859
22	19. まちの活性化	2.92	1,033
23	22. 市街地の整備	2.91	965
24	12. 自然環境の保全・再生・創造	2.91	1,019
25	1. 協働によるまちづくり	2.88	783
平均値		3.06	975



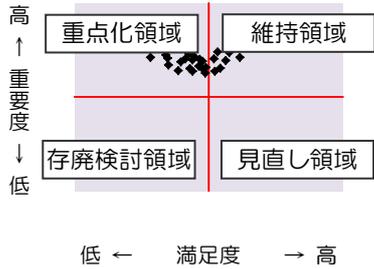
(4) 回答者数について

前回調査同様平均評価点による順位付けで評価を実施したわけだが、回答者が多い政策ほど市民の関心や理解度が高いと考えられるので、回答者数が低い政策ほど政策や取り組みに対する周知に努める必要があるともいえる。

前回調査における満足度の回答者数は818人、重要度の回答者数は975人となっている。

満足度と重要度の回答者数の差は、満足度について回答を避けている市民が、個々の政策については（市の政策は公的なものなので「重要」と考えているため）総じて重要と回答したことによって引き起こされたものと考えられる。

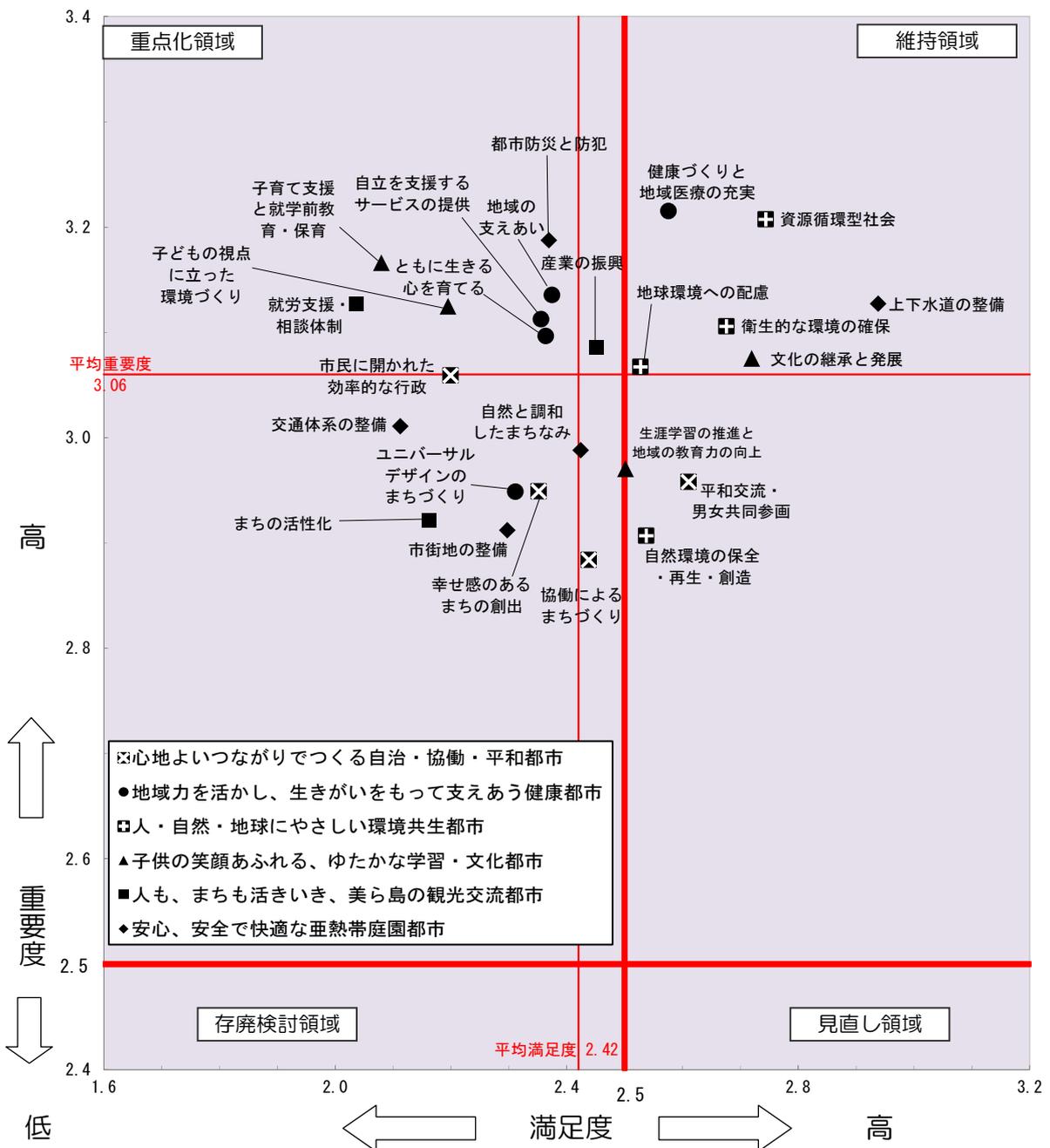
(5) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



一般に満足度と重要度を組み合わせて評価を行う場合、左記の図のように分類して、存廃、見直し、重点化、維持の判断を行うべきとされている。

分類領域は、加點評価の平均 2.5 点を基準としている。

今回の調査結果における平均満足度、平均重要度を中心とした 25 の個々の政策分布は以下のとおりとなる。



【存廃検討領域とされる政策】

なし

【見直し領域とされる政策】

なし

【重点化領域とされる政策】

※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

1. まちの活性化	(計：5.08 満：2.16 重：2.92)
2. 交通体系の整備	(計：5.12 満：2.11 重：3.01)
3. 就労支援・相談体制	(計：5.17 満：2.04 重：3.13)
4. 市街地の整備	(計：5.21 満：2.30 重：2.91)
5. 子育て支援と就学前教育・保育	(計：5.25 満：2.08 重：3.17)
6. ユニバーサルデザインのまちづくり	(計：5.26 満：2.31 重：2.95)
7. 市民に開かれた効率的な行政	(計：5.26 満：2.20 重：3.06)
8. 幸せ感のあるまちの創出	(計：5.30 満：2.35 重：2.95)
9. 子どもの視点に立った環境づくり	(計：5.32 満：2.20 重：3.12)
10. 協働によるまちづくり	(計：5.32 満：2.44 重：2.88)
11. 自然と調和したまちなみ	(計：5.41 満：2.42 重：2.99)
12. とともに生きる心を育てる	(計：5.46 満：2.36 重：3.10)
13. 自立を支援するサービスの提供	(計：5.47 満：2.36 重：3.11)
14. 地域の支えあい	(計：5.51 満：2.37 重：3.14)
15. 産業の振興	(計：5.54 満：2.45 重：3.09)
16. 都市防災と防犯	(計：5.56 満：2.37 重：3.19)

【維持領域とされる政策】

※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

1. 自然環境の保全・再生・創造	(計：5.45 満：2.54 重：2.91)
2. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	(計：5.47 満：2.50 重：2.97)
3. 平和交流・男女共同参画	(計：5.57 満：2.61 重：2.96)
4. 地球環境への配慮	(計：5.60 満：2.53 重：3.07)
5. 衛生的な環境の確保	(計：5.79 満：2.68 重：3.11)
6. 健康づくりと地域医療の充実	(計：5.80 満：2.58 重：3.22)
7. 文化の継承と発展	(計：5.80 満：2.72 重：3.08)
8. 資源循環型社会	(計：5.95 満：2.74 重：3.21)
9. 上下水道の整備	(計：6.07 満：2.94 重：3.13)

25の政策については、いずれも存廃、見直しが必要とされるものはなく、今後とも維持継続、あるいはさらに力を入れていくことが求められる結果となった。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

3. 各政策に対する満足度・重要度評価の状況

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 協働によるまちづくり

質問 56-1. 協働によるまちづくり（自治会等の活動への支援、行政への市民参加促進等）
 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

(満足度)

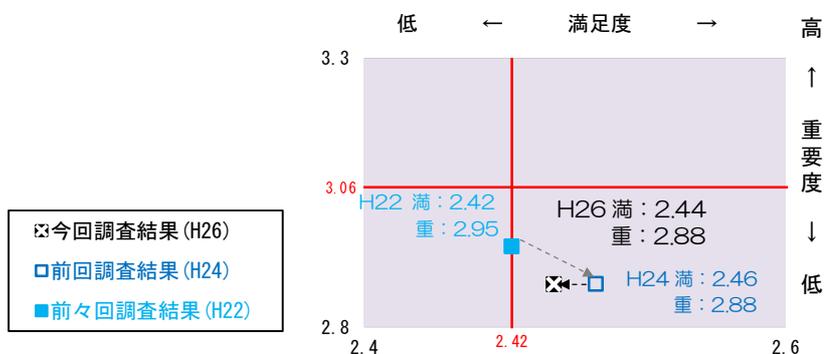
選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	17人	(1.2%)	317人 (52.8%)	
まあ満足	300人	(21.1%)		
やや不満	212人	(14.9%)		
不満	71人	(5.0%)		
合計	600人	(42.2%)	600人 (100%)	
わからない	700人	(49.2%)	-	
無回答	122人	(8.6%)		
合計	1,422人	(100%)		

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	177人	(13.1%)	783人 (73.7%)	
まあ高い	400人	(29.5%)		
やや低い	144人	(10.6%)		
低い	62人	(4.6%)		
合計	783人	(57.8%)	783人 (100%)	
わからない	489人	(36.1%)	-	
無回答	83人	(6.1%)		
合計	1,355人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、52.8%の市民が「まあ満足」以上と回答している。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、市民は「協働によるまちづくり」の政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。

経年変化をみると、H22 から H24 にかけて満足度が向上したが、今回調査ではわずかが下がっている。

「協働によるまちづくり」政策については、市民の満足度を高めるため自治会等の活動への支援や行政への市民参加をさらに推進する取り組みが必要と考えられる。

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 幸せ感のあるまちの創出

質問 56-2. 幸せ感のあるまちの創出（人権意識の普及、相談体制の整備等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

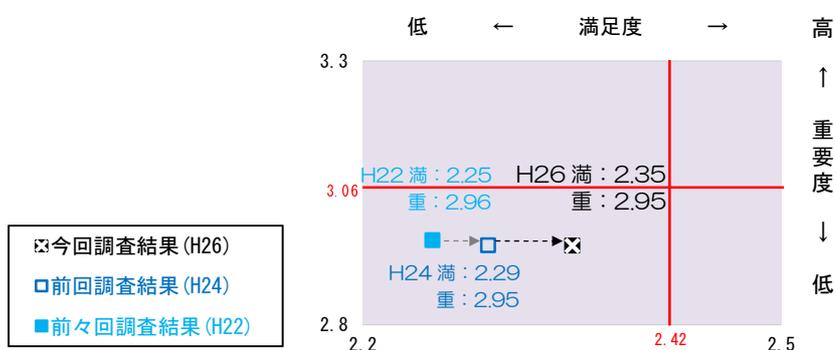
選択項目	回答数	(%)	有意回答数
満足	12人	(0.8%)	336人 (49.3%)
まあ満足	324人	(22.8%)	
やや不満	238人	(16.7%)	
不満	108人	(7.6%)	
合計	682人	(47.9%)	682人 (100%)
わからない	618人	(43.5%)	-
無回答	122人	(8.6%)	
合計	1,422人	(100%)	

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
高い	241人	(17.8%)	610人 (74.0%)
まあ高い	369人	(27.2%)	
やや低い	145人	(10.7%)	214人 (26.0%)
低い	69人	(5.1%)	
合計	824人	(60.8%)	824人 (100%)
わからない	450人	(33.2%)	-
無回答	81人	(6.0%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が49.3%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「幸せ感のあるまちの創出」の政策について、満足度、重要度共に低く見ているといえる。

経年変化をみると、H22以降、満足度が向上しており、当該政策に対する評価は良くなっているが、指標全体の平均値未満である。人権意識の啓発機会や情報提供、相談体制の充実に取り組んだことが満足度向上につながったと考えられるため、継続的な取り組みが必要である。

「幸せ感のあるまちの創出」の政策については、市民の満足度向上が図られているが、より一層力を入れて継続的な取り組みを行うことが求められる。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 平和交流・男女共同参画

質問 56-3. 平和交流・男女共同参画（平和学習、国際交流の推進等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

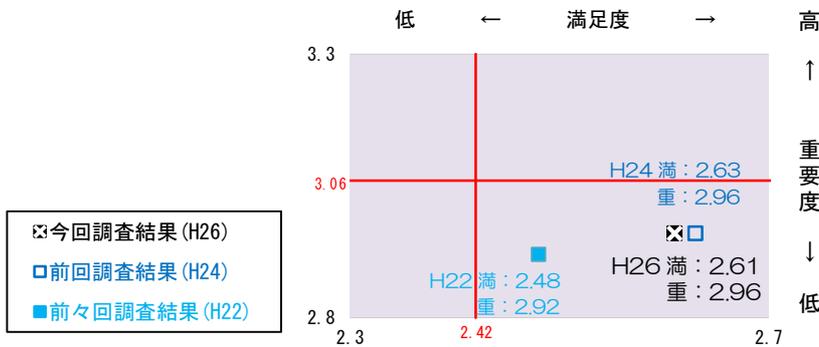
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	28人	(2.0%)	446人 (65.0%)
まあ満足	418人	(29.4%)	
やや不満	185人	(13.0%)	240人 (35.0%)
不満	55人	(3.9%)	
合計	686人	(48.3%)	686人 (100%)
わからない	612人	(43.0%)	-
無回答	124人	(8.7%)	
合計	1,422人	(100%)	

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	233人	(17.2%)	624人 (75.0%)
まあ高い	391人	(28.9%)	
やや低い	148人	(10.9%)	208人 (25.0%)
低い	60人	(4.4%)	
合計	832人	(61.4%)	832人 (100%)
わからない	449人	(33.1%)	-
無回答	74人	(5.5%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が65.0%となっている。
 相対分布グラフでみると、市民は「平和交流・男女共同参画」の政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。
 経年変化をみると、H22 から H24 にかけて満足度、重要度共に向上しているが、今回調査では満足度がわずかに低下していることがわかる。

「平和交流・男女共同参画」の政策については、特に重要性について市民の意識を高めるための取り組みが必要と判断される。

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 市民に開かれた効率的な行政

質問 56-4. 市民に開かれた効率的な行政（職員の削減、財政健全化の取り組み等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

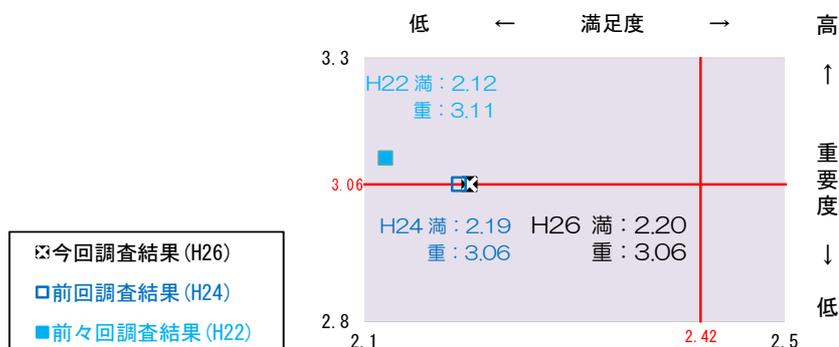
選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	40人	(2.8%)	299人	(38.0%)
まあ満足	259人	(18.2%)	487人	(62.0%)
やや不満	305人	(21.4%)		
不満	182人	(12.8%)		
合計	786人	(55.2%)	786人	(100%)
わからない	511人	(36.0%)		
無回答	125人	(8.8%)		
合計	1,422人	(100%)		

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	343人	(25.3%)	705人	(76.8%)
まあ高い	362人	(26.7%)	213人	(23.2%)
やや低い	142人	(10.5%)		
低い	71人	(5.2%)		
合計	918人	(67.7%)	918人	(100%)
わからない	369人	(27.3%)		
無回答	68人	(5.0%)		
合計	1,355人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が38.0%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「市民に開かれた効率的な行政」の政策について、満足度は平均値より低く、重要度は平均値と同値である。

経年変化をみると、満足度は向上傾向にあるが、指標全体の平均値未満である。今後、組織の執行体制や事業の妥当性を高め、効率的で市民の満足度・重要度向上につながる取り組みが必要と思われる。

「市民に開かれた効率的な行政」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
 政策 健康づくりと地域医療の充実

質問 56-5. 健康づくりと地域医療の充実

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

(満足度)

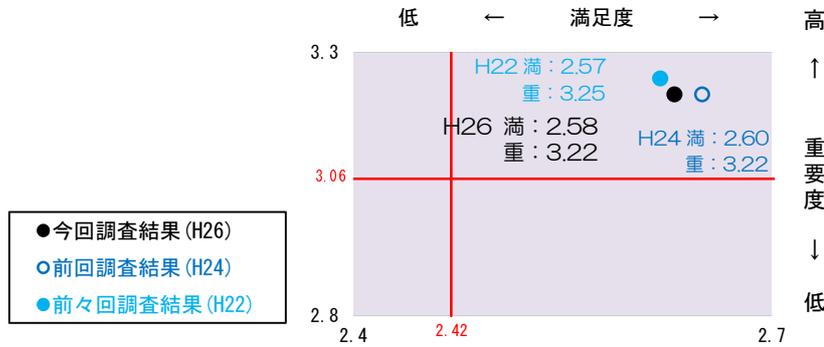
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	50人	(3.5%)	604人 (62.4%)
まあ満足	554人	(39.0%)	
やや不満	267人	(18.8%)	
不満	97人	(6.8%)	
合計	968人	(68.1%)	968人 (100%)
わからない	336人	(23.6%)	-
無回答	118人	(8.3%)	
合計	1,422人	(100%)	

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	438人	(32.3%)	879人 (84.8%)
まあ高い	441人	(32.5%)	
やや低い	99人	(7.3%)	157人 (15.2%)
低い	58人	(4.3%)	
合計	1,036人	(76.4%)	1,036人 (100%)
わからない	260人	(19.2%)	-
無回答	59人	(4.4%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が62.4%となっている。相対分布グラフでみると、市民は「健康づくりと地域医療の充実」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度は若干低下している。沖縄の長寿県転落などのニュースもあり(2013年)、病気の予防や健康増進についての危機意識の高まりが反映したと考えられる。

「健康づくりと地域医療の充実」の政策については、市民の関心も高いと思われるので、今後も引き続き、向上させるための取り組みに力を入れていく必要がある。

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
 政策 ユニバーサルデザインのまちづくり

質問 56-6. ユニバーサルデザインのまちづくり

(※ユニバーサルデザイン=年齢、性別、国籍等に関わりなく、すべての人が利用しやすく、安全で快適なものをめざす考え方)

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

(満足度)

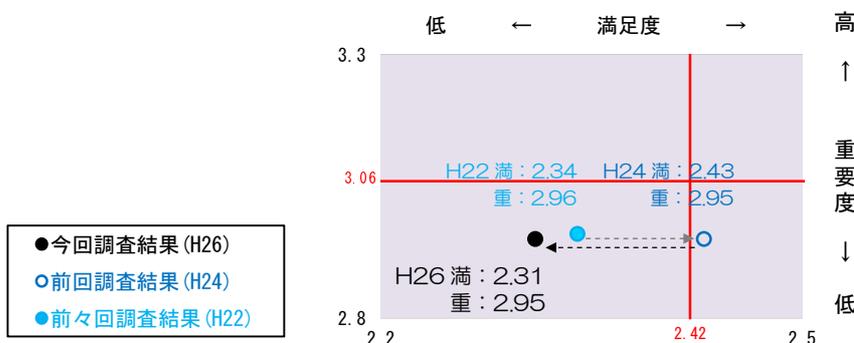
選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	26人	(1.8%)	299人 (45.0%)	
まあ満足	273人	(19.2%)		
やや不満	248人	(17.5%)		
不満	118人	(8.3%)		
合計	665人	(46.8%)	665人 (100%)	
わからない	629人	(44.2%)	-	
無回答	128人	(9.0%)		
合計	1,422人	(100%)		

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	260人	(19.2%)	629人 (73.2%)	
まあ高い	369人	(27.2%)		
やや低い	156人	(11.5%)		
低い	74人	(5.5%)		
合計	859人	(63.4%)	859人 (100%)	
わからない	422人	(31.1%)	-	
無回答	74人	(5.5%)		
合計	1,355人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が45.0%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「ユニバーサルデザインのまちづくり」の政策について、満足度、重要度共に低く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22からH24にかけて向上したが、今回調査では低下している。低下の理由が施設の後退によるものか市民意識の変化によるものかわからないが、市施設が全体的に老朽化が進んでいることも考慮しながら対応を進めることが必要と考える。

「ユニバーサルデザインのまちづくり」の政策については、満足度を高めるため、課題となっている施設がないか確認と点検を進めることが必要だと判断される。

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
 政策 ともに生きる心を育てる

質問 56-7. ともに生きる心を育てる（助け合いの心を育む取り組み等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

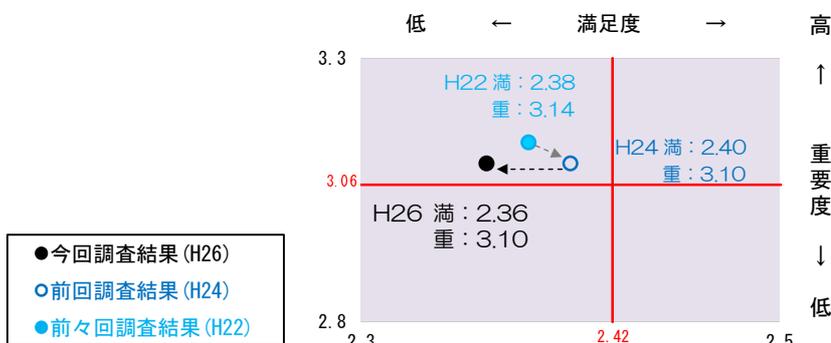
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	30人	(2.1%)	333人 (47.5%)
まあ満足	303人	(21.3%)	
やや不満	260人	(18.3%)	
不満	108人	(7.6%)	
合計	701人	(49.3%)	701人 (100%)
わからない	591人	(41.6%)	-
無回答	130人	(9.1%)	
合計	1,422人	(100%)	

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	345人	(25.5%)	774人 (80.5%)
まあ高い	429人	(31.7%)	
やや低い	124人	(9.2%)	
低い	64人	(4.7%)	
合計	962人	(71.0%)	962人 (100%)
わからない	325人	(24.0%)	-
無回答	68人	(5.0%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が47.5%となっている。
 相対分布グラフでみると、市民は「ともに生きる心を育てる」の政策について、重要度を高め
 に見ているが、満足度は平均値を下回っている。
 経年変化をみると、満足度はH22からH24にかけて向上したが、今回調査では低下している。
 自治会の結成状況も含め今後その重要性が高まっていくことが予想されるので、意識作りにさら
 に力を入れていくことが必要と思われる。

「ともに生きる心を育てる」の政策の重要性は市民に評価されているが、満足度を高めるためにも市民意識を高める取り組みに力を入れることが求められる。

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
 政策 地域の支えあい

質問 56-8. 地域の支えあい（相談窓口、子育て支援策等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

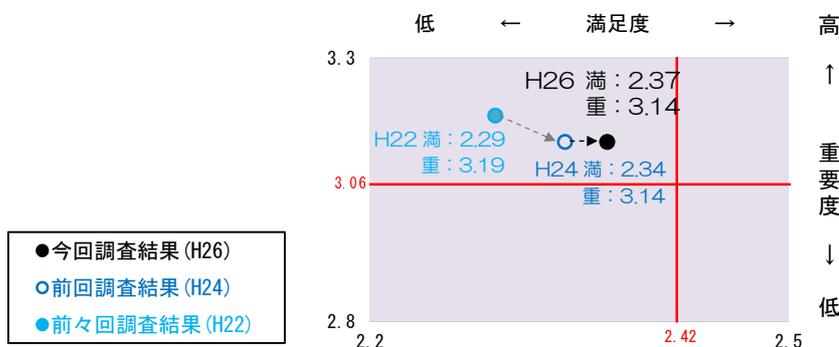
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	29人	(2.0%)	362人 (47.9%)
まあ満足	333人	(23.4%)	
やや不満	286人	(20.1%)	
不満	108人	(7.6%)	
合計	756人	(53.1%)	756人 (100%)
わからない	538人	(37.9%)	-
無回答	128人	(9.0%)	
合計	1,422人	(100%)	

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	371人	(27.4%)	741人 (80.4%)
まあ高い	370人	(27.3%)	
やや低い	116人	(8.5%)	
低い	65人	(4.8%)	
合計	922人	(68.0%)	922人 (100%)
わからない	356人	(26.3%)	-
無回答	77人	(5.7%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が47.9%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「地域の支えあい」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22以降向上しているが、指標全体の平均値未満となっている。近年の子育て支援の取組強化が少しずつ効果を発揮しているとも考えられるが、さらに行政の相談機能の充実と関係機関との連携を強化していく必要があると思われる。

「地域の支えあい」の政策については、子育て支援が大きな課題であることから、さらに満足度を高めていく取り組みが必要と判断される。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
 政策 自立を支援するサービス提供

質問 56-9. 自立を支援するサービスの提供（障がい者の自立、就労支援策等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

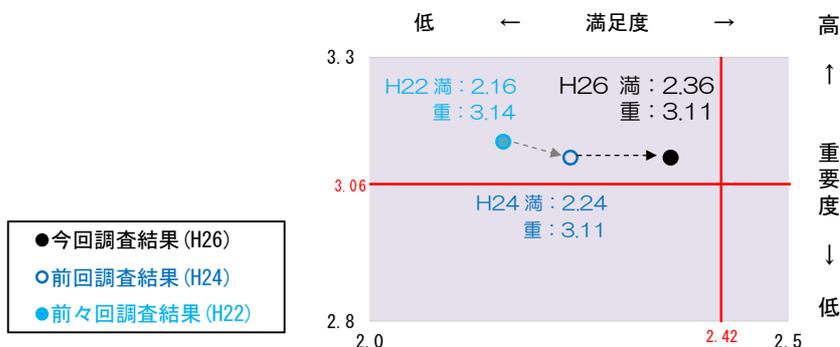
（満足度）

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)	選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	28人	(2.0%)	326人 (48.3%)	高い	398人	(29.4%)	749人 (78.8%)
まあ満足	298人	(21.0%)		まあ高い	351人	(25.9%)	
やや不満	235人	(16.5%)		やや低い	113人	(8.3%)	
不満	114人	(8.0%)		低い	89人	(6.6%)	
合計	675人	(47.5%)	675人 (100%)	合計	951人	(70.2%)	951人 (100%)
わからない	623人	(43.8%)	-	わからない	334人	(24.6%)	-
無回答	124人	(8.7%)		無回答	70人	(5.2%)	
合計	1,422人	(100%)		合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が48.3%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「自立を支援するサービス提供」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22以降着実に向上しているが、まだ指標全体の平均値未満となっている。今後、市民の満足度を高めていくために、自立や社会参加の促進に役立つサービスの提供体制を強化していく必要があると思われる。

「自立を支援するサービス提供」の政策については、満足度を高めていく取り組みを着実に進めていくことが必要と判断される。

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
 政策 地球環境への配慮

質問 56-10. 地球環境への配慮（省エネ等のエコライフの推進）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

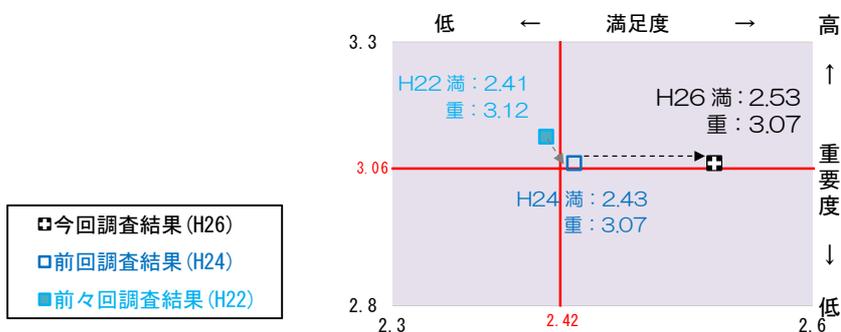
（満足度）

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)	選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	30 人	(2.1%)	505 人 (60.2%)	高い	347 人	(25.6%)	754 人 (78.1%)
まあ満足	475 人	(33.4%)		まあ高い	407 人	(30.0%)	
やや不満	242 人	(17.0%)		やや低い	142 人	(10.5%)	
不満	92 人	(6.5%)		低い	70 人	(5.2%)	
合計	839 人	(59.0%)	839 人 (100%)	合計	966 人	(71.3%)	966 人 (100%)
わからない	456 人	(32.1%)	-	わからない	315 人	(23.2%)	-
無回答	127 人	(8.9%)		無回答	74 人	(5.5%)	
合計	1,422 人	(100%)		合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が60.2%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「地球環境への配慮」の政策について、満足度、重要度共に高めにしている。

経年変化をみると、満足度はH22以降着実に向上している。省エネやエコ商品の利用など、市民意識の高まりがエコライフを推進する市の取り組みに対する満足度向上につながったと考えられる。

「地球環境への配慮」の政策については、満足度をより向上させるため先導的な取り組みが必要と判断される。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
 政策 資源循環型社会

質問 56-11. 資源循環型社会（ごみ減量、リサイクル推進）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

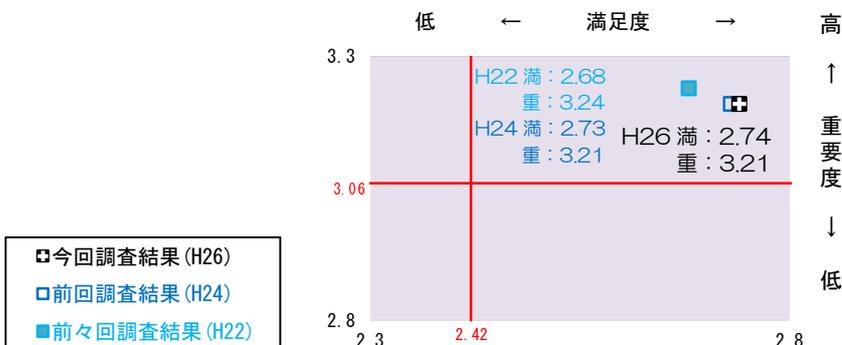
（満足度）

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)	選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	95 人	(6.7%)	741 人 (72.9%)	高い	444 人	(32.8%)	938 人 (85.0%)
まあ満足	646 人	(45.4%)		まあ高い	494 人	(36.5%)	
やや不満	195 人	(13.7%)		やや低い	117 人	(8.6%)	
不満	80 人	(5.6%)		低い	49 人	(3.6%)	
合計	1,016 人	(71.4%)	1,016 人 (100%)	合計	1,104 人	(81.5%)	1,104 人 (100%)
わからない	281 人	(19.8%)	-	わからない	178 人	(13.1%)	-
無回答	125 人	(8.8%)		無回答	73 人	(5.4%)	
合計	1,422 人	(100%)		合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が72.9%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「資源循環型社会」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH24 からわずかに向上していることがわかる。

「資源循環型社会」の政策については、継続的な取り組みが重要であり、市民のリサイクル意識を維持、向上させるためにもさらに継続が求められる。

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
 政策 自然環境の保全・再生・創造

質問 56-12. 自然環境の保全・再生・創造（屋上・壁面緑化の推進等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

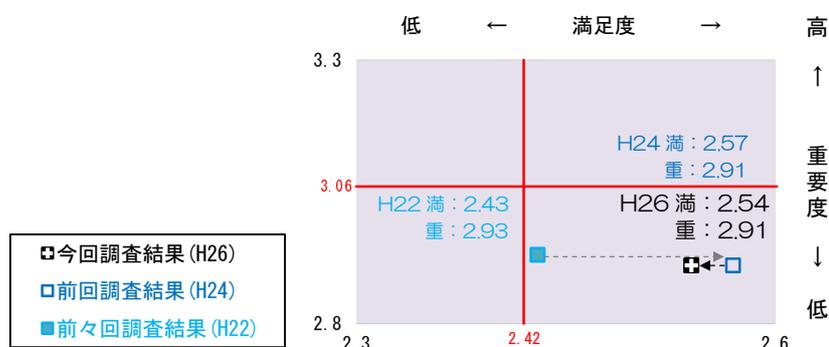
選択項目	回答数	(%)	有意回答数
			(%)
満足	53人	(3.7%)	531人 (58.9%)
まあ満足	478人	(33.6%)	
やや不満	272人	(19.1%)	
不満	99人	(7.0%)	
合計	902人	(63.4%)	902人 (100%)
わからない	394人	(27.7%)	-
無回答	126人	(8.9%)	
合計	1,422人	(100%)	

（重要度）

参考：H24データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
			(%)
高い	287人	(21.2%)	735人 (72.1%)
まあ高い	448人	(33.1%)	
やや低い	186人	(13.7%)	284人 (27.9%)
低い	98人	(7.2%)	
合計	1,019人	(75.2%)	1,019人 (100%)
わからない	268人	(19.8%)	-
無回答	68人	(5.0%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が58.9%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「自然環境の保全・再生・創造」の政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22からH24にかけて向上したが、今回調査ではわずかに低下している。今後、屋上・壁面緑化の推進等の環境面への効果など市民への啓発を促す取り組みが必要と思われる。

「自然環境の保全・再生・創造」の政策は、屋上・壁面緑化の推進等の取り組みが、環境面から重要だという意識を高めることが必要と判断される。

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
 政策 衛生的な環境の確保

質問 56-13. 衛生的な環境の確保（し尿処理、害虫駆除等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

(満足度)

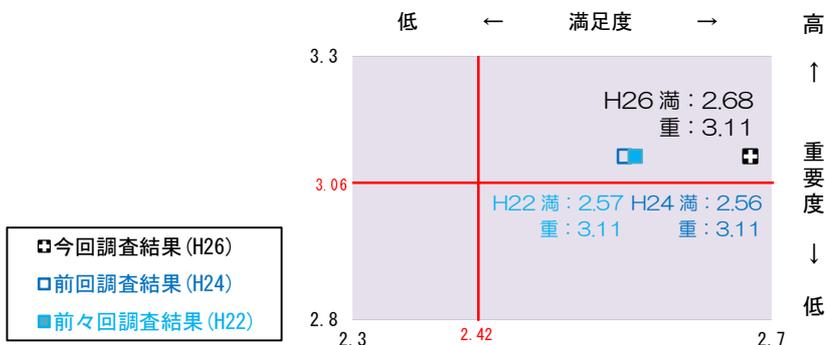
選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	94 人	(6.6%)	625 人	(67.7%)
まあ満足	531 人	(37.3%)		
やや不満	203 人	(14.3%)	298 人	(32.3%)
不満	95 人	(6.7%)		
合計	923 人	(64.9%)	923 人	(100%)
わからない	379 人	(26.7%)		
無回答	120 人	(8.4%)		
合計	1,422 人	(100%)		

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	383 人	(28.3%)	800 人	(79.8%)
まあ高い	417 人	(30.8%)		
やや低い	127 人	(9.3%)	202 人	(20.2%)
低い	75 人	(5.5%)		
合計	1,002 人	(73.9%)	1,002 人	(100%)
わからない	284 人	(21.0%)		
無回答	69 人	(5.1%)		
合計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が67.7%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「衛生的な環境の確保」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22からH24にかけて低下したが、今回調査では向上している。衛生的な生活環境の確保は、市民生活に密接に関わるため重要度について市民意識が高い。その意味では、満足度向上につながったことは高く評価される。

「衛生的な環境の確保」の政策については、市民に評価されており、継続的な取り組みを行う必要がある。

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
 政策 生涯学習の推進と地域の教育力の向上

質問 56-14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上（図書館・スポーツ施設等の整備）の政策について、どう思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

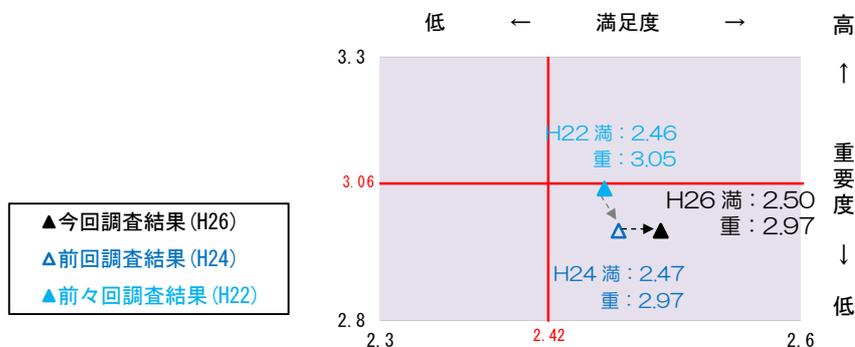
(満足度)

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)	選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	63 人	(4.4%)	572 人 (56.7%)	高い	293 人	(21.6%)	807 人 (76.9%)
まあ満足	509 人	(35.8%)		まあ高い	514 人	(37.9%)	
やや不満	308 人	(21.7%)	437 人 (43.3%)	やや低い	162 人	(12.0%)	243 人 (23.1%)
不満	129 人	(9.1%)		低い	81 人	(6.0%)	
合計	1,009 人	(71.0%)	1,009 人 (100%)	合計	1,050 人	(77.5%)	1,050 人 (100%)
わからない	290 人	(20.4%)	-	わからない	242 人	(17.9%)	-
無回答	123 人	(8.6%)		無回答	63 人	(4.6%)	
合計	1,422 人	(100%)		合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が56.7%となっている。相対分布グラフでみると、市民は「生涯学習の推進と地域の教育力の向上」の政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はわずかに向上していることがわかる。生涯学習の推進と地域の教育力の向上は人材育成という面からも重要なので、満足度、重要度共に高めることが必要と考える。

「生涯学習の推進と地域の教育力の向上」の政策について、市民に重要性を認識させるための取り組みが必要と判断される。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
 政策 子育て支援と就学前教育・保育

質問 56-15. 子育て支援と就学前教育・保育（保育所入所待機児童の解消、学童保育の充実等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

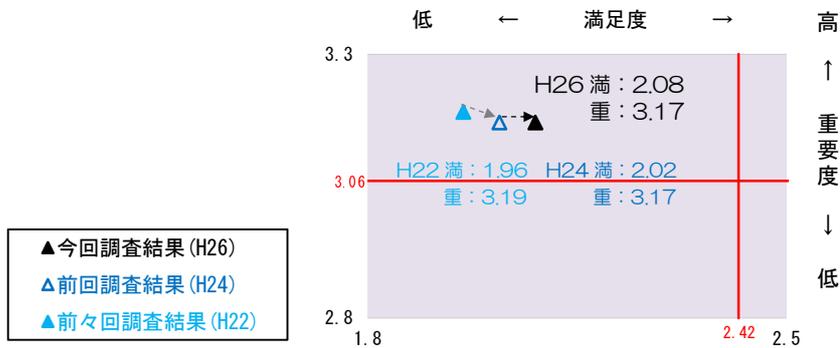
(満足度)

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)	選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	22 人	(1.5%)	255 人 (30.8%)	高い	431 人	(31.8%)	750 人 (78.8%)
まあ満足	233 人	(16.4%)		まあ高い	319 人	(23.5%)	
やや不満	363 人	(25.5%)		やや低い	131 人	(9.7%)	
不満	211 人	(14.8%)		低い	71 人	(5.3%)	
合計	829 人	(58.2%)	829 人 (100%)	合計	952 人	(70.3%)	952 人 (100%)
わからない	470 人	(33.1%)	-	わからない	328 人	(24.2%)	-
無回答	123 人	(8.7%)		無回答	75 人	(5.5%)	
合計	1,422 人	(100%)		合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が30.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「子育て支援と就学前教育・保育」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22以降向上しているが動きは緩やかである。満足度は平均値未満であることから、待機児童の解消や学童保育の充実等、今後も継続して取り組むことが必要と思われる。

「子育て支援と就学前教育・保育」の政策については、市民の重要性意識を維持・向上しつつ、満足度を高めていくため、より一層力を入れて取り組むことが必要と判断される。

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
 政策 子どもの視点に立った環境づくり

質問 56-16. 子どもの視点に立った環境づくり（学力向上、学習環境の整備等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

(満足度)

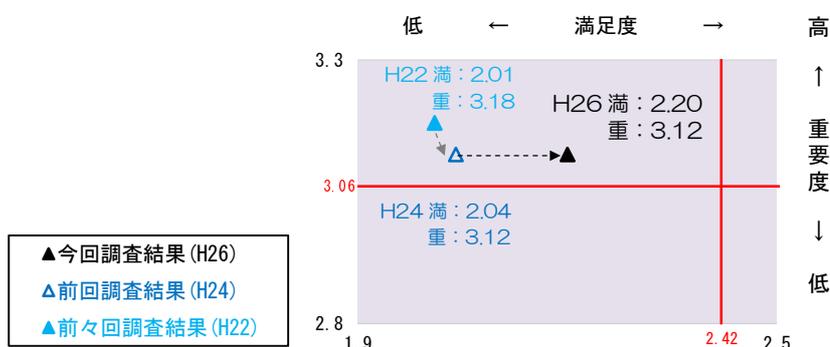
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	25人	(1.8%)	290人 (35.6%)
まあ満足	265人	(18.6%)	
やや不満	369人	(25.9%)	
不満	156人	(11.0%)	
合計	815人	(57.3%)	815人 (100%)
わからない	489人	(34.4%)	-
無回答	118人	(8.3%)	
合計	1,422人	(100%)	

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	429人	(31.7%)	730人 (76.5%)
まあ高い	301人	(22.2%)	
やや低い	138人	(10.2%)	224人 (23.5%)
低い	86人	(6.3%)	
合計	954人	(70.4%)	954人 (100%)
わからない	322人	(23.8%)	-
無回答	79人	(5.8%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が35.6%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「子どもの視点に立った環境づくり」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22以降向上している。「子どもの視点に立った環境づくり」を重要と考える市民は多いが、満足度は依然として平均値より低くなっていることから、教育環境づくりに一層力を入れて取り組む必要があると思われる。

「子どもの視点に立った環境づくり」の政策については、市民の意識を維持・向上しつつ、満足度を高めていくため、より一層力を入れて取り組むことが必要と判断される。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
 政策 文化の継承と発展

質問 56-17. 文化の継承と発展（文化財保護、文化芸術活動支援等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

(満足度)

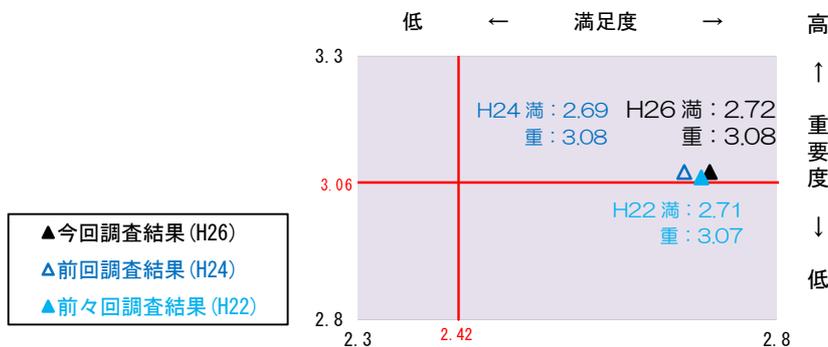
選択項目	回答数	(%)	有意回答数
満足	64人	(4.5%)	634人 (71.7%)
まあ満足	570人	(40.1%)	
やや不満	188人	(13.2%)	
不満	62人	(4.4%)	
合計	884人	(62.2%)	884人 (100%)
わからない	422人	(29.7%)	-
無回答	116人	(8.1%)	
合計	1,422人	(100%)	

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
高い	319人	(23.5%)	793人 (80.8%)
まあ高い	474人	(35.0%)	
やや低い	133人	(9.8%)	
低い	56人	(4.1%)	
合計	982人	(72.4%)	982人 (100%)
わからない	295人	(21.8%)	-
無回答	78人	(5.8%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が71.7%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「文化の継承と発展」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22からH26ではわずかな変化にとどまっている。文化財保護、市民の文化活動支援等、市の取り組みが満足度、重要度の向上につながったと考えられる。

「文化の継承と発展」の政策については、満足度を維持、向上させつつ、市民への意識啓発に努めることが必要である。

都市像 人も、まちも活きいき、美ら島の観光交流都市
 政策 産業の振興

質問 56-18. 産業の振興（観光振興、中小企業支援等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

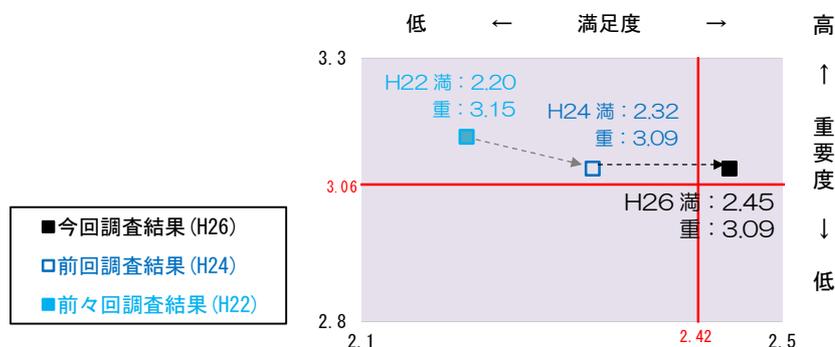
(満足度)

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	選択項目	回答数	(%)	有意回答数
満足	48 人	(3.4%)	445 人 (53.5%)	高い	350 人	(25.8%)	756 人 (78.6%)
まあ満足	397 人	(27.9%)		まあ高い	406 人	(30.0%)	
やや不満	269 人	(18.9%)		やや低い	144 人	(10.6%)	
不満	118 人	(8.3%)		低い	62 人	(4.6%)	
合計	832 人	(58.5%)	832 人 (100%)	合計	962 人	(71.0%)	962 人 (100%)
わからない	473 人	(33.3%)	-	わからない	317 人	(23.4%)	-
無回答	117 人	(8.2%)		無回答	76 人	(5.6%)	
合計	1,422 人	(100%)		合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が53.5%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「産業の振興」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22以降向上しているが、今回は大きく向上した。近年の観光振興や中小企業支援、産業振興に向けた市の取り組みが満足度向上につながったと考えられる。

また、本市は「2014年に人気上昇中の国際観光都市」（「トラベラーズチョイス 人気上昇中の観光都市2014」（トリップアドバイザー）より）として、日本国内で唯一ベストテン入りし、世界第6位に選ばれたことも、これまでの観光振興や産業振興に取り組んだ結果と考えられる。

「産業の振興」の政策については、市民の満足度が大きく向上した。さらなる向上を目指し取り組みを継続することが大切である。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 人も、まちも活きいき、美ら島の観光交流都市
 政策 まちの活性化

質問 56-19. まちの活性化（中心商店街の振興等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

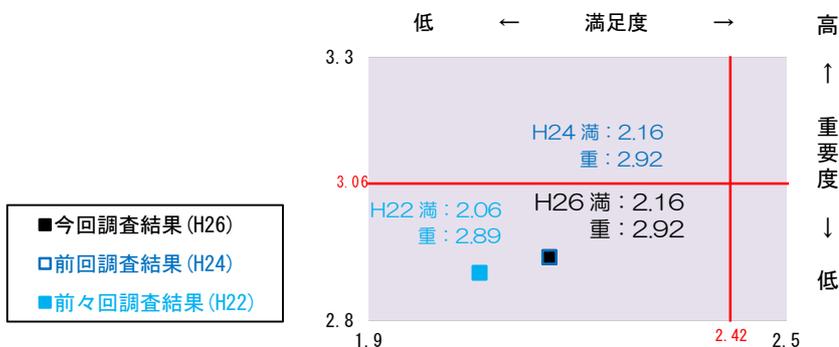
(満足度)

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)	選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	26 人	(1.8%)	349 人 (36.1%)	高い	293 人	(21.6%)	746 人 (72.2%)
まあ満足	323 人	(22.7%)		まあ高い	453 人	(33.4%)	
やや不満	399 人	(28.1%)	617 人 (63.9%)	やや低い	200 人	(14.8%)	287 人 (27.8%)
不満	218 人	(15.3%)		低い	87 人	(6.4%)	
合計	966 人	(67.9%)	966 人 (100%)	合計	1,033 人	(76.2%)	1,033 人 (100%)
わからない	341 人	(24.0%)	-	わからない	253 人	(18.7%)	-
無回答	115 人	(8.1%)		無回答	69 人	(5.1%)	
合計	1,422 人	(100%)		合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が36.1%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「まちの活性化」の政策について、満足度、重要度共に平均値を下回っており、市民の評価は低いといえる。

経年変化をみると、満足度・重要度共にH22 から H24 にかけて向上したが、今回調査では横ばいとなっている。満足度・重要度共に平均値未満であるが、中心商店街の振興に向けた取り組みについては、市の重要課題とされているのでさらに力を入れていく必要があると思われる。

「まちの活性化」の政策については、満足度、重要度ともに実績が大きく影響するため、より一層力を入れて取り組みを行う必要がある。

都市像 人も、まちも活いき、美ら島の観光交流都市
 政策 就労支援・相談体制

質問 56-20. 就労支援・相談体制（雇用の促進等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

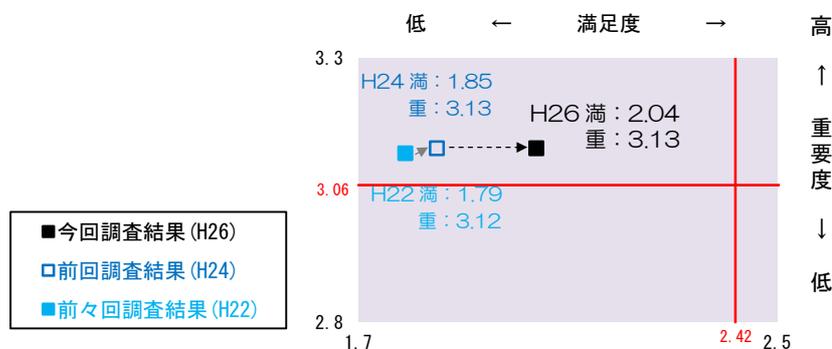
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	18人	(1.3%)	233人 (28.8%)
まあ満足	215人	(15.1%)	
やや不満	354人	(24.9%)	576人 (71.2%)
不満	222人	(15.6%)	
合計	809人	(56.9%)	809人 (100%)
わからない	492人	(34.6%)	-
無回答	121人	(8.5%)	
合計	1,422人	(100%)	

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	494人	(36.5%)	770人 (75.6%)
まあ高い	276人	(20.4%)	
やや低い	131人	(9.6%)	248人 (24.4%)
低い	117人	(8.6%)	
合計	1,018人	(75.1%)	1,018人 (100%)
わからない	272人	(20.1%)	-
無回答	65人	(4.8%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が28.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「就労支援・相談体制」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22から着実に増加傾向にあるが平均値未満である。雇用促進に向けたさらなる取り組みが必要と思われる。

「就労支援・相談体制」の政策については、市民への意識啓発を行いつつ、満足度を高めていく取り組みが必要と判断される。

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
 政策 都市防災と防犯

質問 56-21. 都市防災と防犯

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

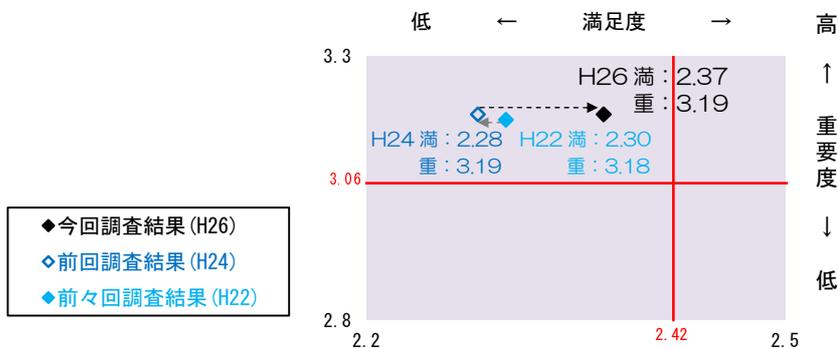
(満足度)

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)	選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	34 人	(2.4%)	437 人 (49.7%)	高い	458 人	(33.8%)	832 人 (81.3%)
まあ満足	403 人	(28.3%)		まあ高い	374 人	(27.6%)	
やや不満	297 人	(20.9%)	443 人 (50.3%)	やや低い	118 人	(8.7%)	192 人 (18.7%)
不満	146 人	(10.3%)		低い	74 人	(5.5%)	
合計	880 人	(61.9%)	880 人 (100%)	合計	1,024 人	(75.6%)	1,024 人 (100%)
わからない	421 人	(29.6%)	-	わからない	266 人	(19.6%)	-
無回答	121 人	(8.5%)		無回答	65 人	(4.8%)	
合計	1,422 人	(100%)		合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が49.7%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「都市防災と防犯」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22からH24にかけて低下したが、今回調査では向上している。ソフト交付金を活用した様々な防災事業の実施によって向上したものと思われるが、満足度は平均値未満であることから、都市防災と防犯に向けたさらなる満足度向上のための取り組みが必要と思われる。

「都市防災と防犯」の政策については、現状の満足度向上の為の取組を継続することが必要である。

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
政策 市街地の整備

質問 56-22. 市街地の整備（市街地再開発事業等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

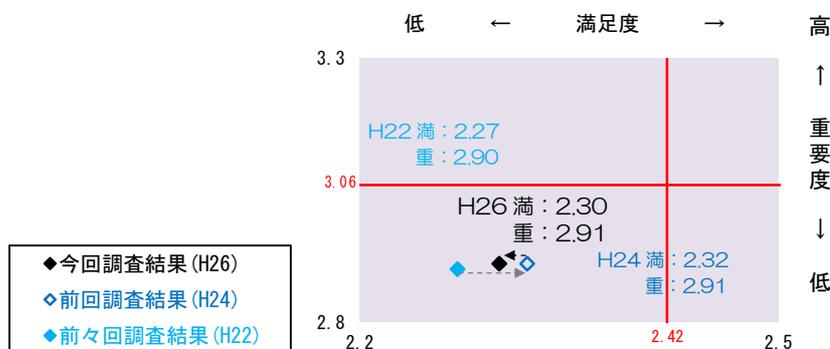
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	32人	(2.3%)	418人 (45.3%)
まあ満足	386人	(27.1%)	
やや不満	328人	(23.0%)	
不満	176人	(12.4%)	
合計	922人	(64.8%)	922人 (100%)
わからない	368人	(25.9%)	-
無回答	132人	(9.3%)	
合計	1,422人	(100%)	

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	255人	(18.8%)	704人 (73.0%)
まあ高い	449人	(33.1%)	
やや低い	182人	(13.4%)	261人 (27.0%)
低い	79人	(5.9%)	
合計	965人	(71.2%)	965人 (100%)
わからない	312人	(23.0%)	-
無回答	78人	(5.8%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が45.3%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「市街地の整備」の政策について、満足度、重要度共に平均値より低く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH24からわずかに後退しているが、H22～H26としてはほぼ均衡していると思われる。満足度・重要度共に平均値未満であることから、市街地整備についてはさらなる取り組みが必要と思われる。

「市街地の整備」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層力を入れて取り組みを行う必要がある。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
 政策 交通体系の整備

質問 56-23. 交通体系の整備（市内の道路や公共交通の体系的な整備）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

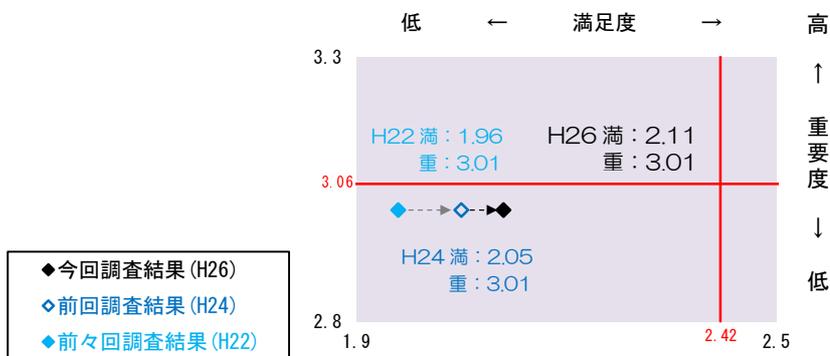
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	41 人	(2.9%)	403 人 (36.8%)
まあ満足	362 人	(25.5%)	
やや不満	370 人	(26.0%)	691 人 (63.2%)
不満	321 人	(22.6%)	
合計	1,094 人	(77.0%)	1,094 人 (100%)
わからない	198 人	(13.9%)	-
無回答	130 人	(9.1%)	
合計	1,422 人	(100%)	

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	397 人	(29.3%)	833 人 (74.9%)
まあ高い	436 人	(32.2%)	
やや低い	173 人	(12.8%)	279 人 (25.1%)
低い	106 人	(7.8%)	
合計	1,112 人	(82.1%)	1,112 人 (100%)
わからない	175 人	(12.9%)	-
無回答	68 人	(5.0%)	
合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が36.8%となっている。

相対分布グラフでみると、「交通体系の整備」政策の満足度、重要度共に平均値を下回っており、市民の評価は低いといえる。

しかしながら経年変化をみると、満足度はH22以降後退から向上へ切り替わったことがうかがえる。満足度・重要度共に平均値未満であることから、市民がどこへでも快適に移動できる交通体系の整備については、この満足度を高めるためさらなる取り組みが必要と思われる。

「交通体系の整備」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層力を入れて取り組みを行う必要がある。

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
 政策 上下水道の整備

質問 56-24. 上下水道の整備

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

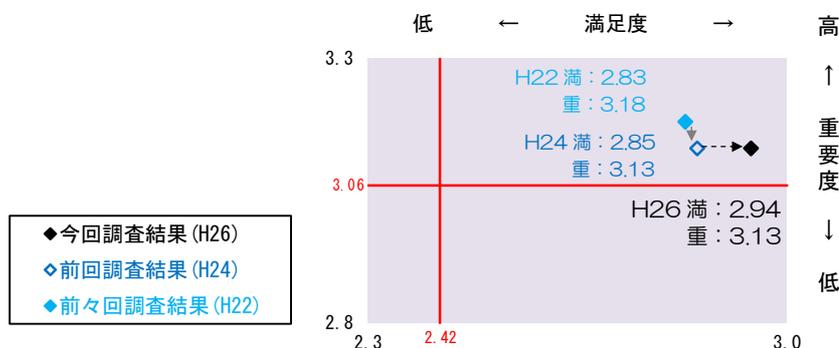
(満足度)

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	選択項目	回答数	(%)	有意回答数
満足	193 人	(13.6%)	855 人 (81.5%)	高い	366 人	(27.0%)	885 人 (83.3%)
まあ満足	662 人	(46.6%)		まあ高い	519 人	(38.3%)	
やや不満	130 人	(9.1%)	194 人 (18.5%)	やや低い	125 人	(9.2%)	178 人 (16.7%)
不満	64 人	(4.5%)		低い	53 人	(3.9%)	
合計	1,049 人	(73.8%)	1,049 人 (100%)	合計	1,063 人	(78.4%)	1,063 人 (100%)
わからない	260 人	(18.3%)	-	わからない	223 人	(16.5%)	-
無回答	113 人	(7.9%)		無回答	69 人	(5.1%)	
合計	1,422 人	(100%)		合計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が81.5%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「上下水道の整備」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

経年変化をみると、満足度はH22以降着実に向上している。安全でおいしい水道水を安定的に供給する、公共上下水道の整備・普及については生活に身近なものだけに、かなり高い満足度が達成されているものと考えられる。

「上下水道の整備」の政策については、市民に評価されており、今後もこの評価を維持・向上させるために取り組むことが望まれる。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
 政策 自然と調和したまちなみ

質問 56-25. 自然と調和したまちなみ（公園・緑地整備等）

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

（満足度）

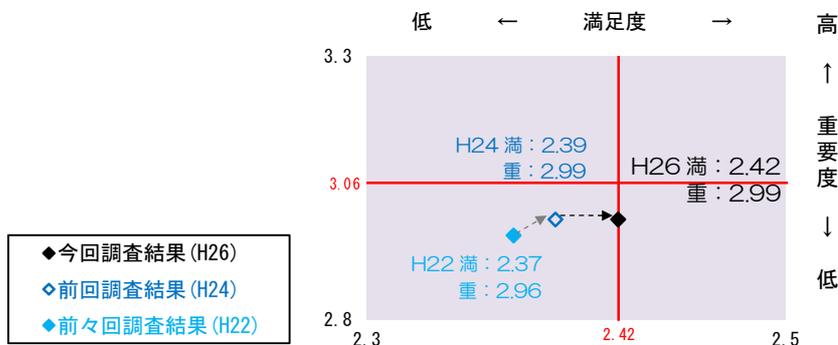
選択項目	回答数	(%)	有意回答数
満足	64人	(4.5%)	556人 (50.3%)
まあ満足	492人	(34.6%)	
やや不満	398人	(28.0%)	549人 (49.7%)
不満	151人	(10.6%)	
合計	1,105人	(77.7%)	1,105人 (100%)
わからない	204人	(14.3%)	-
無回答	113人	(8.0%)	
合計	1,422人	(100%)	

（重要度）

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
高い	321人	(23.7%)	825人 (76.0%)
まあ高い	504人	(37.2%)	
やや低い	188人	(13.9%)	261人 (24.0%)
低い	73人	(5.4%)	
合計	1,086人	(80.2%)	1,086人 (100%)
わからない	182人	(13.4%)	-
無回答	87人	(6.4%)	
合計	1,355人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が50.3%となっている。相対分布グラフでみると、市民は「自然と調和したまちなみ」の政策について、満足度は平均値を上回り、重要度は平均値以下となっている。

経年変化をみると、満足度はH22以降わずかながら向上している。満足度が微増しており、今後さらなる市民の満足のため引き続き取り組んでいくべき政策である。

「自然と調和したまちなみ」の政策については、具体的な公園・緑地整備に加えて、イメージ戦略等の市民にわかりやすい取り組みが必要と判断される。

発行 那覇市企画財務部 企画調整課

〒900-8585 那覇市泉崎1-1-1

TEL : 098-862-9937

FAX : 098-862-4263

調査実施 株式会社アーバントラフィック
エンジニアリング

